

# 埋蔵文化財調査報告書 35

千音寺遺跡  
(第1・2次)

2000

名古屋市教育委員会



## ■例言

- 1 本書は、名古屋市中川区富田町大字千音寺に所在する千音寺遺跡の第1・2次発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、第1次調査を平成10年11月9日から平成11年3月19日まで、第2次調査を平成11年5月17日から平成11年12月24日まで実施した。
- 3 発掘調査は、市営住宅の改築に伴い、名古屋市建築局の依頼を受けて、名古屋市教育委員会文化財保護室が調整して、見晴台考古資料館の山田鉦一、野口泰子が担当して実施した。
- 4 本書の水準高は、東京湾平均海面(T.P.)を、方位は、国土座標第Ⅶ系による座標北を使用している。なお、名古屋港基準海面(N.P.)は、東京湾平均海面(T.P.)+1.4119mである。
- 5 出土遺物、図面記録等については、見晴台考古資料館が保管している。
- 6 本書は、山田と野口が執筆した。さらに、自然科学分析については、新山雅広・鈴木 茂(株式会社パレオ・ラボ)による結果を掲載した。遺物整理・図版作成等について、稲田望子・笹岡卓也・佐々木佳子・山本雅代の協力を得た。
- 7 本書の作成にあたっては、以下の方々にご指導を賜った。  
赤羽一郎(愛知県教育委員会)・尾野善裕(京都国立博物館)・中野晴久(常滑市歴史民俗資料館)

## ■目次

第I章	はじめに	1
	(1) 位置と環境	1
	(2) 周辺遺跡	2
	(3) 千音寺と富田荘	4
	(4) 調査地点と発掘区	7
	(5) 遺物について	7
第II章	第1次調査	9
	(1) A区の遺構	9
	(2) A区の遺物	16
	(3) A区のまとめ	19
	(4) B区の遺構	24
	(5) B区の遺物	34
	(6) B区のまとめ	36
第III章	第2次調査	46
	(1) C区の遺構	47
	(2) C区の遺物	47
	(3) C区のまとめ	48
	(4) D区の遺構	52
	(5) D区の遺物	56
	(6) D区のまとめ	57
	(7) E区の遺構	59
	(8) E区の遺物	68
	(9) E区のまとめ	70
	(10) F区の遺構	76
	(11) F区の遺物	81
	(12) F区のまとめ	82
第IV章	おわりに	83
	主な遺構一覧表	91
	主な遺物一覧表	95
	千音寺遺跡の花粉化石群集	99
	千音寺遺跡のプラント・オパール	107
	写真図版	114

## 第I章 はじめに

### (1) 位置と環境

名古屋市域の地形は、大きく東部の丘陵地、中央部の台地、西部の低地に分けられる。西部の低地は、木曾川・長良川・揖斐川・庄内川などの河川が運んできた堆積物で形成された沖積平野（沖積低地）である。沖積平野の地表面を構成する地層は沖積層と呼ばれ、礫・砂・シルト・粘土・泥炭などからなっている。平野の臨海部には三角州の発達が認められ、平野中央部には氾濫原が、上流側の地域には扇状地あるいは扇状地性の低地が分布する。扇状地の先端から三角州地帯にかけては、自然堤防が発達している。自然堤防は、河川によって運ばれてきた砂や粘土が堆積して形成された微高地で、自然堤防以外の標高の低い部分は、後背湿地と呼ばれる低湿地となっている<sup>(註1)</sup>。この自然堤防付近に遺跡が分布している。

千音寺遺跡は庄内川下流域に形成された三角州および自然堤防に位置している。現在の庄内川は、海部郡大治町の東側付近から南流しているが、古代から中世の旧庄内川の流れは、幾度か氾濫している。その分流が、現在の戸田川や小切戸川付近などを流れていたと思われる。また、大治町付近から西流する分流は、遺跡の北側付近を流れ、海部郡七宝町付近で南流していたと思われる。遺跡の範囲は、東西約600m、南北約1,000mに存在すると推定され、畑地等での分布調査の結果から須恵器や山茶碗等の遺物が採集されている。

千音寺遺跡の所在する富田町は市の南西部に位置し、海部郡大治町・七宝町・蟹江町に隣接する。富田町は、明治39年、万須田・赤星・戸田・豊治の4カ村が合併し海東郡富田村となり、昭和19年町制施行、同30年名古屋市中川区に編入された。千音寺は富田町の北西端にあり、旧名は赤星村、現在も所々に水田の残る住宅地域である。千音寺の名は、『地名考』に「千音寺という寺はなしされ共地名は寺院に出たり、此村旧名を赤星村といひたるにや猶たづねべし」とあり、村内の行雲寺は、往昔、千手観音寺と称していたのでそれを略し、村名にしたとの説がある<sup>(註2)</sup>。

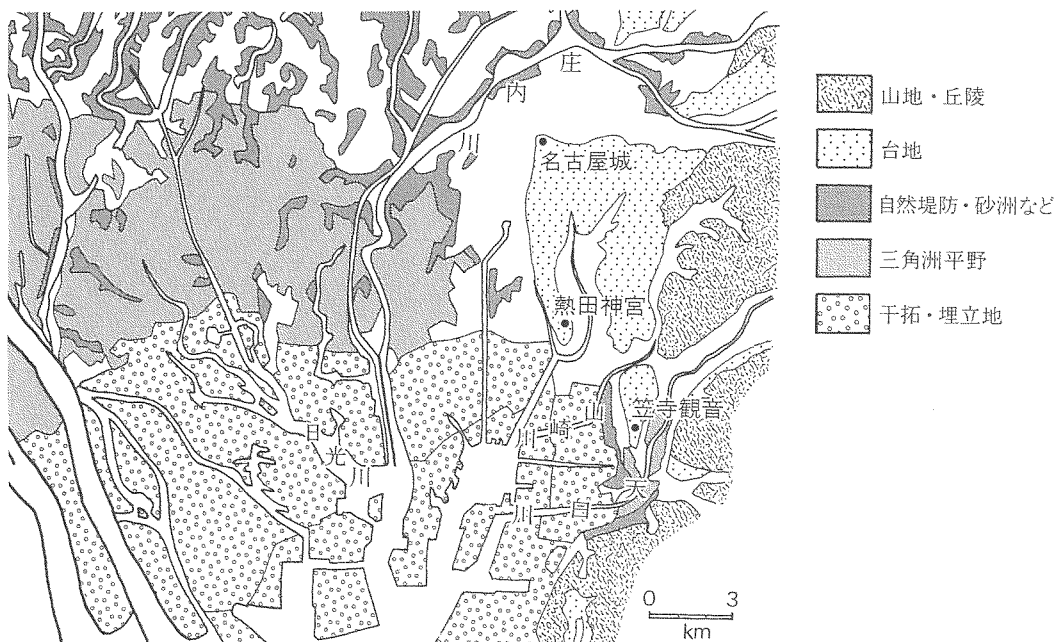


図2 地形図（『新修名古屋市史』 図1-1 尾張平野の地形図より）

## (2) 周辺遺跡

千音寺遺跡の周囲に周知の遺跡はないが、南方には戸田A遺跡、戸田B遺跡、伏屋遺跡、包里遺跡などの遺物散布地と戸田城跡・前田城跡・助光城跡・江松城跡・下之一色城跡・東起城跡がある。いずれも調査を行ったことがなく内容は不明であるが、散布地からは、主に平安時代から室町時代の灰釉陶器・山茶碗・古瀬戸などが採集されている。城跡は戦国時代以降の築城であり、古代以前の海岸線が想像される地域で、千音寺遺跡を含め、人の痕跡が残るようになるのは平安時代からであろう。一方、北方には、清洲町土田遺跡、甚目寺町森南遺跡・阿弥陀寺遺跡・大瀬遺跡・清林寺遺跡などがある。土田遺跡は、古墳時代に墳丘墓・古墳がつくられ、12世紀から14世紀代まで継続する集落で、井戸をとまなう建物跡や溝で区画された屋敷地、土坑墓群、道などが報告されている(註3)。森南遺跡は、弥生時代および13世紀後半から15世紀後半代の集落である。屋敷を区画した溝、井戸、道、村落の外柵の溝などが検出されている(註4)。阿弥陀寺遺跡は、弥生時代の環濠集落および鎌倉・室町時代の集落で、鎌倉・室町時代では、屋敷地や方形土坑の集散する地点、南北・東西方向を軸方位とする溝が検出されている(註5)。大瀬遺跡は、弥生時代および古墳時代～鎌倉時代にかけての集落を主体とする遺跡である(註5)。清林寺遺跡は、7世紀後半～10世紀の寺院跡、13～14世紀の井戸・溝などが検出されている(註6)。さらに東北方にある朝日西遺跡では、11世紀から12世紀の井戸や土坑、12世紀後半から13世紀後半の屋敷地を区画する溝、14世紀から15世紀の屋敷地が報告されている(註7)。付近には、清洲城跡や弥生時代の代表的な遺跡である朝日遺跡などが広がっている。また、庄内川の西岸(中村区)には、岩塚1・2・3号墳、室町(戦国)時代の城跡などがある。後述する「富田荘絵図」に萱津宿と記されている萱津は、庄内川と五条川の合流付近、五条川下流右岸にあり、鎌倉・室町時代、京から尾張に至る交通上の要衝であった。「吾妻鏡」文治二年(1186)四月一日条に「北条四郎主出京之後、今日著尾張国萱津宿」と記され、鎌倉時代から知られた宿駅である。甚目寺は尾張四観音の一つで、文永元年の縁起によれば、推古天皇五年(597)に甚目竜麻呂(はだめたつまる)という漁師が網に拾い上げた観音像を安置したことに始まるという。白鳳期の瓦が出土し、南大門・東門・三重塔などが国指定重要文化財である。その他、甚目寺町内には古墳から中世の散布地や中世の塚などがある。

(註1) 1997 『新修名古屋市史 第8巻 自然編』 名古屋市

1994 海津正倫 『沖積低地の古環境学』 古今書院

(註2) 1956 『富田町史』 富田町史編纂委員会

1970 『尾張地名考』(復刻版) 愛知県郷土資料刊行会

1988 横井 薫 『明治・大正・昭和 千音寺民俗誌』

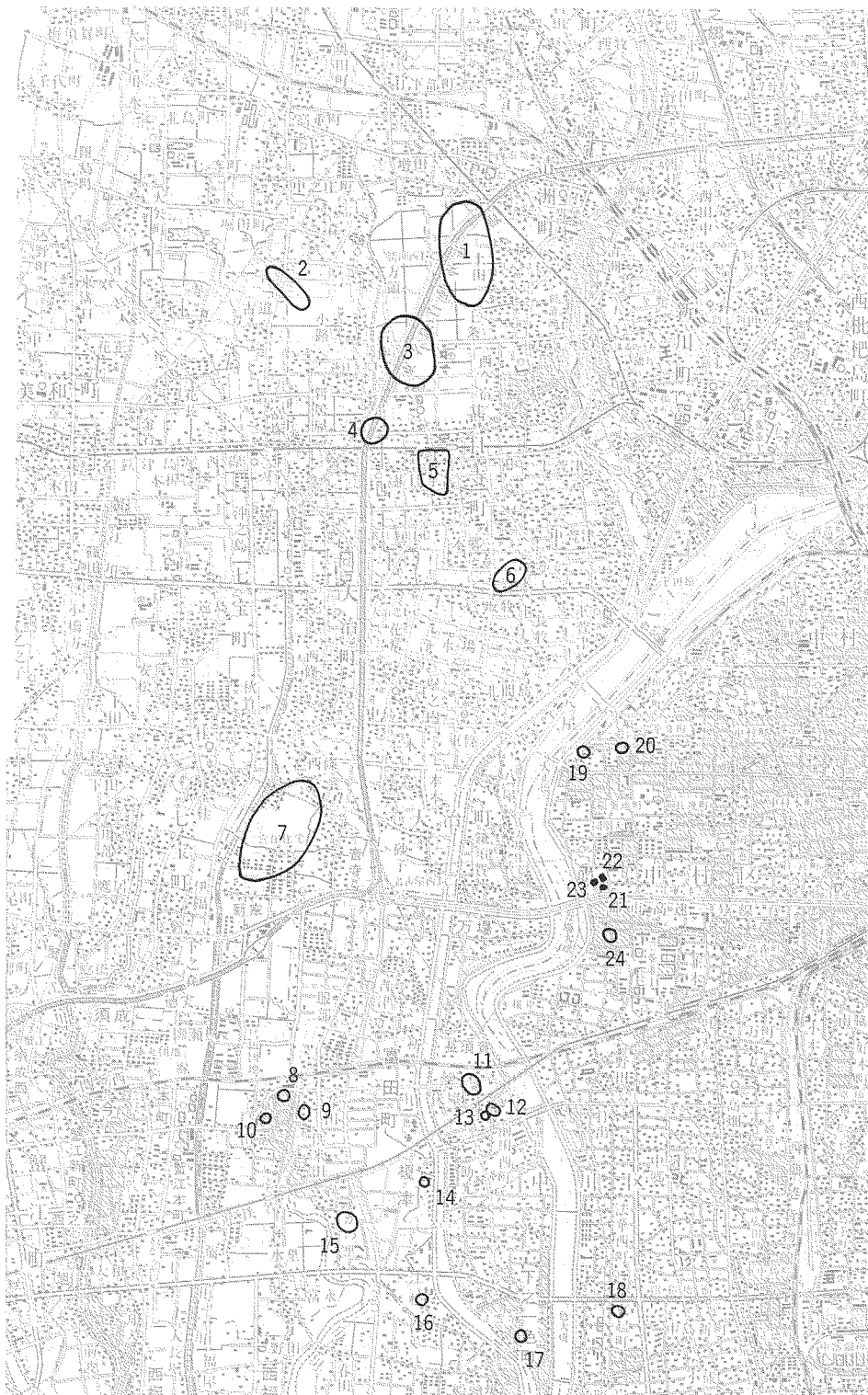
(註3) 1991 『土田遺跡II』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第23集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

(註4) 1990 『森南遺跡発掘調査報告書』 甚目寺町文化財調査報告II 愛知県海部郡甚目寺町教育委員会

(註5) 1988 『大瀬遺跡 阿弥陀寺遺跡』 愛知県埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

(註6) 1983 『甚目寺町文化財調査報告I 清林寺遺跡』 甚目寺町教育委員会

(註7) 1992 『朝日西遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター



- 1 土田遺跡
- 2 森南遺跡
- 3 阿弥陀寺遺跡
- 4 大瀬遺跡
- 5 甚目寺遺跡
- 6 清林寺遺跡
- 7 千音寺遺跡
- 8 戸田城跡
- 9 戸田A遺跡
- 10 戸田B遺跡
- 11 伏屋遺跡
- 12 前田城跡
- 13 助光城跡
- 14 榎津城跡
- 15 包里遺跡
- 16 江松城跡
- 17 下之一色城跡
- 18 東起城跡
- 19 稲葉地城跡
- 20 稲葉地東遺跡
- 21 岩塚1号墳
- 22 岩塚2号墳
- 23 岩塚3号墳
- 24 岩塚城跡

図3 周辺遺跡分布図 (国土地理院発行 1:50,000 名古屋北部・名古屋南部)

### (3) 千音寺と富田荘

千音寺の地名は、嘉暦二年（1327）頃に作成された『尾張国富田荘絵図』（以下絵図）の富田荘北側にその名が記載されている。富田荘は、寛治年間（1087～1093）に成立し、康和5年（1103）、右大臣藤原忠実の家領として文献にあり、以後14世紀末まで近衛家領であった。荘園の管理にあたる荘官には、平季政が下司職に任ぜられ、鎌倉幕府成立後は、北条氏が地頭職として掌握し、弘安6年（1283）には、執権北条時宗が鎌倉の円覚寺に寄進し、円覚寺領となっている。南北朝時代にはいると、守護土岐氏とその一族による押領という政治情勢の変化から、応永3年（1396）所領を交換して、円覚寺は富田荘の経営を断念している。

絵図に描かれている富田荘の位置については、現存の字界を参考に図4のように推定を試みた。

千音寺の一带は、絵図にある条里や建物などの内容が記載されていないことから、富田荘の荘外にあたると思われる。しかし、条里制が施行されていた可能性は、現在の字地名「上之坪」等や字割の在り様などから推測されている<sup>(註1)</sup>。絵図には「鳴山郷」とあり、他に「石丸」「御品田」「御品田山後」の記載がされている。なお、明治17年頃の『地籍図』の地割を参考にすれば、「御品田山後」の位置が、現在の赤星小学校の敷地を含めた一带と思われ、『絵図』の描き方に類似した形が水田の土地割として記載されている。名古屋市遺跡分布図（中川区）は、富田荘の条里に関連する内容を遺跡として記載していないが、富田荘内にある遺跡を、絵図の推定位置に対応させると、戸田A遺跡が「稲真里」、戸田B遺跡が「横江里」、包里遺跡が「今苔江」の地内にほぼ位置しているように思われる。また、伏屋遺跡は、「助光」の北側付近に位置する。

また、条里については、土田遺跡や阿弥陀寺遺跡の調査結果から、海部郡一带に古代の条里制が施行され、本遺跡を含む地域にも、古代の条里制が施行されていた可能性が推測されている。富田荘の地割の南北方向は、土地利用の制約によるものか北東に約5度傾き、海部郡一带の条里方向と違いがある<sup>(註2)</sup>。そのため、海部郡一带の条里との連続性がなく施行時期が遅れて施行されたとする説と、施行された条里が洪水等により中断した後に再開されたとする説が考えられているが、基本的には後者の見解が受け入れられている<sup>(註3)</sup>。

(註1) 1986 上村喜久子「絵図にみる富田荘の開発と形成」『研究記要（第24号）』名古屋短期大学 には、「旧庄内川以南地域にはかつて条里制が施行されていたが、一旦河川の氾濫により、耕作は中断し荒廃した。その後十世紀以降十一世紀末以前、おそらく藤原忠教の国司在任中、国内の荒廃公田の再開が国司の指導のもとに大規模に実施され、旧条里遺構の基幹部分の復原がされたが、坪内の地割の再現までは既に行われなかった。寛治年間、そのうち一二ヶ里以南・以東の地域が、現地の開発者との結びつきにより富田荘として立荘されたが「蟹江」地域はなお一世紀近く国衙領として維持された。……………この荘の四至が、東および南は自然境界である河海を基本としているのに対して、北および西には人為的な条里的境界が採り入れられている点も、統一的な再開後の立荘と考えることにより、理解できる。」とあり、調査区付近も含めた再開が推測されている。

(註2) 1961 水野時二 『条里制の歴史地理学的研究』には、「富田荘は条里施行のための南北基準線を富田川（戸田川）にとり、その水路に沿って12ヶ里とその周辺の条里地割を決定した。」とある。

(註3) 1997 上村喜久子 「荘園公領制の形成と在地勢力」『新修名古屋市史 第一巻』第七章 第四節 名古屋市



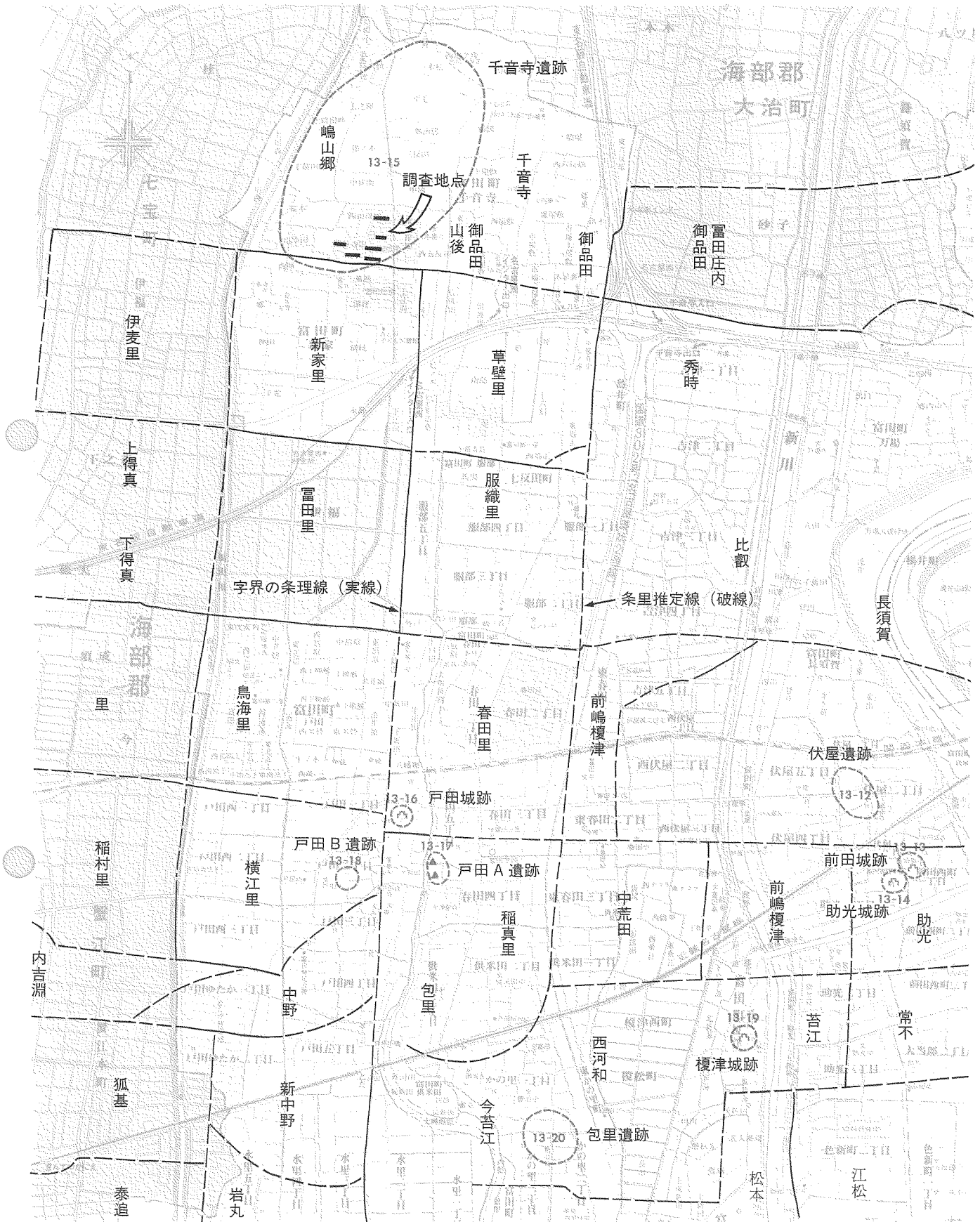


図4 「富田荘」推定範囲と遺跡 (名古屋市遺跡分布図「中川区」より)

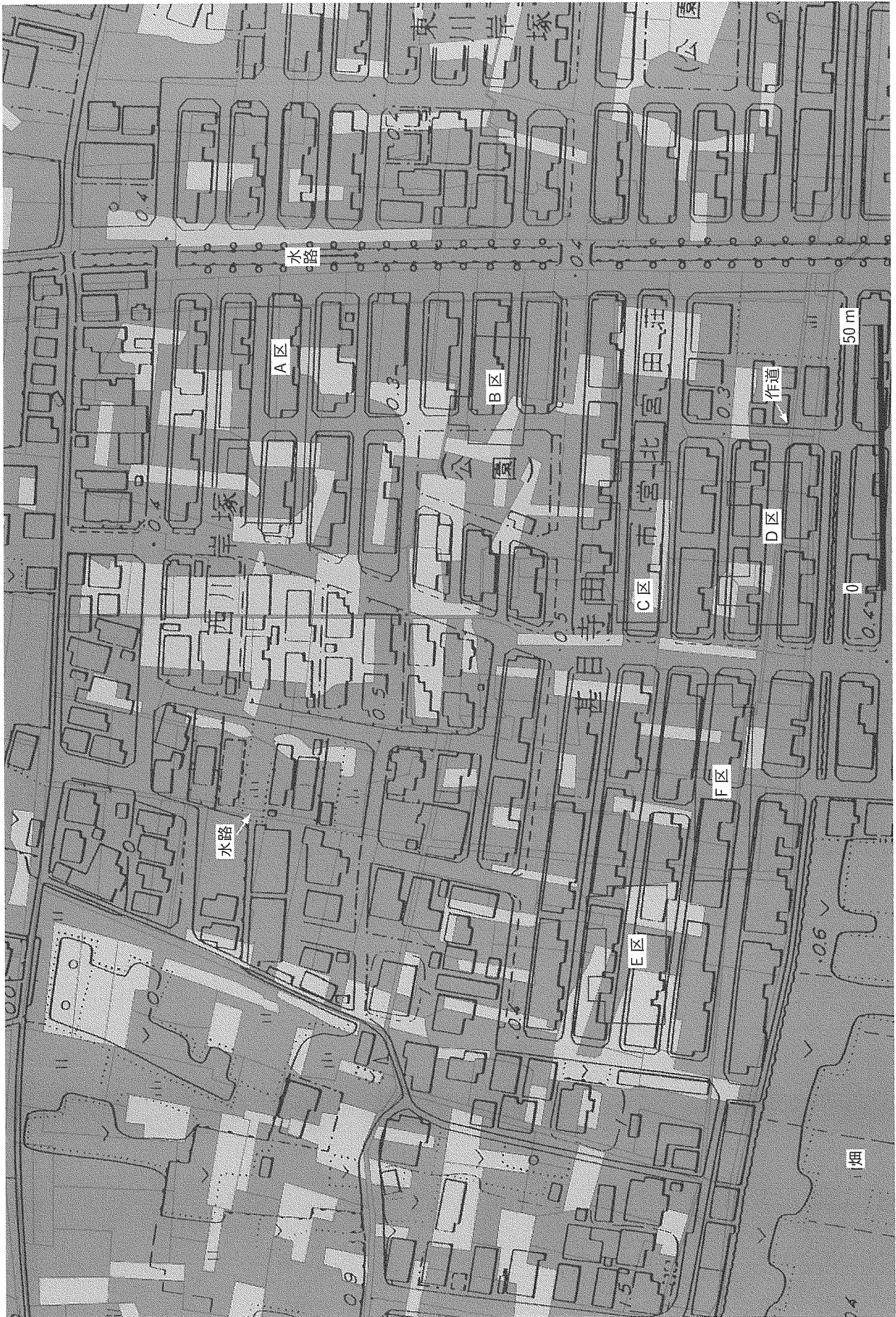


図5 調査地点と地籍図

(4) 調査地点と発掘区

今回の調査地点は、絵図「新家里」の東北側の上、「御品田山後」より西側にあたる付近と推測される。現在の小字名は、「西川岸塚」と「甚目寺田」となっている。

発掘区は、市営住宅建設予定地の6箇所をA～F区と呼称し、A・B区を第1次調査、C～D区を第2次調査として実施した。グリッドの設定方法は、国土座標点 (X=-93,280、Y=-32,250) を北東原点とする5m単位とし、南方向へアルファベット大小文字を、西方向へY座標の下3桁を付した。A区東側では、D365・d365が、B区北東ではj370・K370が遺物採集のグリッド名となる。また、遺構名は、グリッドごとでの連番で呼称を原則にして、D370グリッドで検出した溝の場合、SDD37001とした。

(5) 遺物について

遺物としては、土師器、須恵器、灰釉陶器、白瓷系の中世陶器(以後、山茶碗)、施釉陶器、焼き締め陶器、輸入磁器などがある。山茶碗には、碗、小碗、小皿、鉢があり、猿投・瀬戸・美濃・常滑・渥美窯の

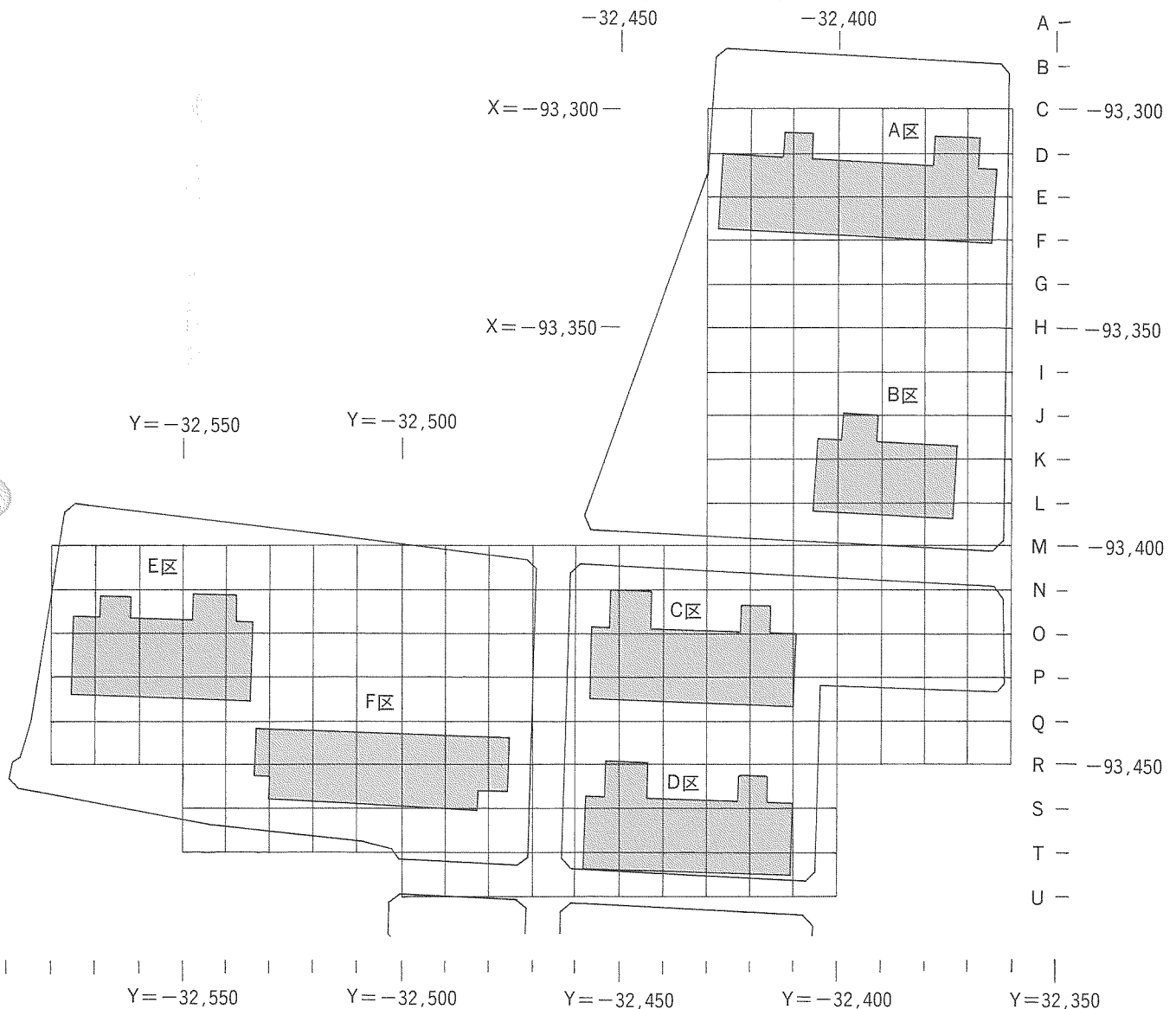


図6 グリッド設定図

製品がある。土師器は、皿、鍋・釜の調理具などである。施釉陶器には、古瀬戸、大窯、近世の瀬戸・美濃製品があり、焼き締め陶器は、常滑・渥美製品がある。その他、土錘、陶丸、山茶碗などを再利用した加工円盤、肥前系の磁器などがある。表現の簡素化のため土師器鍋（釜）・山茶碗の種類と器種について若干の分類を行う。

土師器

体部まで復元できる資料はなく、口縁部の形態でみると、

鍋A—「伊勢型鍋」で、口縁端部を内側に折り返すが、折り返しが短いものや、折り返しではなく、端部を厚くしただけのもの

鍋B—「伊勢型鍋」で、口縁端部を内側に長く折り返し内湾させるもの

羽釜—鏝は短くやや上方を向き、口縁が内湾するもの

山茶碗

胎土からは、胎土①——砂粒を多く含む胎土、長石の噴出しなどもみられるもの——主な産地としては、猿投窯・知多窯・瀬戸窯（南部）がある＝「尾張系山茶碗」

胎土②——均質な胎土を持ち、器壁が比較的薄手のもの——主な産地としては、美濃窯・瀬戸窯（北部）がある＝「東濃系山茶碗」

碗A—胎土①で、体部が丸みをもって立ち上がり、口縁部でやや外反し、やや器高の低いもの、

碗B—胎土①で、体部が直線的に立ち上がり、立ち上がり部分に稜や浅い凹みがあるもの、

碗C—胎土①で、体部が直線的に立ち上がり、無高台のもの

碗D—胎土②で、底径が小さく低い高台がつくもの、

碗E—胎土②で、無高台のもの

小皿A—胎土①で、底径が比較的小さく、器高はやや深く、底部の突出がみられるもの。

小皿B—胎土①で、底部が平坦で底径が大きく、器高の浅いものに分けられる。

小皿C—胎土②で、底径が大きく、器高のきわめて浅いタイプである。

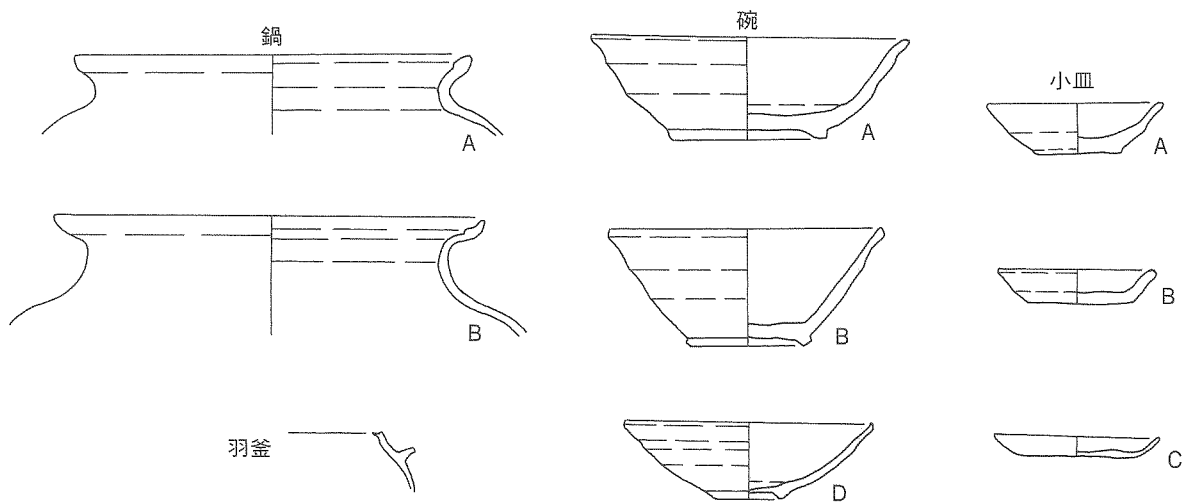


図7 分類図

## 第II章 第1次調査

発掘調査は、A区（約1,200 m<sup>2</sup>）とB区（約600 m<sup>2</sup>）で、平成10年11月9日から平成11年3月19日まで、実施した。

宅地造成された約0.8~1 mの盛土を掘り下げると、近年まで使用された水田や畑地の跡が検出された。水田と畑地の比高差は約30~40 cmある。水田は、20~25 cmの濃灰色土で、その下層に数cmの黄褐色土（床土）があり、二毛作の畝跡が残る個所も発見されている。水田の床土面や床土面より5~10 cm下の土層面で、遺構が検出された。畑地は、水田化に適さない微高地にその周辺の土を積み上げて、周辺を水田化したことに伴い、方形状の高台となっていた。畑地には畝の溝などが残り、上層から近世以降の陶磁器が出土した。畑地の中層の灰色土や淡灰茶褐色土などからも山茶碗が出土し、50 cm程掘り下げた黄褐色土層面などで、遺構が検出されている。畑地は、水回りの利便から、周囲の土を積み上げて拡張する事例もあり、通称「島畑」と呼ばれているため、本書では、発見された畑地形状を「島畑」と呼称することにした。

A区では、西側から中央付近に島畑が3箇所あり、中央北側の島畑の下層から土坑や穴などが検出されている。東側の水田面の下から、溝などが検出されている。

B区では、西側に島畑が2箇所あり、島畑の下層から柱穴列などが検出されている。水田の下から、東側に3条の溝、北側に1条の溝、井戸や土坑が検出されている。これら遺構の配置から、溝で区画される12世紀後半頃の屋敷地が存在したと考えられる。主な遺構が検出された面は、標高-50 cm程で、淡黄褐色土層面などである。この層位の下は、青灰色砂層で、湧き水が出る。

遺物は、須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、小皿、常滑・渥美産の壺（甕）、古瀬戸から近世の施釉陶器、白磁・青磁、土錘などが出土している。

### (1) A区の遺構

島畑 A-1：発掘区西端にあり、東西辺上端の長さが約9 m、南北辺の検出長さが約10.5 mで、発掘区外の南に広がる長形状の畑地である。長軸方位は、N-5°-Eを測る。中心部の土は、褐色土などが不整形な楕円形状に広がり、その周辺の土は灰色土が長方形に積み上げられる。東西方向に、幅約50~60 cm、長さ約2~4 mの溝状遺構が多数あり、畝を作った痕跡がみられる。水田床土面との比高差は約50 cmあり、周辺の水田床土の下約5~10 cm（標高-50 cm程）面まで畑地を掘り下げたが、畑地の下から遺構は検出されていない。積み上げられた灰色土や淡灰褐色土上面からは、近世や近代遺物が出土しているが、下層に至るにつれ、色調は、褐色度が濃くなり、山茶碗片が含まれていた。

島畑 A-2：発掘区中央南側にあり、東西辺上端の長さが約11 m、南北辺の検出長さが約12 mで、発掘区外の南に広がる長形状の畑地である。長軸方位は、N-5°-Eを測る。中心部の土は、褐色土などが方形状に広がり、その周辺に灰色土が積み上げられる。遺物は、島畑 A-1と同様な状態で出土した。水田面との比高差は約30 cmあり、畑地を標高-50 cm程まで掘り下げると、土坑や溝などが検出された。島畑 A-1とは約7 m離れ、間は水田となっているが、水田面の下でも淡灰茶褐色土層に類似する土層が北方向に不整形に広がって確認された。そのため、不連続な微高地が、この付近や島畑 A-3 付近の北東方向にも複数存在していたと推定された。

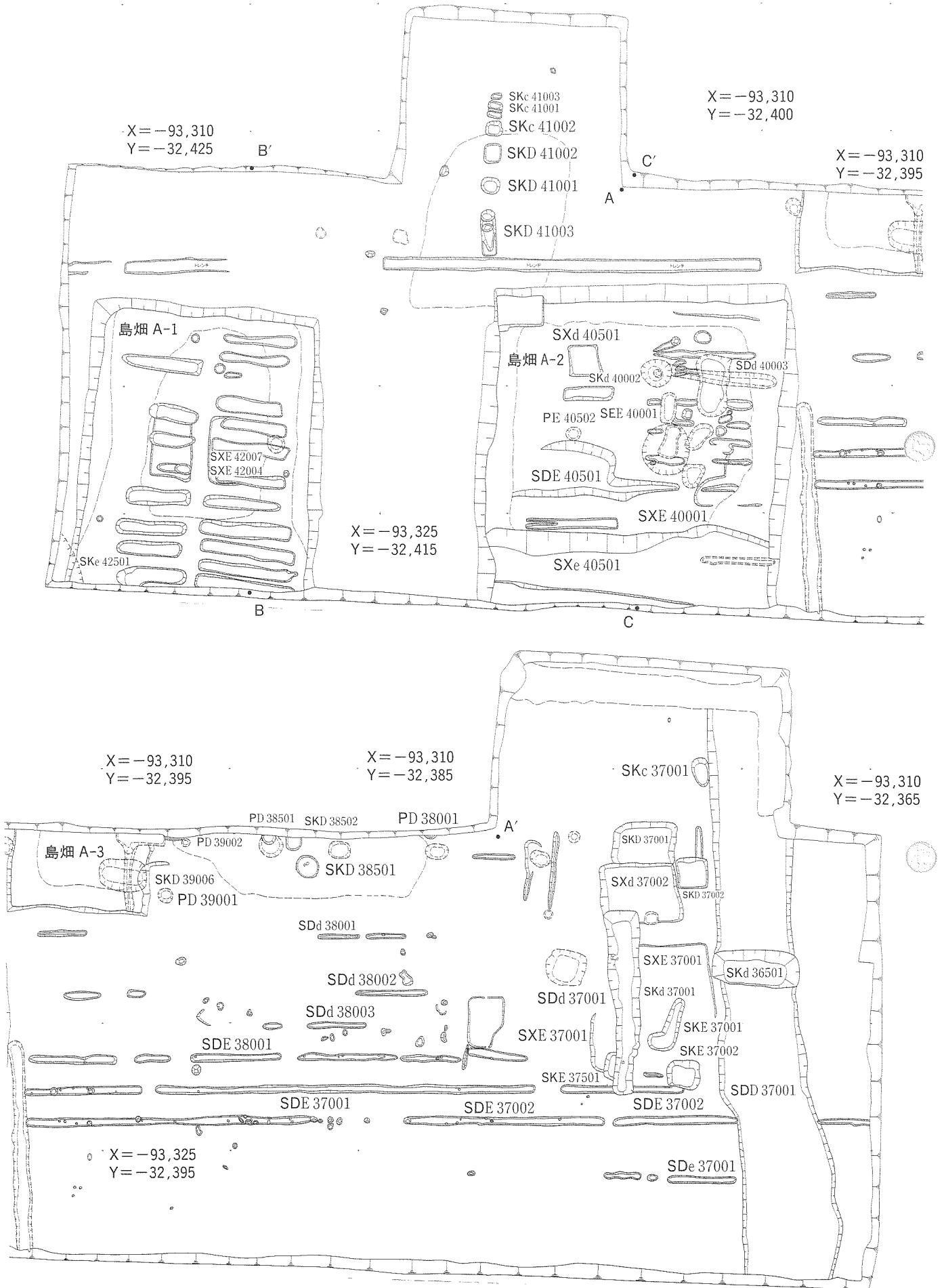


図8 A区遺構図 (1:200)

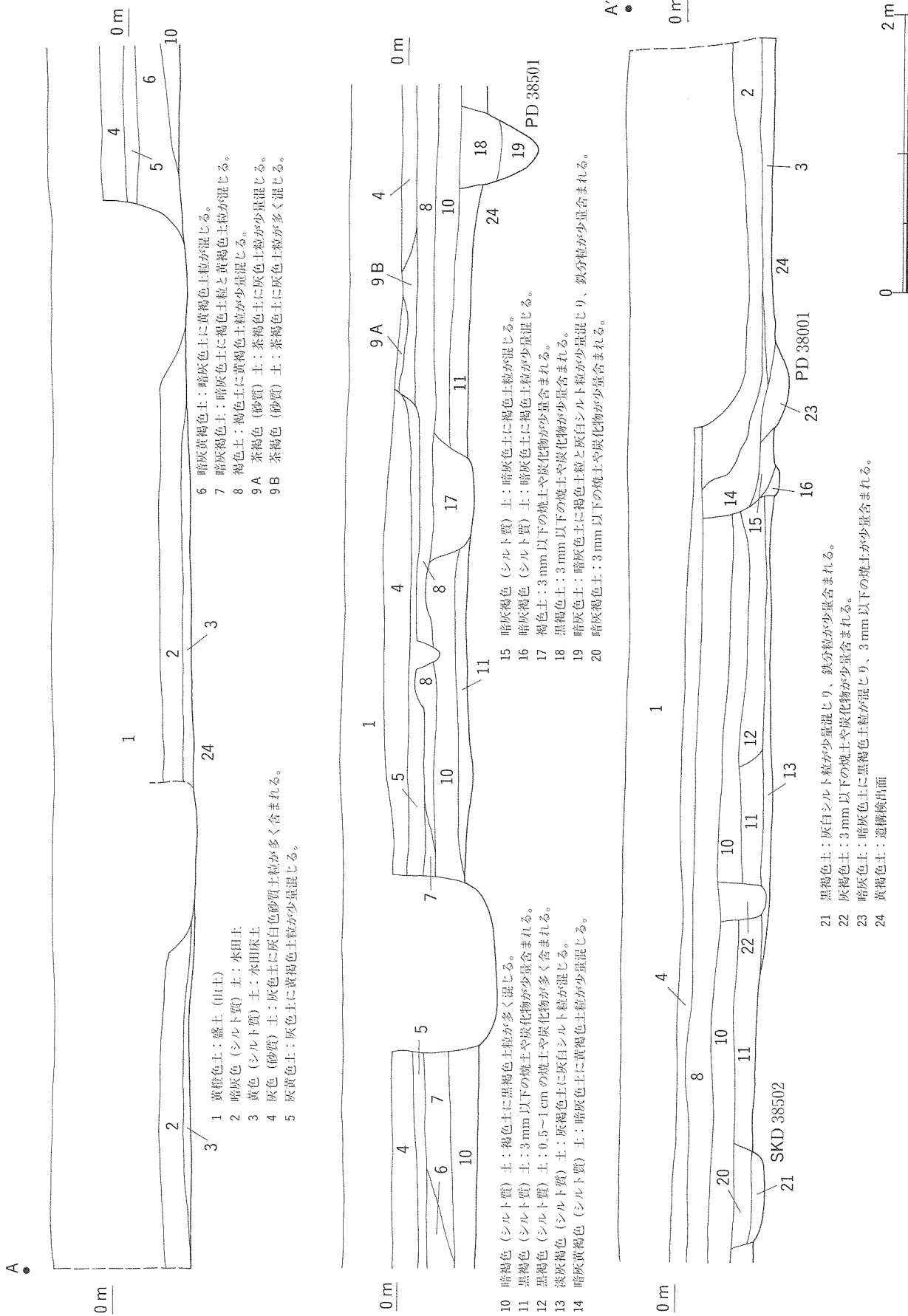


図9 A区 (A-A') 土層断面図

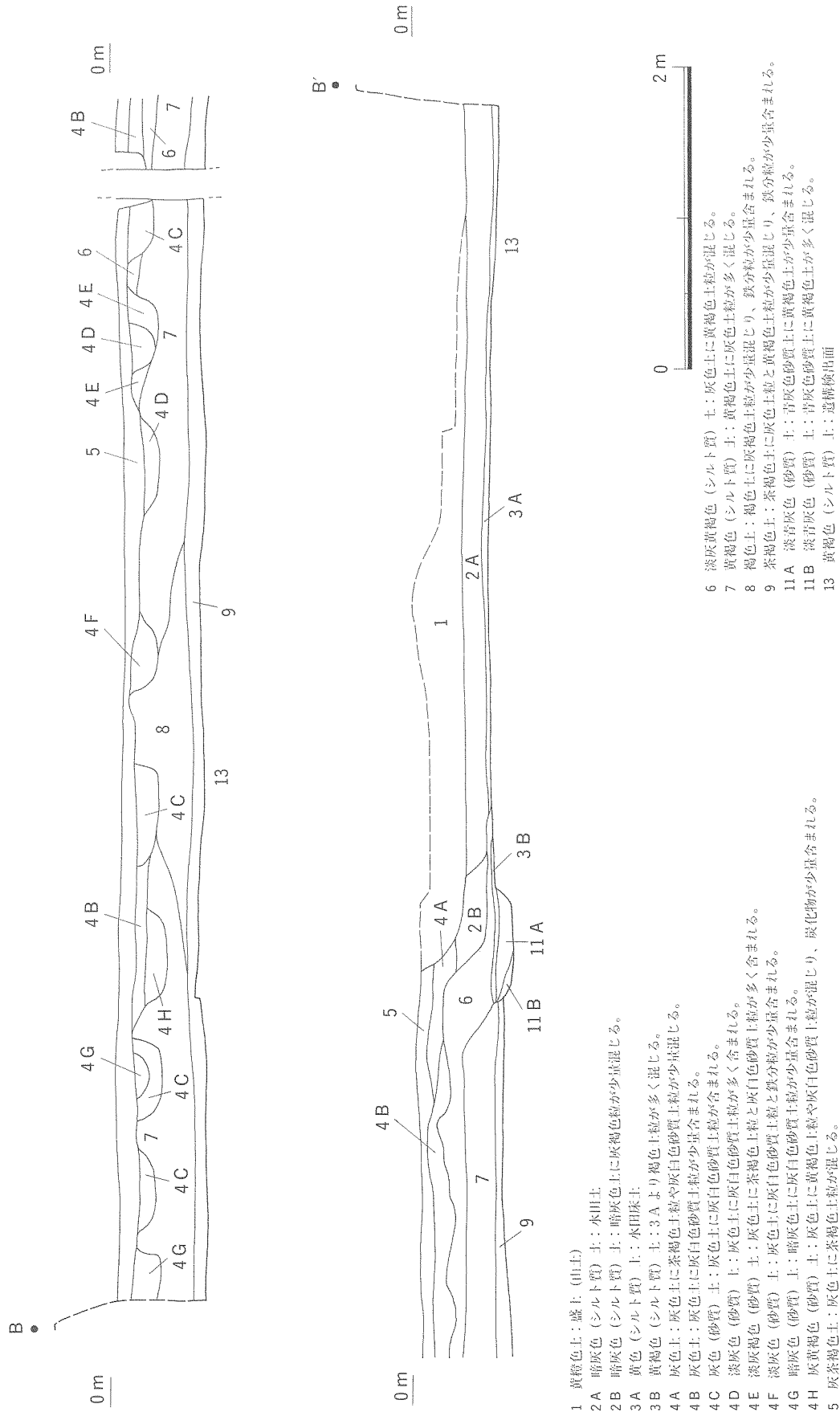


図10 A区 (B-B') 土層断面図



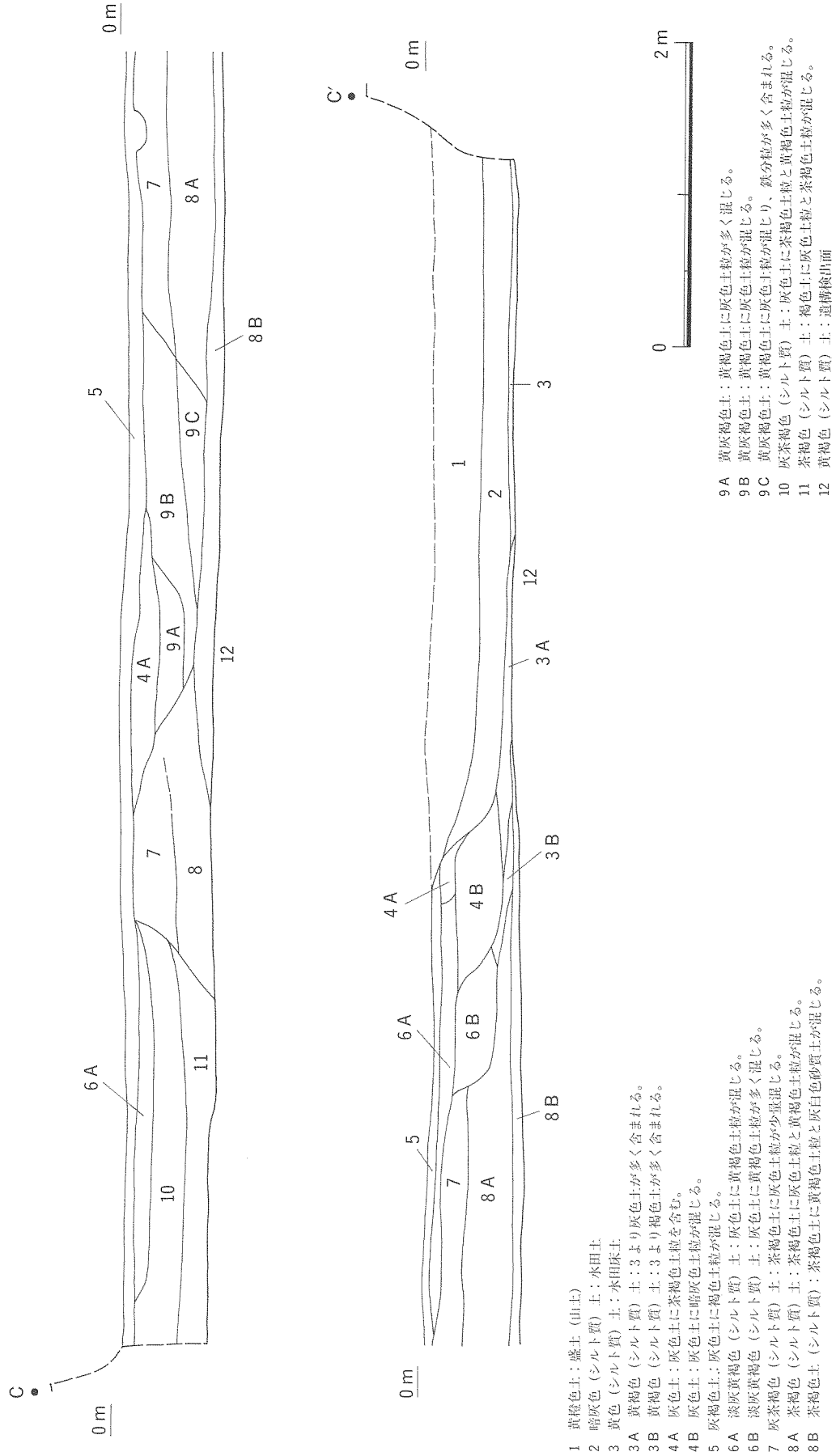


図11 A区(C-C')土層断面図

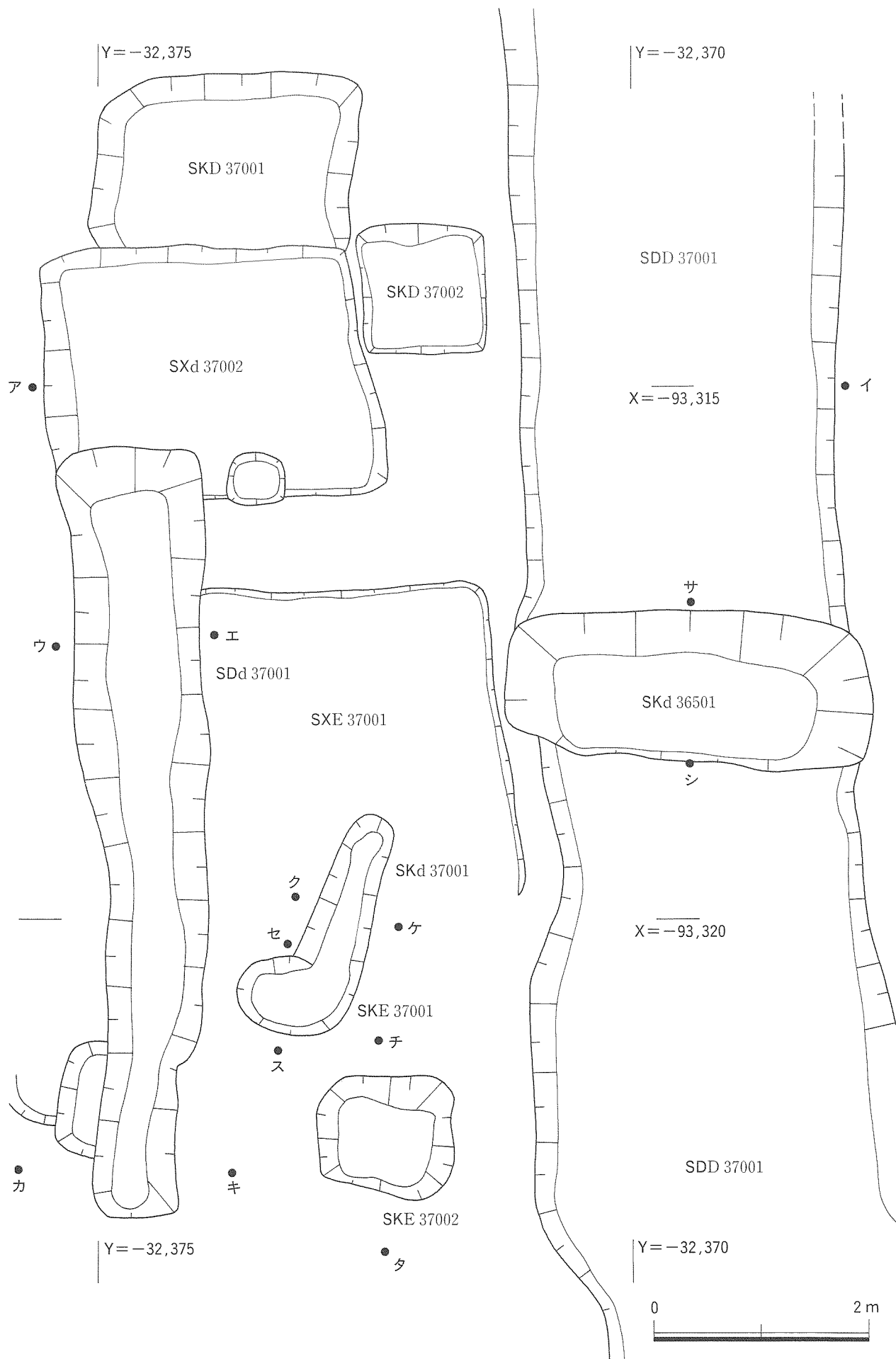
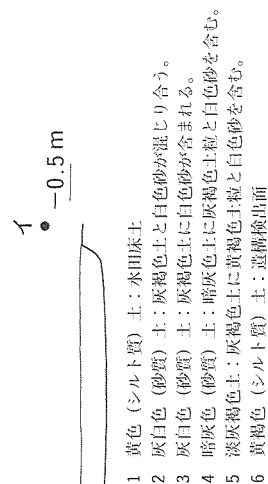


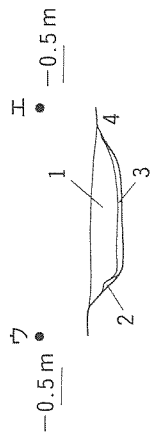
図 12 A 区東側遺構図



SKd 37001 土層断面 (ウーエ) (1:50)

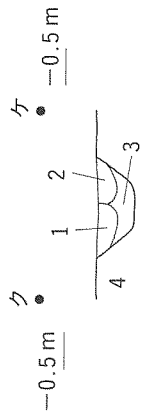
- 1 暗灰褐色 (シルト質) 土：暗灰褐色土に黄褐色土粒と鉄分粒を少量含む。
- 2 暗灰色土：暗灰色土に炭化物粒と焼土粒が少量含まれる。
- 3 淡灰色 (砂質) 土：灰色土に黄白色砂が混じる。
- 4 黄褐色 (シルト質) 土：黄褐色土に黄白色砂が混じる。

SDd 37001 土層断面 (ウーエ) (1:50)



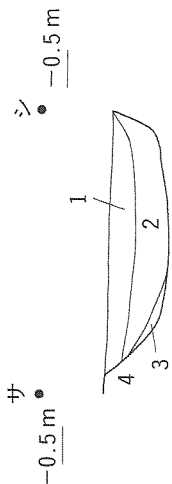
- 1 暗灰褐色 (シルト質) 土：暗灰褐色土に黄褐色土粒と鉄分粒を少量含む。
- 2 暗灰色土：暗灰色土に炭化物粒と焼土粒が少量含まれる。
- 3 淡灰色 (砂質) 土：灰色土に黄白色砂が混じる。
- 4 黄褐色 (シルト質) 土：黄褐色土に黄白色砂が混じる。

SKd 37001 土層断面 (クエケ)



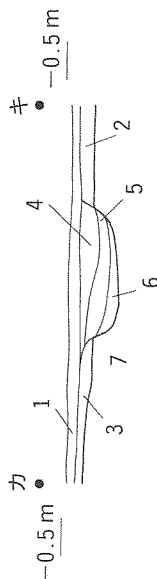
- 1 暗灰褐色土：暗灰褐色土に灰色土粒と鉄分粒が少量含まれる。
- 2 暗灰褐色土：暗灰褐色土に黄褐色土粒と白色砂が混じる。
- 3 暗灰褐色土：暗灰褐色土に黄褐色土粒と白色砂が少量含まれる。
- 4 黄褐色 (シルト質) 土：黄褐色土に黄褐色土粒と白色砂が少量含まれる。

SKd 36501 土層断面 (サーシ)



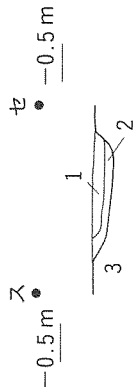
- 1 暗灰褐色 (砂質) 土：暗灰褐色土に黄褐色土粒が少量含まれる。
- 2 暗灰色 (シルト質) 土：暗灰色土に鉄分粒が含まれる。
- 3 淡灰色土：灰色土に黄白色土粒と白色砂が含まれる。
- 4 黄褐色 (シルト質) 土：黄褐色土に黄褐色土粒と白色砂が含まれる。

SDd 37001 土層断面 (カーキ)



- 1 暗灰色 (シルト質) 土：水田土
- 2 黄色 (シルト質) 土：水田床土
- 3 暗灰褐色土：黄褐色土に灰色土粒が混じる。
- 4 暗灰褐色 (シルト質) 土：暗灰褐色土に黄褐色土粒が少量含まれる。
- 5 暗灰青色 (シルト質) 土：暗灰色土に黄褐色土粒や青灰色砂が少量含まれる。
- 6 灰青色 (シルト質) 土：灰青色土に黄褐色土粒や青灰色砂が少量含まれる。
- 7 黄褐色 (シルト質) 土：黄褐色土に黄褐色土粒や青灰色砂が少量含まれる。

SKd 37001 土層断面 (スーセ)



- 1 暗灰褐色 (シルト質) 土：暗灰褐色土に黄褐色土粒と灰白土粒が混じる。
- 2 淡灰色 (シルト質) 土：灰色土に黄褐色土粒と灰白土粒が混じり、鉄分粒が少量含まれる。
- 3 黄褐色 (シルト質) 土：黄褐色土に黄褐色土粒と白色砂が少量含まれる。

SKE 37002 土層断面 (ターチ)



- 1 暗灰色 (シルト質) 土：水田土
- 2 淡灰色 (シルト質) 土：灰色土に黄褐色土粒が混じる。
- 3 暗灰青色 (シルト質) 土：灰青色土に黄褐色土粒と暗灰色土粒が混じる。
- 4 黄褐色 (シルト質) 土：黄褐色土に黄褐色土粒と白色砂が混じる。

図 13 A 区東側遺構土層断面図



島畑 A-3：発掘区中央北側にあり、東西辺の長さが約 16 m、南北辺の検出長さが約 3 m で、発掘区外の北に広がる長形状の畑地である。中心部に、淡灰茶褐色土が残存し、その周辺に灰色土が積み上げられる。灰色土から山茶碗が出土している。周囲の水田床土との比高差は約 50 cm あり、畑土の淡灰茶褐色土などを掘り下げると、土坑が検出された。

SEE40001：島畑 A-2 の下で検出した。長径約 2 m、短径約 1.85 m。未掘。木杵等は存在していないが、掘り方が直径約 2 m の円柱形状になり、約 1 m 掘り下げると湧水が著しいため、井戸の可能性が考えられる。

SDD37001：発掘区の東端で南北方向に繋がり、北側幅約 3.1 m、南側幅約 3.5 m、深さ約 20 cm、検出長さ約 22.5 m の溝で、方位は、N-4° -W を測る。

SDd37001：北側幅約 1.3 m、南側端付近幅 80 cm、深さ約 25 cm、長さ約 7 m の溝で、方位は、N-2° -W を測る。

SDd40003：島畑 A-2 の下で検出した。幅約 50 cm、検出長約 4 m の溝。SKE40002 の東側に接しているが、切り合い関係は、明確にできなかった。方位は、N-83° -W を測る。

SDd38001：SDd38002・SDd38003・SDE38001・SDE37001・SDE37002・SDe37002：島畑 A-2 の東側から SDd37001 付近までの水田床土付近で、幅約 20～35 cm、深さ約 3～5 cm の 6 条の溝が検出された。いずれの方位も N-90° -W を測る。検出の段階では、溝が跡切れる形状となっているが、連続して造作されたと考えられる。各溝の間隔には、ある程度の規則性がみられる。埋土は、水田土の暗灰色土に類似している。これら溝は、田起こし跡と推定される。

SKD38501：島畑 A-3 の下で検出した。長径約 95 cm、短径約 90 cm、深さ約 15 cm のほぼ円形状土坑で、煤の付着した尾張系山茶碗 2 個が出土した。

SKD39006：島畑 A-3 の下で検出した。長辺約 1.9 m、短辺約 1.3 m、深さ約 40 cm の長形状土坑で、長辺軸の方向は、N-85° -W を測る。尾張系山茶碗や小皿、白磁碗片などが出土した。

SKd40002：島畑 A-2 の下で検出した。直径約 1.2 m、深さ約 60 cm の円形状土坑。

SXE37001：発掘区東側の SDd37001 に重複する位置で検出し、推定長辺約 5 m、深さ約 10 cm の方形状遺構。

## (2) A 区の遺物

SKe42501：須恵器、土師器、山茶碗、常滑製品などが出土している。土師器は伊勢型鍋の頸部である。1 は羽釜、12 世紀後半代と思われる。

SKD39006：土師器、山茶碗、白磁、加工円盤などが出土している。特に尾張系山茶碗の破片が多くある。2・3 は、尾張系山茶碗で、2 は体部の立ち上がりが比較的丸く浅い、3 は底部がやや突出しており、碗 A と小皿 A である。4 は白磁碗底部、高台は細く高い、底部内面には劃画文がみえる。鍋は、5 は口縁端部をやや厚くし、6 は口縁端部を内側に返し、厚みをもつもので鍋 A である。加工円盤 (7・8) は、山茶碗の高台部を加工している。出土遺物の時期は、12 世紀後半代と思われる。

SKD38501：中央底付近から山茶碗 (9～11) が 3 点かたまって出土している。9 はほぼ完形である。他に、土師器の小片が出土している。碗はいずれも碗 B である。13 世紀代の土坑と思われる。

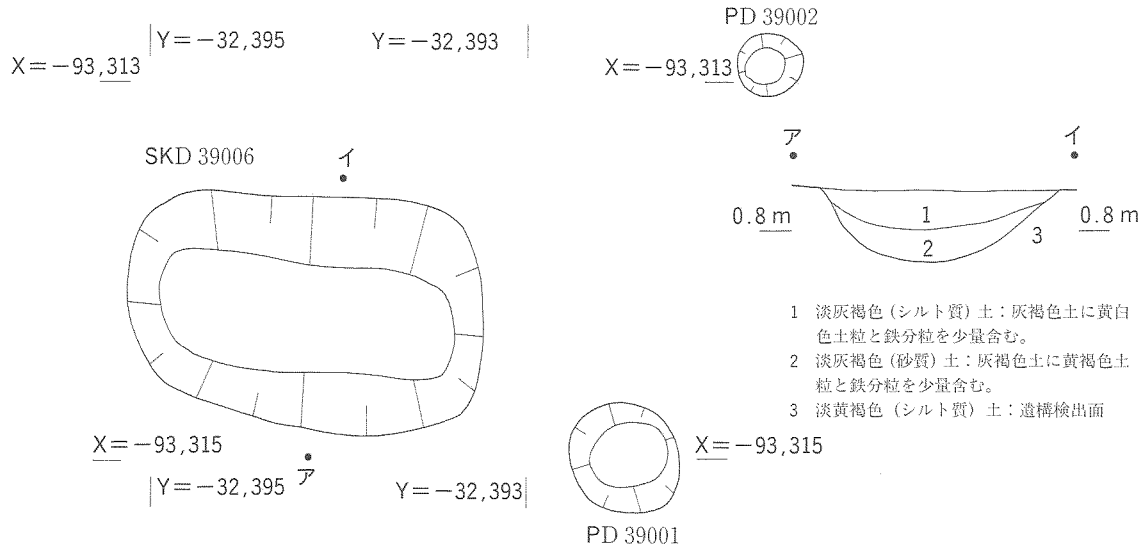


図 14 SKD 39006

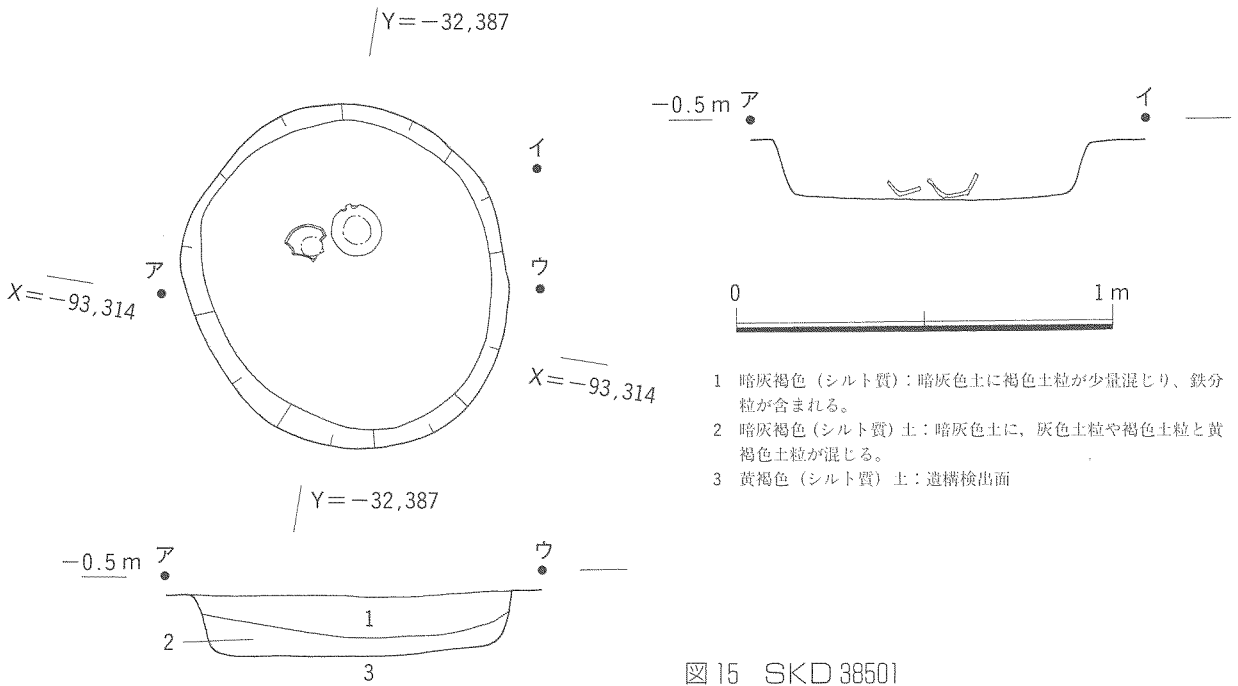
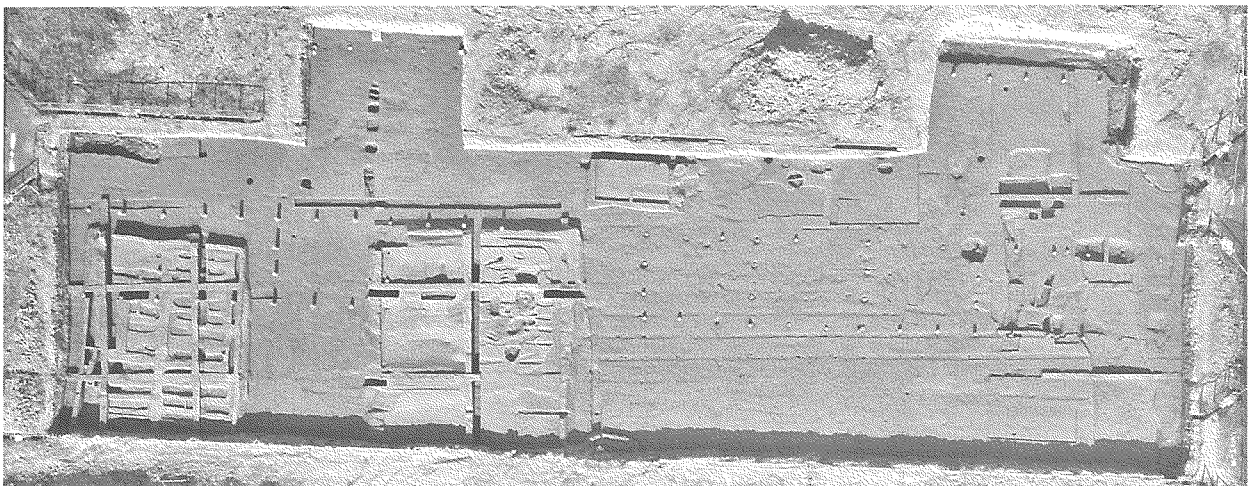


図 15 SKD 38501



A区全景

SKD38502：尾張系山茶碗と土師器片が出土している。

SKc37001：小皿B（12）が出土している。

SKD37001：尾張系山茶碗片が出土している。

SKD37002：土師器と尾張系山茶碗底部（13）が出土している。

SKd36501：尾張系・東濃系山茶碗、施釉陶器、いぶし瓦片が出土している。

SKd37001：尾張系山茶碗、焼き締め陶器片が出土している。

SKE37002：尾張系山茶碗、土師器片が出土している。

SDd37001：土師器、須恵器、尾張系山茶碗・小皿、常滑製品、土錘などが出土している。遺物は全体に散在しているが、14と18、19は、埋土上位にまとまってあった。山茶碗は碗B、小皿Bである。20は底部付近で出土した短頸壺である。胎土は粗い砂粒を多く含み、固く焼締り黒灰色を呈する。常滑産と思われる。直径1cm前後の土錘が2点ある。これらの遺物は13世紀代と思われるが、土師器鍋の口縁部(21)が1点ある。

SXd37002：土師器、須恵器、山茶碗、土錘、加工円盤などが出土している。24は瀬戸窯の碗Cである。26、27は小皿、26は瀬戸窯の小皿Bである。東濃系山茶碗の小片もある。28・29は土錘、28は欠損しているが、29は、直径が3.5cm、長さは5cmある。床土中からも同タイプの土錘が数点出土している。加工円盤（30～32）は尾張系山茶碗の高台部分を加工したものである。

SDd38002：尾張系山茶碗片と、縁釉皿片が出土している。

SXE37001：土師器、尾張系山茶碗、東濃系山茶碗、常滑製品の小片が出土している。33～35は加工円盤で33は壺体部片、34と35は尾張系山茶碗の高台を加工している。

PD38001：尾張系山茶碗の高台部を利用した加工円盤（36）が出土している。

PD38501：土師器、尾張系山茶碗、常滑窯甕（壺）の小片、小皿A（37）と加工円盤（38）が出土している。加工円盤は尾張系山茶碗の体部を加工している。

PD39001：尾張系山茶碗、鍋Aの小片が出土している。

SDe37001：土師器、尾張系山茶碗・小皿、東濃系山茶碗の小片が出土している。39は鍋Bである。

SKc41001：内耳鍋（40）が出土している。

SDD37001：土師器、灰釉陶器、山茶碗、常滑製品、加工円盤など中世陶器が出土しているが、いずれも小片である。尾張系山茶碗（42・43）は、碗Aと碗Bである。東濃系山茶碗は、凶化していないが、底径が小さく、扁平な体部をもつもので大畑大洞～新形式に相当すると思われる。加工円盤は、45が常滑製品、46がいぶし瓦片を加工している。また、埋土の上層からは近世陶器や磁器なども出土している。47は19世紀代の練鉢である。出土遺物の年代幅は大きい、中～下層には近世遺物がないことから、14世紀代半ば以降埋没している。

SDE40501：土師器、山茶碗、陶丸（48）、加工円盤（49）、播鉢（50）などが出土している。山茶碗は、尾張系山茶碗と東濃系山茶碗があり、加工円盤は灰釉の碗高台部を加工している。

SDE37001：土師器、尾張系山茶碗、施釉陶器片が出土している。

島畑 A-1：灰釉陶器、山茶碗（碗・小皿・鉢）、中世～近代陶磁器、土錘、加工円盤などが出土している。灰釉陶器は皿(51)で、高台は台形を呈している。52～54は尾張系山茶碗、53は碗B、55は小皿Cである。

56は鉢と思われる。57は白磁玉縁碗の口縁部、58は大窯第2段階の播鉢である。59～62は近世陶器である。加工円盤は多く出土している。材質もいろいろで、63～66は山茶碗、67は常滑製品、他は施釉陶器である。73はSXE42007、74はSXE42004から出土、73は施釉陶器片、74は近世の水甕片である。

島畑 A-2：灰釉陶器、山茶碗、伊勢型鍋、加工円盤、中世～近代陶磁器が出土している。75の灰釉陶器は皿で、三日月高台である。76～79・81～84は尾張系山茶碗・小皿、79は碗C、胎土には黒色の斑点が多くみられ瀬戸窯と思われる。80は碗Dで高台はつぶれて低くなっている。81～83は小皿A、84は瀬戸窯の小皿B、85は鍋Aである。86の加工円盤は、肥前系と思われる磁器碗の口縁部を加工している。87はSXe40501から出土した長石釉の皿、88はSXE40001出土の加工円盤である。

SXd40501：土師器、山茶碗、施釉陶器、近世肥前系磁器片が出土している。

島畑 A-3：山茶碗、伊勢型鍋、土錘、加工円盤などが出土している。中世～近代陶器も多少出土しているが、尾張系山茶碗が大部分を占める。また、凶化していないが、東濃系山茶碗も若干みられる。90・91は碗A、94は小皿B、95・96は小皿A、97は鍋Aである。加工円盤のうち、99～102は山茶碗高台部、103は常滑製品、104は染付皿を加工している。

水田・床土：須恵器、土師器、尾張系山茶碗、東濃系山茶碗、常滑製品、瓦、中世～近代陶磁器、土錘等の小片が出土している。須恵器は、杯蓋片（105～107）で、3点とも口縁端部をくの字状に短く折り返している。108・109は灰釉陶器皿・碗、110～113は尾張系山茶碗・小碗・小皿で、110は瀬戸窯の碗C、112は小皿Aである。114は古瀬戸折縁皿、115は白磁玉縁碗、116は鍋Bである。117～121は土錘、長さは同じようであるが、直径や重量には違いがある。122は、均質で緻密な土でつくられ、中央に孔のある円形状のものである。123は磁器の灯明皿である。加工円盤は、124～127・129が尾張系山茶碗、128は常滑製品、130～140が中世～近世陶器である。141～144は火打石である。

### (3) A区のみまとめ

近年、島畑として残された部分をのぞき水田化が進められているためか、遺物の出土量も少なく、全体に遺構の密度が薄い状態となっていた。ただし、発掘区の東側や島畑 A-3 付近では、13世紀前半頃の溝（SDd37001）や土坑（SKD38501）、12世紀後半頃の土坑（SKD39006）が発見されている。この付近から発掘区外への北方向にも、微高地が存在したと推測され、発掘区北側外に広がる生活区域があった可能性もある。島畑 A-3 の下で検出した土坑（SKD39006）の長辺方向は、N-85° -W を測り、富田荘の土地割方向と関連ある数値を示している。この付近にある PD38501・39001 や周囲の土層からも同時期の遺物が出土している。東側は、性格など不明であるが、方形状土坑や SDD37001 では、13世紀から14世紀代の遺物が出土し、方向は富田荘の土地割方向とは違っている。A区は12世紀後半から13世紀代に土地利用されている。水田の区画については、現代水田の耕作により、その畦畔状遺構が削平されたと考えられ、痕跡を確認できなかった。ただ、島畑 A-1 と島畑 A-2 の長軸方向は、いずれも N-5° -E を測り、富田荘の土地割方向と関連がある数値を示し、近年まで土地割の制約を引き継いでいるものと思われる。また、島畑の褐色土などは、13世紀代の遺物が含まれることから、この頃の洪水による堆積土の可能性が考えられる。

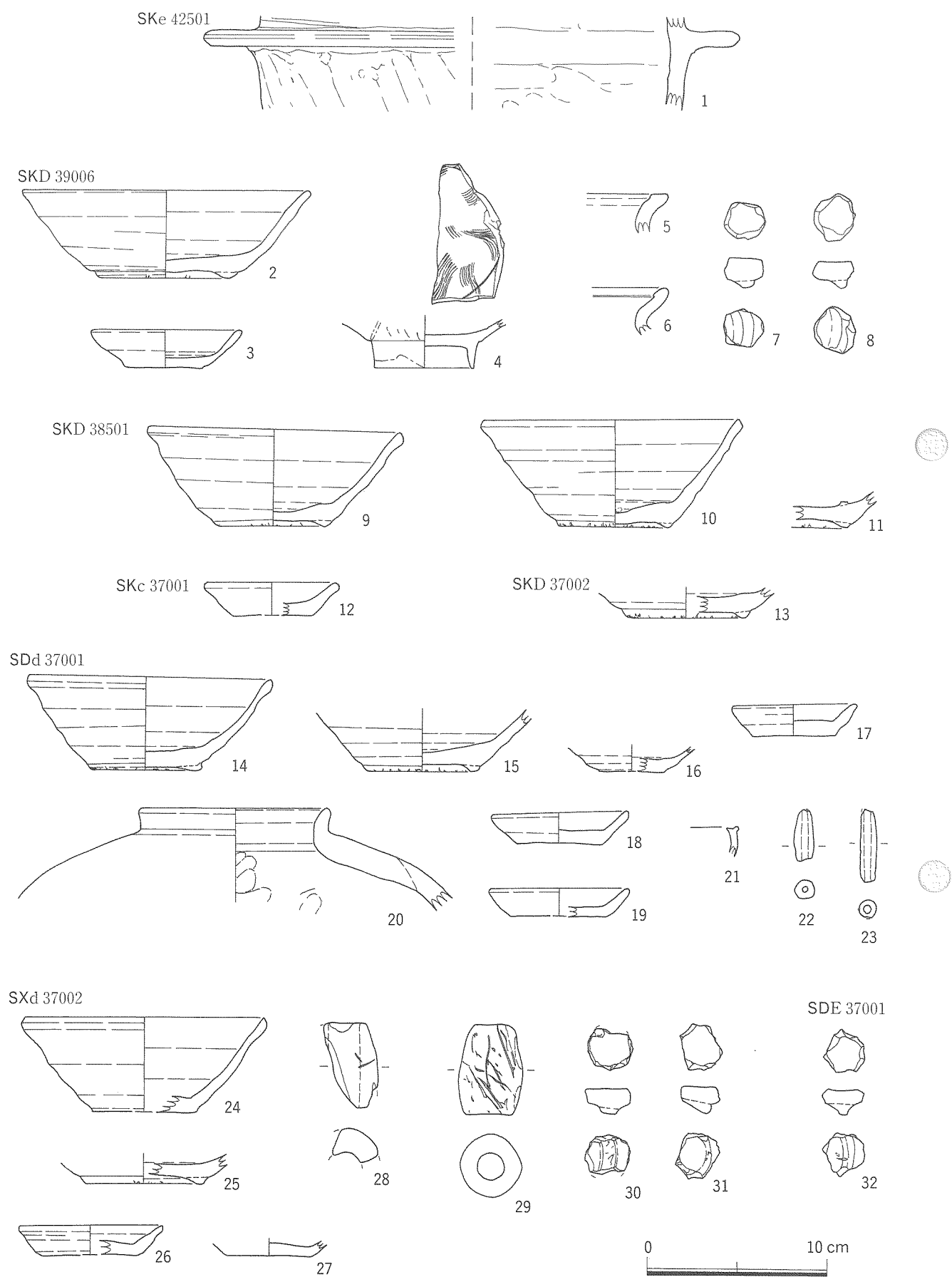


图16 A区出土遺物(1)



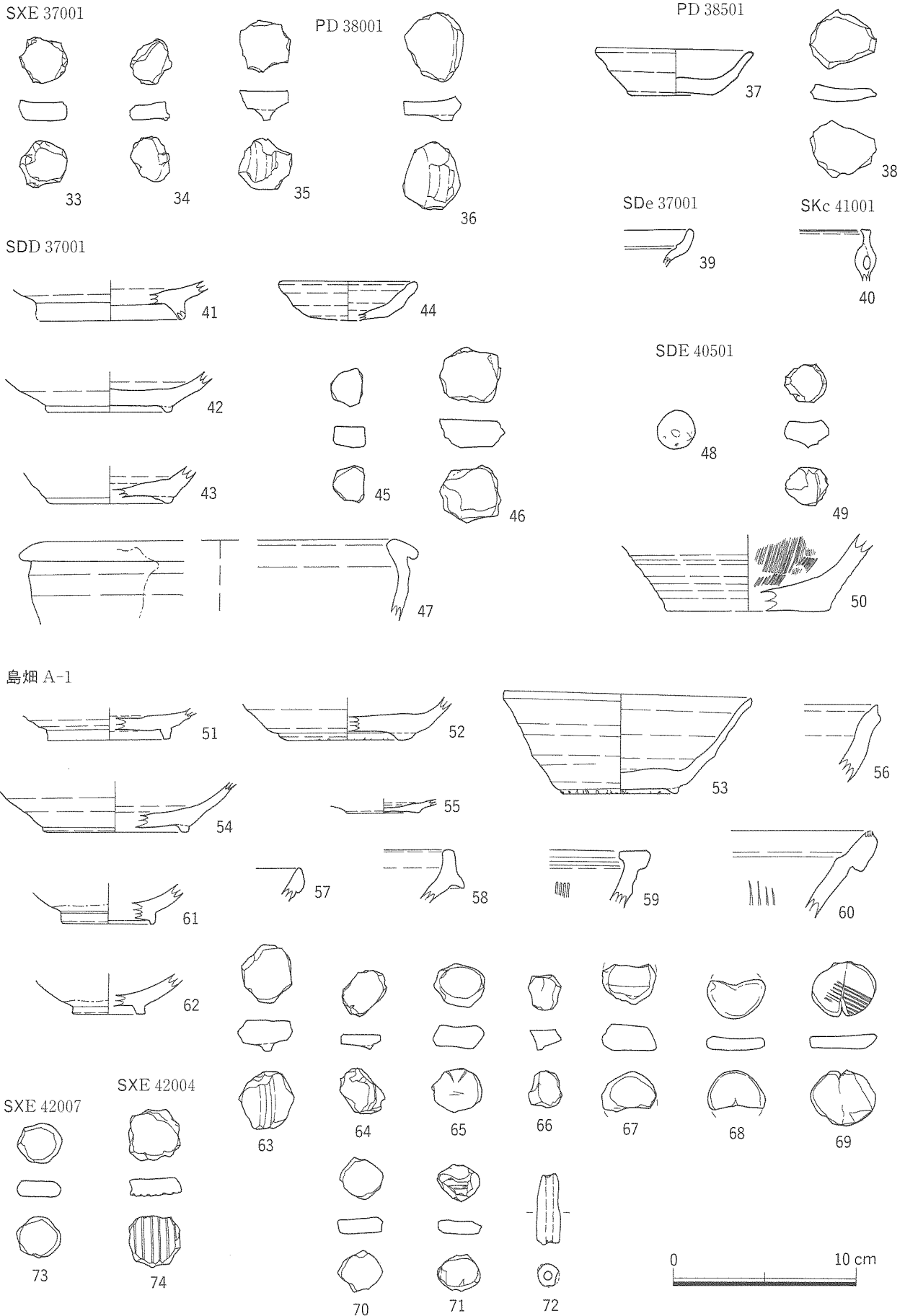
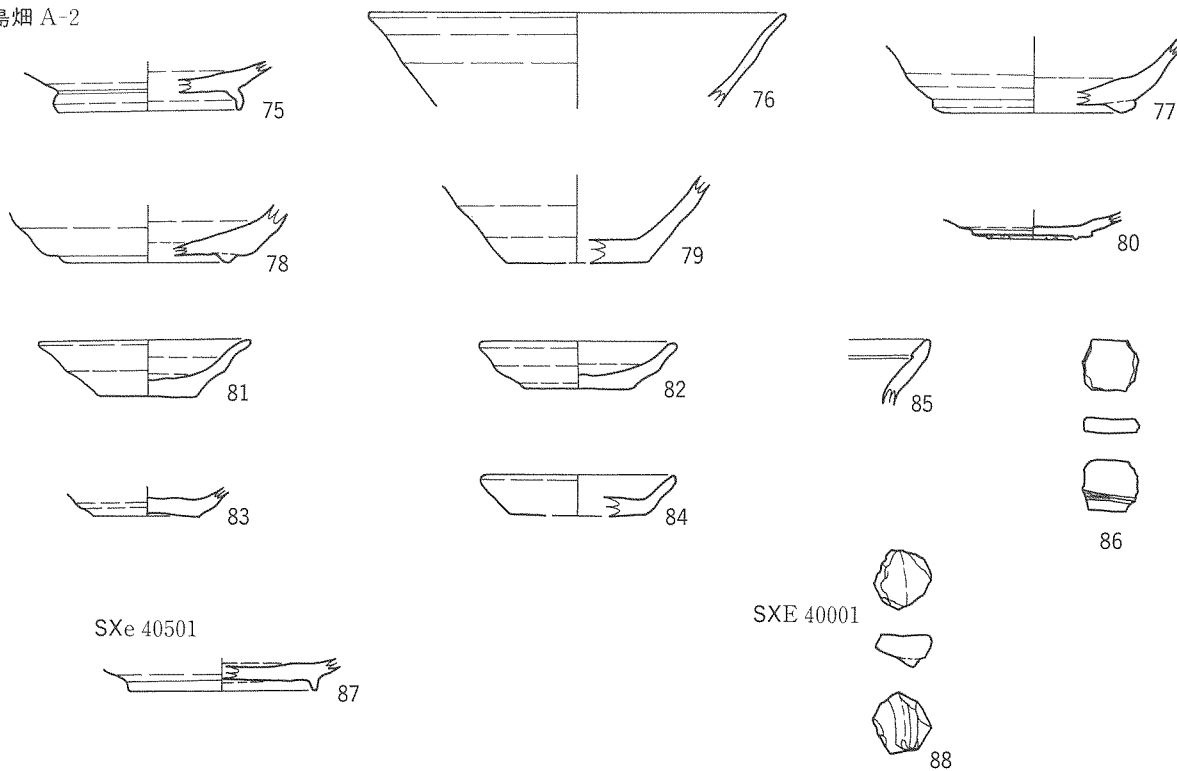


図17 A区出土遺物(2)

島畑 A-2



島畑 A-3

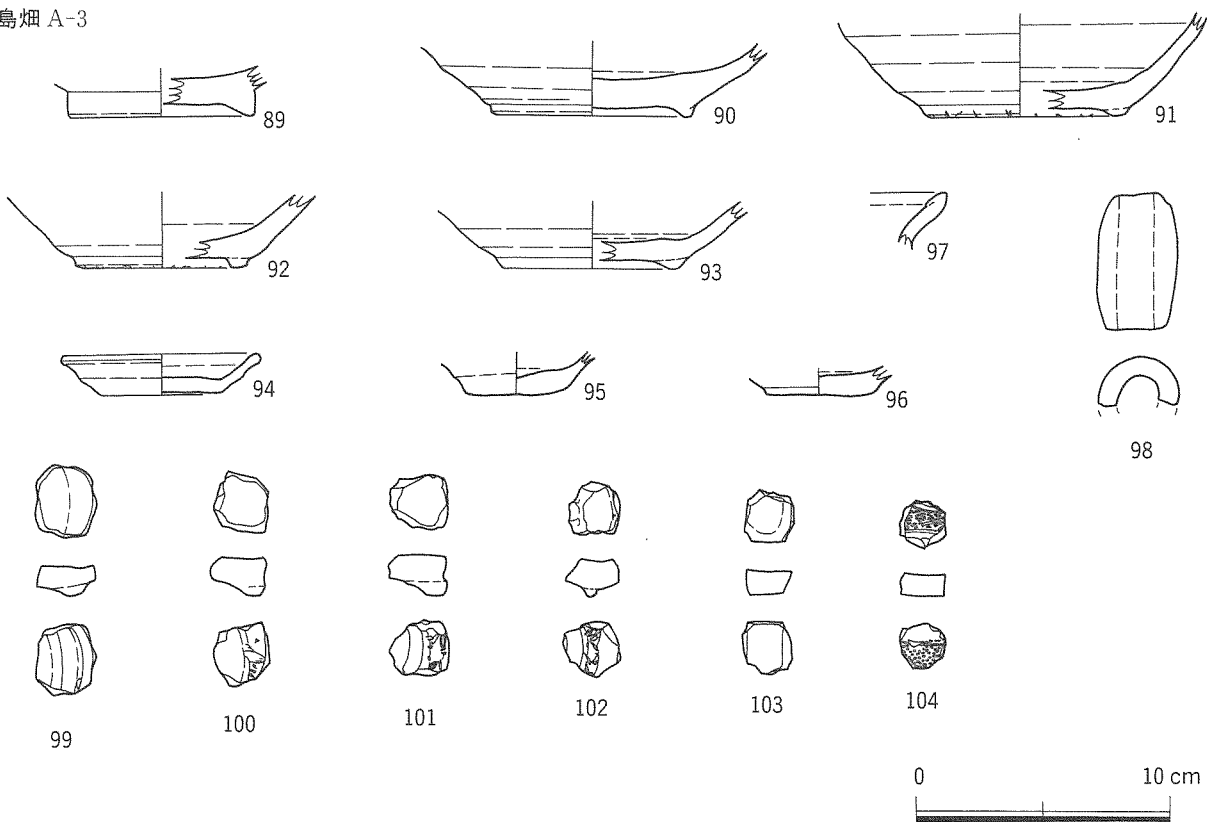


图 18 A 区出土遺物(3)

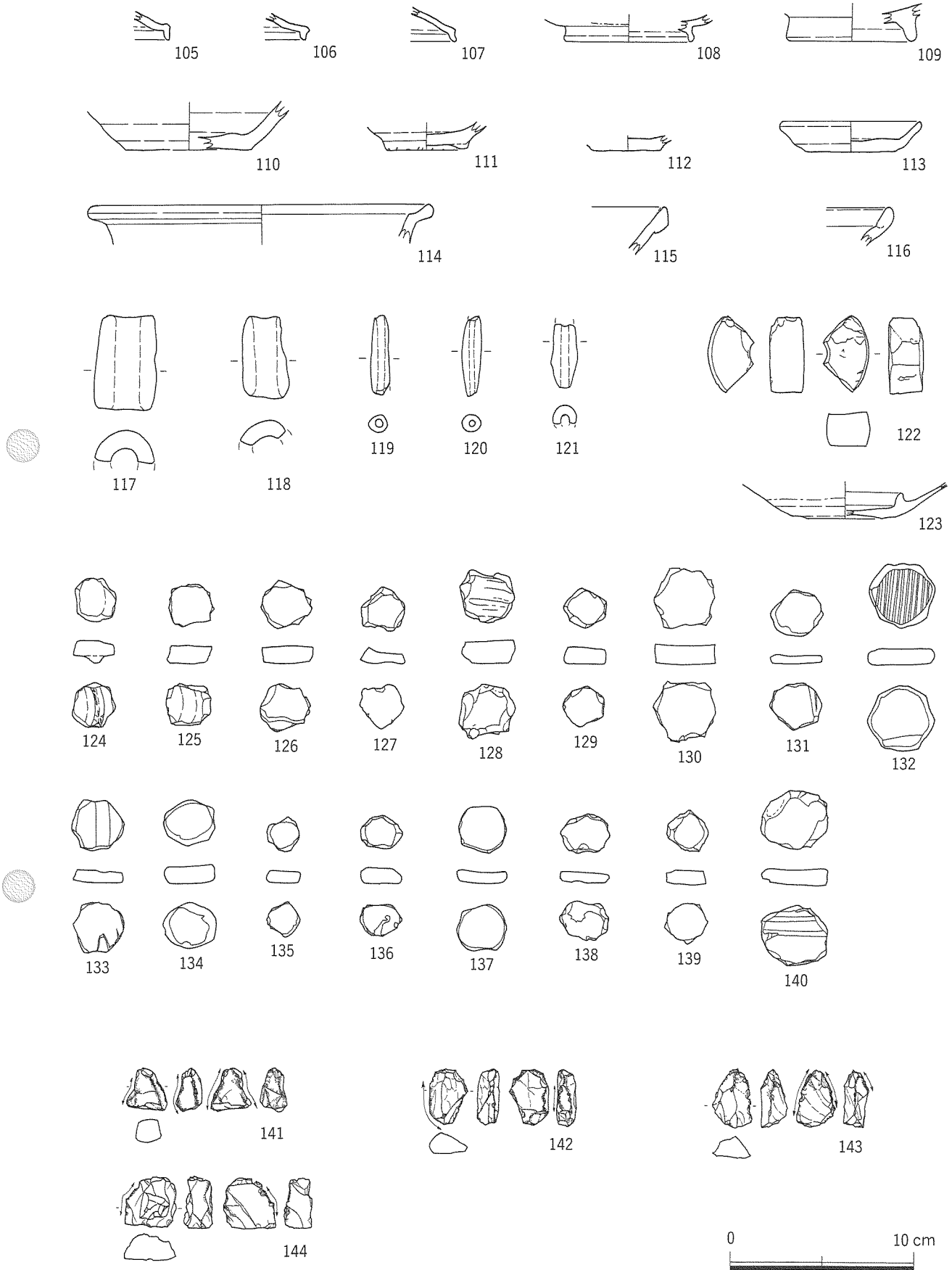


图19 A区出土遺物(4)

(4) B区の遺構

島畑 B-1：発掘区西側にあり、北西へ広がる「L」字状の畑地である。島畑 B-1 から SKk39501 の西側では、水田の濃灰色土を掘り下げると、島畑を形成する淡灰茶褐色土に類似した土層面が広がっている。おそらく一連の微高地があり、西側を残して三方が水田化され、「L」字状の畑地になったと推測される。東西方向に畝が作られた畑地を約 50 cm 掘り下げると、標高-60 cm 程付近で、柱穴や炭化物面が検出された。

島畑 B-2：発掘区西側北端にあり、発掘区外へ広がる長方形の畑地である。水田面との比高差は約 50 cm あり、南側縁付近の床土下（標高-70 cm 程）で、屋敷地を区画する東西方向の溝が検出されている。

SB01 (PK39006・PK39502・PK39501・Pk39001・Pk39502)：直径約 30～45 cm、深さ約 20～30 cm の類似した形状の柱穴が、5 基検出された。PK39006-PK39502-PK39501 の中心間が約 2.65 m、PK39006-Pk39001 と、PK39501-Pk39502 の中心間が約 4.65 m ある。建物は、南北間が長いが、おそらく東西方向に二間、南北方向に一間であろう。建物面積は、約 24.65 m<sup>2</sup> (約 5.3×4.65 m) になる。長軸方向は、N-83° -W を測る。

建物のある位置に約 3～5 m の範囲で、厚み約 3 cm の炭化物と焼土粒が混じる土層が確認されている。炭化物層は 2 層で、約 3～5 cm の黄褐色土層が間層となり、さらに約 2 cm の炭化物を含む土層が観察されている。これらの層位が広がる範囲とその周辺から、尾張系山茶碗や小碗、白磁片等が出土している。

SA01 (PK39001・PK39003・PK39008・PK39504・PK39503・PK40001・PK40003)：直径 20～30 cm、深さ 20～30 cm の類似した形状の柱穴が、7 基検出された。柱穴の中心間は、東端の PK39001-PK39003 の中心間隔が約 1.2 m と短く、また中央の PK39504-PK39503 の中心間隔が約 2.6 m と長くなるが、他の中心間隔はいずれも約 2 m である。軸方向は、N-83° -W を測り、SB01 の北側辺と約 1.5 m 離れた間隔で東西方向に平行する位置にある。

SA02 (PK40003・PK40004・PK40005・Pk40001 (・Pj40002))：直径 25～30 cm、深さ 20～25 cm の柱穴が、4 基検出された。柱穴の中心間は、PK40003-PK40004 の中心間隔が約 1 m、PK40004-PK40005 の中心間隔が約 0.5 m と短く、PK40005-PK40001 の中心間隔が約 2.35 m である。PK40003 から約 2 m 離れて、Pj40002 がほぼ直線上に位置している。軸方向は、N-7° -W を測り、柱穴列 (SA01) と直交する位置関係にあり、SB01 の西側辺と約 3.8 m 離れた間隔で南北方向に平行する位置にある。

SA03 (PK39501・PK40006・PK40005)：建物の柱穴 PK39501 の延長線上に、PK40005・PK40006 が位置する。PK40005・PK40006 は、直径 20～30 cm、深さ 25～30 cm である。柱穴の中心間は、PK39501-PK40006 の中心間隔が約 2.4 m、PK40005-PK40006 の中心間隔が約 1.4 m である。軸方向は、N-83° -W を測り、SB01 の北側辺の延長線上に位置する。

SA04 (PK38503・PK38504・PK39004・PK39005・Pj39501 (・Pj40003))：直径 20～40 cm、深さ 10～15 cm の柱穴が、5 基検出された。柱穴の中心間は、東端の PK38503-PK38504 の中心間隔が約 1.5 m と短く、また PK38504-PK39004 の中心間隔が約 4.8 m と長く、他の中心間隔は約 2.25 m である。軸方向は、N-82° -W を測り、SA01 と約 1.9～2 m 離れた間隔でほぼ平行する位置にある。また、Pj39501 から約 6 m 離れて、Pj40003 がほぼ直線上に位置している。

SEK38001：直径約 1.7 m の掘り方があり、その内側は、長径約 1.35 m、短径約 1.2 m の円柱状に掘り



下げられている。未掘であり木杵は発見されていないが、1 m 程掘ると著しい湧水があり、おそらく井戸と思われる。埋土には炭化物や木片が多く含まれていた。炭化物は、南西側から廃棄された状態で埋まり、白磁片、尾張系山茶碗2点が含まれている。

SEj38501：掘り方は検出されず、長径約1 m、短径約90 cmの円柱状に掘り下げられている。未掘であり木杵は発見されていないが、1 m 程掘ると著しい湧水があることから、おそらく井戸と思われる。厚さ約50 cmの炭化物が埋まり、多数の尾張系山茶碗や小皿が出土している。

SDL37001：最大幅約1.3 m、深さ約30 cm、検出長さ約11 mの溝で、方位は、N-6° -Eを測る。南側でSXL37501に切られている。

SDK37501：最大幅約1.2 m、深さ約50 cm、検出長さ約11 mの溝で、方位は、N-0° -Eを測る。

SDK37502A：標高-75 cm付近で検出した。最大幅約90 cm、最小幅約55 cm、北側深さ約20 cm、南側深さ約35 cm、検出長さ約8 mの溝で、方位は、N-6° -Eを測る。

SDK37502B：最大幅約1.6 m、最小幅約1.3 m、北側深さ約25 cm、南側深さ約35 cm、長さ約13.5 mの溝で、埋土の上位から尾張系山茶碗や小皿等が出土した。方位は、N-10° -Eを測る。SDK37502Aが、この溝の東側肩部に位置し、ほぼ中央付近で跡切れる。

SDJ39501：最大幅約90 cm、最小幅約60 cm、深さ約30 cmの溝で、尾張系山茶碗や小皿、壺（甕）等が出土した。方位は、N-86° -Wを測る。SDK37502Aの北側幅とほぼ同じであり、2条の溝がほぼ直交する位置関係にあると予測されることから、SDJ39501とSDK37502は、屋敷地を区画する溝と考えられる。

SDJ39503：最大幅約90 cm、最小幅約20 cm、深さ約10 cm、長さ約6 mの溝で、SDJ39501の南側に位置する。方位は、N-84° -Wを測る。

SDL38501：最大幅約50 cm、最小幅約25 cm、深さ約20 cm、検出長さ約3 mの溝で、発掘区南側外に続く。方位は、N-8° -Eを測る。この溝は、検出時の所見では、数基の穴が連続する箇所が観察された。溝の北端から約9 m離れた直線上に、PK38503が位置し、その中間に柱穴が検出されていないが、柱穴列(SA04)と直交する関係ある。

SDk39501：幅約20 cm、深さ約5 cm、長さ約3.7 mの溝で、方位は、N-84° -Wを測る。厚さ約3 cmの炭化物層を掘り下げて検出されている。SB01の柱穴の中間に位置し、軸方向もほぼ同じであり、建物と関係する遺構の可能性もあるが明確にできなかった。

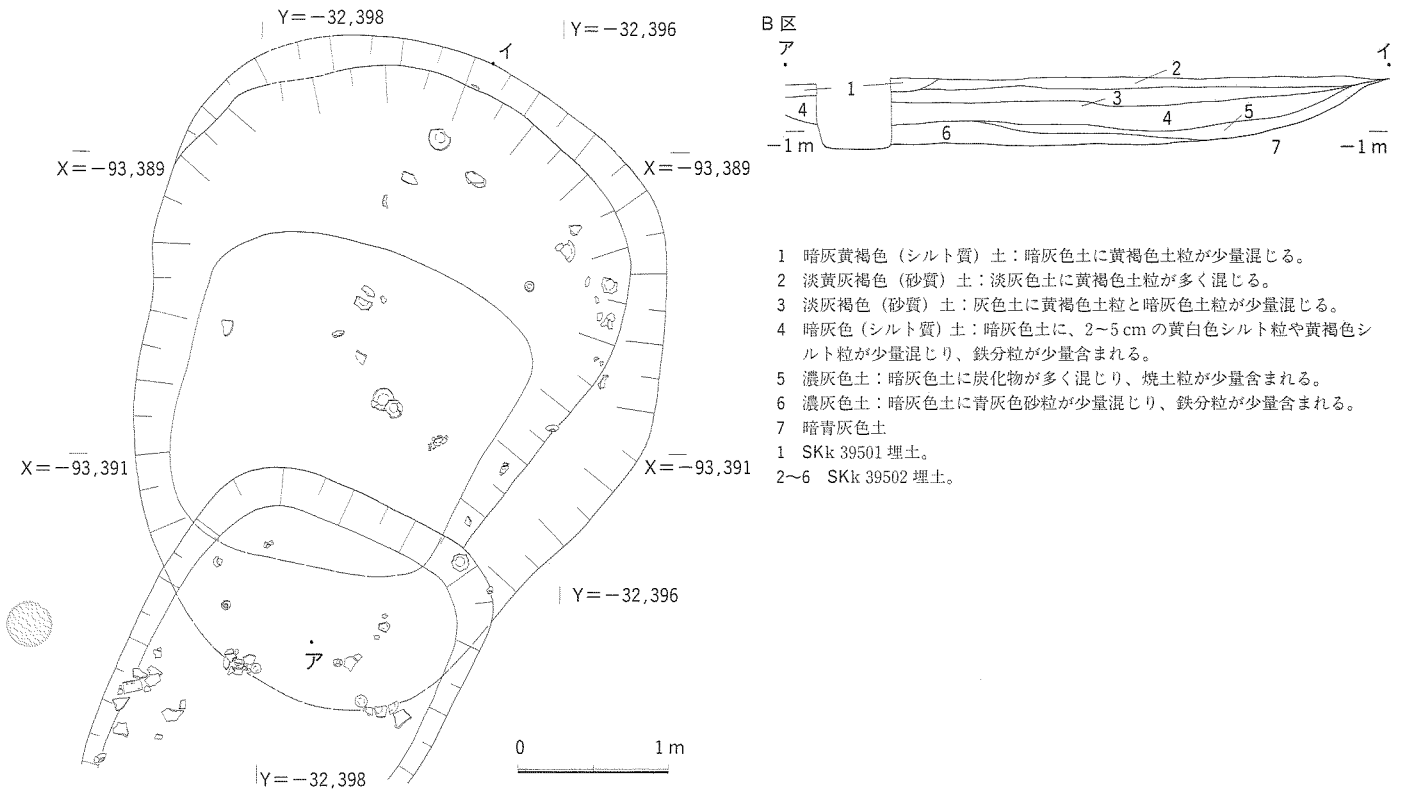
SDk39502：幅約20 cm、深さ約5 cm、検出長さ約3 mの溝で、方位は、N-85° -Wを測る。SDk39501の南側に約1.5 m離れて位置にする。

SKk38501：長径約1.6 m、短径約1.4 m、深さ約45 cmの土坑で、渥美産と思われる壺（甕）等が南側に集中して出土している。

SKk39501：短辺約2.1 m、検出長さ約2 m、深さ約10 cmの長方形土坑である。SKk39502よりも後の土坑である。軸方向は、N-35° -Eを測る。

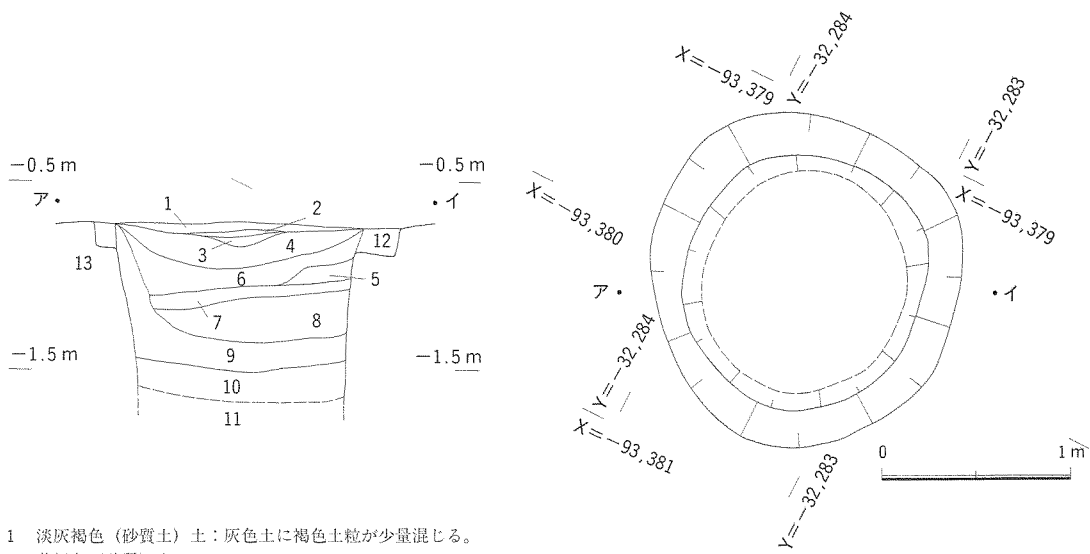
SKk39502：直径約3.5 m、深さ約45 cmの土坑で、SB01の南側に位置する。北側に炭化物と焼土粒が多く埋まり、明らかに炭化物と遺物を廃棄した状態で、多数の尾張系山茶碗、小碗や小皿、土師器鍋等が出土している。軸方向は、N-10° -Eを測る。

SXk38501：長辺約6.5 m、短辺約4.5 m、深さ約50 cmの長方形の凹み。SXk39001を切っている。



- 1 暗灰黄褐色（シルト質）土：暗灰色土に黄褐色土粒が少量混じる。
- 2 淡黄灰褐色（砂質）土：淡灰色土に黄褐色土粒が多く混じる。
- 3 淡灰褐色（砂質）土：灰色土に黄褐色土粒と暗灰色土粒が少量混じる。
- 4 暗灰色（シルト質）土：暗灰色土に、2~5 cmの黄白色シルト粒や黄褐色シルト粒が少量混じり、鉄分粒が少量含まれる。
- 5 濃灰色土：暗灰色土に炭化物が多く混じり、焼土粒が少量含まれる。
- 6 濃灰色土：暗灰色土に青灰色砂粒が少量混じり、鉄分粒が少量含まれる。
- 7 暗青灰色土
- 1 SKk 39501 埋土。
- 2~6 SKk 39502 埋土。

図 21 SKk 39501・SKk 39502



- 1 淡灰褐色（砂質土）土：灰色土に褐色土粒が少量混じる。
- 2 黄褐色（砂質）土
- 3 濃灰色土：暗灰色土に炭化物と焼土粒が少量含まれる。
- 4 暗灰褐色土：暗灰色土に、1~5 cmの黄白色シルト粒や黄褐色シルト粒が少量混じる。
- 5 暗灰褐色土：暗灰色土に、1~5 cmの黄白色シルト粒が少量混じり、鉄分粒が少量含まれる。
- 6 暗灰褐色（シルト質）土：暗灰色土に、黄褐色土粒や黄色砂が少量混じる。
- 7 淡黄褐色（シルト質）土：黄褐色土に鉄分粒が多く含まれる。
- 8 濃灰色（シルト質）土：暗灰色土に青灰色シルト粒が少量混じる。
- 9 炭化物（シルト質）土：5 mm以下の炭化物に暗灰色土粒が少量混じり、植物腐敗物が少量含まれる。
- 10 炭化物（砂質）土：5 mm以下の炭化物に暗灰色土粒や青灰色砂が多く混じる。
- 11 青灰色粗砂層
- 12 青灰色（シルト質）土：青灰色土に黄褐色土粒や灰褐色土粒が混じる。
- 13 青灰色（シルト質）土：遺構検出面

図 22 SEK 38001

第II章 第1次調査

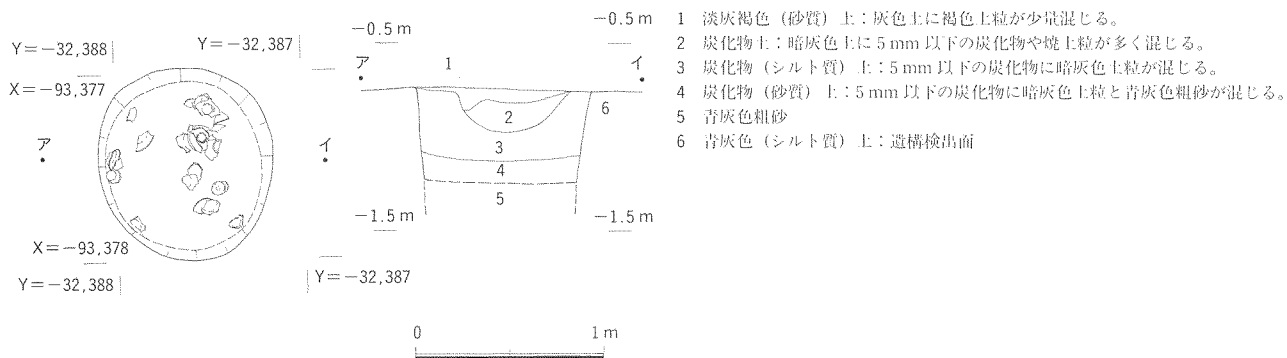


図 23 SEJ 38501

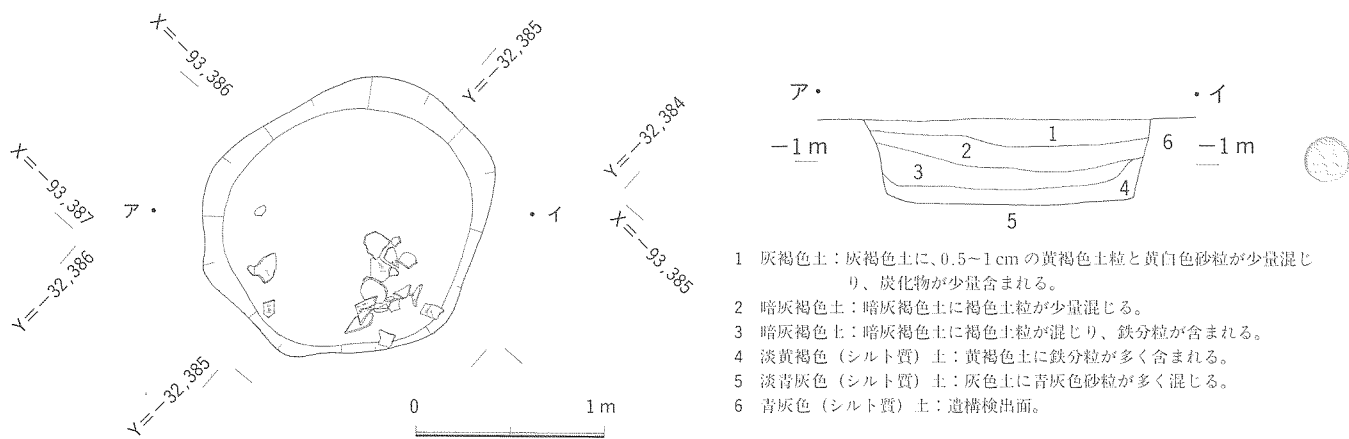


図 24 SKK 38501



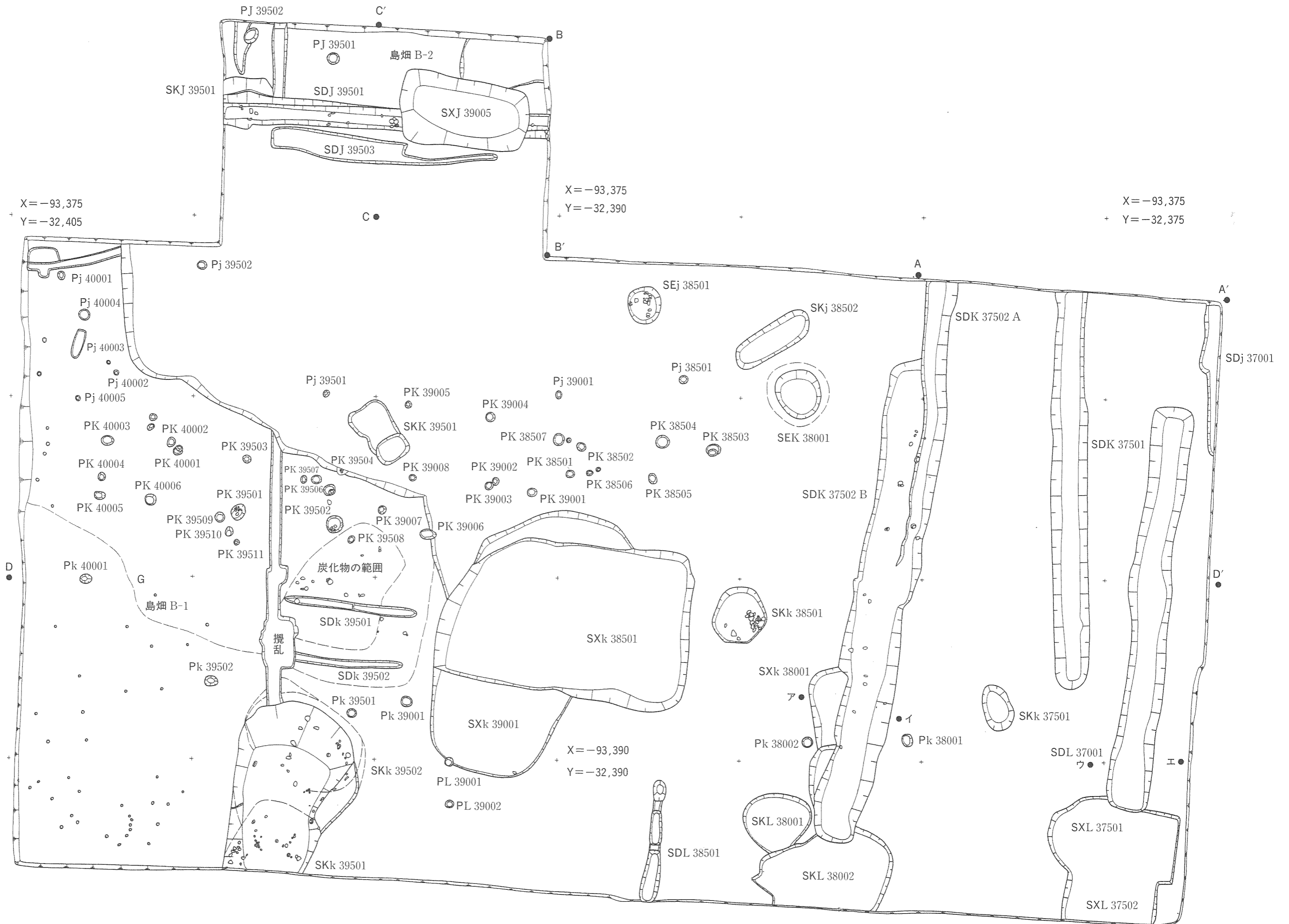


図 25 B区遺構図 (1:100)

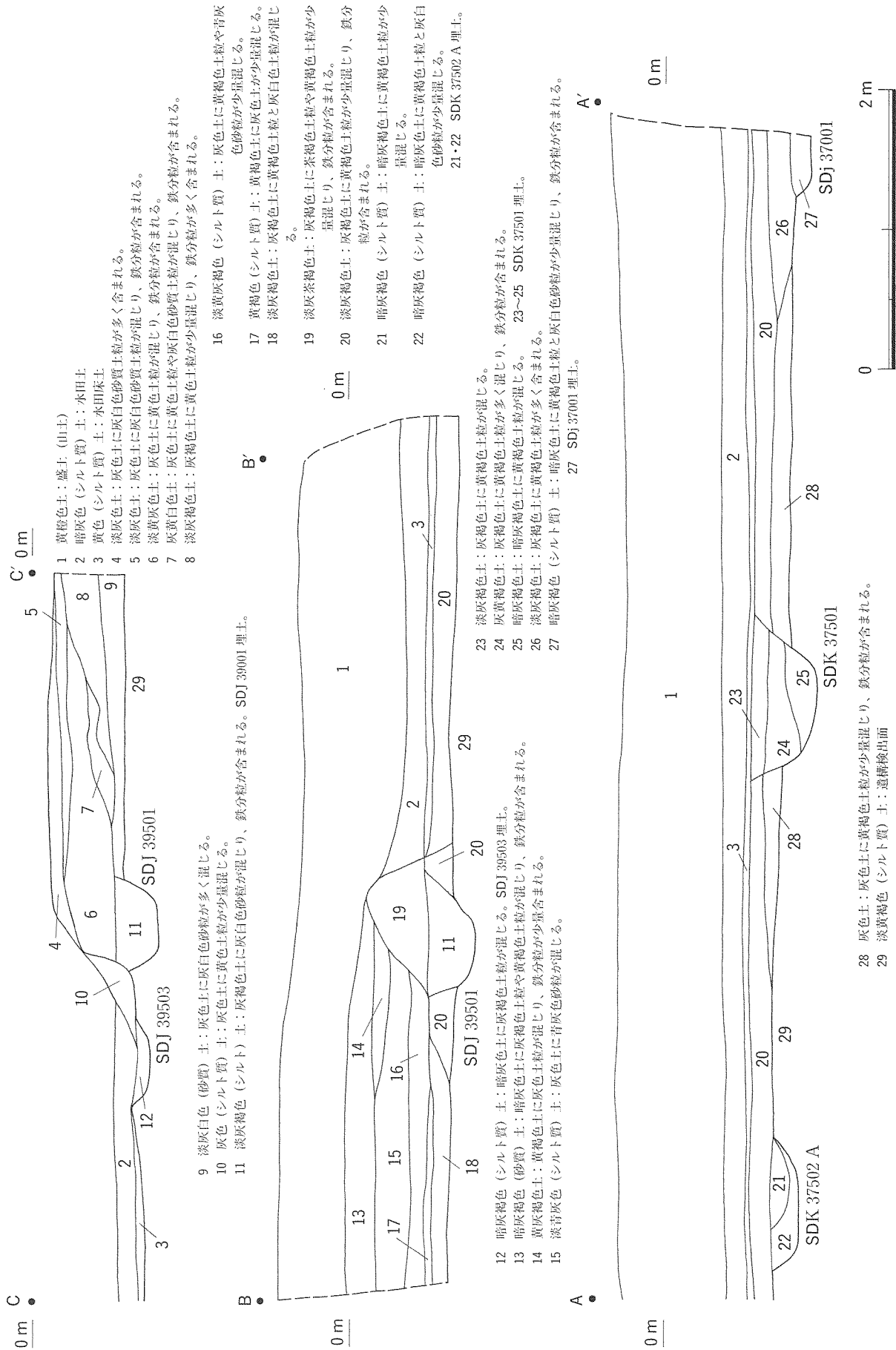


図 26 B 区 (A-A'・B-B'・C-C') 土層断面図





長軸方向は、N-85° -W を測る。

SXk39001：長辺約 7.7 m、短辺約 4.0 m、深さ約 15 cm の長方形の凹み。長軸方向は、N-22° -E を測る。

#### (5) B 区の遺物

炭化物付近：尾張系山茶碗・小碗・小皿、白磁碗、加工円盤などが出土している。小碗が他に比べると多く出土している。1～5 は、炭化物の広がり端あたりと上位の炭化物層中に位置するものである。1～3 は碗Aで、高台は比較的丁寧な作りである。3の高台には砂粒痕がみられる。4の小碗は、緻密な胎土で高台は逆三角形を呈し、靱殻痕などは認められない。口径は約 11 cm ある。5～13 は炭化物中からの出土であるが、炭化物層は比較的薄いため、炭化物の下層から出土しているものも含まれる。5～10 は碗A、11・12 は小碗である。13の白磁碗は、高台が台形を呈し、高台部は無釉である。14～17・19 は碗A、18・20 は小皿A、21 は常滑窯の短頸壺の口縁部、22 は鍋A、口縁端部を短く折っている。加工円盤 (23・24) は山茶碗の高台部を利用している。14・15・19・20・22～24 は、炭化物の上位から出土している。番号を付して取り上げた一群とは、小皿があることから時期差が考えられるが、山茶碗の型式からは違いが認められない。

SKk39501：山茶碗、小皿、壺、常滑製品、土師器などが出土している。25～34 は番号を付して取り上げたもの、35 は下位から出土し、他は埋土掘削中の出土である。碗は碗A、小皿は小皿Aである。33・34・38 は常滑製品である。33 と 34 は胎土や焼成が似ており、同一製品の可能性がある。39 は土師器皿の底部と思われるもので中央に小孔があげられている。

SKk39502：遺構の中では出土遺物が最も多い。尾張系山茶碗・小碗・小皿、伊勢型鍋などが出土している。碗A (40～54、63～68) は、高台が三角を呈するもの、低くつぶれたもの、体部の立ち上がりに丸みのあるもの、やや直線的なものなどバリエーションに富んでいる。小皿 (55～59、70) は小皿Aであるが、59 は底径が大きくなり、やや新しいものであろう。63～72 は下層からの出土で、山茶碗の形態には比較的まとまりがあり、また、小碗 (69) を含む。鍋A (61・62) は、口縁部が2種類出土している。62 は口縁端部を肥厚させたもので、61 は短く折り返している。62 は下層から出土している。60 は甕と思われる。加工円盤 (71・72) は山茶碗の高台部を加工している。

SEj38501：主に尾張系山茶碗が出土している。図化したのは、山茶碗が 16 点、小皿が 2 点、土師器皿が 2 点などである。碗A (73～86、91・92) は、底部の厚いものや、体部の立ち上がりに丸みのあるもの、やや直線的なものなどある。口径は 16 cm 前後、器高は 5 cm 前後であるが、79 はやや口径が大きく、器高が高い。87・88 は小皿Aである。土師器皿 (89・90) は、橙～赤褐色を呈し、ロクロ成形で口縁部がほぼ直角に立ち上がり、底部はやや突出気味である。その他、小皿の底部を利用した加工円盤 (93)、白磁碗片などが出土している。

SKk38501：渥美産の甕(壺) (94) が出土している。底部から下胴部にかけて復元でき、押印が一行残っている。その他、山茶碗、小皿、羽釜、土師器などの小片が出土している。

SEK38001：遺物の量は少ない。灰釉陶器の皿 (95)、碗A (96・97)、白磁玉縁碗片が出土している。

SKL38001：尾張系山茶碗片が出土している。

SDJ39501：埋土上層からは、須恵器片、土師器片、山茶碗（106～109）、天目茶碗底部（110）などが出土している。108 の山茶碗は渥美窯の製品で濃い灰色を呈し、砂粒を多く含む。他は尾張系山茶碗である。埋土中～下層からは、尾張系山茶碗（98～102）・小皿（103）、壺（104・105）、土師器片などが出土している。

SDJ39503：土師器、山茶碗、施釉陶器片が出土している。

SDK37502：山茶碗（111～119）・小皿（120～124）・鉢（125）、土師器皿（126）などが出土している。碗は碗A、小皿は小皿A、土師器皿はロクロ成形で内側の口縁付近に煤が付着している。

PJ39501：尾張系山茶碗と土師器の小片が出土している。

PJ39503：土師器皿、尾張系山茶碗片が出土している。

PK39501：山茶碗（127）、壺（129）、渥美産と思われる甕(壺)片（128）が出土している。

PK39502：山茶碗（130～132）、渥美産と思われる甕(壺)片（133）などが出土している。甕(壺)片は、PK39501、SKk38501 と同じような押印が施され、また、胎土や焼成も類似している。

PK39504：134 の山茶碗は、均質な胎土で、体部は薄く東濃系と思われる。

PK39006：尾張系山茶碗片などが出土している

PK39007：土師器、焼き締め陶器片が出土している。

Pk39001：土師器鍋、尾張系山茶碗片が出土している。

Pk39501：尾張系山茶碗片が出土している。

PL39001：土師器の小片が出土している。

PK40004：尾張系山茶碗、施釉陶器片が出土している。

SDK37501：山茶碗、緑釉小皿、土師器鍋、常滑窯甕・壺、土鍾（137）などが出土している。土鍾は、直径 4.7 cm、長さは 7 cm と比較的大形のものである。山茶碗は、尾張系と東濃系がある。

SDL37001：尾張系山茶碗、施釉陶器片が出土している。

SXL37501：尾張系山茶碗（135）が出土している。

SXL37502：尾張系山茶碗の小片と東濃系山茶碗（136）が出土している。

SXJ39005：須恵器、土師器、山茶碗、小碗、常滑窯甕・壺などが出土している。138 の山茶碗は器壁がかなり厚く、高台はひしゃげて低くなっている。141 の小皿は、東濃系である。小碗は 2 点あり、140 は口径・台径とも小さく、器高が深い形状をしている。

SXk38501：土師器、山茶碗、小皿 A（142）などが出土している。143 は碗 E である。

SXk39001：須恵器、灰釉陶器、土師器、山茶碗、施釉陶器、常滑窯甕(壺)片などが出土している。

島畑 B-1：島畑を形成している土の中からは、須恵器、灰釉陶器、尾張系・東濃系山茶碗、施釉陶器、土師器、焼き締め陶器片などが出土している。図化できた遺物は、柱穴の広がっている面のすぐ上層や島畑の縁（遺構検出面付近）からの出土である。144 は須恵器杯の高台で台形を呈し底部中央は低くなっている。145 は灰釉皿、高台は三日月形である。146 は青磁碗、見込みに押印があり、底部外面は無釉である。147 は常滑産壺(甕)片、148 は無釉の壺底部である。加工円盤は、149 が土師器、150～152 が山茶碗の高台、153 が山茶碗の底部、154 は染付碗の体部を加工している。

島畑 B-2：島畑を形成している土からは、須恵器、灰釉陶器、尾張系・東濃系山茶碗、施釉陶器、土師

器、焼き締め陶器片が出土している。155 は灰釉碗、156 は灰釉皿とともに三日月高台である。加工円盤は、157 が山茶碗の体部、158・159 が高台を加工している。

水田・床土：尾張系・東濃系山茶碗、中世～近世施釉陶器、土師器皿、伊勢型鍋、焼き締め陶器、青磁・白磁碗、陶丸、土錘、加工円盤、近代磁器などが出土している。164 は東濃系小皿C、165 はロクロ成形の土師器皿、172 の青磁碗は蓮弁文、173・174 は白磁玉縁碗の口縁である。加工円盤の大きさは大小あり、播鉢、常滑窯壺、山茶碗・小皿、近世陶器などを加工している。

#### (6) B区のみまとめ

発掘区西半部に、柱穴列が集中し建物跡も確認されている。東半部に、井戸や溝跡が検出され、その位置関係から、溝で区画された中世の屋敷地の様子を伺うことができる。北東方向へ軸方向が4～10度の傾きを測る柱穴列や溝が、屋敷地の区画に関連する遺構と考えられる。これら遺構の軸方向は、富田荘の土地割方位に類似した数値であり、絵図の「新家里」の北側外にも、土地割の制約があった可能性を示している。

富田荘の土地割方位に類似した数値の遺構をまとめると、次の内容になる。

##### ① N-83° -W (N-7° -E) を測る遺構

SB01：東西二間（中心間約2.65 m）、東西一間（中心間約4.65 m）、面積約24.65 m<sup>2</sup>。

SA01：SB01の北側約1.5 mの位置、最大中心間約2.6 m、最小中心間約1.2 m、平均中心間約2 m。

SA02：SB01の西側約3.8 mの位置、最大中心間約2.35 m、最小中心間約0.5 m。

SA03：SB01の北側辺西延長線上の位置、最大中心間約2.4 m、最小中心間約1.2 m。

##### ② N-82° -W (N-8° -E) を測る遺構

SA04：SA01の北側約2 mの位置、最大中心間約4.8 m、最小中心間約1.5 m、平均中心間約2.25 m。

##### ③ N-6° -E を測る遺構

SDL37001：SDK37502Aから東方へ約6.5 m離れた間隔で平行する位置、最大幅約1.35 m、最小幅約1.2 m、深さ約40 cm。

SDK37502A：SB01東辺から東方へ約13.5 m離れた位置、最大幅約90 cm、最小幅約55 cm、深さ約20 cm。

##### ④ N-86° -W を測る遺構

SDJ39501：SB01北辺から北方へ約11 m離れた位置、最大幅約90 cm、最小幅約60 cm、深さ約30 cm。

##### ⑤ N-10° -E を測る遺構

SDK37502B：SB01東辺から東方へ約12 m離れた位置、最大幅約160 cm、最小幅約130 cm、深さ約35 cm、溝（SDK37502A）と重複。

柱穴列は、建物跡の北側と西側にあることから、建物に付属する遺構の可能性もあるが、関連性を明確にできなかった。屋敷地を区画する東側と北側の溝は、建物との間隔11～13 mの位置にあり、周囲をおそらく取り囲む形態であろうと思われる。建物跡とその周囲には、炭化物や焼土粒が含まれる土層があり、

火災の可能性も想定させる。特に、建物跡の南側の土坑(SKk39502)や、井戸跡と想定した土坑(SEK38001・SEj38501)の埋土中の炭化物は、建物跡側から多量に廃棄されたような状態で発見されている。



B区全景



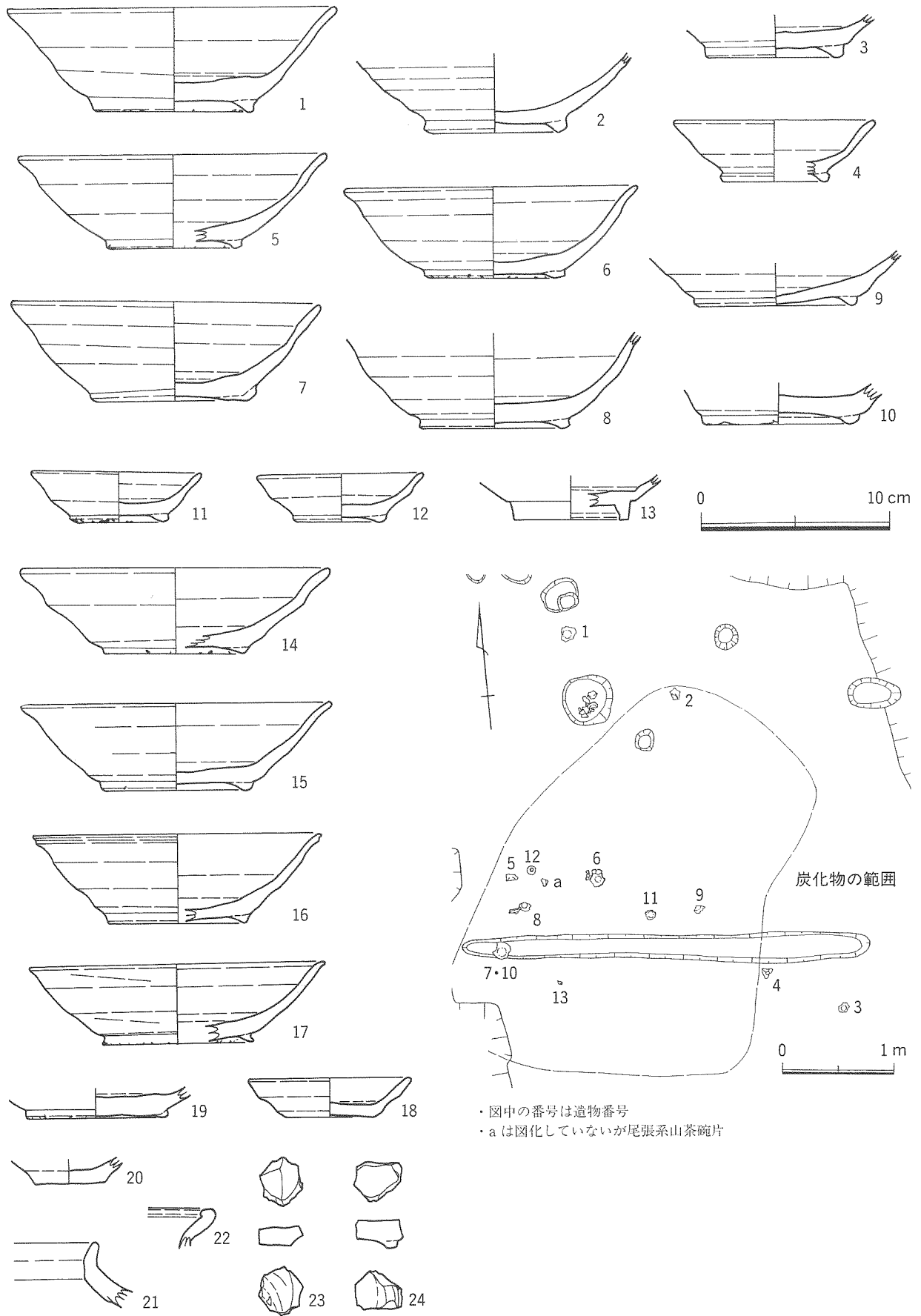
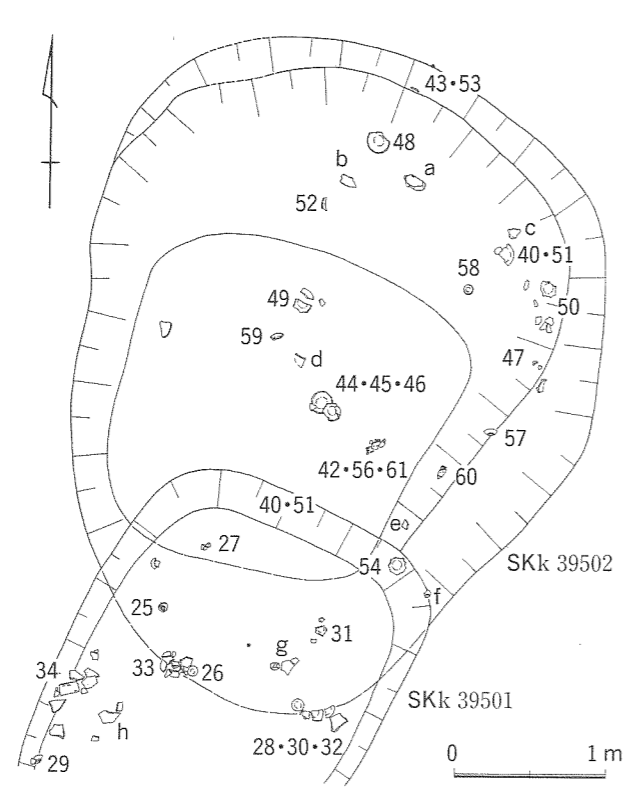
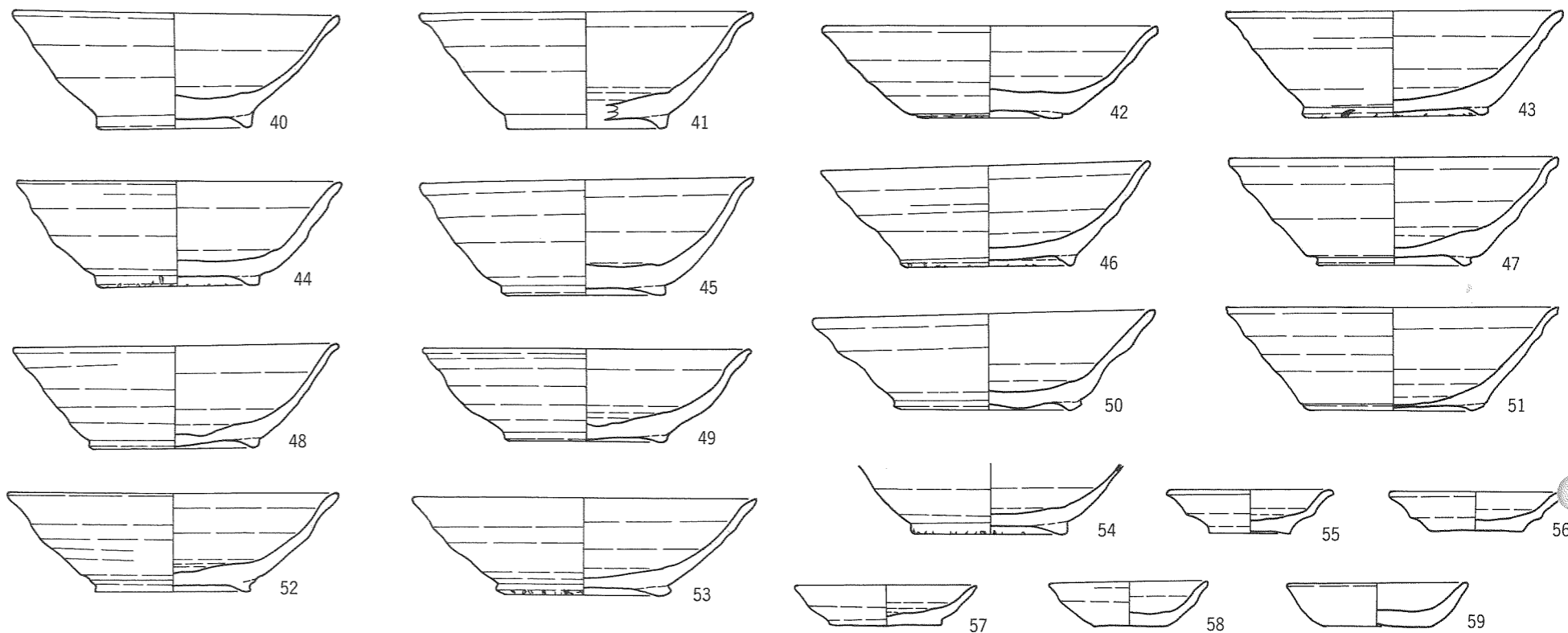


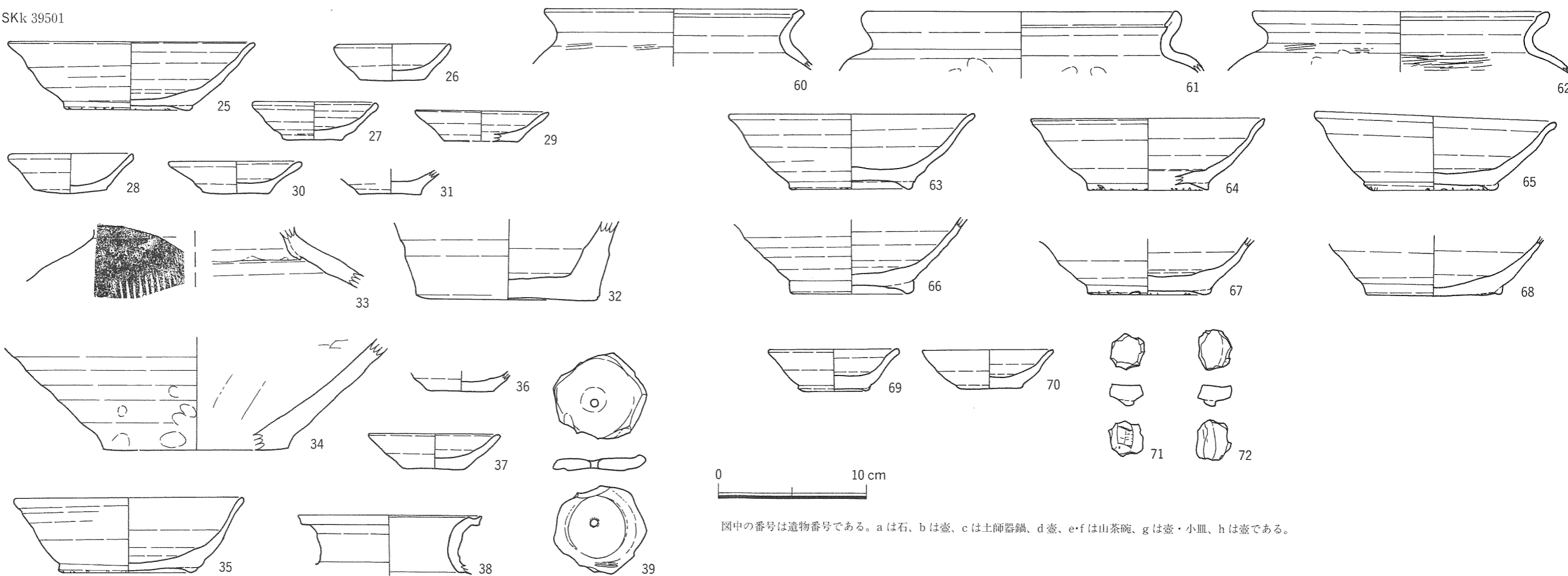
図29 B区出土遺物(1)



SKk 39502

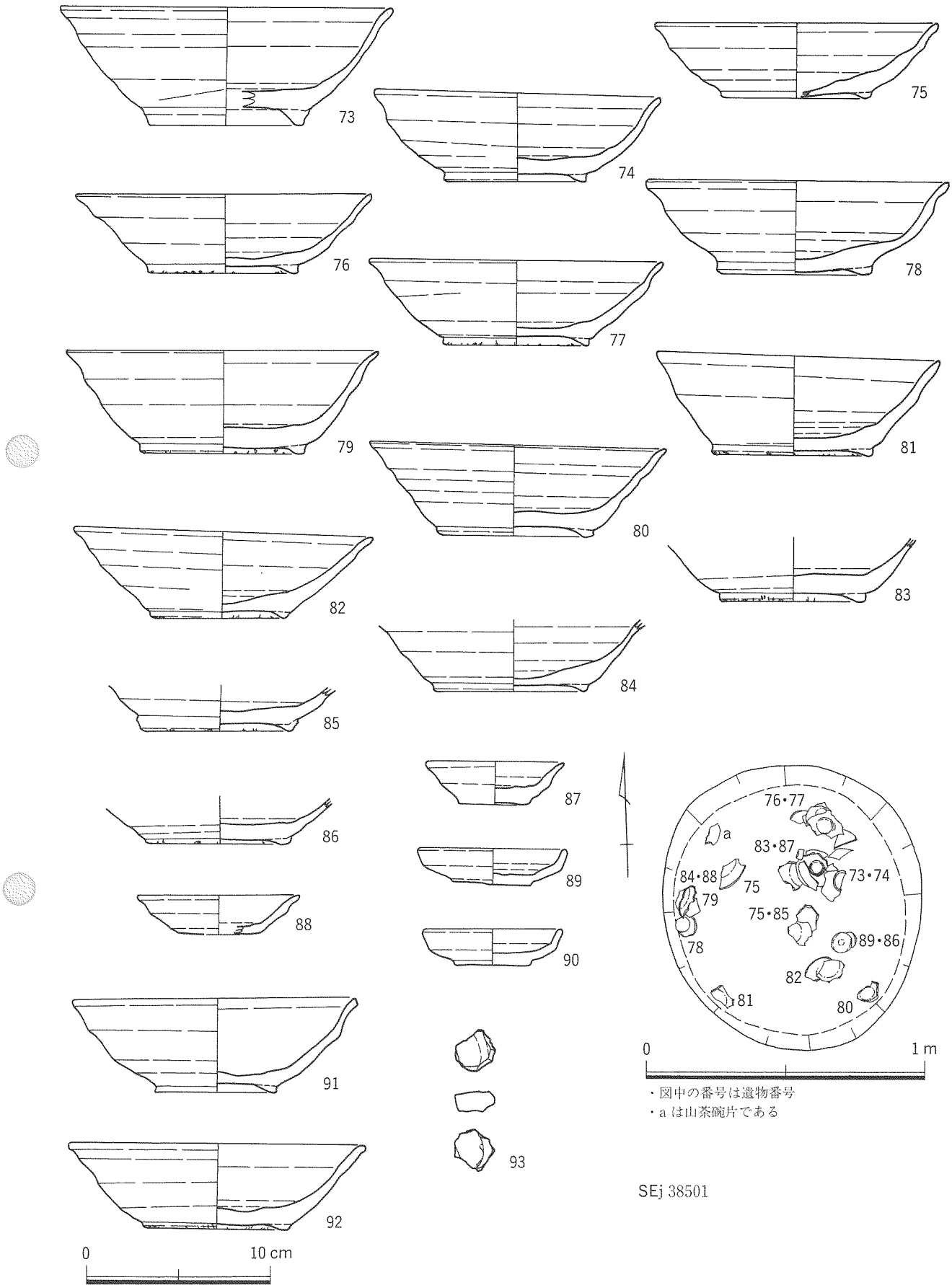


SKk 39501



図中の番号は遺物番号である。a は石、b は壺、c は土師器鍋、d 壺、e・f は山茶碗、g は壺・小皿、h は壺である。

図 30 B 区出土遺物(2)

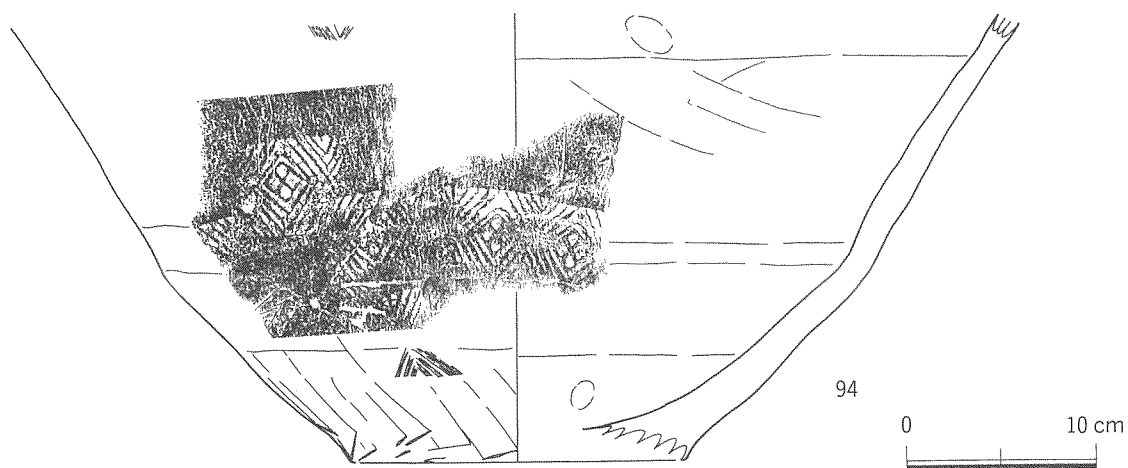


・図中の番号は遺物番号  
 ・a は山茶碗片である

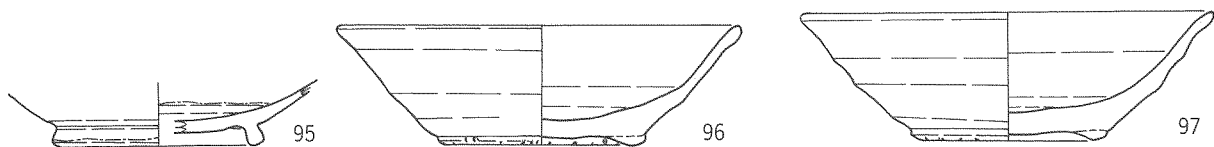
SEj 38501

図31 B区出土遺物(3)

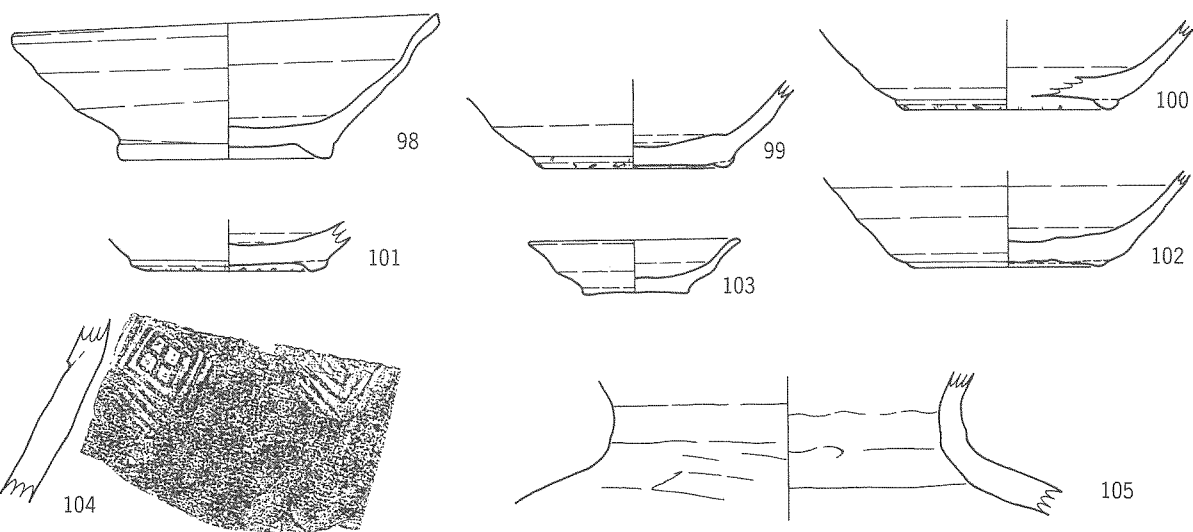
SKk 38501



SEK 38001



SDJ 39501



SDJ 39501(上)

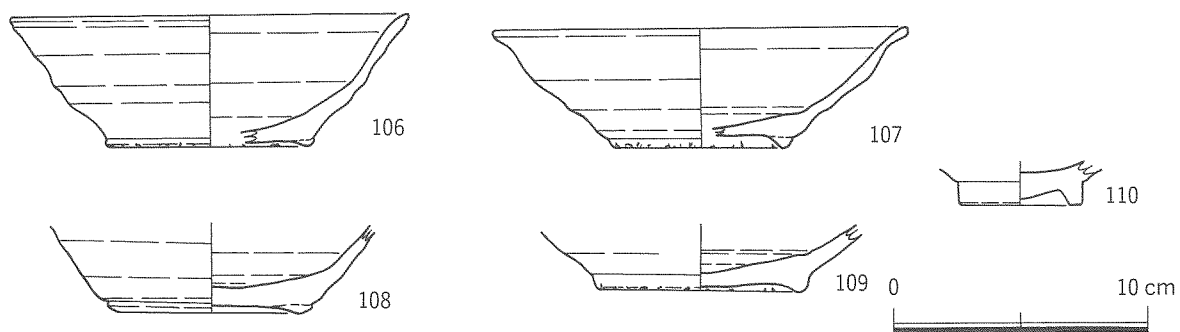
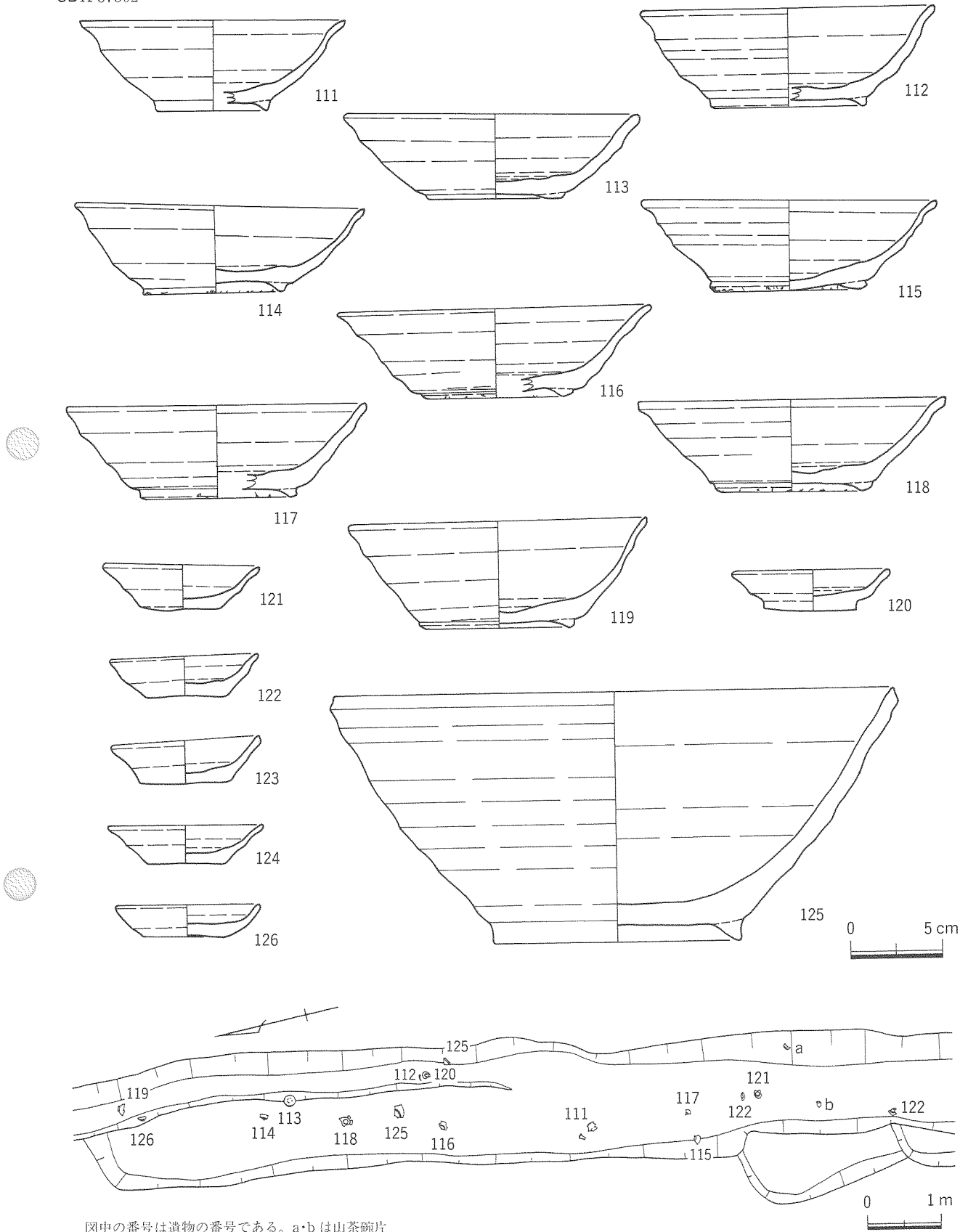


図 32 B区出土遺物(4)

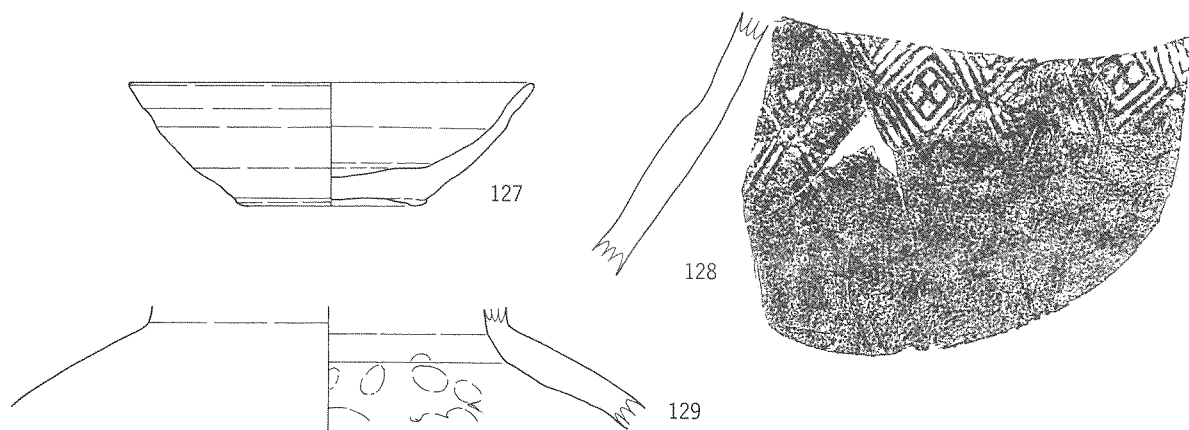
SDK 37502



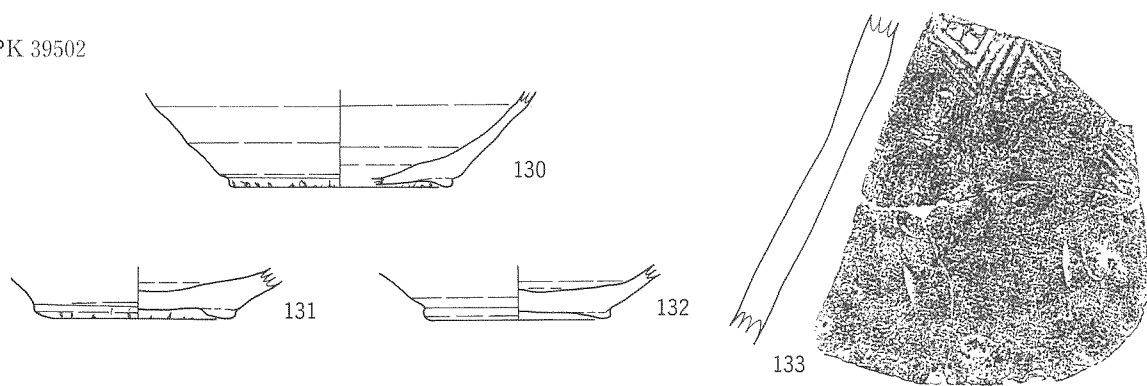
図中の番号は遺物の番号である。a・b は山茶碗片

図 33 B 区出土遺物(5)

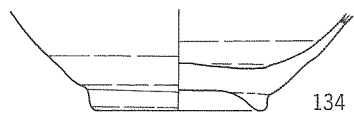
PK 39501



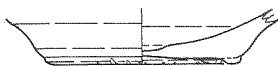
PK 39502



PK 39504



134 SXL 37501



SXL 37502



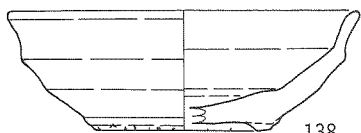
136

SDK 37501



137

SXJ 39005



138



139



140



141

SXk 38501



142



143

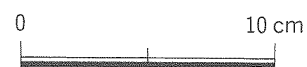
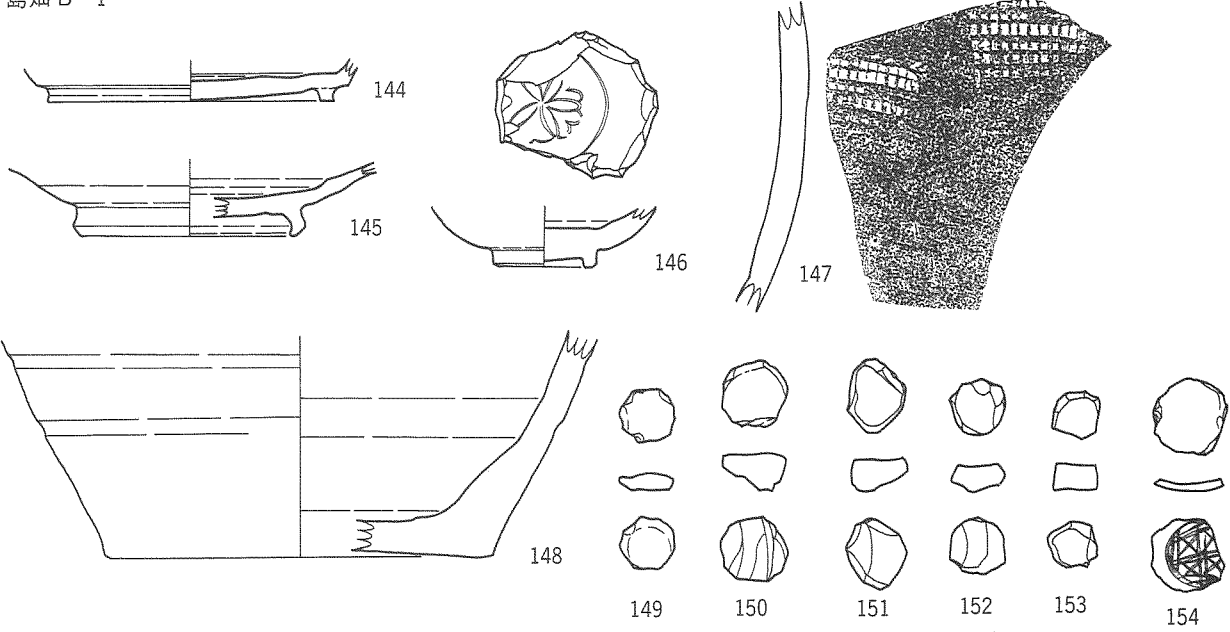
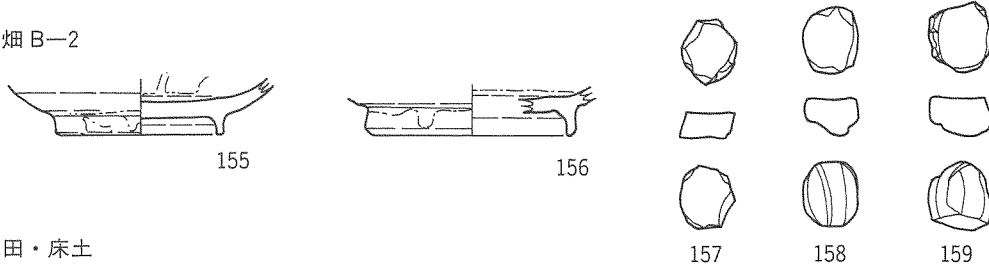


図34 B区出土遺物(6)

島畑 B-1



島畑 B-2



水田・床土

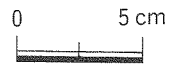
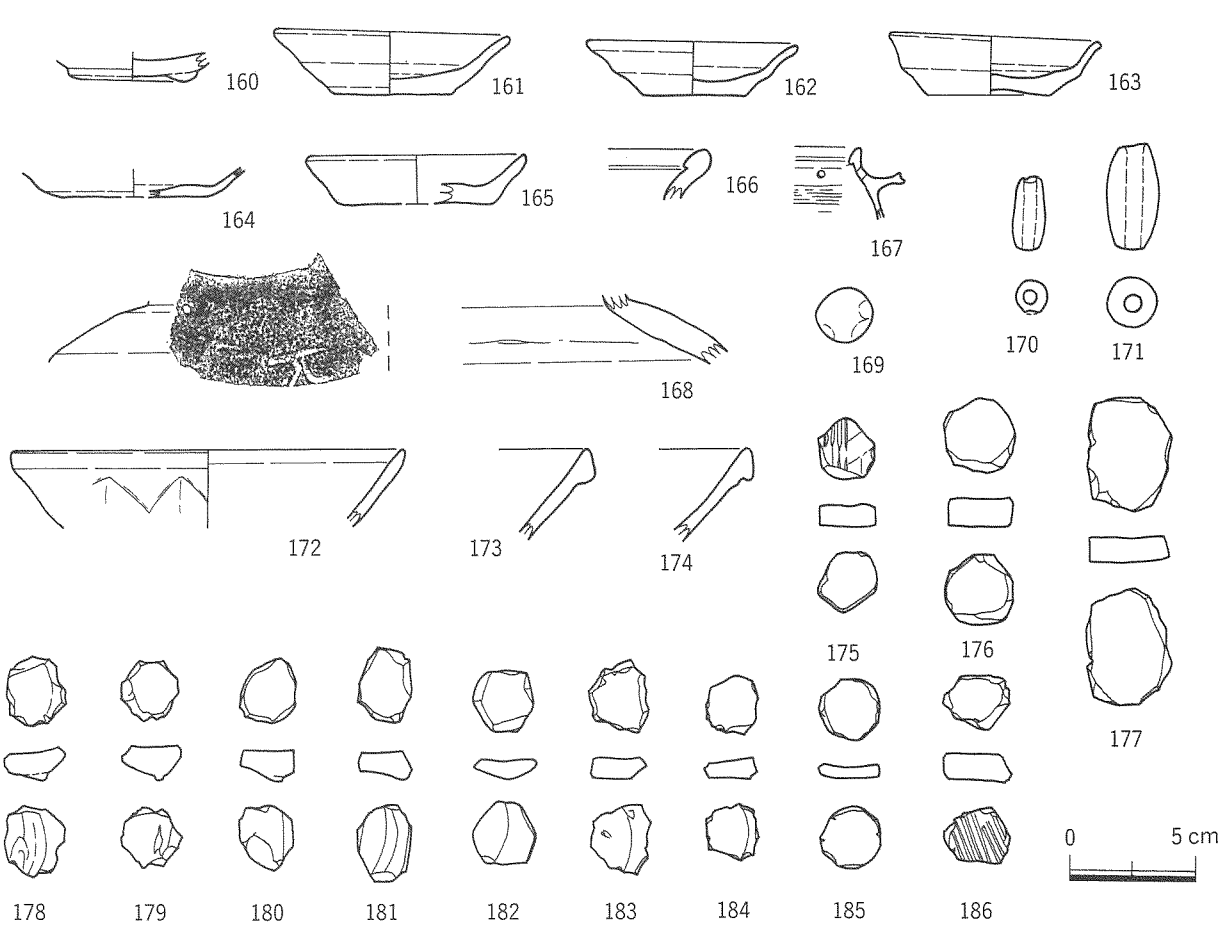


図 35 B区出土遺物(7)

## 第III章 第2次調査

発掘調査は、C区(約960 m<sup>2</sup>)、D区(約960 m<sup>2</sup>)、E区(約830 m<sup>2</sup>)、F区(約950 m<sup>2</sup>)で、平成11年5月17日から平成11年12月24日まで実施した。

約80 cmの盛土を掘り下げると、近年まで使用された水田跡が検出される。湧き水や雨水の排水のため、発掘区の周囲等に、事前に排水溝を設置してから遺構の検出を実施した。

C区では、中央から東側にかけて、島畑の痕跡を示す黄褐色土層の広がる範囲が1箇所あり、この付近で、山茶碗の出土する溝や土坑が検出された。近世・近代以降の水田化が進み、島畑も痕跡が確認された程度で、遺構の密度が薄く、遺物も少量しか出土していない。

D区では、水田の濃灰色土を20~25 cm程掘り下げて、水田床土の下の黄褐色土層面などで方形状遺構などを検出した。発掘区の南側では、幅約1.5~2 mの間で東西に続く小穴が多数検出された。地籍図を見ると、「作道」と記載されることから、小穴は、近世の畦畔(作道)の両側に打たれた杭跡列と考えられる。その北側に方形状遺構や南側に溝状の窪む遺構があり、近世の水田跡と思われる。

E区では、発掘区の西南側で柱穴など多数のピットが検出された。その北側で2条の溝が東西方向に繋がり、溝の中から13世紀代の山茶碗等が出土した。発掘区の東側では、水田跡が検出されている。

F区では、発掘区西側で南北方向に繋がる溝や、南端で東西方向に小穴が多数検出された。この付近の地籍図を見ると、悪水路や作道と記載され、それに該当する遺構と考えられる。溝の東側に、方形状遺構があり、水田跡と思われる。

遺物は、須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、小皿、常滑製品、施釉陶器、土錘などが出土している。



C区全景



## (1) C区の遺構

島畑 C-1：発掘区中央南側寄りにあり、推定検出長さ東西約 12 m、南北約 4 m の長方形の畑地部分が残存していた。水田との比高差は約 30 cm あり、南北方向に部分的な畝跡が残存していた。畝跡内の一部分で、堆肥のために敷かれた状態の藁や籾殻が確認された。畑土は、北側に淡褐色土が残存し、大部分は積み上げられた灰色土である。畑地を掘り下げると、溝跡や土坑が、黄褐色土面で検出された。

SDp40501：発掘区南東端にあり、幅は不明であるが、深さ約 10 cm、検出長さ約 6 m の溝で、南北方向に繋がる。方位は、N-7° -E を測る。

SDO41001：最大幅約 1.15 m、最小幅約 45 cm、深さ約 10 cm、検出長さ約 3 m の溝で、北方向に幅が狭くなる。方位は、N-0° -E を測る。

SDO42001：最大幅約 60 cm、深さ約 15 cm、検出長さ約 7 m の溝で、発掘区北側外に続く。方位は、ほぼ N-0° -E を測る。

SDo42001：島畑 C-1 を掘り下げて検出された、幅約 60~70 cm、深さ約 10 cm の溝で、緩やかな弧状を描き南東方向に続く。

SDo42501：幅約 30~40 cm、深さ約 15 cm、検出長さ約 5.5 m の溝で、方位は N-85° -W を測る。

SDO43001：幅約 30~40 cm、深さ約 5 cm、検出長さ約 2 m の溝で、SDO43002 と交差する位置関係にあり、方位は、N-6° -W を測る。

SDO43002：発掘区の中央北端にあり、幅は不明であるが、深さ約 8 cm、検出長さ約 10 m の溝で、方位は、N-97° -W を測る。

SKP42501：島畑 C-1 を掘り下げて、標高 -80 cm 程の黄褐色土面で検出された。長辺約 2.2 m、短辺約 1.7 m、深さ約 25 cm の楕円形土坑で、西側が SXP42501 と重複する位置関係にある。方位は、N-0° -E を測る。

SXo41501：長辺約 3.3 m、短辺約 2.3 m、深さ約 20 cm の長方形土坑で、方位は、N-0° -E を測る。

SXP42501：長辺約 4.2 m、短辺約 2 m、深さ約 10 cm の長方形土坑で、N-0° -E を測る。

SXO43001：推定の一辺が約 2.8 m、深さ約 30 cm の土坑で、N-0° -E を測る。

SXP43501：長辺約 4.7 m、短辺約 2.7 m、深さ約 10 cm の長方形土坑で、N-0° -E を測る。

SXP44001：長辺約 2.2 m、短辺約 2.4 m、深さ約 15 cm の方形土坑で、N-0° -E を測る

SXo45001：長辺約 4.5 m、短辺約 2 m、深さ約 10 cm の方形土坑で、N-80° -W を測る。

## (2) C区の遺物

遺物の量はきわめて少ない。現代水田の床土下から、須恵器、灰釉陶器、土師器、山茶碗、中世～近世の施釉陶器などが出土している。

SDo42001：尾張系山茶碗が出土している。1 は碗Aの底部、厚手である。

SDO43002：山茶碗の小片が出土している。

SDo42501：尾張系山茶碗の小片が出土している。

SDp45001：須恵器片が出土している。

SDp40501：東濃系山茶碗片などが出土している。

SKo45001：尾張系山茶碗と施釉陶器が出土している。

SXP44001：尾張系山茶碗片が出土している。

SXP43501：土師器、灰釉陶器、山茶碗、施釉陶器などが出土している。

SXo45001：尾張系山茶碗、常滑窯甕、施釉陶器などが出土している。

SXo41501：尾張系山茶碗の小片が出土している。

Pn41501：東濃系山茶碗片が出土している。

島畑 C-1：島畑を形成している層からは、須恵器、土師器、山茶碗、中世～近世の施釉陶器などの小片が出土している。4・5は加工円盤である。

水田・床土：山茶碗（2）、小皿A（3）、近世陶器（7・8）、陶丸（6）が出土している。

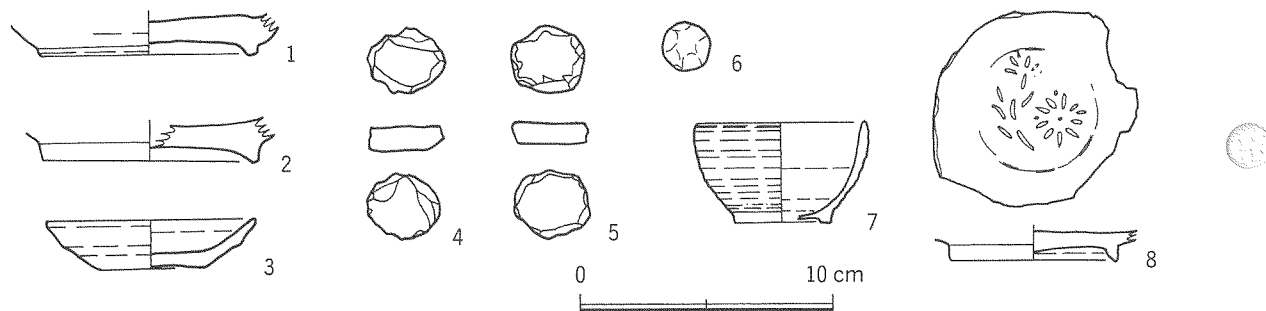


図 36 C区出土遺物

### (3) C区のみとめ

島畑が残存する個所が検出されているが、ほぼ全域が近代や現代の水田化により削平され、遺構が少ない状態となっている。水田に関連すると推測される2条の溝が検出されている。発掘区南東端で検出された溝（SDp40501）と、発掘区の中央北端で検出された溝（SDO43002）で、排水溝を事前に掘削したために幅が不明となっているが、特に、SDp40501は、その方位はN-7°-Eを測り、14世紀代の山茶碗片が出土し、条里地割に関連する遺構の可能性が想定される。また、島畑 C-1 の下で検出した溝（SDo42001）は、12世紀後半頃の山茶碗が出土している。この溝の検出により、溝の検出面がほぼ自然堤防地形の残存部と思われる、この面の上に島畑 C-1 が積み上げられて形成されていることを明確にできた。この溝の西側で検出された方形状土坑も、島畑形状の形成時に上部が破壊されたと思われる、この周囲付近には中世の遺構があったと考えられる。

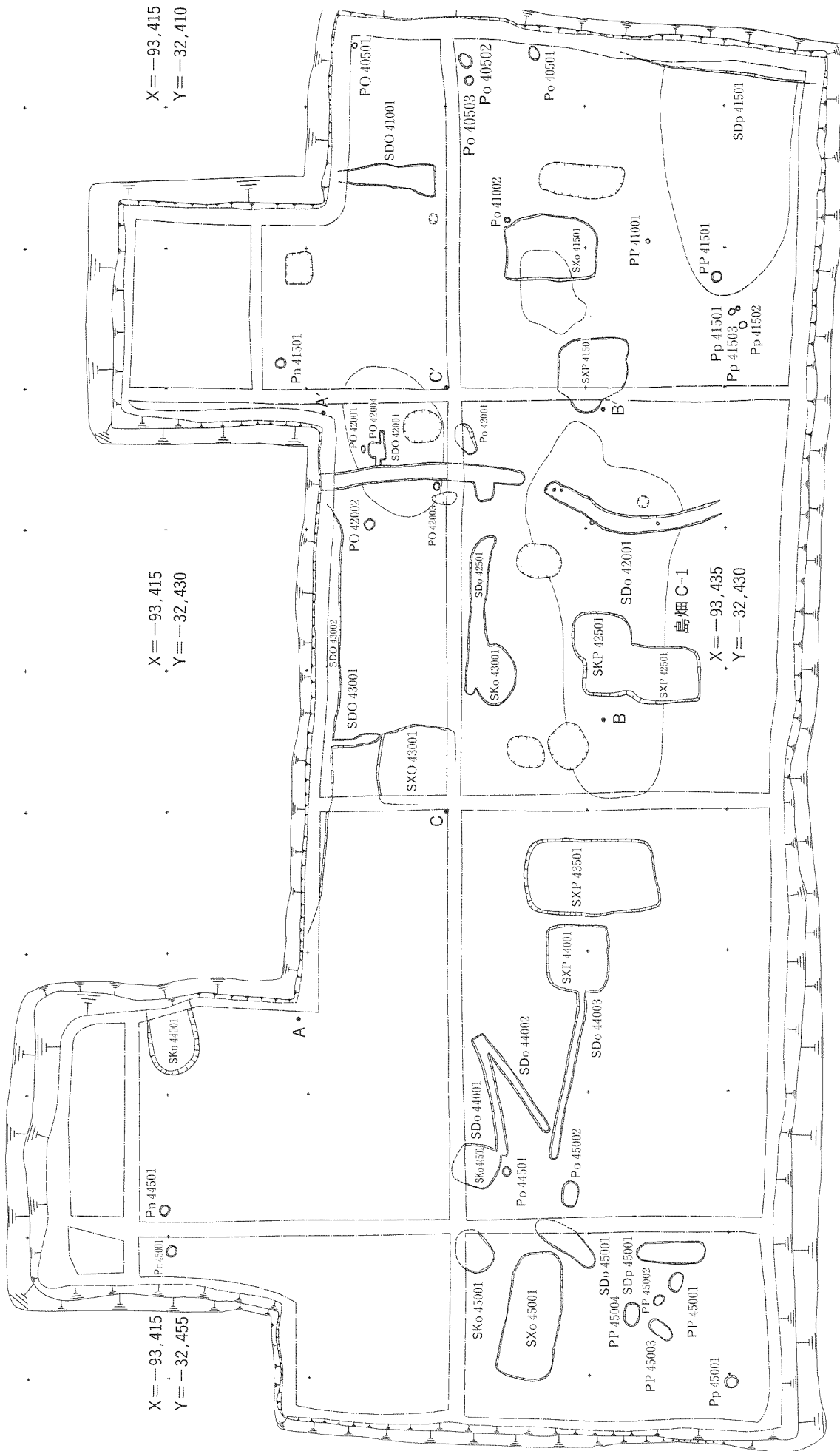


図 37 C 区遺構図 (1 : 200)

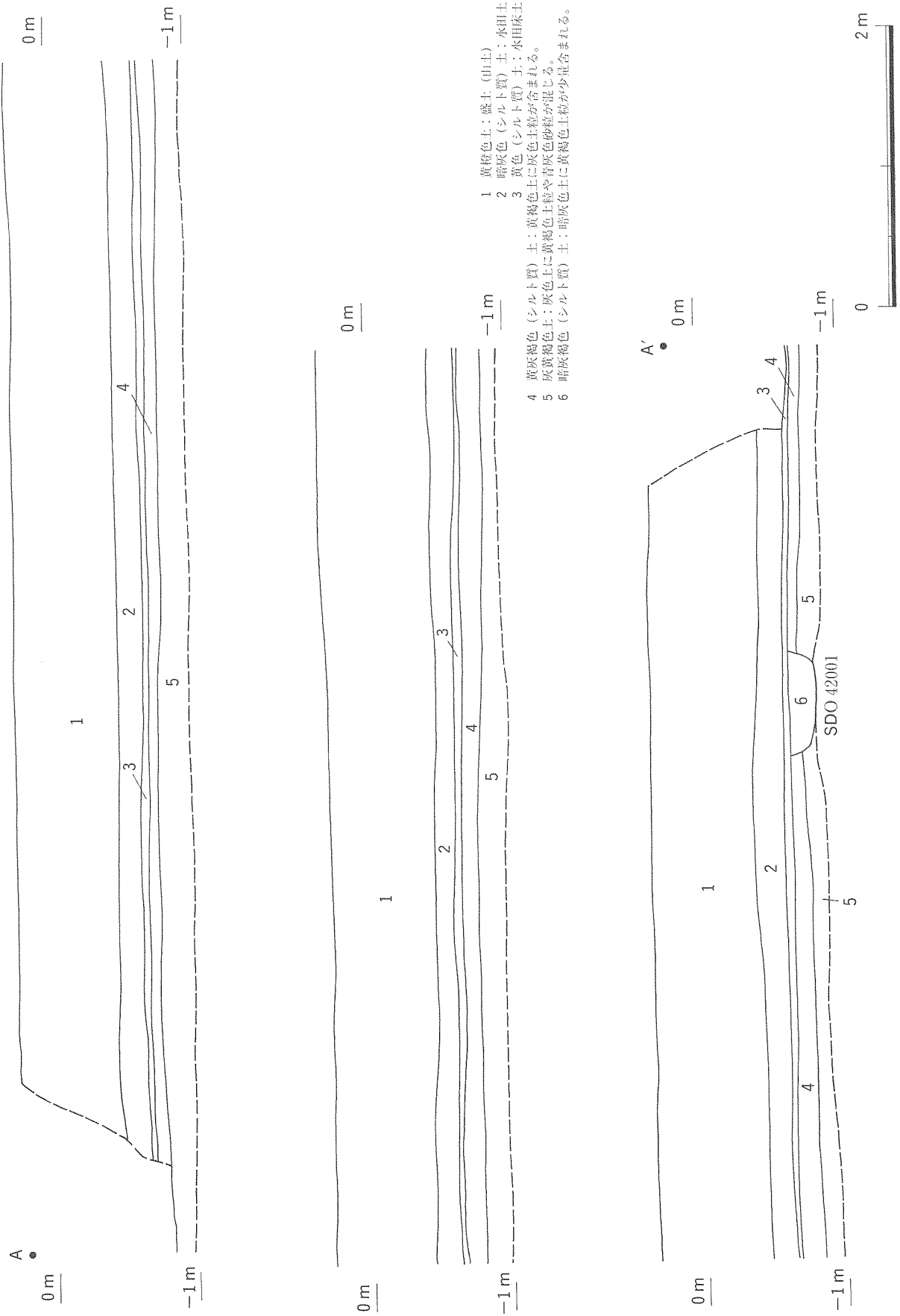


図 38 C区 (A-A') 土層断面図



(4) D区の遺構

SDs41001：幅約50～65 cm、深さ約10 cmの溝で、発掘区東側外へ続く。SXs41502の南端で重複するが、その前後関係は明確にできなかった。方位は、N-86° -Wを測る。

SDR41501：幅約75～80 cm、深さ約10 cmの溝で、発掘区北側外へ続く。方位は、N-2° -Wを測る。

SDT42501：幅約3.5～4 m、深さ約5 cm、検出長さ約41 mの溝状の窪みで、発掘区西側外へ続く。東側付近には、方形土坑があり、溝状の窪み形状が不明瞭となっている。方位は、N-86° -Wを測り、水田として使用された区画と考えられる。北側辺は、幅約1.5～2 mの間で東西に続く小穴が多数検出された作道付近となっている。南側辺は、淡黄褐色土層面が畦状になっている。発掘区外の南側には、現在の水路が東西方向にあり、この水路付近が新家里との境になると推測される。

SDs43501：幅が東側で狭く約30 cm、西側の幅約55 cm、深さ約5 cmの溝。検出長さは約15 mである。方位は、N-84° -Wを測る。作道の北側沿いに位置する。

SXs43002：幅約80～100 cm、深さ約10 cm。SXs43001の南側を掘り下げた段階で、SKs43001と重複する位置関係で検出したが、これらの前後関係は明確にできなかった。

SKs42003：長辺約1.7 m、短辺約1.4 m、深さ約30 cmの土坑。SXs42001を掘り下げて、北端がSKs42004と重複する位置関係で検出された。

SKs42004：長辺約2.5 m、短辺約2 m、深さ約10 cmの楕円形土坑。北西端が、SKs42005と重複する位置関係で検出された。

SKs42005：長辺約1.8 m、短辺約1.4 m、深さ約10 cmの楕円形土坑。

SKs42501：長辺約1.2 m、短辺約70 cm、深さ約10 cmの長方形土坑で、長軸方向は、N-10° -Eを測る。

SKs42502：長辺約55 cm、短辺約45 cm、深さ約10 cmの方形土坑で、長軸方向は、N-85° -Wを測る。

SKs43001：長辺約1 m、深さ約15 cmの方形土坑で、北側半部は、SXs43002と重複する位置関係にあり、その前後関係は不明である。

SKs44001：長辺約90 cm、短辺約45 cm、深さ約10 cmの方形土坑で、長軸方向は、N-6° -Eを測る。SDs43501と重複する位置関係にあり、その前後関係は不明である。

SKR44001：長辺約1.3 m、深さ約10 cmの楕円形土坑。

SXS41001：南北辺約2.8 m、深さ約10 cmの方形状土坑。SXs41502の埋土を掘り下げて、標高-85 cm程の青灰色土面で検出された。南北軸方位は、N-2° -Wを測る。

SXT41001：南北辺約4.3 m、深さ約5 cm方形状土坑。東西辺は、埋土の区別が不明確な異なる遺構との重複関係があり、明らかにできていない。埋土は、SDT42501の埋土に類似し、この付近までSDT42501が広がっていた可能性もある。

SXR41501：東西辺約1.2 m、深さ約5 cm方形状土坑。SXs41502を掘り下げて検出し、南北辺の検出長さ約1 mで、全体形状は不明瞭である。

SXT41501：東西辺約4.6 m、南北辺約2.9 m、深さ約20 cm方形状土坑。南北軸方位は、N-3° -Eを測る。

SXT41502：東西辺約2.6 m、深さ約10 cm方形状土坑。東側は、SXT41001と重複し形状が不明瞭である。

SXS42501：畦畔状の面の北側で、東西辺約2 m、南北辺約3.4 m、深さ約10 cmの方形状土坑が検出されている。埋土は、灰褐色土に灰色砂が多く混じる。南北軸方向は、 $N-0^{\circ}-E$ を測る。

SXR41501：東西辺約5.5 m、深さ約5 cm、南北軸方向は、 $N-0^{\circ}-E$ を測る。西側に、幅30 cm程の帯状の淡黄褐色土面が南北方向にあり、畦の痕跡と考えられる。東側にも同様の痕跡が南北方向に残存していた。南西側にも、幅60 cm程の帯状の淡黄褐色土面が東西方向に1 m程残存して、東側辺に繋がる痕跡が確認された。これら畦の痕跡に区画された水田跡と考えられる。埋土は、灰褐色土に淡黄褐色土が混じる状態のものである。底面は、標高-80 cm前後で、灰色土の混じりが少ない黄褐色土となっていた。この中央付近で、埋土が灰色土のSDR41501が、水田の埋土面で南北方向に検出されている。

SXs41502：東西辺約4.3 m、深さ約5 cmの水田跡で、南北軸方向は、 $N-2^{\circ}-E$ を測る。南側辺は、作道の北側沿いにあり、西側に、SXR41501の西側から繋がる畦の痕跡が約5.5 m残存する。この痕跡が途切れ、そのすぐ東側に作道まで繋がる幅30 cm程の畦の痕跡が約6 m確認された。SXR41501南側畦までの南北辺は、約11.5 mを測る。西側畦が途切れて、畦の位置が不整合な関係にあるため、途切れる付近から東西方向への畦があった可能性も想定される。南側半部の底面が北側半部の底面より5 cm程低くなっていることから、南北辺6 m程の2区画(A・B)の可能性も考えられるが、畦の痕跡は確認できなかった。埋土は、灰褐色土に灰色土が混じる状態のものである。この埋土上面で、作道北側沿いのSDs41001の繋がりが途切れた。

また、この区画の東側も、同様の灰褐色土が広がり、SXs41501の東側に屈曲する約5 cmの段差が検出されている。この段差は、SXs41501の東側から検出長さ約1.5 m分が、SDs41001の北側辺と約1.2 mの間隔でほぼ平行し、検出長さ約1 m分が北東方向へ屈曲する部分がある。さらに東方向へ、検出長さ約2 m分が、SDs41001の北側辺と約2.2 mの間隔でほぼ平行している。この段差は、SXs41501との前後関係は不明であるが、SXs41502の東側付近まで繋がっていたと仮定すると、南側辺が屈曲部までの推定長4 m程の区画(C)と、さらに屈曲部から東側への別区画(D)の存在を想定させることになる。

SXs42001：東西辺約3.8 m、深さ約10 cmの水田跡で、南北軸方向は、 $N-2^{\circ}-E$ を測る。SXs41502の西側に位置し、北側辺は、幅60 cm程の帯状の淡黄褐色土面があり、南北辺約11.5 mの区画と考えられる。暗灰色土の埋土を掘り下げて、南半部でSKs42003・SKs42004・SKs42005が検出されている。東側辺の畦の不整合があることから、南北辺6 m程の2区画の可能性も考えられる。西側には、作道から北方向へ直交する、幅3.5 m程の畦畔状の淡黄褐色土面が検出されている。この畦畔状の面は、南側で約3.8 m、北側で約3.2 mを測る。

SXS43001：検出した東西辺が約5.2 m、深さ約5 cmの水田跡で、南北軸方向は、 $N-5^{\circ}-E$ を測る。西側は、SXS43501により切られている。東側辺は、畦畔状の淡黄褐色土面で、SDs43001の北側辺にほぼ接して、発掘区北端まで約9 mが検出され、発掘区外へ続いている。東側では、南東隅から北へ約2.5 mで、幅30 cm程淡黄褐色土面が西側への張り出した部分があり、東西方向の畦の痕跡とも考えられる。この痕跡の想定延長線上に、SXS43501の南側辺が位置することから、東西方向の畦と仮定すれば、検出長さ約5.2 mの区画(A)と、SDs43501の北側辺にほぼ接する南側辺約4.5 m程の区画(B)とが想定される。南側辺約4.5 m程の区画(B)を掘り下げて、SXs43002やSKs43001が検出されているが、これら遺構の埋土と水田の埋土との区別はできなかった。





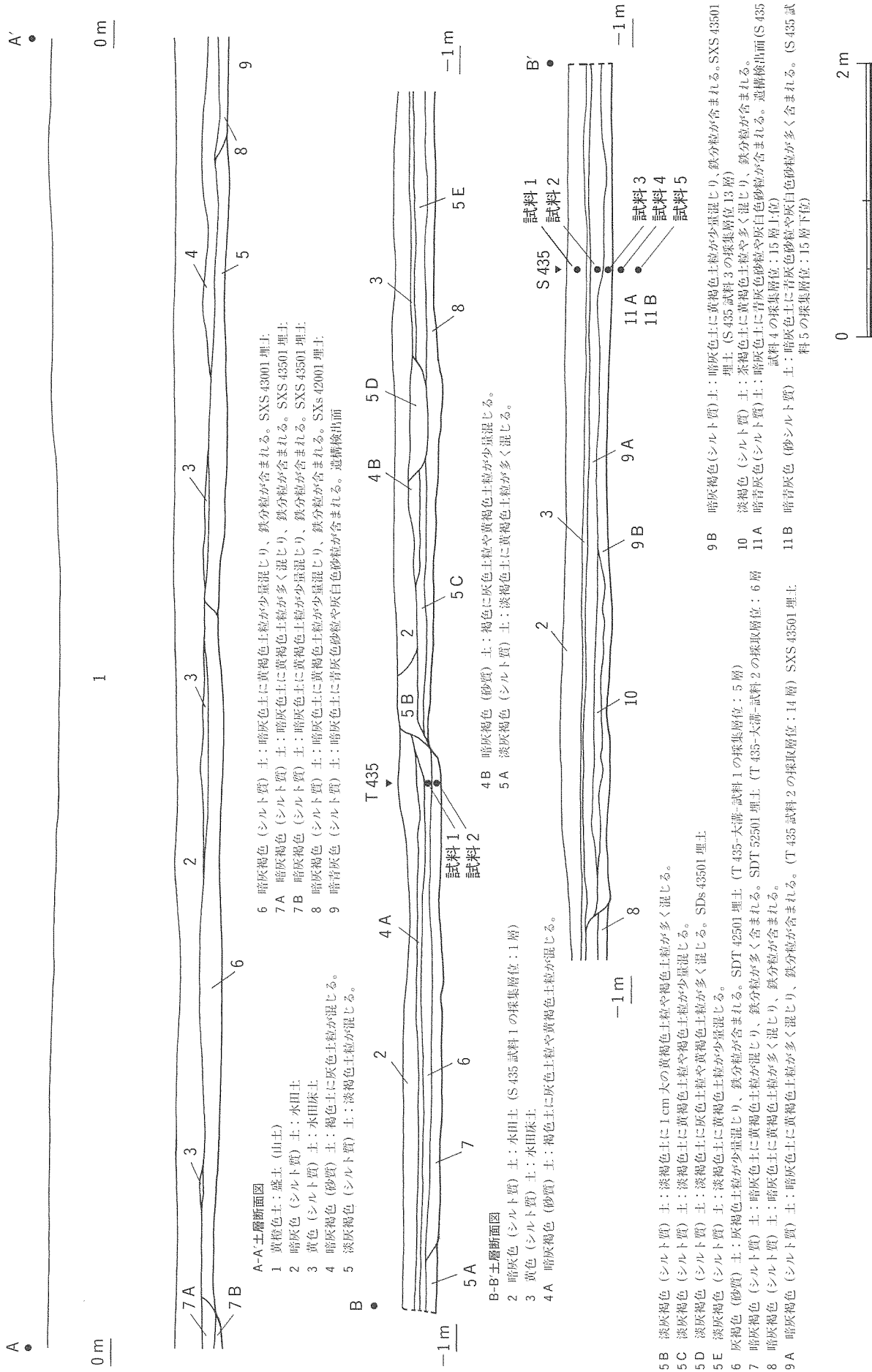


図 41 D区 (A-A'・B-B') 土層断面図

SXS43501：南側辺が、SDs43501の北側辺より北へ、約2.5mの間隔でほぼ平行して検出されている。東南隅から約6.3mの位置で、検出長さ約30cmが北西方向へ屈曲し、さらに西方向へ約5.9m続く。西側に、幅約30cmの淡黄褐色土面が北方向へ約5m残存し、畦の痕跡と考えられる。東側は、SXs43001の埋土面で切り合い関係が確認され、SXs43001より後の水田と判断された。東南隅から約6.3mの位置で、約30cm屈曲し、この北方向に段差の痕跡があり、西側が3cm程深くなっていた。仮に、この屈曲部と段差が、区画の痕跡であるとするれば、南側辺が約5.9mの区画(A)と約6.3mの区画(B)が想定されるが、埋土の区別はできなかった。南側辺が約5.9mの区画(A)は、深さ約8cmの水田跡で、西側辺の南北軸方向は、N-3°-Eを測る。南側辺が約6.3mの区画(B)は、深さ約5cmの水田跡で、南北軸方向は、N-4°-Eを測る。

SXS44501：東西辺約9.2m、深さ約5cmの水田跡で、南北軸方向は、N-3°-Eを測る。SXS43501の西側に位置し、東側辺は作道付近まで続き、その検出長さは約9mある。南側辺は、約6.5mが作道沿いに接して西側へ繋がり、1m程が北方向に屈曲し、さらに約1.5mが西方向に検出されている。西側辺は、約3mが検出され、この南西隅からSDT42501北側辺までの間隔は、約2mを測る。南側辺が屈曲する形状にあることから、東側辺から屈曲部までの約7.5mを一边とする区画(A)と、屈曲部から西側辺まで約1.5mを残存の一边とする区画(B)の2区画が重複する可能性が想定される。埋土の違いは、水がしみでる状態での調査であり、確認できなかった。

SXR45001：検出長さ約9mの東側辺が検出され、深さ約5cmの水田跡と考えられ、東側辺の南北軸方向は、N-0°-Eを測る。また、この東側も、淡黄褐色土が多く混じるものの、灰褐色土の広がりがあり、水田として使用されたと思われる。

#### (5) D区の遺物

D区では、須恵器、灰釉陶器、土師器、山茶碗、中世～近世施釉陶器、焼き締め陶器、輸入磁器などが出土している。近世陶器はほぼ全域に広がり、近代磁器も若干出土している。

SDT42501：須恵器、灰釉陶器、土師器、山茶碗、中世～近世施釉陶器、近代磁器などの小片が出土している。11は、体部はやや膨らみをもち、口縁部はくの字状に折り曲げている。12は近世の播鉢である。14は加工円盤、播鉢の体部を加工している。13は土錘である。

SKR44001：灰釉陶器、土師器、山茶碗の小片が出土している。

SDs41002：土師器片が出土している。

SDs42501：土師器と山茶碗の小片が出土している。

SDs43501：土師器鍋片が出土している。

Ps44001：須恵器、尾張系山茶碗が出土している。

Ps45501：鉄絵皿片と肥前系と思われる磁器片が出土している。

SXR41501：灰釉陶器、尾張系山茶碗が出土している。

SXs41502：須恵器、土師器鍋、尾張系山茶碗が出土している。3は、須恵器の高盤である。底部から胴部にかけて鋭角に折れ、その屈折部はやや突出し、体部には流水文が施されている(註1)。

SXs42001：灰釉陶器、土師器鍋、尾張系山茶碗などが出土している。山茶碗では、図化していないが無

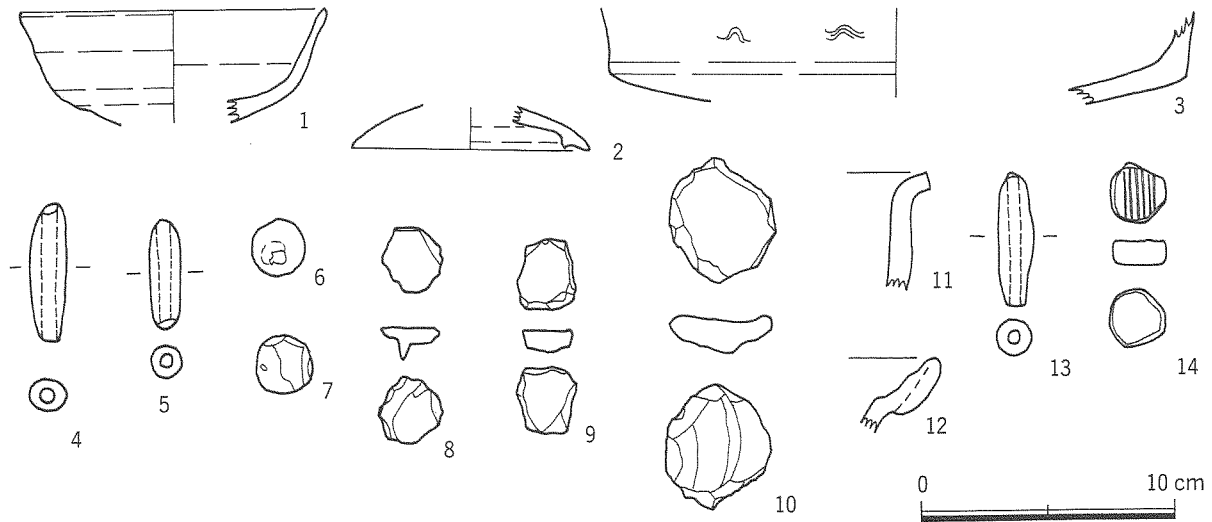


図 42 D区出土遺物

● 高台の碗がある。

SKs42003：無高台の尾張系山茶碗が出土している。

SKs42005：尾張系山茶碗片が出土している。

SXS42501：尾張系山茶碗片が出土している。

SXS43001：土師器、灰釉陶器、山茶碗、施釉陶器、常滑窯甕（壺）、白磁玉縁碗の小片、陶丸（7）などが出土している。

SXs43002：須恵器杯（1）が出土している。

SXS43501：須恵器、灰釉陶器、土師器皿・鍋、山茶碗、常滑窯甕（壺）、施釉陶器などが出土している。

2は須恵器杯蓋で短いかえりが付いている。

水田・床土：陶丸（6）、土錘（4・5）、3点の加工円盤（8～10）が出土している。10は尾張系山茶碗の高台部を加工しているが大型である。

● (註1) 同様の盤は名古屋市緑区にあったNN104号窯から出土している。1967 岡本俊朗 「黒石古窯趾群 N-1号窯」『見晴台のおっちゃん奮闘記』1985 より

## (6) D区のみとめ

現代の水田面と床土を掘り下げて、発掘区南側で東西方向に幅約2mの帯状に広がる、黄褐色土が確認された。この面の両側に、直径5cm程の小穴が列状に続き、その北側と南側に灰褐色土の広がりが確認された。小穴列の方向は、概ねN-86°-Wを測る。帯状に広がる黄褐色土は、灰褐色土等の塊が多く含み、積み重ねられた状態を示すことから、『地籍図』に記載された作道の跡と判断される。この積み土は、土層断面の観察から、高さ5～10cm、幅1.5m程が残存していた。現代水田面は、標高-50cm前後で、作道の積み土面は、標高-70cm前後で検出されている。また、形状から水田跡と想定した方形遺構の底面は、標高-80～85cm前後である。

方形の形状から想定した水田跡は、重複する位置関係で現代まで使用されているため、遺物が混在し

区画の時期を明確にできなかった。また、埋土の切り合い関係も、水がしみでる状態での調査であったため、十分な把握ができていない。水田の床土となる黄色土面を目安とした場合、床土面の痕跡2層が土層断面から観察でき、現代の旧水田跡と近世頃のの水田跡、さらに、近世頃のの水田床土面より下に水田跡の存在が想定される。近世頃のの水田は、作道にほぼ接した北側と南側に広がる2層目の床土までのもので、それより前の水田は、作道の北側に分布する畦等により区画されたものと思われる。区画を想定させた畦は、積み上げられた畦畔でなく、近世頃のの水田の床土面付近と思われる黄褐色土面で、均質な土が帯状に続く部分である。また、現代の水田は、作道の両側にある小穴から木杭材がほとんど出土しないことから、木杭材が撤去された作道を含めて全体に広がるものと思われる。

発掘区東側にあるSDs41001は、作道南側辺から2m程間隔で、ほぼ平行して作道北側辺沿いに位置し、さらに西方でも同様の位置にSDs43501が検出されているため、平均幅50cm程、底面標高-80cm程の水路と考えられる。この溝は、『地籍図』には水路の記載がないため、作道が造作された時期より古い段階の遺構の可能性が考えられる。また、SDs41001はSXS41502(B)の埋土面で確認されたため、SXS41502(B)よりも新しい段階の遺構の可能性が考えられる。

方形状遺構の在り様から水田跡を想定したが、検出した遺構は、水路や畦等を含めた水田遺構としての全体像を明確にできる内容にはなっていない。しかし、SXS44501(B)の西側辺からSXS41502(C)の南東隅付近までの直線距離は、約43mを測り、そのほぼ中間にSXS43501(A)の東側辺が位置している。短辺が5m程の方形状遺構が、比較的集中した区域を検出できたことなどから、あくまでも推論によるが、二時期の水田区画の可能性があると考えられる。



□ 区全景

(7) E区の遺構

SB02：PP56501・PP56504・PP57016・PP57008・Po57002・PP57012：直径約30～40 cm、深さ約20～45 cmの類似した形状の柱穴が、標高-70 cm程の褐色土面で6基確認された。建物の規模は、PP56501-PP56504、PP57012-PP57016、Po57002-PP57008、PP56501-PP57012、PP56504-PP57016の中心間が約2.65 m、Po57002-PP57012とPP57008-PP57016の中心間が約2.15 mある。南北方向間が約2.65 mの間、東西方向に約2.65 mと約2.15 mの二間である。建物面積は、約12.72 m<sup>2</sup>(約4.8×2.65 m)になる。また、東西長軸方向は、N-78° -Wを測る。周辺にも柱穴と想定できる穴が多くあるが、建物をしての配列を確認できなかった。

SDN54502：幅約1.4 m、深さ約5 cm、検出長さ約1.1 mの溝。北側は、発掘区外へ繋がり、南側は、土坑(SKn54501・SKn54502)の上面で埋土の区別が不明瞭となって途切れる。また、この溝の東側辺に接して、厚さ約4 cm、幅約40 cmの黄褐色土面が検出され、SKn54501の南東隅付近まで続き、水田の畦の痕跡とも思われる。その方位は、N-6° -Eを測る。

SDO54501：最大幅約70 cm、最小幅約40 cm、深さ約5 cm、検出長さ約3.4 mの溝で、方位は、N-84° -Wを測る。西側は、SXn55001の南東隅で途切れ、東側は、SXO54001に切られる。埋土は、淡灰色砂質土である。

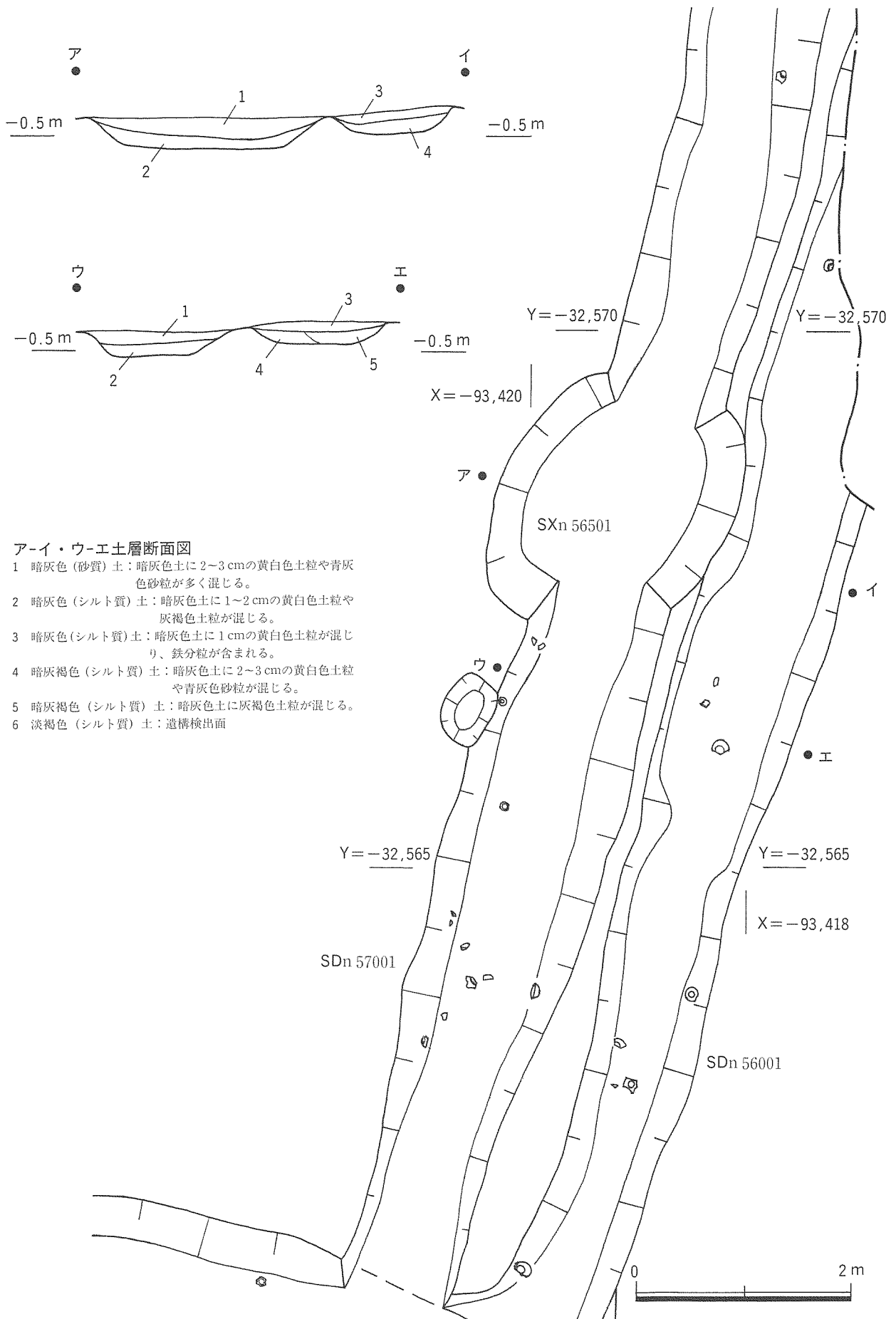
SDn56001：最大幅約1.3 m、最小幅約1 m、深さ約25 cm、検出長さ約19 mの溝で、方位は、N-75° -Wを測る。西側は、発掘区外へ続き、東側は、土坑(SXO56001)等により不明瞭となり、中央排水路付近で途切れる。溝の北側辺は、標高-75 cm程の黄褐色土層面で検出され、この土層が北方向へ広がっている。埋土は、黒褐色土で、13世紀代の山茶碗や小皿が出土している。



E区全景



図48 E区建物跡 (SB02) 等



ア-イ・ウ-エ土層断面図

- 1 暗灰色(砂質)土：暗灰色土に2~3cmの黄白色土粒や青灰色砂粒が多く混じる。
- 2 暗灰色(シルト質)土：暗灰色土に1~2cmの黄白色土粒や灰褐色土粒が混じる。
- 3 暗灰色(シルト質)土：暗灰色土に1cmの黄白色土粒が混じり、鉄分粒が含まれる。
- 4 暗灰褐色(シルト質)土：暗灰色土に2~3cmの黄白色土粒や青灰色砂粒が混じる。
- 5 暗灰褐色(シルト質)土：暗灰色土に灰褐色土粒が混じる。
- 6 淡褐色(シルト質)土：遺構検出面

図44 SDn 56001・SDn 57001

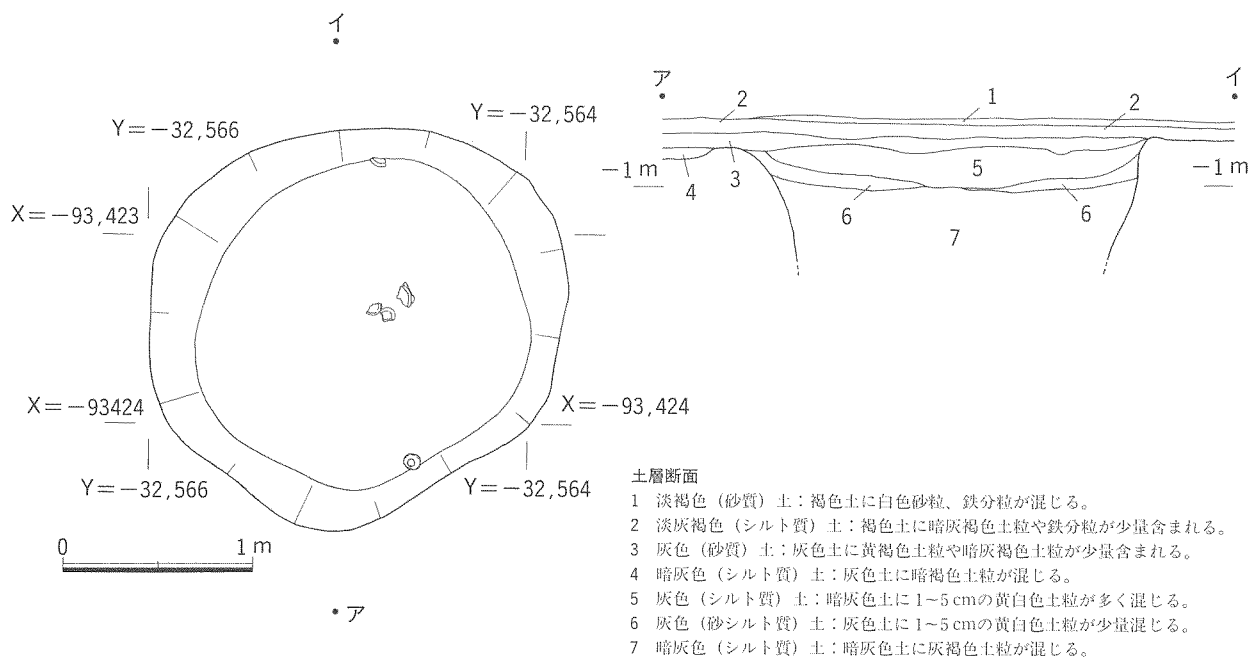


図45 SEO 56001

SDn57001：最大幅約1.5m、最小幅約1m、深さ約30cm、検出長さ約13mの溝で、方位は、N-75°-Wを測る。西側は、発掘区外へ続き、東側は、土坑(SXO56001)等により不明瞭となり途切れる。SDn56001の南側に並行している。埋土は、黒褐色土で、13世紀代の山茶碗や小皿が出土している。

SDN54001・SDN54501・SDo55503・SDo55504：いずれも、幅30cm、深さ5cm程の溝で、方位は、N-0°-Eを測る。現代の水田床土面で検出され、田起こしの跡と推定される。

SEO56001：長径約2.3m、短径約2m、検出面の標高は-80cm程である。検出面より約60cmの深さで、内径約1mの円柱状になってさらに深くなっている。木樺は発見されていないが、木片が散見された。未掘であるが、井戸と思われる。

SEP56001：直径約2m、検出面の標高は、-70cm程で、木樺は発見されていないが、検出面より約50cmの深さで木片が散見され、灰色の埋土がさらに深くあるため井戸の可能性はある。未掘。

SKn54001：長辺約2.7m、深さ約5cmの楕円形土坑で、方位はN-0°-Eを測る。西側辺は、SKn54002と重複しているが、その前後関係は明確にできなかった。14世紀代の山茶碗などが出土している。

SKn54002：短辺約2.3m、深さ約5cmの方形土坑で、軸の方位は、N-62°-Wを測る。

SKn54501：長辺約3.5m、短辺約2.2m、深さ約5cmの長方形土坑で、方位は、N-7°-Eを測る。

SXO54001：長辺約4m、短辺約1.2m、深さ約10cmの方形土坑で、方位は、N-84°-Wを測る。西側がSDO54501と、東側がSXO53501と重複する位置関係にあるが、その前後関係は不明である。

SKo55001：長辺約2.7m、短辺約1.5m、深さ約15cmの長方形土坑で、長軸方位は、N-67°-Wを測る。検出面は、黄褐色土で、標高-85cm程を測る。

SXn55501：発掘区北側中央で検出された、長径約1.8m、深さ約5cmの楕円形土坑。

SKo55501：直径約1.8m、深さ約60cmの円形状土坑。埋土は、黒褐色土で、山茶碗や小皿が出土している。

SXO56001：長辺約6.3m、短辺約3.4m、深さ約15cmの方形土坑。長軸方位は、N-18°-Eを測る。



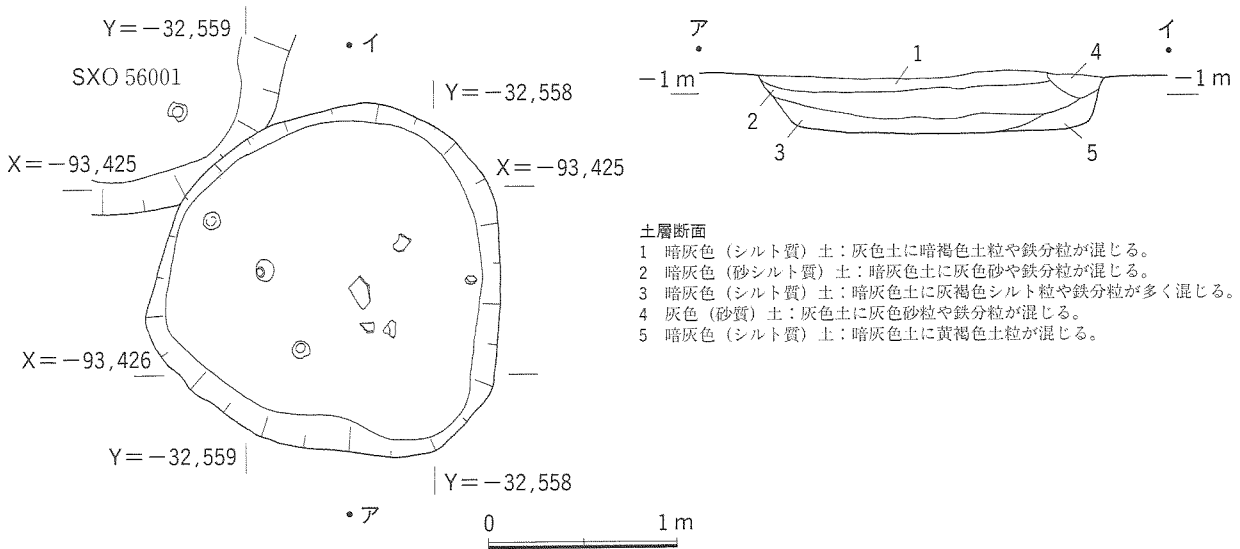


図46 SKO 55501



埋土は、黒褐色土で、山茶碗や小皿が出土している。

SKO56501：長径約 80 cm、短径約 60 cm、深さ 15 cm の楕円形土坑。

SKP56501：長辺約 3.4 m、深さ約 35 cm の土坑。検出時の形状は、円形状に見受けられたが、一段掘り下げると方形状になった。

SKP56502：長径約 1 m、短径約 85 cm、深さ約 35 cm の楕円形土坑。埋土は、黒褐色土である。

SXn56501：長径約 2.5 m、短径約 2 m、深さ約 30 cm の楕円形土坑。SDn57001 と重複する位置にあり、土層断面の観察から、SDn57001 より新しい遺構と判断される。長軸方位は、N-63° -W を測る。

SKO57001：長径約 90 cm、深さ約 40 cm の円形土坑である。検出面は、方形状遺構 (SXo56502) を約 10 cm 掘り下げた黄褐色土面 (標高-80 cm 程) である。

SXO53501：東西辺の検出長さ約 6.5 m、南北辺の検出長さ約 5 m、深さ約 20 cm の水田跡。東方向へ発掘区外に広がり、南北辺が不明瞭となり途切れるが、北方向へもおそらく発掘区外へ広がると思われる。



東西辺の方位は、N-77° -W を測る。

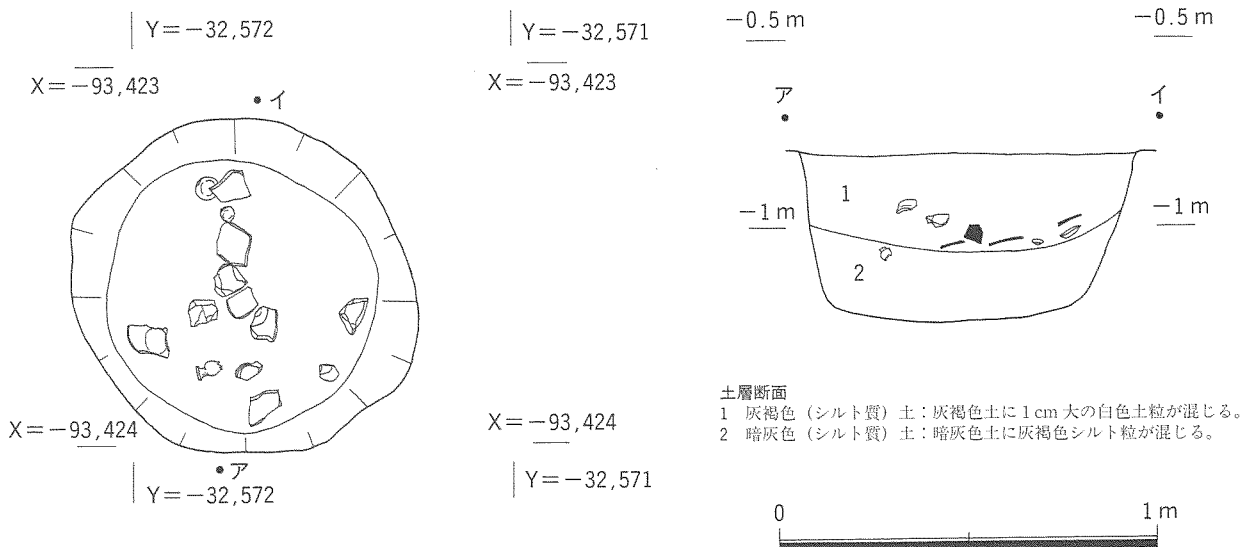


図47 SKO 57001

SXP54001：東西辺の検出長さ約 13.2 m、南北辺の検出長さ約 11.3 m、深さ約 15 cm の水田跡。発掘区東端で、東北隅付近と推定される緩やかな屈曲があり、発掘区東側土層断面に類似する埋土が観察されないことから、東西辺の推定長さは、14 m 程と思われる。南方向へ発掘区外に広がり、南北辺の方位は、N-12° -E を測る。この方形状遺構の範囲は、『地籍図』で畑と記載される部分に対応できるため、明治中期以降に水田化が進められたと考えられる。また、西側辺沿いに、幅 60 cm 程の茶褐色土が畦畔状に残存していた。この畦状遺構は、茶褐色土に灰褐色土粒が混じり合うもので、高さ約 5 cm、検出長さは約 13 m を測り、北端は不明瞭となっていた。

SXO54501：東西辺の長さ約 3.2 m、南北辺の検出長さ約 12.8 m、深さ約 15 cm の長形状遺構。SXP54001 の床土の下面（標高-75 cm）付近で検出されている。埋土は、灰色土に黄褐色土粒が多く混じる。西側辺は、SXP54001 の西側辺とほぼ同じ位置になり、南北辺の方位は、N-12° -E を測る。

SXn55501：東西辺の検出長さ約 7 m、南北辺の検出長さ約 4 m、深さ約 20 cm の長形状遺構。東西辺の方位は、N-78° -W を測る。水田床土等をさらに 5 cm 程掘り下げて、黄褐色土面（標高-80 cm）で検出された。埋土は灰色土に黄褐色土粒が多く混じる。西側辺は排水溝付近で不明瞭となるが、東側辺は発掘区外に続き、水田跡の可能性はある。

SXo55501A：東西辺の長さ約 9 m、南北辺の検出長さ約 12 m、深さ約 10 cm の長形状遺構。南北辺の方位は、N-8° -E を測る。埋土は、灰色土に黄褐色土粒が多く混じる。東側辺は、幅 60 cm 程の畦畔状遺構に接して、東北隅付近までが確認された。西側辺は、水田床土を掘り下げた褐色土面（標高-70 cm）で、長さ約 5 m が検出されている。検出時の西側辺は、北方向への繋がりが不明瞭で、西北方向へ屈曲する形状となるため、別の長形状遺構（SXo56501）と重複する位置関係にあるが、その前後関係を明確にできなかった。なお、西側辺を検出した褐色土面は、発掘区南西側に広がり、この面で多数の穴が検出されている。『地籍図』を参照すると、褐色土の広がる範囲の形状が、畑と記載される部分に対応でき、その北側と東側に鍵の手形状に広がる水田が記載されているため、これら長形状遺構が近世頃の水田跡と考えられる。

SXo55501B：東西辺の長さ約 6.5 m、深さ約 10 cm の長形状遺構。SXo55501A を 10 cm 程掘り下げると、その西側辺等から 90 cm 程内側に、さらに段差が検出され、10 cm 程深くなる。同様に、SXo55501A を 10 cm 程掘り下げた東側辺から 1.5 m 程内側でも段差が検出され、厚さ 10 cm 程の灰色土が埋土となる。底面は、標高-90 cm 程の淡黄褐色土である。

SXo56501：東西辺の検出長さ約 8 m、南北辺の検出長さ約 8 m、深さ 10 cm の方形状遺構。南西隅付近が、1.5 m 程西へ張り出した形状になる。この西側に、幅約 20 cm、検出長さ 1.2 m 程の黄褐色土層が残存し、畦状になっていた。また、南側辺や西側辺や北側辺の内側でも、SXo55501A の検出状況と類似した段差があり、厚み約 10 cm の灰色土が埋土となる範囲は、SXo55501A と同一の遺構の可能性もある。東西辺の方位は、N-78° -W を測る。底面は、標高-90 cm 程の淡灰青色土で、床土の痕跡と思われる黄褐色土の残存が観察された。

SXo56502：南側辺が、標高-70 cm 程の褐色土面で検出された。深さ約 15 cm の長形状遺構。北側辺は、おそらく溝（SDn56001）の北側辺沿いと思われる。埋土は、灰色土に黄褐色土粒が多く混じる。東側に幅約 20 cm、検出長さ 1.2 m 程の黄褐色土層が残存した畦状遺構が残存しているが、ここまでの検出長



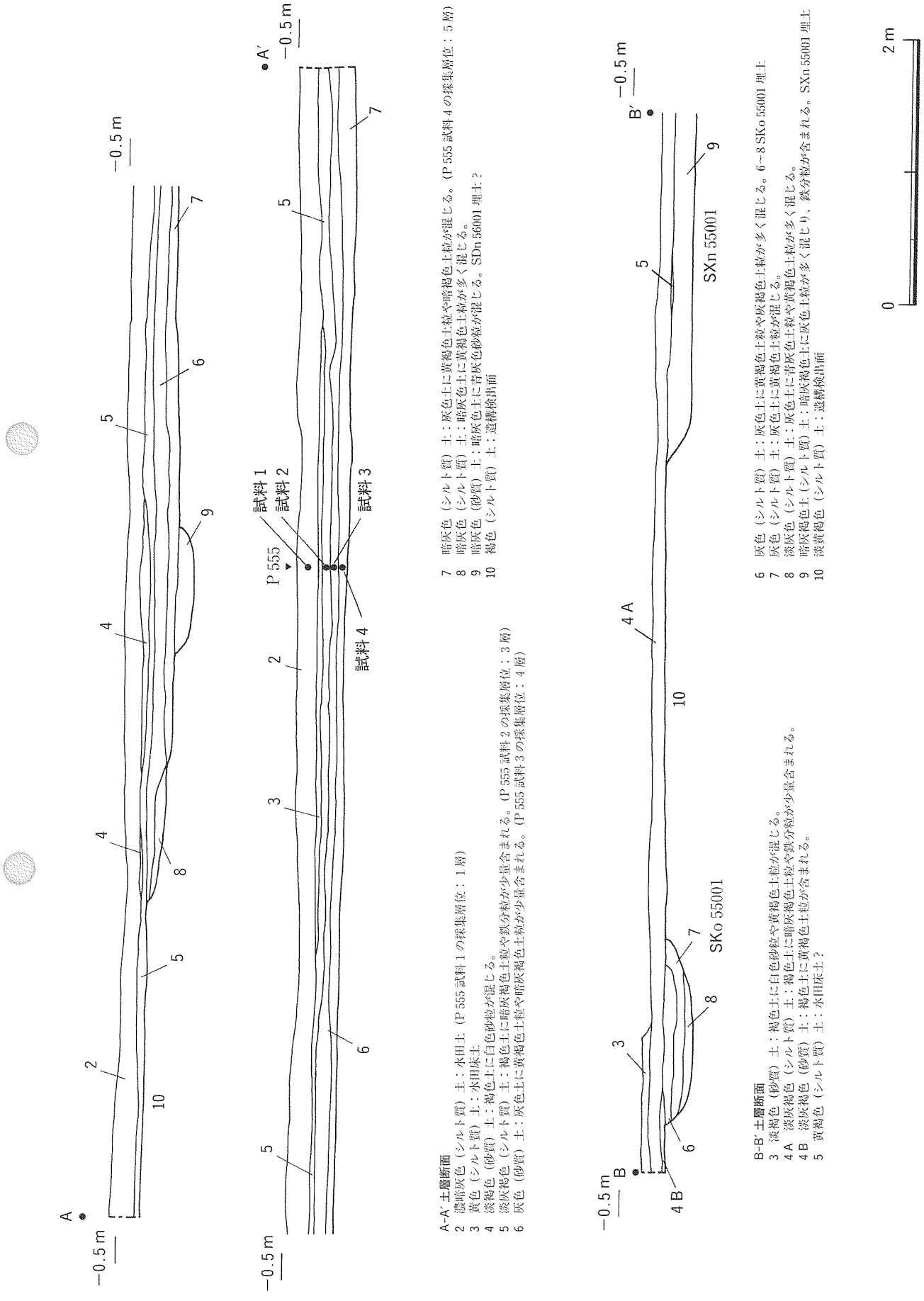


図 49 E 区 (A-A'・B-B') 土層断面図

さは、約8mである。さらに、SXo55501Aの西側辺までの検出長さは、約15.5mを測り、埋土はSXo55501Aに類似している。東西辺の方位は、N-72°-Wを測る。

柱穴群：発掘区南西側で、水田床土の下層(標高-70cm)に褐色土層面が残存し、60程の穴が検出されている。直径や深さが20cm以上の穴が多くある。Po57010から小皿、PP56503から山茶碗の完形品が出土しているため、柱穴の多くは、13世紀代頃の遺構であろうと推測される。

#### (8) E区の遺物

SEO56001：出土遺物の量は多くない、主に尾張系山茶碗が出土している。37の内側には薄く煤が付着している。小皿はすべて小皿Bに入るが、比較的底径の小さいもの(38・39)と大きいもの(40~42)がある。

SKO57001：土師器皿・鍋、山茶碗、施釉陶器、常滑製品などが比較的まとまって出土している。11は碗B、15は皿Cである。16は土師器皿、17は古瀬戸花瓶、18は黒灰色を呈した壺の底部である。常滑製品と考えられる。

SKo55001：山茶碗、常滑製品などが出土している。碗Cの小片がある。

SKo55501：土師器、尾張系山茶碗、常滑製品などが出土している。1は碗B、2は碗C、4~6は小皿Bである。2の山茶碗の底部は、外側全体に粘土が貼られている。7は、片口の皿と思われる。底部から体部にかけてかなり厚くなり、外側底部端に浅い凹線がある(註1)。8は焼き締め陶器の甕か壺の頸部、9は胴部片である。SKo55001からも同個体と思われる常滑製品が出土している。10は鍋Bである。

SKP56501：尾張系山茶碗、小碗、施釉陶器の壺、土師器、加工円盤などが出土している。26・27は小碗である。山茶碗(19~25)は全体を復元できるものはないが、体部の立ち上がりは比較的丸い。31は壺である。加工円盤(29・30)は山茶碗の高台を加工している。

SEP56001：尾張系山茶碗(32~35)が出土している。32・33は碗Bである。

SKP56502：山茶碗、施釉陶器などが出土している。43は古瀬戸天目茶碗である。

SKn54001：土師器、山茶碗、施釉陶器などが出土している。山茶碗は尾張系と東濃系がほぼ同量ある。45の山茶碗は底径がかなり小さく、体部は外側に開くように立ち上がる。碗Dである。小皿(46)は小皿Cである。

SKn54501：土師器、山茶碗などが出土している。44は羽釜である。

SKn54502：土師器、山茶碗が出土している。

SDn56001：主に、尾張系山茶碗が出土している。その他、常滑製品の小片などが出土している。図化したのは山茶碗(47~52)で、碗Bである。

SDn57001：主に、尾張系山茶碗が出土している。その他、土師器鍋、常滑窯甕、白磁片などがある。山茶碗(54・55)は碗B、小皿は(57~60)が小皿B、62が小皿Cである。61は鉢である。63は白磁玉縁碗、64は常滑窯の壺片、65は鍋Bである。66は、SDn56001かSDn57001から出土した碗Bである。出土遺物は62を除けば、おおよそ13世紀後半代までになり、両溝の時期差はみられない。なお、この溝の検出面付近では東濃系の小皿などが出土しており、また、埋土中に、東濃系山茶碗はないことから遺構は確認できないが、溝の埋った後、何らかな土地利用があり、62の小皿もそれに伴うと推測される。

SDn54001：山茶碗（73）、古瀬戸折縁深皿（70・71）が出土している。70は端部を丸くし、71は端部を水平にしている。

SDN54501：土師器、須恵器、山茶碗などが出土している。72は小皿Cである。

SDO57001：74は面子である。（遺構はSXo56502の上面にあったが消滅）

Po56513：山茶碗片、鉢（67）が出土している。

PP56503：土師器鍋片、碗B（68）が出土している。

Po57010：小皿B（69）が出土している。

その他、調査区東側にある柱穴状の穴からは、土師器鍋片、尾張系山茶碗片が出土している。

SXO53501：山茶碗、中世～近世陶器などが出土している。112の加工円盤は小碗の底部を加工したものである。

SXO54001：灰釉陶器、山茶碗、施釉陶器などが出土している。78は碗D、79の加工円盤は砂岩を加工している。

SXP54001：土師器、山茶碗、常滑製品、施釉陶器、近世～近代陶磁器などが出土している。80は山茶碗の底部である。

SXO54501：土師器、山茶碗、施釉陶器、常滑製品などが出土している。75は小皿C、77は天目茶碗、76は大窯期の播鉢である。

SXn55001：須恵器、土師器、山茶碗、施釉陶器、常滑製品などが出土している。82は須恵器杯、ハの字に開く高台がつく。83は小皿B、84は古瀬戸折縁深皿、85は羽釜で口縁は内傾している。86の加工円盤は山茶碗の高台を加工している。

SXo55501：須恵器、土師器、灰釉陶器、施釉陶器、常滑製品、中国製品や近世にいたるまでの遺物が多く出土している。101～103は小皿B、104は小皿Cである。105は鉢の口縁部で、胎土は黒灰色を呈し、長石粒が多く含まれている<sup>(註2)</sup>。加工円盤は、108は施釉陶器片、109は山茶碗の高台部分、110は磁器の底部、111は常滑製品、112は小碗の底部である。

SXO56001：須恵器、土師器、灰釉陶器、施釉陶器、白磁片などが出土している。87は碗B、88・89は小皿Bである。91～93・95は加工円盤、91・93は山茶碗高台、92は体部、95は小皿の底部を加工している。

SXn56501：土師器鍋、山茶碗、鉢が出土している。81は碗Bである。

SXo56501：須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、常滑製品、施釉陶器などが出土している。90は小皿B、94は常滑甕片を利用した加工円盤である。

SXo56502：須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、施釉陶器、青磁片などが出土している。96は山茶碗の底部、97は底部がやや突出した小皿である。加工円盤は、98は山茶碗高台、99が小皿の底部から体部の屈曲している部分を加工している。

水田・床土：須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、常滑・渥美製品、施釉陶器などが出土しているが、小片が多い。122は折縁深皿、123は卸皿、124播鉢で、いずれも古瀬戸と思われる。126は105と同じような胎土の鉢、127・128は鍋A、129は鍋Bである。加工円盤は、大部分は山茶碗を利用しているが、141・142は常滑製品、143は播鉢である。

(註1) 名古屋市天白区 NN302 号窯では、器種は違うが同様の調整のみられる片口鉢がある。1992 名古屋市見晴台考古資料館『NN302 号窯・NN304 号窯発掘調査報告書』名古屋市教育委員会

(註2) 瀬戸市笠松東窯で同様の片口鉢が出土している。1991 藤澤良祐 「瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要 X』瀬戸市歴史民俗資料館

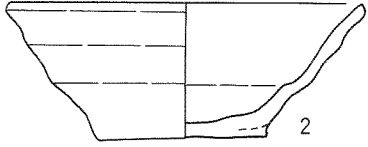
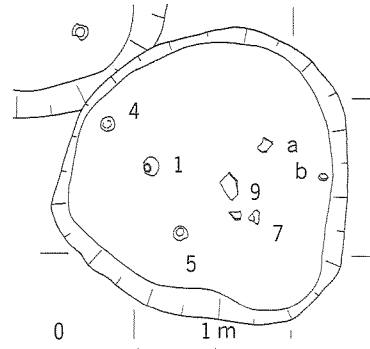
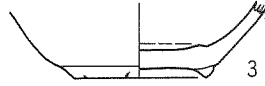
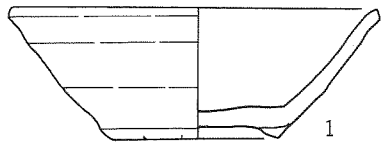
#### (9) E 区のみとめ

発掘区の南西側に、建物跡があり、柱穴と2条の溝から13世紀代の山茶碗が出土していることから、13世紀代の屋敷地が存在した可能性がある。柱穴を検出した褐色土層面は、水田床土を掘り下げた標高-70cm程にあり、主に発掘区西半側に広がって残存していた。溝は、発掘区中央付近で途切れ、屋敷地を区画する形状になっていないが、溝の南側に遺構が集中している。また、溝は2条あり、溝の北側にも褐色土の広がりがある。そのため、溝の北側にも、屋敷地が存在する可能性も考えられる。E区では他の区に比べ遺物では東濃系山茶碗、古瀬戸が多く出土し、遺構では土坑が多く、14世紀代には土坑が分布する地区であったと推測される。

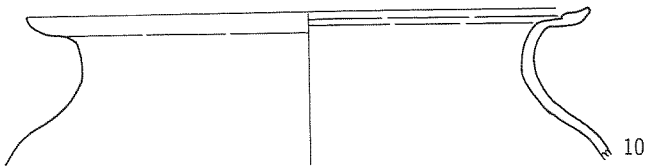
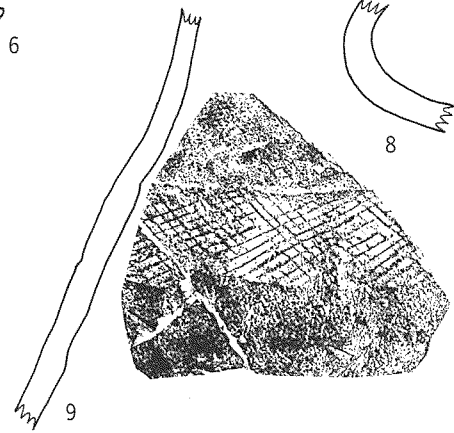
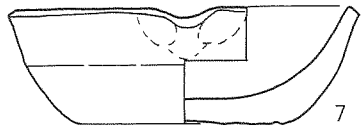
近世頃に、『地籍図』の畑となっている範囲で褐色土が残存し、水田となっている範囲は鍵の手状に褐色土が削除されたと考えられる。鍵の手状に広がる方形遺構は、SXo56502 や SXo55501A が近世頃の水田跡と思われるが、SXo55501B などはさらに下層にあたる。土坑の出土遺物から、SKP56501 が12世紀後半から13世紀始め頃、SKO57001・SKP56502・SKn54001 が14世紀頃に埋まったと考えられる。これら土坑が埋まった後に、水田化が発掘区中央で進められ、その痕跡が、SXO53501・SXO54501・SXn55501 の長方形遺構として確認されたと考えられる。

富田荘の方位に類似する遺構は少なく、SDO54501・SXO54001 が N-84° -W、SKn54501 が N-7° -E、SXo55501A が N-8° -E を測る程度である。建物跡が N-78° -W の方位を、屋敷地に関連すると思われる溝 (SDn56001・SDn57001) も N-75° -W の方位を測るため、土地割が自然地形等の影響により、制約を受けたものと思われる。

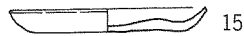
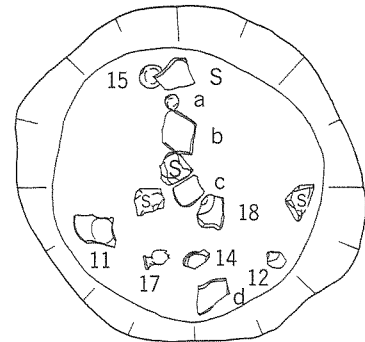
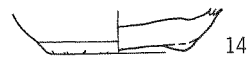
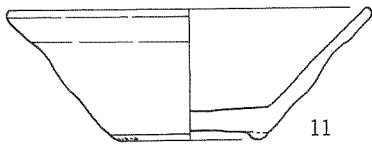
SKO 55501



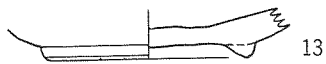
図中の番号は遺物番号  
aは甕(壺)片、bは小皿片



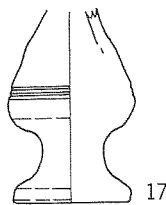
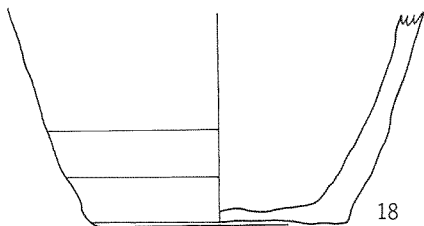
SKO 57001



0 50 cm



図中の番号は遺物番号  
aは花瓶底部、b~dは甕(壺)片である

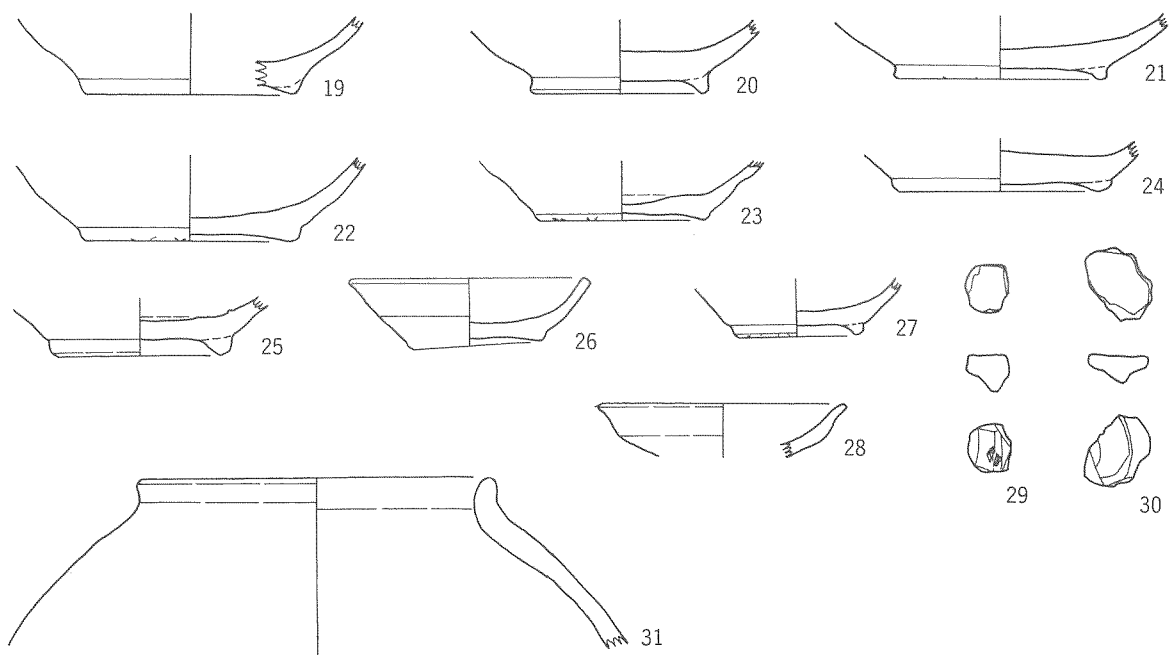


0 10 cm

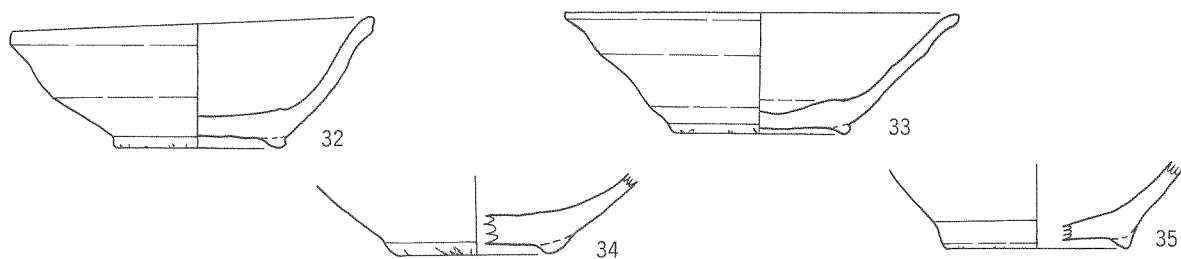
図50 E区出土遺物(1)



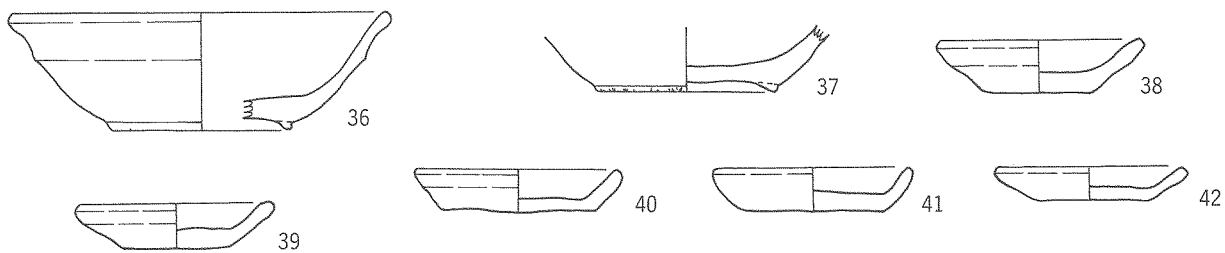
SKP 56501



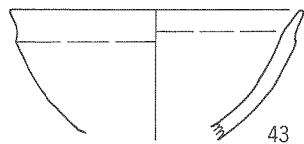
SEP 56001



SEO 56001



SKP 56502



SKn 54501



SKn 54001

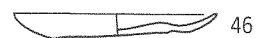
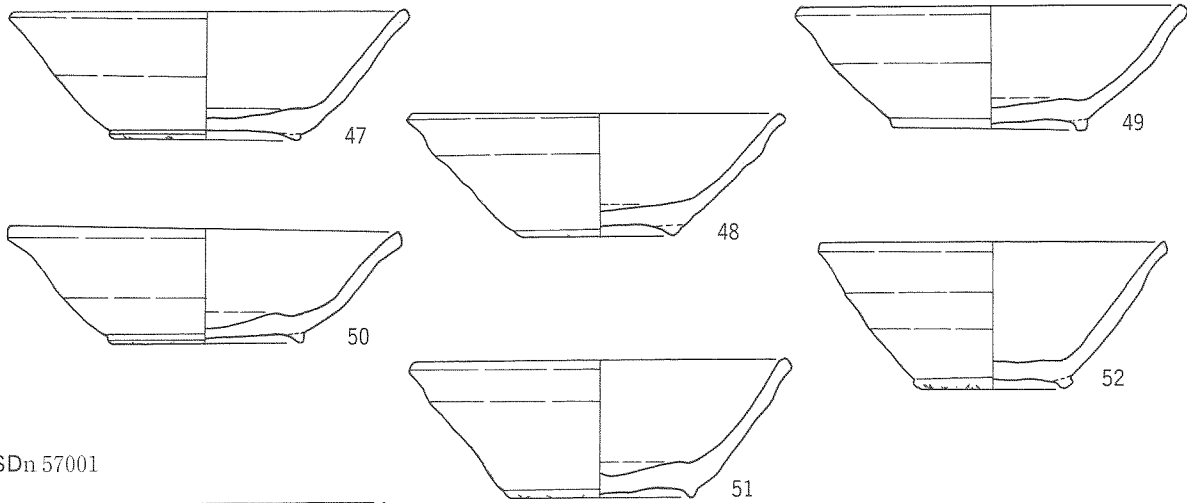
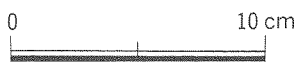
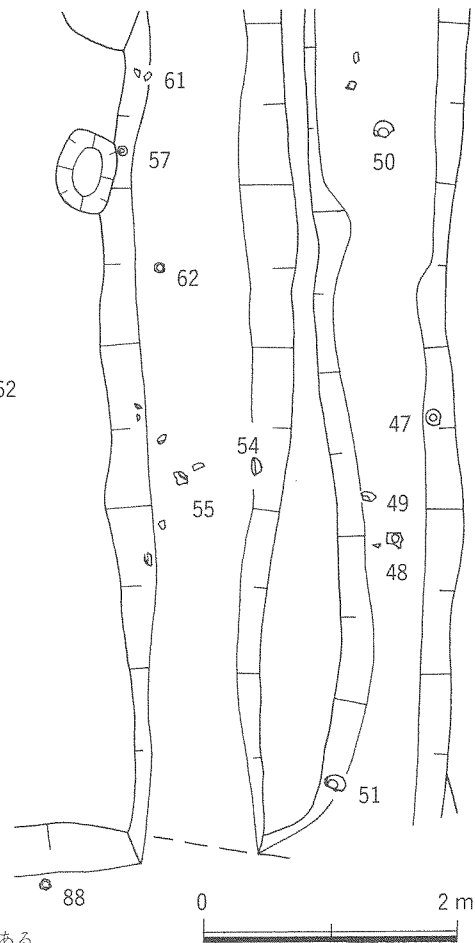
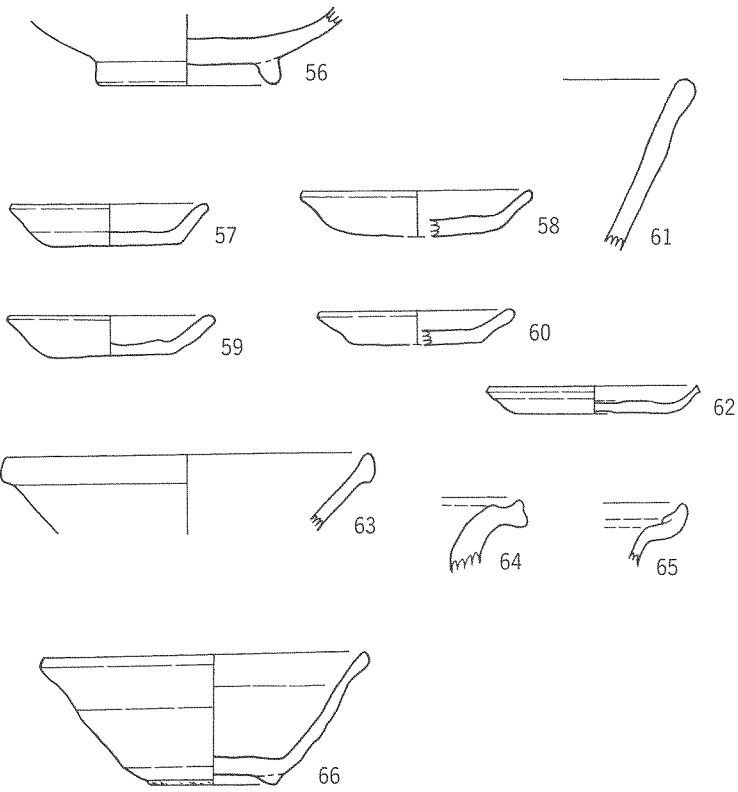
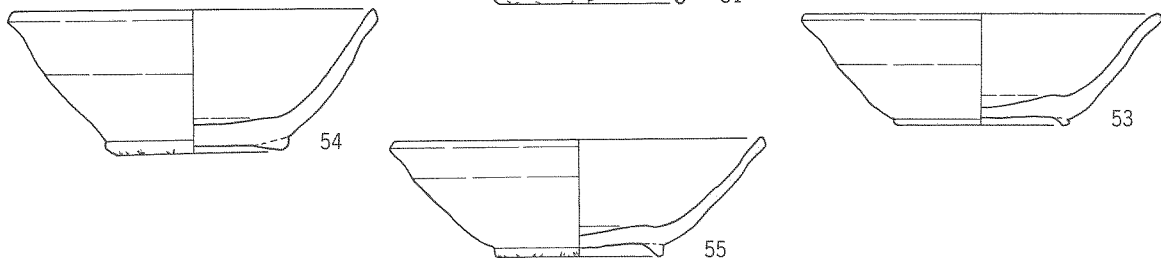


図51 E区出土遺物(2)

SDn 56001



SDn 57001



図中の番号は遺物番号  
番号のないものは山茶碗の破片である

図 52 E 区出土遺物(3)

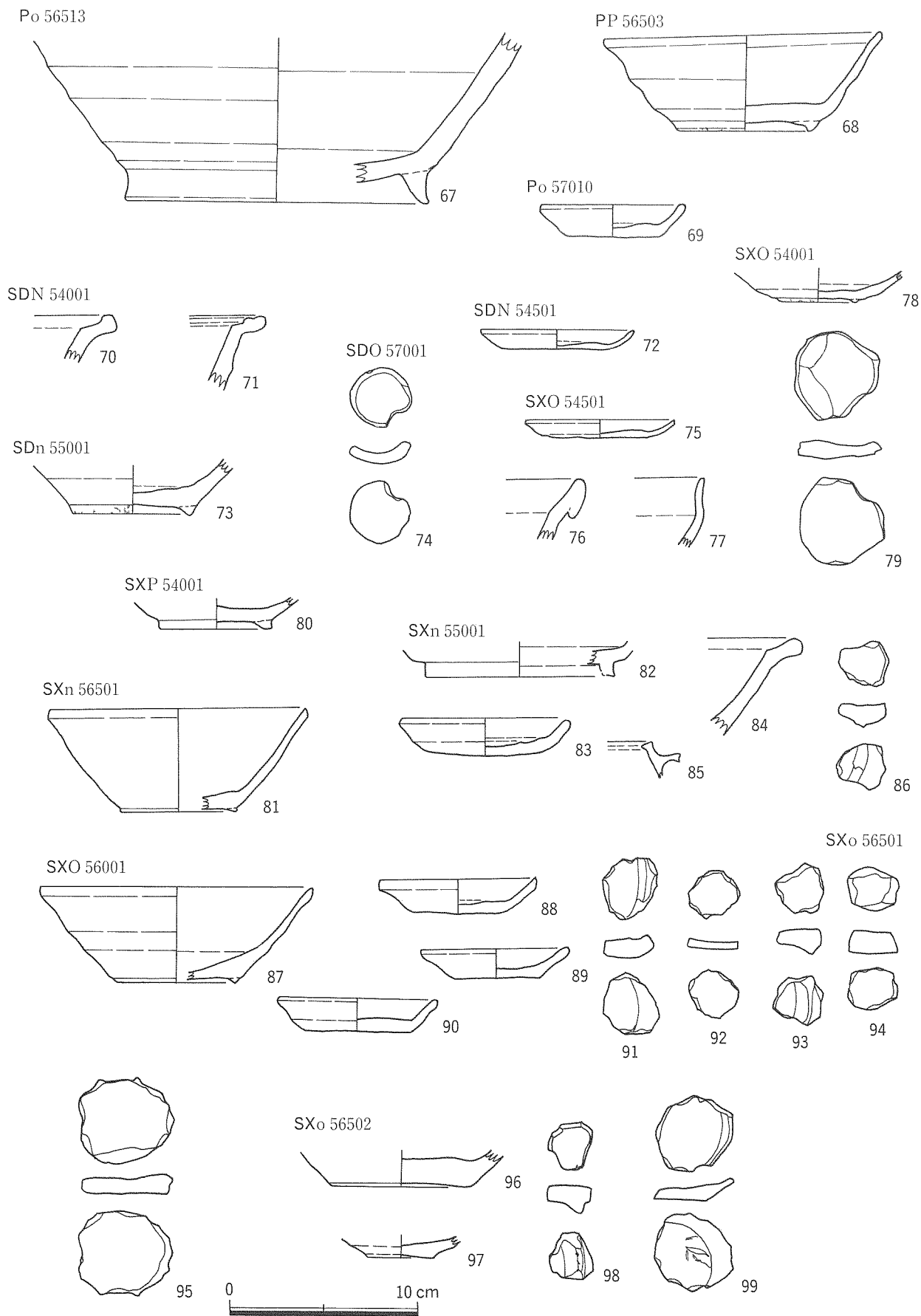
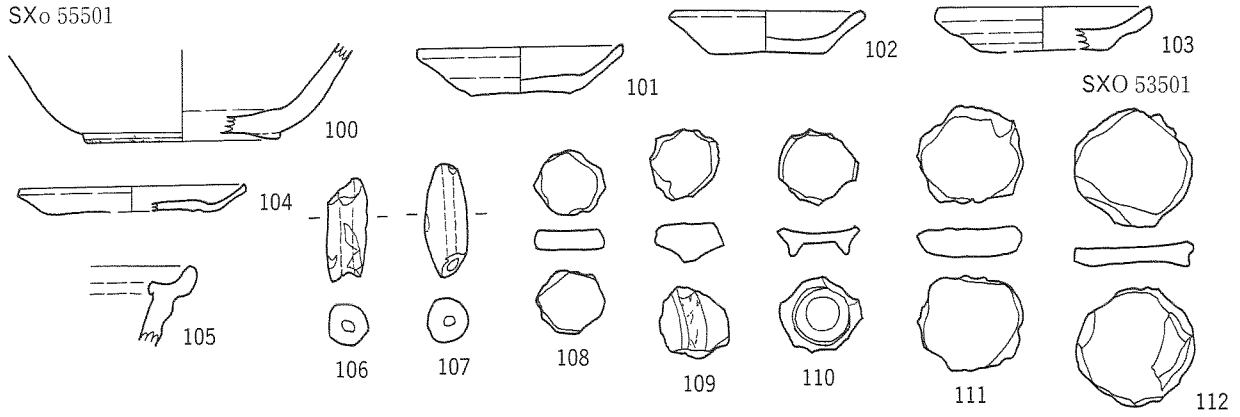


図 53 E区出土遺物(4)

SXo 55501



SXO 53501

水田・床土など

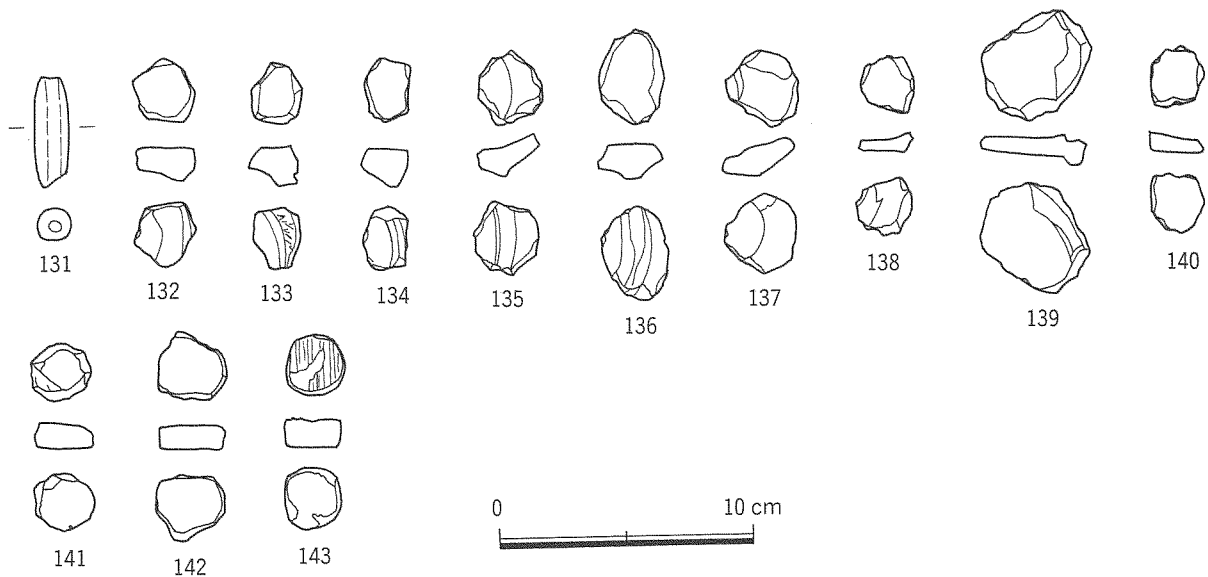
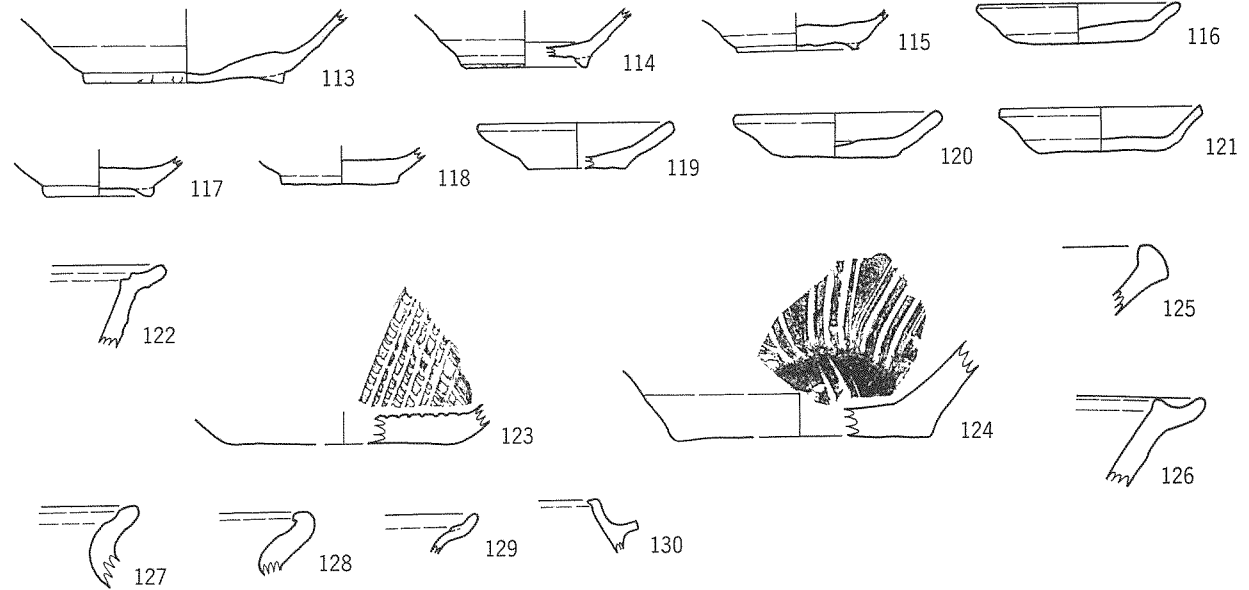


図54 E区出土遺物(5)

(10) F区の遺構

SDq49001A・SDq49001B：幅約50 cm、深さ約10 cmの溝で、SDq49001Aの検出長さ約8.2 m、SDq49001Bの検出長さは約1.8 m。方位は、N-2° -Eを測る。SDq49001Bは、SDq49001Aと約40 cmの間隔をとり、発掘区外へ続く。これら溝は、約25~40 cmの間隔で、溝の東側の方形遺構に沿った位置にある。

SDQ50501：最大幅約80 cm、最小幅約40 cm、深さ約5 cmの屈曲する溝。発掘区中央北側で、南北方向に検出長さ約2 mを測り、東へ検出長さ約1.8 mが屈曲している。南北方位は、N-3° -Eを測る。

SDr52501：最大幅約1.2 m、最小幅約50 cm、深さ25 cm程、検出長さ約18.5 mの溝。南北方位は、N-2° -Eを測る。標高-75 cm程の黄褐色土層面で検出されている。底面の標高は、北端が約-1 m、南端が約-1.1 mで、南方向へわずかに傾斜がある。『地籍図』を参照すると、この付近に水路が記載され、これに対応できる溝と思われる。また、陶管が残存する箇所(SDr52502)にあり、近代も使用されていたと思われる。

SDr52001：最大幅約40 cm、最小幅約30 cm、深さ約10 cm、検出長さ約14.5 mの溝。方位は、N-84° -Wを測る。発掘区の南西側沿いに位置し、西側は発掘区外へ続く。溝の南側沿いに、直径約5~10 cmの小穴が多数検出されている。検出面は標高-75 cm程の黄褐色土層で、小穴の在り様から、おそらくD区で検出された畦畔に繋がるとと思われる。

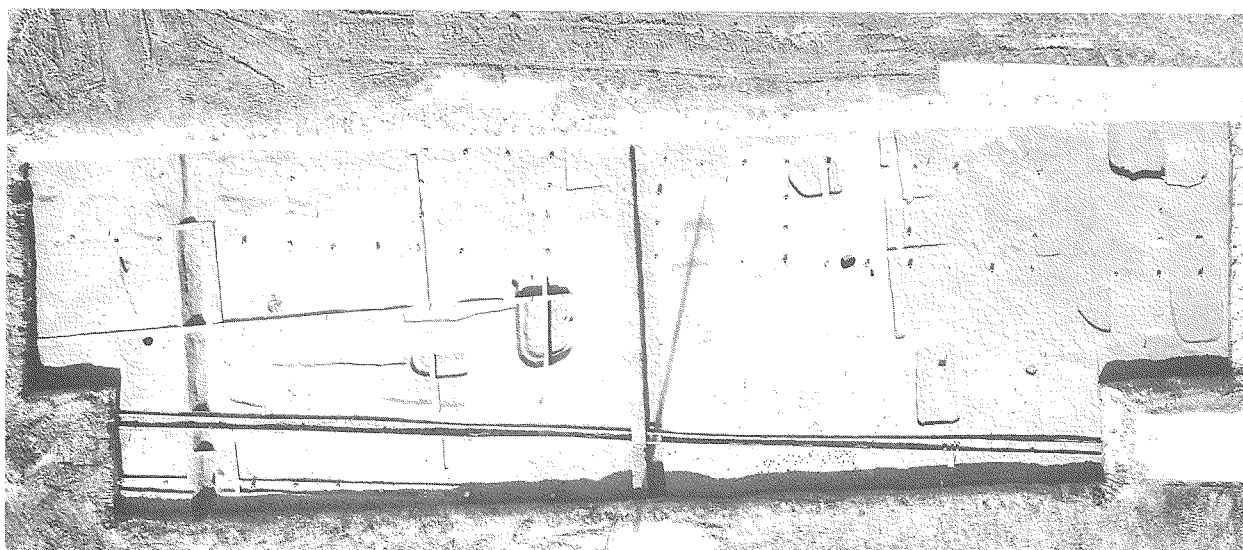
SXq48001：短辺約3 m、深さ約25 cm、北側が発掘区外へ続く方形状土坑。南北方位は、N-4° -Eを測る。埋土は、灰色土に黄褐色土の塊が混じる。

SXR47501：長辺約6.3 m、短辺約2.5 m、深さ約5 cmの方形状土坑。南北方位は、N-3° -Eを測る。

SKR48001：長径約4 m、短径約2.7 m、深さ約10 cmの楕円形状土坑。

SXr49001：長辺約4 m、短辺約2 m、深さ約10 cmの方形状土坑。長軸南北方位は、N-4° -Eを測る。標高-90 cm程の青灰色土層面で検出され、埋土は灰色土である。

SKq49501：長径約2.6 m、短径約2.2 m、深さ約10 cmの楕円形状土坑。標高-85 cm程の黄褐色土層面で検出され、埋土は灰褐色土である。



F区全景

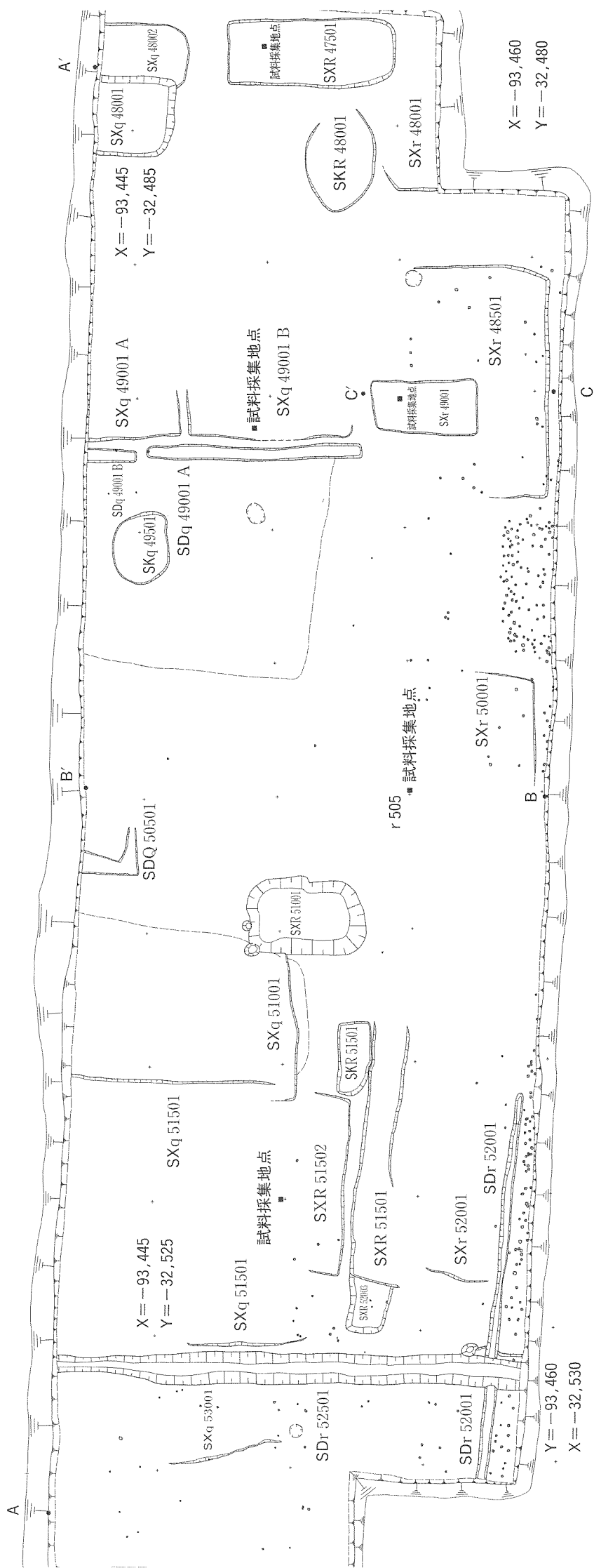


図 55 F 区遺構図 (1 : 200)

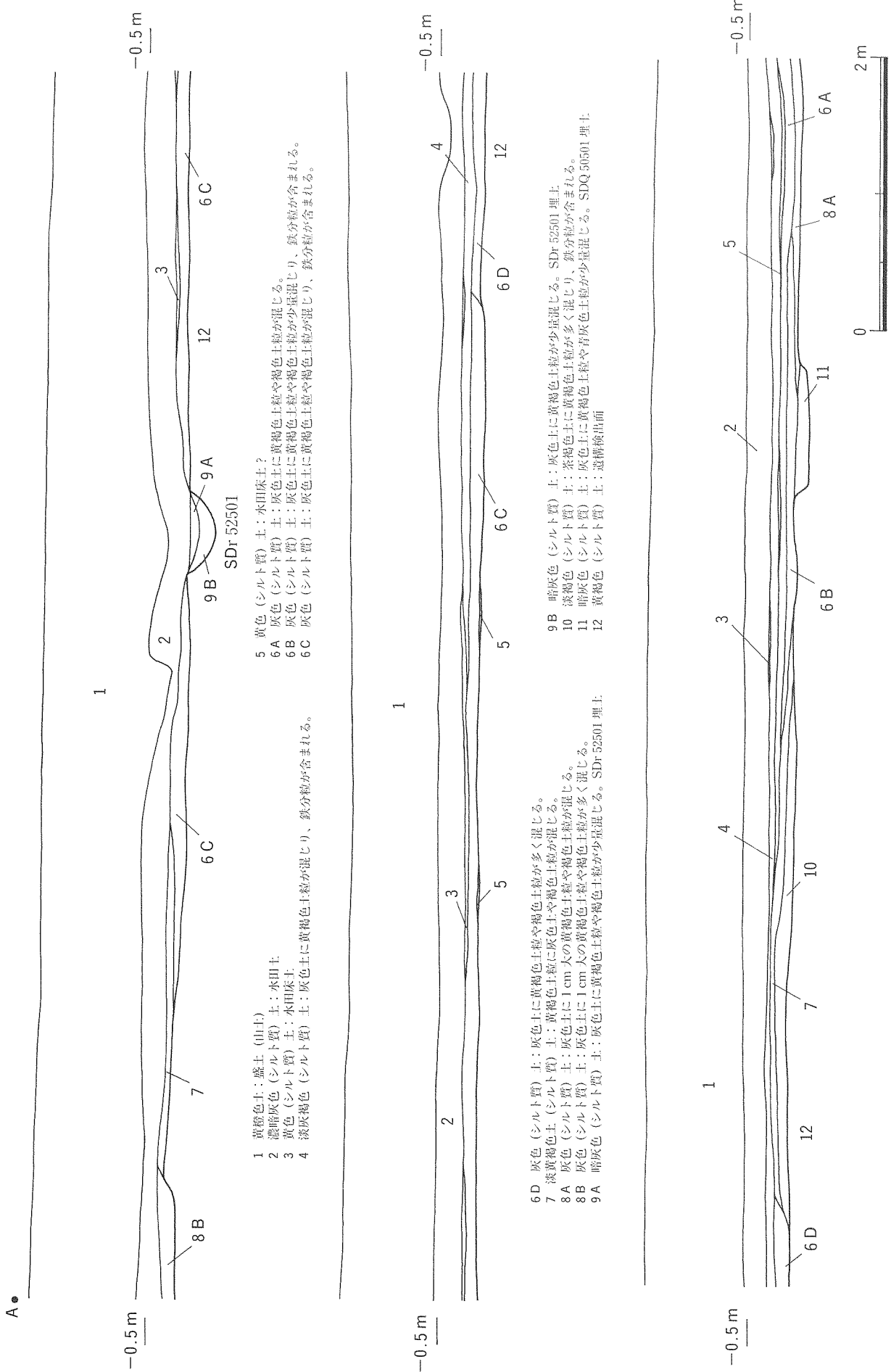


図56 F区(A-A')土層断面図(No.1)

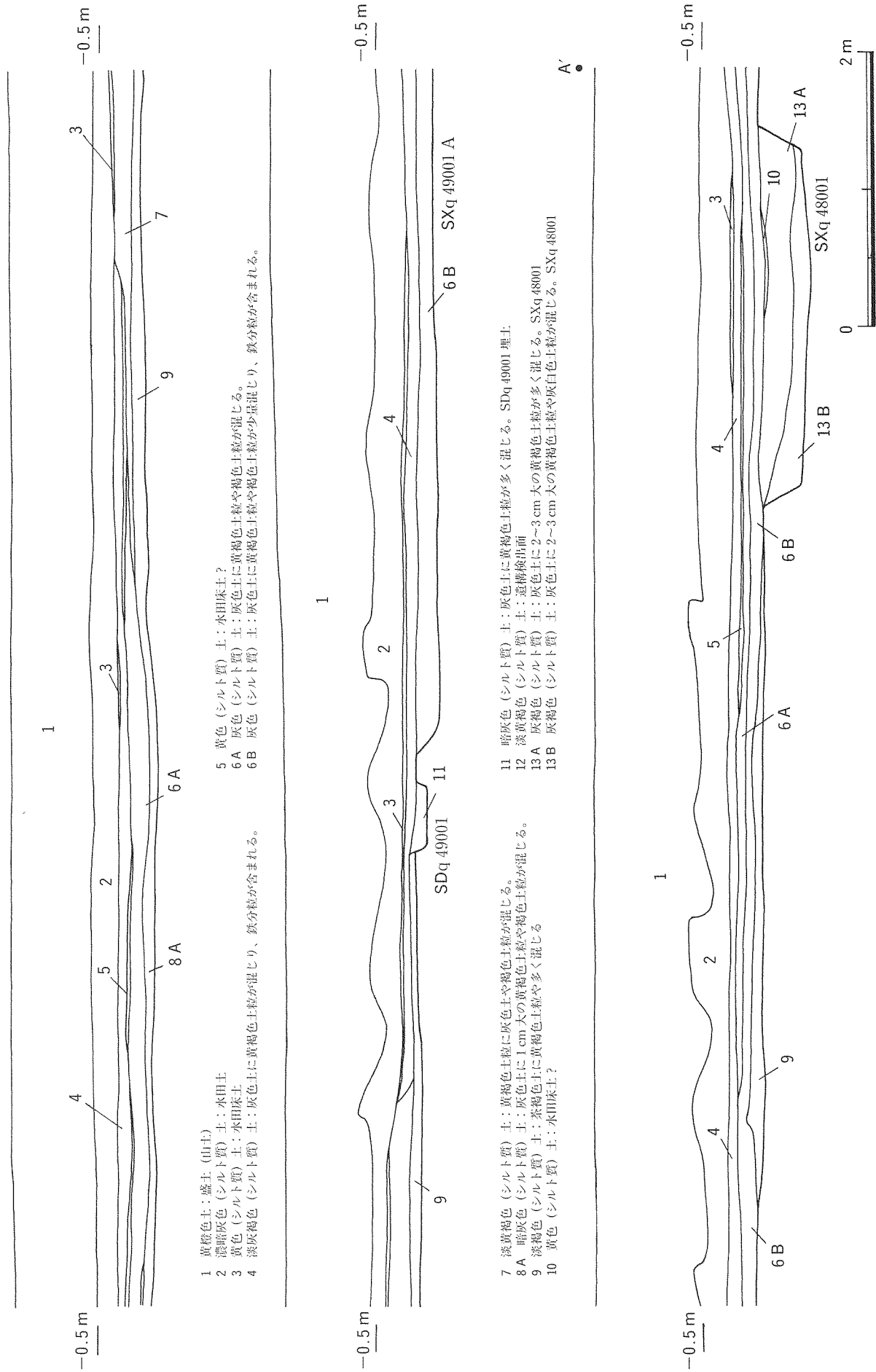
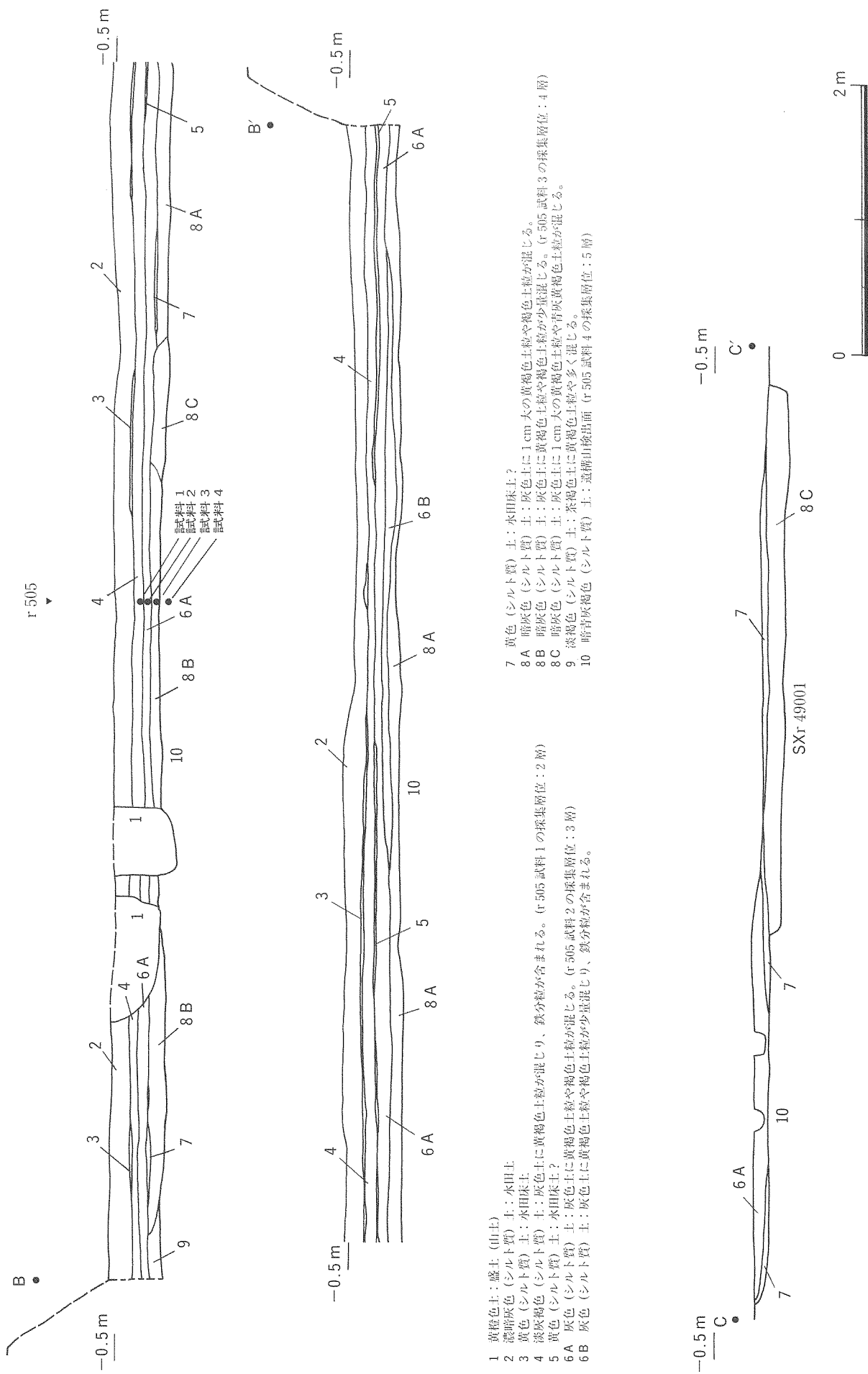


図 57 F 区 (A-A') 土層断面図 (No. 2)





- 1 黄褐色土：盛土（山土）
- 2 濃暗灰色（シルト質）土：水田土
- 3 黄色（シルト質）土：水田床土
- 4 淡灰褐色（シルト質）土：灰色土に黄褐色土粒が混じり、鉄分粒が含まれる。（r505 試料1の採集層位：2層）
- 5 黄色（シルト質）土：水田床土？
- 6 A 灰色（シルト質）土：灰色土に黄褐色土粒が少量混じり、鉄分粒が含まれる。（r505 試料2の採集層位：3層）
- 6 B 灰色（シルト質）土：灰色土に黄褐色土粒や褐色土粒が多く混じる。
- 7 黄色（シルト質）土：水田床土？
- 8 A 暗灰色（シルト質）土：灰色土に1cm大の黄褐色土粒や褐色土粒が混じる。
- 8 B 暗灰色（シルト質）土：灰色土に黄褐色土粒や褐色土粒が少量混じる。（r505 試料3の採集層位：4層）
- 8 C 暗灰色（シルト質）土：灰色土に1cm大の黄褐色土粒や青灰黄褐色土粒が混じる。
- 9 淡褐色（シルト質）土：茶褐色土に黄褐色土粒が混じる。
- 10 暗青灰褐色（シルト質）土：遺構山検出面（r505 試料4の採集層位：5層）

図58 F区 (B-B'・C-C') 土層断面図

SXR51001：長辺約 4.4 m、短辺約 3 m、深さ約 40 cm の方形状土坑。長軸東西方位は、N-3° -E を測る。埋土は、灰色土で、下層に鉄分粒が混じる。

SKR51501：長辺約 2.7 m、短辺約 1.25 m、深さ約 15 cm の方形状土坑。長軸南北方位は、N-87° -W を測る。

SXR52003：短辺約 1.4 m、深さ約 5 cm の方形状土坑。東側は、SXR51501 と重複する位置にあるが、その切り合いは不明瞭であった。

SXr48001：西側辺約 1.5 m が、標高-90 cm 程の青灰色土層面で検出され、発掘区外に広がる深さ約 5 cm の方形状土坑。北西隅が検出されるが、北側辺は不明瞭となっていた。

SXr48501：南側辺約 8.5 m、東側辺約 5 m が、標高-80 cm 程の黄褐色土層面で検出された。残存の深さ約 5 cm の水田と思われる。長軸東西方位は、N-88° -W を測る。

SXq49001A：西側辺検出長さ約 3.5 m、残存深さ約 5 cm の水田と思われ、発掘区北側外へ広がる。

SXq49001B：西側辺約 6.2 m が、標高-85 cm 程の黄褐色土層面で検出された。残存の深さ約 5 cm の水田と思われる。南北方位は、N-2° -E を測る。北側辺は、約 1.8 m が確認された。北側に SXq49001A があり、その間に幅 30 cm 程の黄褐色土が残存し、畦の痕跡と考えられる。西側も溝 (SDq49001A・SDq49001B) との間隔が 30 cm 程あり、畦状に黄褐色土が確認された。

SXr50001：東西辺約 3.5 m が、標高-85 cm 程の黄褐色土層面で検出された。残存の深さ約 5 cm の水田と思われる。長軸東西方位は、N-90° -W を測る。

SXq51001：東西辺約 5.5 m が、標高-85 cm 程の黄褐色土層面で検出された。残存の深さ約 5 cm の水田と思われる。長軸東西方位は、N-90° -W を測る。

SXq51501：東側辺約 7.5 m、西側辺約 4.5 m が、標高-80 cm 程の黄褐色土層面で検出された。南北方位は、N-3° -E を測る。残存の深さ約 8 cm、東西約 9.8 m の水田と思われる。

SXR51501：東西辺検出長さ約 9.5 m、西側辺検出長さ約 2 m が、標高-85 cm 程の黄褐色土層面で検出された。東西方位は、N-83° -W を測る。残存の深さ約 5 cm の水田と思われる。

SXR51502：東西辺約 6.6 m、東側と西側辺の検出長さ約 2 m が、標高-85 cm 程の黄褐色土層面で検出された。東西方位は、N-85° -W を測る。残存の深さ約 5 cm の水田と思われる。南側に、SXR51501 があり、その間に、黄褐色土と茶褐色土が混じりあう厚さ約 3 cm の土層が確認され、畦の痕跡と考えられる。

SXr52001：西側辺の検出長さ約 2.5 m が、標高-80 cm 程の黄褐色土層面で検出された。残存深さ約 4 cm の水田の痕跡と想定される。

SXq53001：西側辺の検出長さ約 4.3 m が、標高-80 cm 程の黄褐色土層面で検出された。

#### (1) F 区の遺物

SDr52001：須恵器、灰釉陶器、山茶碗片などが出土している。

SDr52501：土師器、山茶碗、古瀬戸、常滑窯甕、いぶし瓦片などが出土している。3 と 4 は加工円盤である。3 は常滑窯壺(甕)の胴部を、4 は近世染付皿片を加工している。

SDr52502：須恵器、灰釉陶器、山茶碗、近世陶器、近代磁器などが出土している。

SXR51001：尾張系山茶碗、施釉陶器などが出土している。

SXR51501：土師器、尾張系山茶碗、施釉陶器などが出土している。

SXR51502：須恵器、土師器、山茶碗、施釉陶器などが出土している。

SXR52003：山茶碗片などが出土している。

SXr48501：尾張系山茶碗、施釉陶器などが出土している。

SXR47501：土師器、山茶碗片などが出土している。

SXq51501：須恵器、土師器、山茶碗、施釉陶器、常滑・渥美製品、土錘（5）などが出土している。

水田・床土：須恵器、土師器、灰釉陶器、常滑製品、古瀬戸～近世の施釉陶器などが出土している。明治時代以降と思われる遺物も若干ある。1と2は、須恵器蓋である。1は、内側の口縁端部に段がつく。2は、口縁端部をくの字に折り返したものである。6の加工円盤は小皿の底部を加工している。

(12) F区のみとめ

近年まで使用された水田の床土の下に、水田跡と想定される方形状遺構の痕跡が確認されるが、全体に遺構密度が少ない。富田荘の方位に関連する遺構は、発掘区南側の近世頃の畦畔とその北側沿いのSDr52001や、N-83° -Wを測るSXR51501やN-85° -Wを測るSXR51502が検出されている。多くは、2～3度の方位を測るが、概ね土地割に制約を受けていたと思われる。また、発掘区北側の土層断面で、水田床土と想定される厚さ約1～2cmの黄褐色土が、2層残存する個所が部分的に観察されたため、方形状遺構がより古い水田跡の可能性も想定されるが、近年の水田化が進められたこと等により形状全体を確認できるものが少なく、規則性を明確に見出すことはできなかった。

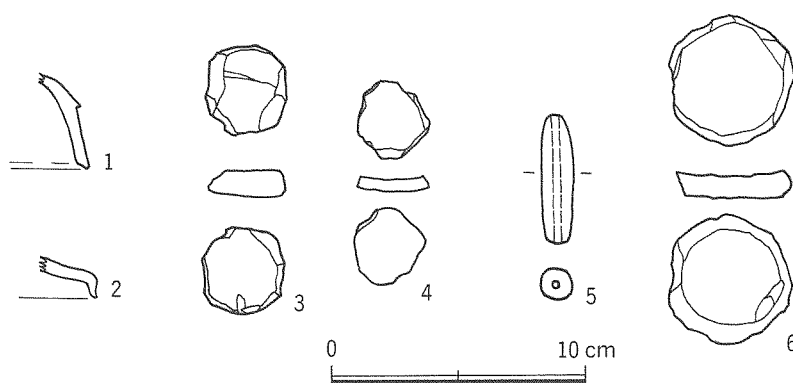


図 59 F区出土遺物

## 第IV章 おわりに

千音寺遺跡の調査では、中世の屋敷地・土坑・溝、近世以降の水田・道などが検出されている。遺構の時期について、山茶碗の型式からみると

- 1 碗A・皿Aを主に出土するもの
- 2 碗B・皿Bを主に出土するもの
- 3 碗D・皿Cを主に出土するもの に分けられる。

1は、A区 SKe42501・SKD39006・PD38501、

B区炭化物中・SKk39501・SKk39502・SEj38501・SKk38501・SEK38001・SDK37502・SDJ39501

(下層)・PK39501・PK39502

C区 SDo42001

E区 SKP56501

2は、A区 SKD38501・SDd37001

E区 SEO56001・SEP56001・SDn56001・SDn57001・Po57010・PP56503

2と3の間は、A区 SXd37002

E区 SKo55001・SKo55501

3は、A区 SDD37001 (下層)

B区 SXJ39005・SXL37502

E区 SKO57001・SKn54001・SKn54501・SKn54502

3までの間は、F区 SXR51001・SXR47501

3以降は、B区 SXk38001

1は、斎藤型式VII-3<sup>(註1)</sup>で12世紀後葉から13世紀初頭、小碗もみられ、伊勢型鍋(鍋A)、渥美・常滑製品、白磁玉縁碗が伴うことがある。(次頁の法量分布図では、口径16cm前後、器高5cm程度)

2は、同VIII-1・2で13世紀前葉から中葉、伊勢型鍋(鍋B)、常滑製品が伴うことがある。(次頁の法量分布図ではかなりバラつきがあるが、1に比べ口径は小さく、器高が高い)

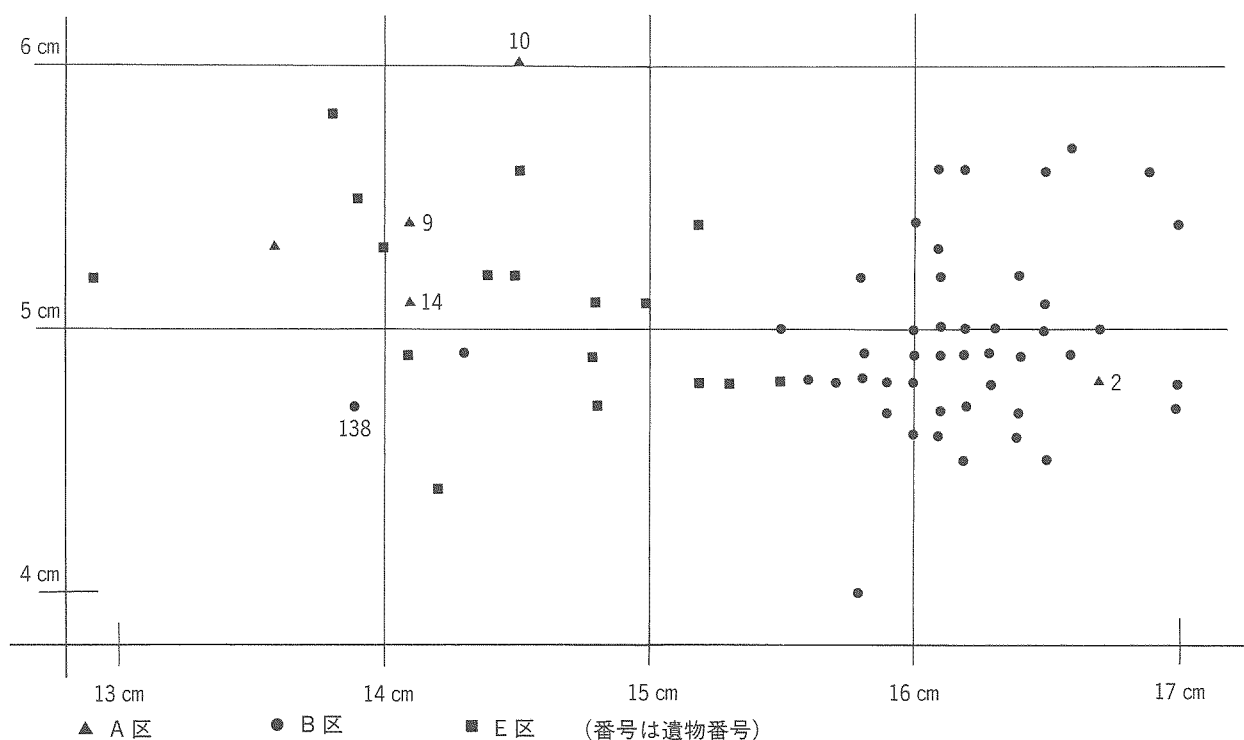
3は、碗の資料が少ないが、大畑大洞窯式新段階頃<sup>(註2)</sup>で、古瀬戸製品が伴い、特に折縁深皿が多くみられることから14世紀から15世紀前葉と思われる。SKP56502は時期のわかる山茶碗は出土していないが、天目茶碗からこの時期に該当する。

これらから、12世紀後半頃、B区に屋敷地がつくられ、まもなく、A・E区に土坑がつくられる。13世紀になるとB区の屋敷は機能しなくなり、西側のE区に溝が掘られ、建物が建てられ、A区には引き続き土坑がつくられる。13世紀の後半頃にはE区の屋敷地の溝は埋まり始め、A区では土坑の上などに土が堆積する。14世紀になるとE区では新たに土坑がつくられ、A区でも溝が掘られている。また、D区・F区の水田下にある方形遺構もこの頃には埋まったと思われる。その後、近世までの間に、周囲の水田化が進み、居住地域は別の場所に移っていく。B区の屋敷地の配置は、西側に建物、東側に井戸、東側に空地がある。一方、E区の屋敷地では、建物の配置がすべて確定できないが、東側には空地がないと思われる<sup>(註3)</sup>。屋敷地の連続性については推測の域を出ないが、B区では、東や南側には連続していない<sup>(註4)</sup>。E区

では北側に連続している可能性がある。鎌倉時代初期までは、散在する在家や名屋敷などが確認され、集村化現象は、中世に広範囲にわたって進行したものであるといわれる<sup>(註5)</sup>。大小さまざまな自然堤防上に分布していた在家などがより規模の大きな自然堤防上に分布したと考えると、B区・E区の屋敷地が散在する状態で、E区の土坑がつくられる時期に、土坑とあまり離れない周辺に集村したと想定することができる。延慶二(1309)年、台風による「逆浪」があったことが記録<sup>(註8)</sup>されており、おそらくこのあたりも大きな被害を受けたと想像できる。14世紀代の遺構は、復興後のもので、遺跡の北側にある大きな自然堤防上に集村が存在する可能性や、あるいは、千音寺村への集村もある<sup>(註6)</sup>。

遺構検出面の標高を比較すると、B区の屋敷地が標高-60 cm程、E区の屋敷地が標高-70 cm程であった。検出状況は、B区の屋敷地が島畑を掘り下げての検出であり、E区の屋敷地が近年まで使用された水田とその床土の下5 cm程を掘り下げての検出であった。また、A区の土坑は標高-55 cm程で検出されている。後世の土地利用により検出状況が異なるものの、残存状態での屋敷地が形成された面には、大きな標高差はない。一方、方形状遺構の検出面は、E・D・F区が標高-80 cm程である。富田荘付近の土壤調査の結果から、この地域では古代にいったん施行された条里地割がその後、度重なる洪水によって荒廃し、埋没しているといわれており、新家里から続く水田を想定し、調査区内の一部(D・E・F区)で、花粉分析、プラント・オパール分析を試みた。しかし、この地点では中世およびそれ以前の水田は確認できなかった。

島畑景観の形成時期は13世紀~14世紀頃と言われる<sup>(註7)</sup>。屋敷地は、島畑として残された位置に残存していた。調査区付近の島畑景観は、明治17年頃の「地籍図」から推測することができ、発掘調査でも、複



山茶碗(遺構内出土)の法量分布図

数の島畑が検出され、「地籍図」中の畑の位置に相当するものもある。検出された島畑には、①島畑を構成している土の中から中世の遺物が出土し、下層で遺構が検出されることから近世以前（中世）に遺構の上に土が堆積したもの、②更に近世には島畑の周囲に土を掻き揚げているもの（島畑の周囲の土から近世の遺物が出土する）、③屋敷地以前の微高地で屋敷地が機能しなくなった後も水田にはならなかったものがある。①や②の場合は、古い時代の自然堤防などではなく、洪水などによって堆積したいわば新しい時代の微高地が畑地などとして使われていたと考えられ、中世以降も幾度か旧庄内川の氾濫があり形成された可能性が高いと思われる。そのため土地利用についても、耕地は不安定な状態であり、水田ばかりでなく畠地が多くあり、荒地が広がるという状況のようである<sup>(註9)</sup>。

千音寺周辺は、中世の頃、どのような地域であったろうか。遺跡の範囲は、絵図に照らし合わせると、富田荘（新家里）の北側で北から西を流れる川に囲まれた位置になる。かつて、庄内川の主流は遺跡の北側を流れていたが、絵図が書かれた頃にはわずかに末流を保っていただけといわれる<sup>(註10)</sup>。このかつての庄内川の南側に大きな自然堤防が形成されている。「絵図にある千音寺・鳴山郷などの地名は、北・西側の隣接所領として記入されていると読むことができる。尾張平野において一二世紀後半より資料に顕われ、十三世紀以降急速に増加する「村」は、多くは条里地帯からはずれた河川沿い・街道沿いの自然堤防上または後背湿地上に成立している。」<sup>(註11)</sup>という。「鳴山郷」という名が書かれている位置から自然堤防の付近がこの郷の中心地とみることは妥当ではなかろうか。

中世荘園の条里地割が、『富田荘』『新家里』の北側にあたる、千音寺の一带にも施行されていたと断定できないが、富田荘の北境が人為的につくられていることや条里地割の方向に類似する数値の遺構があることなどから、条里に規制される地割がされていたことには違いはない。しかし、調査区全体を支配するものではなく、主に12世紀後半代につくられた屋敷地が該当する。13世紀代～15世紀にかけての間は、むしろ他の（水利や微高地などの自然条件）制約を受けていると考えられる。その後、水田化が広がる中で、新家里との境に水路が作られ水路付近では新家里と同じ方向の水田がつけられたと思われる。それはD区やF区の水田区画やA・B区の島畑は条里地割方向と類似し、特に、島畑A-1と島畑A-2は、その南北軸方位がN-5°-Eを、東西辺がそれぞれ9mと11mを測り、北側辺はほぼ直線上に位置していたことから推測される。

条里地割の施行を中世以前に見出すことはできなかったが、須恵器や灰釉陶器が出土しているため、周辺において平安時代からの生活があったことは推測できる。

（註1） 斎藤孝正 1988 「中世猿投寮の研究—編年に関する一考察—」 『名古屋大学文学部研究論集C I・史学34』

（註2） 藤澤良祐 1994 「山茶碗研究の現状と課題」 『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター

（註3） 柱穴状の遺構は、井戸近くまであることや溝が南に曲がるような形状をしていることから井戸の東近くが屋敷地の境と推測できる。なお、1990 中村徹也 「西国の村」『古代から中世へ』古代史復元10 講談社に「建物の規模は、平安期と室町期には2×2間（5.1～5.8坪）が最も多く、鎌倉期は3×3間（7.5坪）が多い。環濠家は鎌倉期に登場、溝の短辺は20、25、30メートル、坪10分の1、8分の1、6分の1の1区画に案分されている。屋敷内には主屋・納屋・倉庫などからなる数棟の掘立柱建物と井戸を有する。配置は、鎌倉期は屋敷地の北西半分建物に配し、南東半分を空地にする。室町期は南東半分建物と井戸を配し、北西半分を空地にしている。」とある。

- (註4) B区の屋敷地の東溝(SDK37502)より6mほど東に、同方向を向く溝(SDL37001)がある。両溝の間は固く締まった層であり、道とも思われたが、東の溝からは施釉陶器が出土しており、時期差がみられる。
- (註5) 1985 金田章裕 『条里と村落の歴史地理学研究 第四章 古代・中世の村落形態とその変遷』  
 1990 中村徹也 「西国の村」『古代から中世へ』古代史復元10 講談社に、「山口県下右田遺跡は、佐波川に沿った平地に展開する遺跡で、平安時代から室町時代(12世紀初頭~16世紀後半)にいたる中世期の集落が中心である。古代条里制の衰退とともに、条里区画への居住地の進出、条里地割に規制されつつ、農地を転用し、宅地化を進めていった中世期農村集落の典型的な例である。平安後期になると、東部と西部にそれぞれ2つずつの集落群が生まれる。集落間の距離は600メートル。2つの小村の間には、耕地をはさんで家屋が散在し、かなりの非耕地が存在していたと考えられている。鎌倉時代になると、条里の溝が再び深く掘りなおされている。耕地整備に力を入れ始め、条里と集落の関係はさらに前代の状況を拡大していく。集落の数はやや増えるが、家屋群は数を増し、耕地区画の中への進出は著しい。室町時代は、中核集落が登場する。環濠屋敷は数を増すが、環濠をもたない家屋群も2~3棟単位と小規模なものが急増し、小農の分離独立に拍車がかかる。
- (註6) E区の西側には福田川が流れ、E区との間に地籍図では島畑が広がっている。絵図にかかれている富田荘の建物の位置から、「14世紀前半頃は河道沿いのおそらく自然堤防的な微高地を求めて、各種の屋敷が三々五々と点在していたと考えられるのに対し、その後、いくつかの相対的に大きな自然堤防などへ屋敷が集中し、さらに戸数がいちじるしく増大して後に見られるような大規模な集村が実現したものと考えられることになる。」また、絵図に書かれた集落の中には現在まったく存在しないもの、あるいは、反対に絵図にない集落があるという。1985 金田章裕 『中世の村落』『講座考古地理学 4 村落と開発』
- (註7) 1985 金田章裕 『条里と村落の歴史地理学研究 第三章 条里プランと土地利用』に、尾張国の島畑の初見史料は、応永六年(1399)の「藤原安義等連署賣券」で、14世紀末以来尾張に島畑が存在、また、13世紀中頃の和歌山国においても島畑存在の可能性を留保すべき資料があり、一方、12世紀中頃の尾張国安食荘など12世紀代では島畑景観は推定できないことから、島畑については、13世紀~14世紀頃に島畑景観形成の起源があるといわれる。水がかりのよくない自然堤防の部分では水田の「地下」をして島畑が形成され、自然堤防の周辺部から後背湿地の部分においては水田の一部に土を掻き揚げて島畑が造成されたと考えられる。また、「14世紀末前後には、さまざまな畑作物がすでに徴税対象となっており、また土地利用も集約化して二毛作が行われていたと推定されるようになり、しかも畠が田と等しく評価されている例さえあった。島畑景観が出現したとしても、それが無理なく位置づけられるような状況であったといえよう。」とある。
- (註8) 1988 村岡幹生 『新修名古屋市史 第二巻』第四章 第二節 萱野の開発 に「海部郡大治町砂子の自性院の縁起に、絵図にある成願寺に関して「延慶二年七月十一日大風逆浪昼夜三日にして四海穏かならず、(中略)大浪申す限り無し、堂塔悉く打破たる事、微塵のごとし」という記述が見られる。」
- (註9) 1985 金田章裕 『条里と村落の歴史地理学研究 第三章 条里プランと土地利用』には「島畑の分布地について「地表の勾配が極めて緩やかであり、またこれらの地域には、自然堤防が発達していたかその他の理由によって、大体80センチメートル以下のわずかな起伏が存在する。さらに一般的には、水利事業の近代化以前は、水田の用水の不充分なところか、あるいは用水路の水位の低い地域であった」としている。」とある。また、安食荘の耕地の比率は33%、他の比率は21%とある。  
 1998 上村喜久子 『新修名古屋市史 第二巻』第一章第一節には、「12世紀後半の安食荘を例に見ると、自然堤防上は畑地、在家とよばれる住民の住居もこの自然堤防上に点在する。低湿地に水田が開かれているが、水田は、荘園のうち中心となる条里地域に限定しても半分以下の面積に過ぎない。これを上回る広さの畠があり、その大半は桑畠であった。低湿地の背後の極めて低い自然堤防をふくむ後背湿地には、若干の畠と在家がまばらにみられるが、多くは荒野であった。」とある。
- (註10) 1998 『新修名古屋市史 第二巻』第四章 第二節 萱野の開発 図4-3 庄内川下流域の微地形分類図

(註 11) 1986 上村喜久子 「絵図にみる富田荘の開発と形成」『研究記要 (第 24 号)』名古屋短期大学

## 参考文献

- 1967 『岩波講座 日本歴史 中世』岩波書店
- 1981 『名古屋市博物館常設展 尾張の歴史 展示解説III 中世』名古屋市博物館
- 1983 橋崎彰一 「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』愛知県教育委員会
- 1985 『考古地理学 4 村落と開発』学生社
- 1987 小山靖憲 『中世村落と荘園絵図』東京大学出版社
- 1989 『角川日本地名大辞典 23 愛知県』角川書店
- 1990 伊藤裕偉 「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history Vol. 1』三重歴史文化研究所
- 1990 松澤 勲 「濃尾平野の自然史地質」『東海の自然史』財団法人東海財団
- 1995 斎藤孝正 『須恵器集成目録 第 3 巻 東日本編』雄山閣出版株式会社
- 1995 中野晴久 「常滑・渥美」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編
- 1995 山本信夫 「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編
- 1995 『常滑焼と中世社会』小学館
- 1996 北村和宏 「尾張の「伊勢型鍋」」『鍋と甕のデザイン』第 4 回東海考古学フォーラム
- 1996 青木 修 「旭浄水場窯跡」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第 4 輯』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 1997 『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第 5 輯』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター



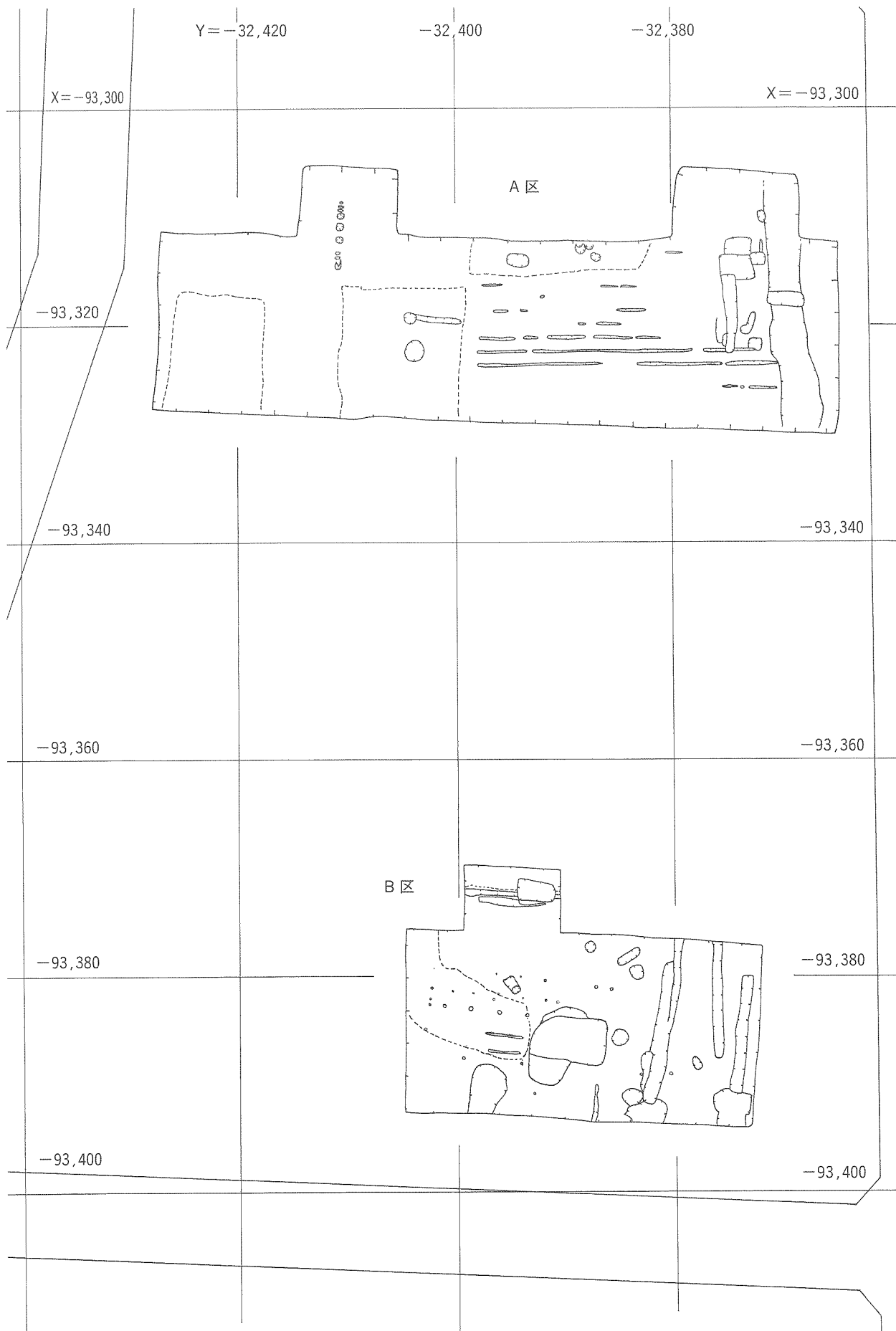


図 60 A・B区遺構概略図

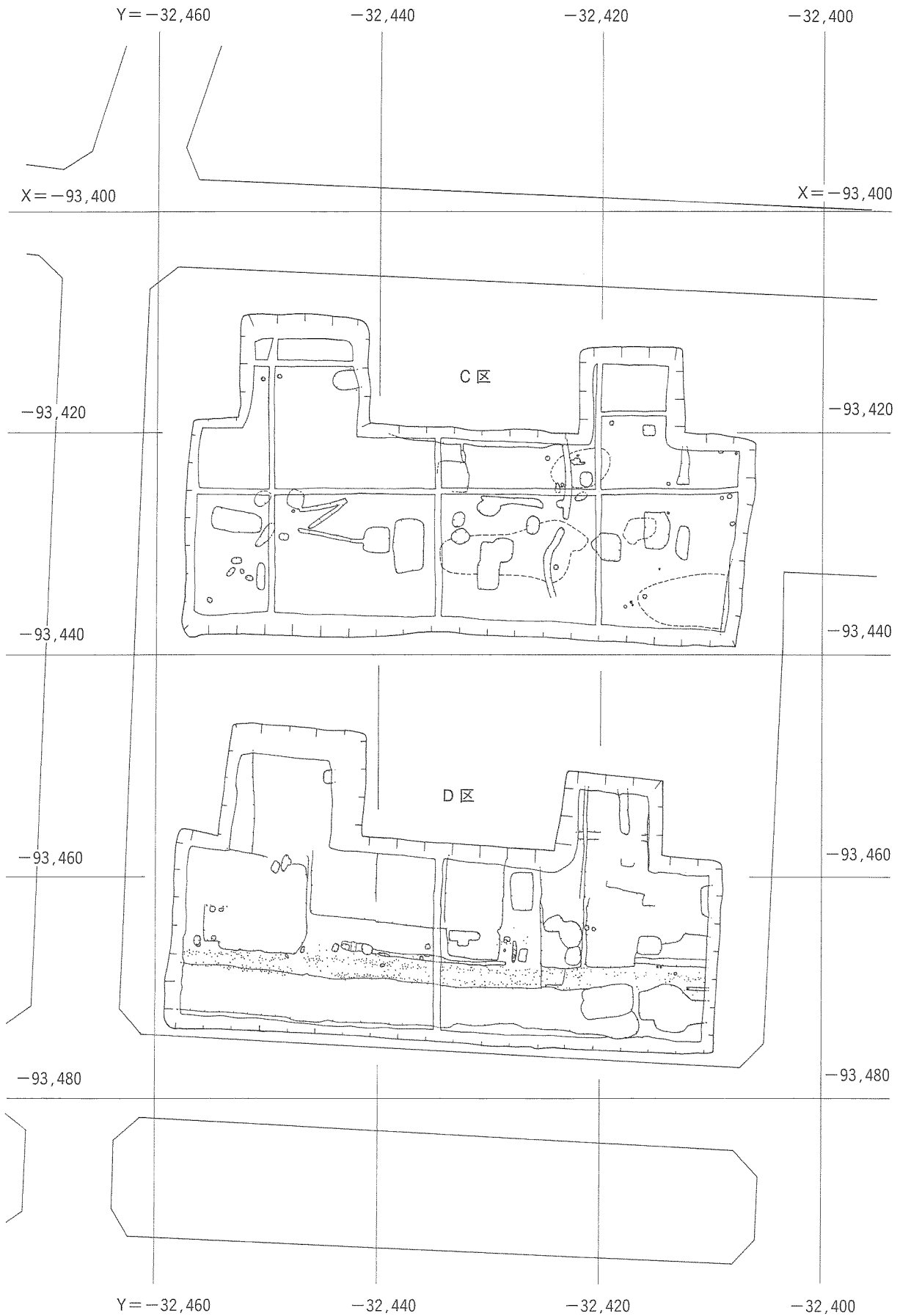


図 61 C・D区遺構概略図

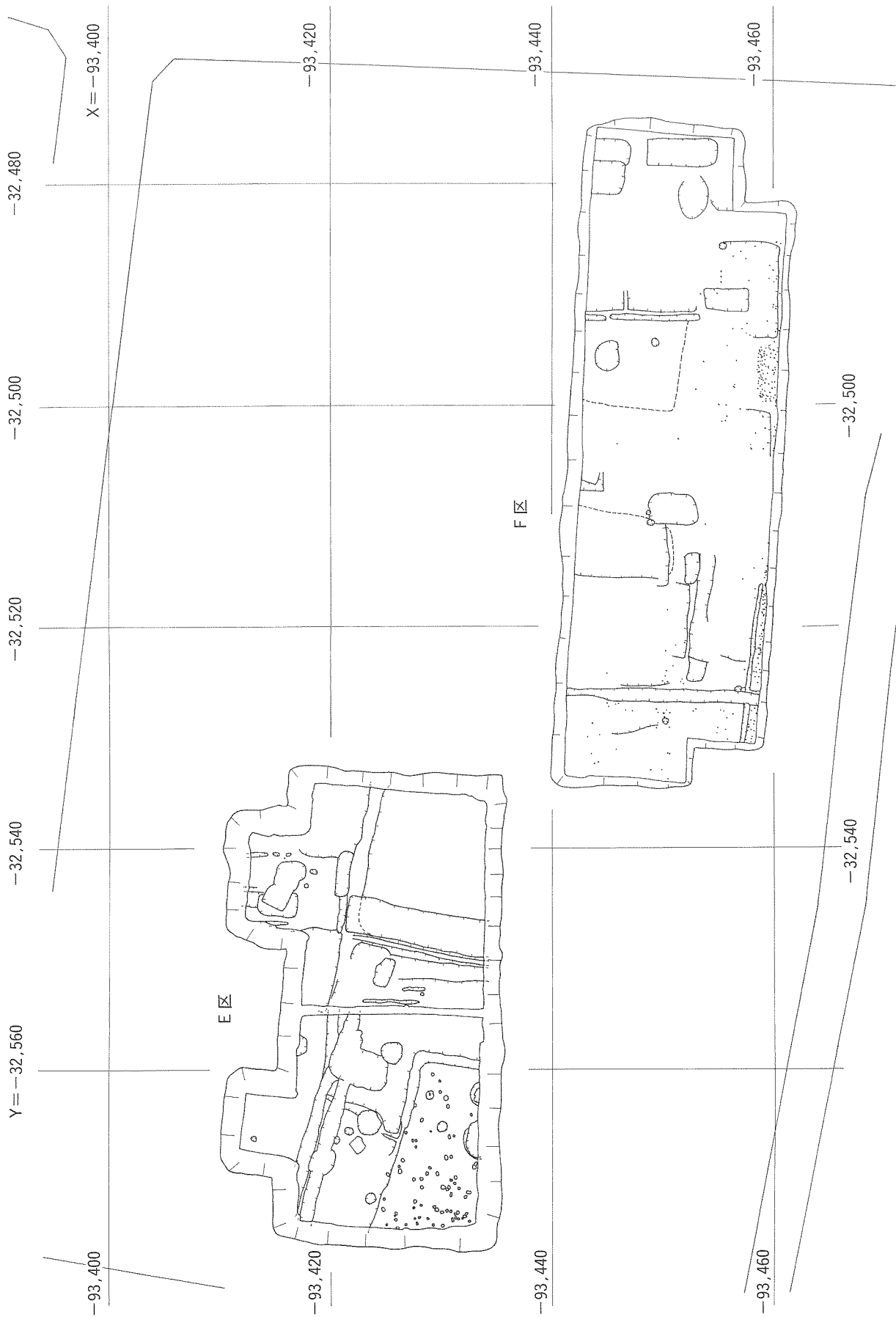


図62 E・F区遺構概略図

主な遺構一覧表

遺構番号 SE (E400) 01の (E400) はグリッドを示す。

(A区)

遺構番号	規模(cm)		備考
	長径	短径	
SEE40001	200	185	未掘
幅 深さ 方向			
SDD37001	310	20(北側)	N-4° -W 検出長さ約 22.5m
	350	15(南側)	
SDd37001	135	25(北側)	長さ約 7.2m
	80	25(南側)	N-2° -W
SDd40003	50	5	N-83° -W 検出長さ約 4.1m

長辺	短辺	深さ	長軸方向
SKc37001	115	65	10 N-11° -W
SKD37001	240	-	15 N-90° -W
SKD37002	120	115	25 N-0° -E
SKd36501	340	140	32 N-85° -W
SXd37002	300	240	35 N-87° -E
SKd37001	200	55	20 N-20° -E
SKE37001	100	70	10 N-82° -W
SKE37002	130	110	30 N-86° -W
SKE37501	110	-	20 N-11° -W
SKD38501	95	90	15 -
SKD39006	190	130	40 N-85° -W
SKD38502	-	60	6
SKd40002	120	110	60
SKc41001	65	60	30
SKc41002	65	60	25
SKc41003	40	25	10
SKD41001	75	65	30
SKD41002	75	65	15
SKD41003	180	55	20 N-4° -E

長辺	短辺	深さ
SXE37001	(500)	- 10

長辺	短辺	深さ
PD38001	(50)	- 10
PD38501	90	- 50
PD39001	60	55 5
PD39002	35	30 25
PE40502	60	52 30

(B区)

遺構番号	規模(cm)		長軸方向	備考
	長辺	短辺		
SB01	5.3	4.65	N-83° -W	柱間 2.65m 2間、柱間 4.65m 1間 PK39006, PK39502, PK39501, PK39001, PK39502
SA01	7	11.75	N-83° -W	PK39001, PK39003, PK39008, PK39504, PK39503, PK40001, PK40003
SA02	4	3.85	N-7° -E	PK40001, PK40005, PK40004, PK40003 (Pj40002)
SA03	3	3.75	N-83° -W	PK39501, PK40005, PK40006
SA04	5	10.8	N-82° -W	PK38503, PK38504, PK39004, PK39005, Pj39501 (Pj40003)

長径	短径
SEK38001	135 120
SEj38501	105 90

最大幅	最小幅	深さ	方向	備考
SDj37001	-	-	30 N-0° -E	検出長 4.2m
SDL37001	135	100	40 N-6° -E	長さ 11.2m
SDK37501	120	90	50 N-0° -E	検出長 11m
SDK37502A	90	55	20 N-6° -E	検出長 8m
SDK37502B	160	130	35 N-10° -E	検出長 13.5m
SDJ39501	90	60	30 N-86° -W	検出長 8.9m
SDJ39503	75	20	10 N-84° -W	長さ 6.2m
SDL38501	50	25	20 N-8° -E	検出長 3.3m
SDk39501	25	20	5 N-84° -W	長さ 3.7m
SDk39502	20	15	5 N-85° -W	検出長 3m

長辺	短辺	深さ	長軸方向
SKk37501	130	65	10 N-18° -W
SKj38502	235	80	20 N-57° -E
SKL38001	190	150	20 N-90° -E
SKL38002	350	-	25 N-90° -E
SKk38501	160	140	45
SKK39501	180	90	25 N-35° -W
SKk39501	-	210	10 N-25° -E
SKk39502	-	340	45 N-10° -E
SXL37501	360	190	20 N-82° -W
SXL37502	260	-	20 N-80° -W
SXk38501	670	410	70 N-85° -W
SXJ39005	360	180	60 N-80° -W
SXk39001	770	400	15 N-22° -E

長径	短径	深さ	備考
Pk38001	36	30	30
Pk38002	30	26	25
PK38503	40	30	15 PK38504 との間約 1.5m SA04
PK38504	35	30	10 PK39004 との間約 4.8m SA04
PK39004	26	24	10 PK39005 との間約 2.25m SA04
PK39005	18	16	15 Pj39501 との間約 2.25m SA04
Pj39501	20	18	15 Pj40002 との間約 6.0m SA04
Pj38501	22	20	15
PK38501	22	18	10
PK38502	25	25	20
PK38505	28	20	10
PK38506	15	12	8
PK38507	32	28	5
PK39001	26	24	10 PK39003 との間約 1.2m SA01
PK39003	22	20	10 PK39008 との間約 2.1m SA01
PK39008	20	20	10 PK39504 との間約 2.0m SA01
PK39504	25	-	20 PK39503 との間約 2.65m SA01
PK39503	22	20	20 PK40001 との間約 1.9m SA01
PK40001	28	25	25 PK40003 との間約 2.0m SA01
PK40003	30	28	30 PK40004 との間約 1.0m SA01・SA02
PK40004	25	20	30 PK40005 との間約 0.5m SA02
PK40005	30	20	25 PK40001 との間約 2.35m SA02・SA03
Pk40001	32	25	30 SA02
PK39006	45	30	20 PK39502 との間約 2.65m SB01
PK39502	45	45	30 PK39501 との間約 2.65m SB01
PK39501	40	45	30 PK40006 との間約 2.4m SB01・SA03
PK40006	30	30	30 PK40005 との間約 1.4m SA03
Pk39001	30	28	25 Pk39502 との間約 5.3m SB01
			PK39006 との間約 4.65m
Pk39502	28	35	25 PK39501 との間約 4.65m SB01
PL39001	24	22	20
PL39002	18	18	20
PK39007	22	20	10
PK39505	32	28	15

主な遺構一覧表

PK39506	25	30	30	Pj39501 との間約 2.4m
PK39507	20	15	25	
PK39508	20	18	5	
PK39509	28	26	15	
PK39510	25	20	20	
PK39511	15	15	15	
PK39501	28	22	30	
Pj40001	25	20	5	
Pj40002	15	15	10	PK40003 との間約 6.0m
Pj40003	10	10	15	Pj39501 との間約 2.0m
Pj40004	30	30	8	
Pj40005	16	10	15	

(C区)

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
SDp40501	-	-	10	N-7° -E	検出長約 6.0m
SDO41001	115	45	10	N-0° -E	検出長約 3.2m
SDO42001	60	-	15	N-0° -E	検出長約 6.8m
SDo42001	70	60	10	-	検出長約 6.5m
SDo42501	70	50	15	N-85° -W	検出長約 5.6m
SDO43001	40	30	5	N-6° -W	検出長約 1.8m
SDO43002	-	-	8	N-97° -W	検出長約 10m
SDo44001	40	35	5	N-78° -E	検出長約 4.4m
SDo44002	35	30	5	N-55° -E	長さ 4.2m
SDo44003	25	-	10	N-78° -W	検出長約 6.0m
SDo45001	80	-	10	N-50° -E	検出長約 2.5m
SDp45001	80	-	10	N-0° -E	検出長約 2.5m

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
SKo42001	110	-	15	N-67° -E	
SKo42002	-	75	15	N-85° -E	
SKP42501	220	170	25	N-0° -E	
SKo43001	229	160	20	N-90° -W	
SKn44001	-	180	10	N-80° -E	
SKo44501	150	150	10	N-18° -E	
SKo45001	160	120	10	N-52° -E	
SXo41501	330	230	20	N-0° -E	
SXP41501	250	200	5	N-0° -E	
SXP42501	420	200	10	N-0° -E	
SXO43001	-	-	30	N-0° -E	
SXP43501	470	270	10	N-0° -E	
SXP44001	240	220	15	N-0° -E	
SXo45001	450	200	10	N-80° -W	

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
PO40501	20	-	10		
Po40501	50	40	30		
Po40502	60	40	10		
Po40503	35	-	5		
Po41002	25	-	15		
PP41001	20	-	5		
Pn41501	40	-	15		
PP41501	40	-	15		
Pp41501	20	25	10		
Pp41502	15	-	10		
Pp41503	25	30	10		
PO42001	15	25	10		
PO42002	25	30	5		
PO42003	35	40	10		
Pn44501	35	40	5		
Po44501	35	30	10		
Po45002	95	60	10		
PP45001	70	50	5		
PP45002	35	45	5		
PP45003	100	45	5		

PP45004	85	60	10
Pp45001	50	45	10

(D区)

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
SDs41001	65	50	10	N-86° -W	検出長約 6.5m
SDs41002	25	-	5	N-89° -W	検出長約 1.8m
SDR41501	80	75	10	N-2° -W	検出長約 4m
SDs41501	35	30	5	N-4° -W	検出長約 1.8m
SDT42501	350	400	5	N-86° -W	検出長約 41m
SDs43501	55	30	5	N-84° -W	検出長約 15m
SXs43002	100	80	10	N-88° -W	検出長約 3m

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
SKs42003	170	140	30	N-2° -E	
SKs42004	250	200	10	N-8° -W	
SKs42005	180	140	10	N-65° -E	
SKs42501	120	70	10	N-10° -E	
SKs42502	55	45	10	N-85° -W	
SKs43001	100	-	15	N-86° -W	
SKs44401	90	45	10	N-6° -E	
SKR44001	130	-	10		

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
SXS41001	-	280	10	N-2° -W	
SXT41001	-	430	5	N-0° -E	
SXR41501	550	-	5	N-0° -E	
SXr41501	120	-	5	N-0° -E	
SXs41501	220	170	10	N-0° -E	
SXs41502	430	1150	5	N-2° -E	
SXT41501	460	290	20	N-3° -E	
SXT41502	260	-	10	N-0° -E	
SXs42001	380	1150	10	N-2° -E	
SXs42002	200	-	5	N-0° -E	
SXS42501	200	340	10	N-0° -E	
SXS43001A	520	-	5	N-5° -E	
SXS43001B	420	-	5	N-5° -E	
SXS43501A	590	-	8	N-3° -E	
SXS43501B	630	-	5	N-4° -E	
SXR44501	-	-	-		
SXS43501	920	-	5	N-3° -E	
SXR45001	-	-	5	N-0° -E	

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
Ps42502	20	20	5		
Ps43501	-	45	10		
Ps44001	70	40	10		
Ps44501	65	35	5		
Ps45001	45	40	5		
Ps45501	90	65	5		

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
SA01	5~10	15~		N-86° -W	幅 1.2~1.5m 畦畔の杭跡

(E区)

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
SB02	4.8	2.65		N-78° -W	柱間 2.65m・2.15m2 間 柱間 2.65m1 間 PP56501, PP56504, PP57016, PP57008, Po57002, PP57012

遺構番号	規模(cm)			方向	備考
	最大幅	最小幅	深さ		
SDN54001	38	30	5	N-0° -E	検出長約 1.5m
SDN54501	38	30	5	N-0° -E	検出長約 2.1m

主な遺構一覧表

遺構番号	長径	短径	深さ	検出長約	方向	備考
SDo55503	30	25	5	N-0°	-E	検出長約 2m
SDo55004	30	25	5	N-0°	-E	検出長約 5m
SDN54502	140	-	5	N-6°	-E	検出長約 1.1m
SDO54501	70	40	5	N-84°	-W	検出長約 3.4m
SDn56001	130	100	25	N-75°	-W	検出長約 19m
SDn57001	150	100	30	N-75°	-W	検出長約 13m
SEO56001	230	200	-	-	-	
SEP56001	200	-	30	-	-	
SKn54001	270	-	5	N-0°	-E	
SKn54002	-	230	5	N-62°	-W	
SKn54501	350	220	5	N-7°	-E	
SXO54001	400	120	10	N-84°	-W	
SKo55001	270	150	15	N-67°	-W	
SXn55501	180	-	5	-	-	
SKo55501	180	-	40	-	-	
SXO56001	630	340	15	N-18°	-E	
SKO56501	80	60	15	-	-	
SKO56502	60	45	45	-	-	
SKP56501	340	-	35	-	-	
SKP56502	100	85	35	-	-	
SXn56501	250	200	30	N-63°	-W	
SKO57001	90	-	40	-	-	
SXO53501	650	500	20	N-77°	-W	
SXP54001	1320	1130	15	N-12°	-E	
SXO54501	320	1280	15	N-12°	-W	
SXn55001	700	400	20	N-78°	-W	
SXo55001A	900	1200	10	N-8°	-E	
SXo55001B	650	-	10	-	-	
SXo56501	800	800	10	N-78°	-W	
SXo56502	850	-	15	N-72°	-W	
Po56001	32	24	20	-	-	
Po56002	24	24	8	-	-	
Po56003	20	18	5	-	-	
Po56004	28	22	12	-	-	
Po56005	16	20	24	-	-	
Po56006	24	20	12	-	-	
PP56001	36	30	15	-	-	
PP56002	25	22	5	-	-	
PP56003	48	46	12	-	-	
Po56501	26	22	10	-	-	
Po56502	20	26	22	-	-	
Po56503	20	18	18	-	-	
Po56504	30	25	15	-	-	
Po56505	25	20	30	-	-	
Po56506	34	28	30	-	-	
Po56507	24	20	18	-	-	
Po56508	36	25	18	-	-	
Po56509	28	25	20	-	-	
Po56510	30	24	28	-	-	
Po56511	12	10	16	-	-	
Po56512	22	20	22	-	-	
Po56513	30	22	15	-	-	
Po56514	38	30	18	-	-	
PP56501	42	36	30	-	-	PP56504 との間約 2.65m SB02 PP57012 との間約 2.65m
PP56502	28	26	22	-	-	
PP56503	35	30	50	-	-	山茶碗出土
PP56504	40	26	45	-	-	PP56501 との間約 2.65m SB02
PP56505	46	26	20	-	-	PP57016 との間約 2.65m
PP56506	18	18	20	-	-	
PP56507	26	24	25	-	-	
PO57001	44	36	20	-	-	
PO57002	20	18	12	-	-	
PO57003	20	14	20	-	-	
Po57001	32	28	22	-	-	
Po57002	40	30	20	-	-	PP57008 との間約 2.65m SB02 PP57012 との間約 2.15m
Po57003	24	22	14	-	-	
Po57004	28	24	10	-	-	
Po57005	26	24	22	-	-	
Po57006	30	18	8	-	-	
Po57007	24	18	18	-	-	
Po57008	35	28	16	-	-	
Po57009	24	22	14	-	-	
Po57010	28	26	12	-	-	
Po57011	28	-	30	-	-	
Po57012	24	18	20	-	-	
Po57013	12	10	10	-	-	
Po57014	26	24	10	-	-	
Po57015	28	22	5	-	-	
PP57001	36	28	40	-	-	
PP57002	32	24	16	-	-	
PP57003	28	24	17	-	-	
PP57004	22	22	10	-	-	
PP57005	36	22	34	-	-	
PP57006	22	18	22	-	-	
PP57007	20	20	8	-	-	
PP57008	32	28	12	-	-	Po57002 との間約 2.65m SB02 PP57016 との間約 2.15m
PP57009	28	20	10	-	-	
PP57010	40	24	16	-	-	
PP57011	34	26	28	-	-	
PP57012	45	36	35	-	-	PP56501 との間約 2.65m SB02 PP57016 との間約 2.65m Po57002 との間約 2.15m
PP57013	36	28	24	-	-	
PP57014	22	24	10	-	-	
PP57015	28	26	30	-	-	
PP57016	46	30	20	-	-	PP57012 との間約 2.65m SB02 PP56504 との間約 2.15m PP57008 との間約 2.15m
PP57017	24	22	20	-	-	
PP57018	35	28	10	-	-	
PP57019	16	14	4	-	-	
PP57020	28	26	8	-	-	
PP57021	28	24	28	-	-	
PP57022	26	26	25	-	-	

(F区)						
遺構番号	規模(cm)			方向	備考	
	最大幅	最小幅	深さ			
SDq49001A	60	50	10	N-2°	-E 検出長約 8.2m	
SDq49001B	50	40	10	N-2°	-E 検出長約 1.8m	
SDQ50501	80	40	5	N-3°	-E	
SDr52501	120	50	25	N-2°	-E 検出長約 18.5m	
SDr52001	40	30	10	N-84°	-W 検出長約 14.5m	

遺構番号	長径	短径	深さ	備考
SXq48001	-	300	25	N-4° -E
SXq48002	-	250	5	N-2° -E
SXR47501	630	250	5	N-3° -E
SKR48001	400	270	10	-
SXR49001	400	200	10	N-4° -E

主な遺構一覧表

	東西辺	南北辺	深さ	長軸方向	備考								
SKq49501	260	220	10	-									
SXR51001	440	300	40	N-3° -E									
SKR51501	270	125	15	N-87° -W									
SXR52003	-	140	5	-	長辺検出長約2m								
SXR48001	-	150	5	N-2° -E									
SXR48501	850	500	5	N-88° -W									
SXR50001	350	-	5	N-90° -W									
SXq49001A	-	350	5	N-0° -E									
SXq49001B	-	620	5	N-2° -E									
SXq51001	550	-	5	N-90° -W									
SXR50001	350	-	5	N-90° -W									
SXq51501	980	-	8	N-3° -W									
SXR51501	950	-	5	N-83° -W									
SXR51502	660	-	5	N-85° -W									
SXR52001	-	-	4	-	西側辺検出長約2.5m								
SXq53001	-	-	4	-	西側辺検出長約4.3m								



主な遺物一覧表

区番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	径高 指数	長径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺構名
A 1	羽釜								SKe42501
A 2	山茶碗	16.7	4.8	7.5	28.7				SKD39006
A 3	小皿	8.3	2.1	4.3	25				SKD39006
A 4	白磁碗			5.6					SKD39006
A 5	土師器鍋								SKD39006
A 6	土師器鍋								SKD39006
A 7	加工円盤					2.1	1.6	8.5	SKD39006
A 8	加工円盤					2.6	1.4	8.3	SKD39006
A 9	山茶碗	14.1	5.4	6.4	38.3				SKD38501
A 10	山茶碗	14.5	6	6.3	41.4				SKD38501
A 11	山茶碗								SKD38501
A 12	小皿								SKc37001
A 13	山茶碗			6.6					SKD37002
A 14	山茶碗	14.1	5.1	6	36.2				SDd37001
A 15	山茶碗			6.2					SDd37001
A 16	小皿			3.6					SDd37001
A 17	小皿	6.9	1.7	4.6	24.6				SDd37001
A 18	小皿	7.6	1.7	4.7	22.4				SDd37001
A 19	小皿	7.8	1.5	5.2	19.2				SDd37001
A 20	短頸壺	10.4							SDd37001
A 21	土師器鍋								SDd37001
A 22	土鍾					1.1	3.3		SDd37001
A 23	土鍾					4	0.9	3	SDd37001
A 24	山茶碗	13.6	5.3	5.9	39				SXd37002
A 25	山茶碗			6.6					SXd37002
A 26	小皿	8	1.7	5.2	21.2				SXd37002
A 27	小皿			4.9					SXd37002
A 28	土鍾								SXd37002
A 29	土鍾	3.5	5					48	SXd37002
A 30	加工円盤					2.4	1.4	9	SXd37002
A 31	加工円盤					2.5	1.4	8.9	SXd37002
A 32	加工円盤					2.2	1.3	6.1	SXd37002
A 33	加工円盤					2.5	1	9.1	SXE37001
A 34	加工円盤					2.5	0.9	4.8	SXE37001
A 35	加工円盤					2.7	1.5	12.4	SXE37001
A 36	加工円盤					3.6	1.1	13.6	PD38001
A 37	小皿	8.7	2.5	4.7	28.7				PD38501
A 38	加工円盤					3.5	0.7	8	PD38501
A 39	土師器鍋								SDe37001
A 40	土師器鍋								SKc41001
A 41	山茶碗			7.7					SDD37001
A 42	山茶碗			6.8					SDD37001
A 43	山茶碗			6					SDD37001
A 44	小皿	7.9	1.8	4.5	22.8				SDD37001
A 45	加工円盤					2	1	5.3	SDD37001
A 46	加工円盤					3.1	1.4	15.4	SDD37001
A 47	ねり鉢								SDD37001(上)
A 48	陶丸					2.1		9.8	SDE40501
A 49	加工円盤					2	1.4	6.3	SDE40501
A 50	播鉢								SDE40501
A 51	灰釉皿			6.7					島畑 A-1(東)褐
A 52	山茶碗			6.4					島畑 A-1d415
A 53	山茶碗	14.3	5.2	6.4	37				島畑 A-1(東)褐
A 54	山茶碗			7.9					島畑 A-1e425 灰
A 55	小皿			4					島畑 A=1(東)褐
A 56	鉢								島畑 A-1E420
A 57	白磁碗								島畑 A-1
A 58	播鉢								島畑 A-1
A 59	播鉢								島畑 A-1
A 60	播鉢								島畑 A-1e425 灰
A 61	碗			5.2					島畑 A-1e425 灰
A 62	碗			4					島畑 A-1e425 灰
A 63	加工円盤					2.6	1.7	14	島畑 A-1E425
A 64	加工円盤					3.7	0	5	島畑 A-1
A 65	加工円盤					2.2	1.1	8.6	島畑 A-1d420
A 66	加工円盤					1.9	1.1	4.1	島畑 A-1
A 67	加工円盤					2.9	1.3		島畑 A-1
A 68	加工円盤					3.1	0.5		島畑 A-1e420
A 69	加工円盤					2.9	0.6	8.9	島畑 A-11e425 灰
A 70	加工円盤					2	0.7	5	島畑 A-1E415

区番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	径高 指数	長径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺構名
A 71	加工円盤					2.3	0.7	3.4	島畑 A-1
A 72	土鍾							1.2	島畑 A-1e425 灰
A 73	加工円盤					2.3	0.8	5.7	SXE42007
A 74	加工円盤					2.7	0.9	9.9	SXE42004
A 75	灰釉皿			7.2					島畑 A-2(東)褐
A 76	山茶碗	16.4							島畑 A-2 褐
A 77	山茶碗			8					島畑 A-2 褐
A 78	山茶碗			6.5					島畑 A-2(東)褐
A 79	山茶碗			5.6					島畑 A-2(東)褐
A 80	山茶碗			3.6					島畑 A-2(東)褐
A 81	小皿	8.3	2.2	4	26.5				島畑 A-2e400 茶褐
A 82	小皿	7.6	1.8	4.2	24				島畑 A-2
A 83	小皿			4.2					島畑 A-2(東)褐
A 84	小皿	7.6	1.6	5.4	21				島畑 A-2(東)褐
A 85	土師器鍋								島畑 A-2
A 86	加工円盤					2.1	0.5	4.1	島畑 A-2
A 87	皿			7.5					SXe40501
A 88	加工円盤					2.1	1.3	6.6	SXE40001
A 89	山茶碗			7.4					島畑 A-3
A 90	山茶碗			8					島畑 A-3D390 茶褐
A 91	山茶碗			7.9					島畑 A-3
A 92	山茶碗			6.9					島畑 A-3 褐
A 93	山茶碗			7					島畑 A-3
A 94	小皿	7.8	1.6	4.8	20.5				島畑 A-3
A 95	小皿			3.9					島畑 A-3
A 96	小皿			4.4					島畑 A-3 茶褐
A 97	伊勢型鍋								島畑 A-3
A 98	土鍾					5.3	3.1		島畑 A-3Dd385
A 99	加工円盤					2.3	1.1	9.1	島畑 A-3
A 100	加工円盤					2.2	1.5	8.6	島畑 A-3
A 101	加工円盤					2.2	1.6	8.8	島畑 A-3
A 102	加工円盤					1.9	1.4	6.5	島畑 A-3
A 103	加工円盤					1.9	0.8		島畑 A-3
A 104	加工円盤					1.8	0.8	3.9	島畑 A-3
A 105	須恵器蓋								水田 E390
A 106	須恵器蓋								水田 e370375
A 107	須恵器蓋								水田 E390
A 108	灰釉皿								水田 d420
A 109	灰釉碗			6.7					水田 d410
A 110	山茶碗			6.8					E390
A 111	小碗			4.4					床土
A 112	小皿			3.8					水田 D405410
A 113	小皿	7.8	1.6	4.9	20.5				床土
A 114	折縁中皿	18.4							床土 c370d370
A 115	白磁碗								水田
A 116	伊勢型鍋								水田
A 117	土鍾					5			床土 E370375
A 118	土鍾					4.4			床土
A 119	土鍾					4.3	1	4.6	水田
A 120	土鍾					4.3	1	4.8	水田 d420
A 121	土鍾							1.3	床土 c370D370
A 122	不明								水田
A 123	灯明皿			4					水田 d395
A 124	加工円盤					2.4	1.2	6.7	水田
A 125	加工円盤					2	0.9	7.9	E410 西
A 126	加工円盤					2.4	0.9	7.7	床土 D370375
A 127	加工円盤					2.3	0.7	3.8	水田
A 128	加工円盤					2.9	1.2	13.2	水田
A 129	加工円盤					2.1	0.9	5.9	水田
A 130	加工円盤					3.1	1	16.8	床土 D370375
A 131	加工円盤					2.9	0.4	4.7	水田
A 132	加工円盤					3.5	0.8	16	水田 e370375
A 133	加工円盤					2.5	0.6	7.5	水田 D415
A 134	加工円盤					2.3	0.9	9	水田 cD405
A 135	加工円盤					1.6	0.6	2.3	水田
A 136	加工円盤					2.2	0.8	4.1	水田
A 137	加工円盤					2.4	0.5	6.6	水田 e365
A 138	加工円盤					2.6	0.5	3.9	水田
A 139	加工円盤					1.9	0.7	4.5	水田 E415
A 140	加工円盤					3.6	0.8	13.2	水田



主な遺物一覧表

区番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	径高 指数	長径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺構名
A 141	火打石					2.1	1.2	8.3	水田
A 142	火打石					2.9	0.9	8.9	E425 灰
A 143	火打石					3.1	1.1	8.6	水田 d420
A 144	火打石					2.7	1.3	15	水田 E415
B 1	山茶碗	17.5	5.5	8.4	31.4				烏畑 B-1
B 2	山茶碗			7.6					烏畑 B-1
B 3	山茶碗			7.3					烏畑 B-1
B 4	小碗	10.7	3.3	5.7	30.8				烏畑 B-1
B 5	山茶碗	16.5	5	7.1	30.3				炭化物
B 6	山茶碗	15.6	4.8	7.5	30.8				炭化物
B 7	山茶碗	16.4	5.2	8.8	31.7				炭化物
B 8	山茶碗			8					炭化物
B 9	山茶碗			8.6					炭化物
B 10	山茶碗			8.3					炭化物
B 11	小碗	9	2.7	5.2	30				炭化物
B 12	小碗	8.8	2.6	5	29.5				炭化物
B 13	白磁碗			6					炭化物
B 14	山茶碗	16.4	4.6	7.5	28				炭化物
B 15	山茶碗	16.5	4.6	8	27.9				炭化物
B 16	山茶碗	15.3	4.7	7.4	30.7				炭化物
B 17	山茶碗	15.8	4.2	8	26.6				炭化物
B 18	小皿	8.6	2.1	4.6	24.1				炭化物
B 19	山茶碗			7.6					炭化物
B 20	小皿			3.8					炭化物
B 21	壺								炭化物
B 22	土師器鍋								炭化物
B 23	加工円盤					2.2	0.9	6.9	炭化物
B 24	加工円盤					2	1.4	7.7	炭化物
B 25	山茶碗	16.4	4.6	8.6	28				SKk39501
B 26	小皿	7.8	2.5	4.4	32				SKk39501
B 27	小皿	8.4	2.5	4	29.8				SKk39501
B 28	小皿	8.5	2.5	4.9	29.4				SKk39501
B 29	小皿	8.9	2	5	22.5				SKk39501
B 30	小皿	8.9	2.1	4.5	23.6				SKk39501
B 31	小皿			4.3					SKk39501
B 32	壺			12.1					SKk39501
B 33	壺								SKk39501
B 34	壺(甕)			12.4					SKk39501
B 35	山茶碗	15.5	5	9.2	32.3				SKk39501(下)
B 36	小皿			4.4					SKk39501
B 37	小皿	8.8	2.3	4.1	26.1				SKk39501
B 38	壺	12.4							SKk39501
B 39	不明								SKk39501
B 40	山茶碗	16.1	5.6	7.7	34.8				SKk39502
B 41	山茶碗	16.5	5.6	7.9	33.9				SKk39502
B 42	山茶碗	16.5	4.5	7.1	27.3				SKk39502
B 43	山茶碗	16.5	5.1	9.1	30.9				SKk39502
B 44	山茶碗	16.2	4.9	8	30.2				SKk39502
B 45	山茶碗	16.5	5.7	8	34.5				SKk39502
B 46	山茶碗	16.1	4.9	8.6	30.4				SKk39502
B 47	山茶碗	16.1	5.3	7.6	32.9				SKk39502
B 48	山茶碗	16	5	8.3	31.3				SKk39502
B 49	山茶碗	16.2	4.5	7.9	27.8				SKk39502
B 50	山茶碗	16.4	4.9	9	29.9				SKk39502
B 51	山茶碗	16.3	5	8.8	30.7				SKk39502
B 52	山茶碗	16.3	4.8	7.8	29.4				SKk39502
B 53	山茶碗	17	4.7	8.7	27.6				SKk39502
B 54	山茶碗			7.6					SKk39502
B 55	小皿	8.2	2.1	4.1	25.6				SKk39502
B 56	小皿	8.4	1.9	4.6	22.6				SKk39502
B 57	小皿	8.9	2	5.4	22.5				SKk39502
B 58	小皿	7.8	2.1	3.5	28.2				SKk39502
B 59	小皿	8.8	2.2	5.3	25				SKk39502
B 60	土師器甕	17.2							SKk39502
B 61	土師器鍋	17.5							SKk39502
B 62	土師器鍋	19.7							SKk39502
B 63	山茶碗	16.7	5	8.2	29.9				SKk39502
B 64	山茶碗	15.7	4.8	8.1	30.6				SKk39502
B 65	山茶碗	16.2	4.9	8.6	30.2				SKk39502
B 66	山茶碗			8.3					SKk39502
B 67	山茶碗			8					SKk39502
B 68	山茶碗			9					SKk39502
B 69	小碗	8.7	2.8	4.8	32.2				SKk39502

区番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	径高 指数	長径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺構名
B 70	小皿	8.8	2.5	4.3	28.4				SKk39502
B 71	加工円盤			2.3		2.1	1.3	7.2	SKk39502
B 72	加工円盤			2.6		2.2	1.3	8.9	SKk39502
B 74	山茶碗	15.8	4.9	7.8	31				SEj38501
B 76	山茶碗	16	4.6	8.1	28.8				SEj38501
B 75	山茶碗	15.8	4	8.2	25				SEj38501
B 77	山茶碗	16	4.6	8	28.8				SEj38501
B 79	山茶碗	16.9	5.6	8.9	33.1				SEj38501
B 78	山茶碗	16.5	5.1	8.5	30.9				SEj38501
B 80	山茶碗	16.2	4.9	8.5	30.2				SEj38501
B 82	山茶碗	16.2	4.7	7.4	29				SEj38501
B 81	山茶碗	16.1	5.2	8.8	32.3				SEj38501
B 73	山茶碗	18.1	6.5	8.5	35.9				SEj38501
B 83	山茶碗			7.9					SEj38501
B 84	山茶碗			8.5					SEj38501
B 85	山茶碗			8.3					SEj38501
B 86	山茶碗			8					SEj38501
B 87	小皿	7.6	2.3	4	30.3				SEj38501
B 88	小皿	8.7	2.1	4.4	24				SEj38501
B 89	土師器皿	8	1.9	4.4					SEj38501
B 91	山茶碗	15.8	4.8	6.6	30				SEj38501
B 92	山茶碗	16.1	4.7	8	29.2				SEj38501
B 90	土師器皿	7.6	2	4.2					SEj38501
B 93	加工円盤					1.3	1	5.1	SEj38501
B 94	甕(壺)			13.2					SKk38501
B 95	皿			7.8					SEK38001
B 96	山茶碗	16	4.8	8.1	30				SEK38001
B 97	山茶碗	16.2	5	7.7	30.9				SEK38001
B 98	山茶碗	17	5.4	8.5	31.8				SDJ39501
B 99	山茶碗			7.6					SDJ39501 一括
B 100	山茶碗			8.7					SDJ39501 下層
B 101	山茶碗			7.7					SDJ39501 一括
B 102	山茶碗			7.4					SDJ39501 下層
B 103	小皿	8.3	2.1	4.2	25.3				SDJ39501 一括
B 104	甕(壺)								SDJ39501 一括
B 105	壺								SDJ39501 下層
B 106	山茶碗	15.8	5.2	8.3	32.9				SDJ39501 上層
B 107	山茶碗	16.4	4.7	7.1	28.7				SDJ39501 上層
B 108	山茶碗			8					SDJ39501 上層
B 109	山茶碗			8.3					SDJ39501 上層
B 110	碗			4.8					SDJ39501 上層
B 111	山茶碗	14.3	4.9	6.1	34.5				SDK37502
B 112	山茶碗	16	5.4	8.4	33.8				SDK37502
B 113	山茶碗	16.1	4.6	7.4	28.6				SDK37502
B 114	山茶碗	15.9	4.7	7.5	29.6				SDK37502
B 115	山茶碗	15.9	4.8	8.5	30.2				SDK37502
B 116	山茶碗	17	4.8	8.2	28.2				SDK37502
B 117	山茶碗	16.1	5	8.4	31.1				SDK37502
B 118	山茶碗	16.6	4.9	8.5	29.5				SDK37502
B 119	山茶碗	16.2	5.6	8.4	34.6				SDK37502
B 120	小皿	8.3	2.2	4.8	26.5				SDK37502
B 121	小皿	8.3	2.4	4.4	28.9				SDK37502
B 122	小皿	7.8	2.2	4.2	28				SDK37502
B 123	小皿	8	2.3	4.9	28.8				SDK37502
B 124	小皿	8.3	2.1	4.2	25.3				SDK37502
B 125	鉢	30.4	13.5	13.4					SDK37502
B 126	土師器皿	7.7	1.7	4.5					SDK37502
B 127	山茶碗	16	4.9	7.6	30.6				PK39501
B 128	甕(壺)								PK39501
B 129	壺								PK39501
B 130	山茶碗			8.8					PK39502
B 131	山茶碗			8					PK39502
B 132	山茶碗			7.4					PK39502
B 133	甕(壺)								PK39502
B 134	山茶碗			7					PK39504
B 135	山茶碗			7.7					SXL37501
B 136	山茶碗			4.1					SXL37502
B 137	土錘	4.7	7	169					SDK37501
B 138	山茶碗	13.9	4.7	7.2	33.8				SXJ39005
B 139	小碗	8.8	2.6	4.8	29.5				SXJ39005
B 140	小碗	7.7	2.7	4.1	35.1				SXJ39005
B 141	山茶碗			6					SXJ39005
B 142	小皿	8.3	2.2	3.9	26.5				SXk38501
B 143	山茶碗	11.3	3	3.6	25.7				SXk38501 下層

区番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	径高 指数	長径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺構名	区番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	径高 指数	長径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺構名
B 144	須恵器杯			11.2					島畑 B-1K395	E 7	鉢	13	5.1	7.8					SKo55501
B 145	灰釉皿			8.4					島畑 B-1K395	E 8	壺(甕)								SKo55501
B 146	青磁碗			4.1					島畑 B-1J380	E 9	甕								SKo55501
B 147	壺								島畑 B-1k395	E 10	土師器鍋								SKo55501
B 148	壺			15.4					島畑 B-1	E 11	山茶碗	14.3	5.2	6	36.4				SKO57001
B 149	加工円盤					2	0.6	2.9	島畑 B-1k395	E 12	山茶碗			8.1					SKO57001
B 150	加工円盤					2.5	1.4	8.3	SKJ39501上	E 13	山茶碗			7.8					SKO57001
B 151	加工円盤					2.2	1.2	6.6	K390 床土下	E 14	山茶碗			5.8					SKO57001
B 152	加工円盤					2.1	0.9	4.6	島畑 B-1k395	E 15	小皿	7.8	0.9	5	12.8				SKO57001
B 153	加工円盤					1.8	1	4.3	高台島畑 B-1	E 16	土師器皿			10					SKO57001
B 154	加工円盤					2.9	0.3	4.6	島畑 B-1k400	E 17	花瓶			4.4					SKO57001
B 155	灰釉碗			6.6					島畑 B-2J390	E 18	壺			9.4					SKO57001
B 156	灰釉皿			7.8					島畑 B-2J390	E 19	山茶碗			8					SKP56501
B 157	加工円盤					2.2	0.9	6.7	島畑 B-2J380	E 20	山茶碗			7					SKP56501
B 158	加工円盤					2.1	1.4	8.8	島畑 B-2J390	E 21	山茶碗			8.4					SKP56501
B 159	加工円盤					2.4	1.5	11.6	島畑 B-2J390	E 22	山茶碗			8.5					SKP56501
B 160	小碗			5					k・L395	E 23	山茶碗			6.8					SKP56501
B 161	小皿	9.3	2.5	4.7	26.9				i375 床土	E 24	山茶碗			8.5					SKP56501
B 162	小皿	8.3	2.1	4.1	25.3				K370 床土下	E 25	山茶碗			6.4					SKP56501
B 163	小皿	8.3	2.2	4.8	26.5				k380・385 床土下	E 26	小碗	9.5	2.6	5.2	27.4				SKP56501
B 164	小皿			5.6					k375 床土下	E 27	小碗			5.1					SKP56501
B 165	土師器皿	8.4	1.9	5.8					K380 床土下	E 28	小皿	9.6							SKP56501
B 166	土師器鍋								k385 床土下	E 29	加工円盤			1.8	1.4	5.3			SKP56501
B 167	土師器鍋								k385 床土下	E 30	加工円盤			3	1	6.8			SKP56501
B 168	壺								K380 床土下	E 31	壺	13.6							SKP56501
B 169	陶丸					2.1		11.2	J370・375 床土下	E 32	山茶碗	14.1	4.9	6.7	34.8				SEP56001
B 170	土錘					2.9	1.3	3.9	J370・375	E 33	山茶碗	15.3	4.8	6.8	31.4				SEP56001
B 171	土錘					4	1.9	17	k400 床土	E 34	山茶碗			6					SEP56001
B 172	青磁碗	15.2							j385	E 35	山茶碗			7.3					SEP56001
B 173	白磁碗								K375 床土下	E 36	山茶碗	15	4.7	7.1	31.3				SEO56001
B 174	白磁碗								水田	E 37	山茶碗			6.8					SEO56001
B 175	加工円盤					2.2	0.8	5.1	k385 床土下	E 38	小皿	8.1	2.2	4.2	27.2				SEO56001
B 176	加工円盤					2.7	1	12	L370 床土下	E 39	小皿	7.9	1.8	4.3	22.8				SEO56001
B 177	加工円盤					4.4	0.9		L375 床土下	E 40	小皿	8.2	1.7	5.8	20.7				SEO56001
B 178	加工円盤					2.6	1.1	7.1	J395 床土下	E 41	小皿	7.8	1.7	5.3	21.8				SEO56001
B 179	加工円盤					2.3	1.1	6	k395 床土	E 42	小皿	7.5	1.4	4.2	18.7				SEO56001
B 180	加工円盤					2.5	1.2	5.9	水田	E 43	天目茶碗	11.4							SKP56502
B 181	加工円盤					2.9	1.1	7.1	K400 床土	E 44	羽釜								SKn54001
B 182	加工円盤					2.4	0.7	5	L370・375 アゼ	E 45	山茶碗	12.6	3.8	3.6	30				SKn54001
B 183	加工円盤					2.8	0.8	6.1	k395 床土	E 46	小皿	7.9	0.9	4.4	11.4				SKn54001
B 184	加工円盤					2.2	0.8	4.1	K390 水田	E 47	山茶碗	15	5.1	7.3	34				SDn56001
B 185	加工円盤					2.4	0.5	4.1	k380・385 床土下	E 48	山茶碗	14.8	4.9	6.5	33.1				SDn56001
B 186	加工円盤					2.3	1	6.5	K380 床土下	E 49	山茶碗	15.5	4.8	7.7	31				SDn56001
										E 50	山茶碗	15.2	4.8	7.6	31.6				SDn56001
										E 51	山茶碗	15.1	5.4	7.5	35.8				SDn56001
C 1	山茶碗			8.5					SDo42001	E 52	山茶碗	13.8	5.8	6.2	42				SDn56001
C 2	山茶碗			8.4					床土下	E 53	山茶碗	14.2	4.4	6.8	31				SDn56001
C 3	小皿	8.2	2	4.1	24				o430 トレンチ	E 54	山茶碗	14.5	5.6	6.6	38.6				SDn57001
C 4	加工円盤					2.7	0.9	8.3	島畑 C-1 アゼ	E 55	山茶碗	14.8	4.7	6.5	31.8				SDn57001
C 5	加工円盤					2.9	0.8	8.5	P425 島畑 C-1	E 56	山茶碗			7.2					SDn57001
C 6	陶丸					2		8.3	床土下	E 57	小皿	7.6	1.7	5	22.4				SDn57001
C 7	小碗	6.6	3.8	3.9					O420・425 地山上	E 58	小皿	9	1.7	5.2	18.9				SDn57001
C 8	皿			6.5					床土下	E 59	小皿	8.1	1.6	4.8	19.7				SDn57001 アゼ
D 1	杯	11.9							SXs43002	E 60	小皿	7.6	1.4	5.1	18				SDn57001
D 2	蓋	9.4							SXS43501	E 61	鉢								SDn57001
D 2	播鉢								SDT42501(T435)	E 62	小皿	8.3	1.1	5.7	13.3				SDn57001
D 3	高盤	22.8							SXs41502S・s415	E 63	青磁碗								SDn57001
D 4	土錘					5.5	1.4	9.1	R・r445	E 64	壺								SDn57001
D 5	土錘					4.3	1.2	8.5	R・r445	E 65	土師器鍋								SDn57001
D 6	陶丸					2.1		10.4	S415 床土下	E 66	山茶碗	12.9	5.2	5.1	40.3				排土
D 7	陶丸					2.2		12.2	SXS43001	E 67	鉢			16					Po56513
D 8	加工円盤					2.5	1.3	5.8	S・s420 床土下	E 68	山茶碗	14.8	5.1	6.9	34.5				PP56503
D 9	加工円盤					2.7	0.9	6.1	s420 床土下	E 69	小皿	7.7	1.8	4.9	23.4				Po57010
D 10	加工円盤					4.5	1.2	24.8	S440 床土下	E 70	折縁深皿								SDn54001
D 11	鉢								SDT42501(T420)	E 71	折縁深皿								SDn54001
D 13	土錘					5.1	1.4		SDT42501(T435)	E 72	小皿	8.2	1	6	12.2				SDO54501
D 14	加工円盤					2.3	1	6.6	SDT42501(T445)	E 73	山茶碗			6.5					SDn54001
E 1	山茶碗	14.5	5.2	7	35.9				SKo55501	E 74	面子				3.1	0.6	8		SDO57001
E 2	山茶碗	14	5.3	6.8	37.9				SKo55501	E 75	小皿	7.9	0.9	5.2	11.4				SXO54501
E 3	山茶碗			5.8					SKo55501	E 76	播鉢								SXO54501
E 5	小皿	8.3	1.8	5	21.7				SKo55501	E 77	天目茶碗								SXO54501
E 5	小皿	8.5	1.9	4.6	22.4				SKo55501	E 78	山茶碗			4					SXO54001
E 6	小皿	7.8	1.6	4	20.5				SKo55501	E 79	加工円盤				4.6	0.9	27.6		SXO54001
										E 80	山茶碗			6					SXP54001

主な遺物一覧表

区番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	径高 指数	長径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺構名
E 81	山茶碗	13.9	5.5	6.2	39.6				SXn57001
E 82	杯身			10.1					SXn55001
E 83	小皿	8.7		6.2					SXn55001
E 84	折縁皿								SXn55001
E 85	羽釜								SXn55001
E 86	加工円盤					2.5	1.1	6.7	SXn55001
E 87	山茶碗	14.4	5.1	6.3					SXO56001
E 88	小皿	8.4	4.7	1.9					SXO56001
E 89	小皿	7.9	4.6	1.6					SXO56001
E 90	小皿	8.5	1.8	5.6	21.2				SXo56501
E 91	加工円盤					3.2	1	9.8	SXO56001 下
E 92	加工円盤					2.6	0.4	4.3	SXO56001
E 93	加工円盤					2.5	1.3	9.1	SXO56001
E 94	加工円盤					2.6	1.1	9.7	SXo56501
E 95	加工円盤					4.8	0.9	27	SXO56001
E 96	山茶碗			7.6					SXo56502
E 97	小皿			3.7					SXo56502
E 98	加工円盤					2.5	1.4	8.3	SXo56502
E 99	加工円盤					4.4	0.6	13.6	SXo56502
E 100	山茶碗			7.2					SXo55501
E 101	小皿		8	1.8	4	22.5			SXo55501
E 102	小皿	7.7	1.7	4.7	22.1				SXo55501
E 103	小皿	8.5	1.7	4.7	20				SXo55501
E 104	小皿	8.9	1	5	11.2				SXo55501
E 105	鉢								SXo55501
E 106	土錘						1.6		SXo55501
E 107	土錘					4.5	1.6	12.4	SXo55501
E 108	加工円盤					2.6	0.4	8	SXo55501
E 109	加工円盤					2.9	1.5	12.8	SXo55501
E 110	加工円盤					3.1	0.9	8.9	SXo55501
E 111	加工円盤					4.1	1.1	21	SXo55501
E 112	加工円盤					4.5	0.6	20	SXO53501
E 113	山茶碗			7.7					O565
E 114	山茶碗			5					n540
E 115	小皿	7.6	1.7	4	22.4				n560

区番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	径高 指数	長径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺構名
E 115	小碗				4.7				N565
E 116	小皿	8	1.6	5	20				O565~570 アゼ
E 117	小碗			4.2					N565
E 118	小皿			4.6					P565
E 120	小皿	8	1.8	5					n565
E 121	小皿	8	1.8	4.8	22.5				565 アゼ
E 122	折縁大皿								床土
E 123	卸皿			9					N560
E 124	播鉢			10.2					n540
E 125	播鉢								O-o560
E 126	鉢								n540
E 127	土師器鍋								o540
E 128	土師器鍋								o555
E 129	土師器鍋								O570 アゼ
E 131	土錘					4.4	1.3	8.3	n540
E 132	加工円盤					2.5	1.2	8.4	O-o5605
E 133	加工円盤					2.4	1.6	7.9	N560
E 134	加工円盤					2.4	1.5	6.9	oライン
E 135	加工円盤					2.6	1.1	9	西
E 136	加工円盤					3.4	1.4	12.8	o565
E 136	羽釜								O545
E 137	加工円盤					2.8	1.1	8.8	O560
E 138	加工円盤					2.1	0.6	3.9	西
E 139	加工円盤					4.5	1.2	16.6	O565
E 140	加工円盤					2.1	0.7	3.8	西
E 141	加工円盤					2.3	1	6.7	o560
E 142	加工円盤					2.6	1	8.4	P560
E 143	加工円盤					2.3	1.1	7.2	n570 アゼ
F 1	蓋								q525
F 2	蓋								r505
F 3	加工円盤	3.4	1	3.1		3.4	1	13.6	SDr52501
F 4	加工円盤	2.8	0.5	2.6		2.8	0.5	5.3	SDr52501
F 5	土錘	5	1.2			5	1.2	7.8	SXq51501
F 6	加工円盤	5	0.9			5	0.9	29	R515

# 千音寺遺跡の花粉化石群集

新山雅広 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

千音寺遺跡は、名古屋市中川区富田町大字千音寺字基目寺田に所在する。本遺跡は、庄内川右岸の沖積地に立地し、これまでの発掘調査により、古墳時代の須恵器から室町時代頃までの陶磁器などが検出されている。ここでは、中世以降の遺跡周辺の植生変遷および付近での稲作などの栽培状況を推定する目的で花粉化石群集の検討を行った。

## 2. 試料

D、E、Fの3調査区より合計15試料が採取された。D区ではS435地点で5試料(試料1～5)、T435地点(大溝)で2試料(試料1、2)が採取された。E区ではP555地点で4試料(試料1～4)が採取され、F区ではr505地点で4試料(試料1～4)が採取された。以下に各試料の簡単な記載を示す。なお、これら15試料はプラント・オパール分析も行われた。

### 1) D区試料

S435地点(試料1～5)：試料1(1層、水田層)は灰オリーブ色粘土質シルト。試料2(14層)は灰色～灰オリーブ色シルト質粘土で褐鉄鉱が発達する。試料3(13層)は灰色粘土で褐鉄鉱が発達する。試料4(15層)は灰オリーブ色粘土。試料5は灰色粘土。

T435地点(試料1、2)：本試料は大溝埋土より採取された。試料1(5層)は灰オリーブ色シルト質粘土で褐鉄鉱が非常に発達する。試料2(6層、大溝最下層)は灰オリーブ色粘土で褐鉄鉱が発達する。

### 2) E区試料

P555地点(試料1～4)：試料1(1層、現代水田層)は灰色シルト質粘土。試料2(3層、SXo55501上層埋土)は灰色～灰オリーブ色シルト質粘土で褐鉄鉱が発達する。試料3(4層、SXo55501下層埋土)は灰オリーブ色粘土。試料4(5層、SXo55501下層埋土)は灰色粘土。

### 3) F区試料

r505地点(試料1～4)：試料1(2層、近世水田層?)はオリーブ灰色シルト。試料2(3層)は灰オリーブ色シルト質粘土。試料3(4層、SXr55001埋土)は灰色粘土。試料4(5層)は灰色粘土。

## 3. 方法

花粉化石の抽出は、試料約2～3gを10%水酸化カリウム処理(湯煎約15分)による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理(約30分)による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理(氷酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸9の混液で湯煎約5分)の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離(臭化亜鉛を比重2.1に調整)による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート1～3枚の全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数と

表1 花粉化石一覧表

和名	学名	S435					T435		P555				r505			
		1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4
<b>樹木</b>																
マキ属	<i>Podocarpus</i>	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	<i>Abies</i>	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-
ツガ属	<i>Tsuga</i>	-	-	-	6	2	1	5	-	-	-	-	2	2	6	3
マツ属 榊維管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	48	4	2	9	-	23	89	70	3	-	2	103	125	42	5
マツ属 (不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	4	1	-	8	2	4	18	7	-	-	1	10	8	13	1
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	-	-	6	6	-	1	1	-	-	-	-	-	-	5
スギ属	<i>Cryptomeria</i>	94	-	-	2	6	9	25	75	1	-	1	35	24	3	50
イチイ科-イスガヤ科-ヒノキ科	T.- C.	2	-	-	1	10	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クルミ属	<i>Juglans</i>	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サワグルミ属-クルミ属	<i>Pterocarya-Juglans</i>	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	1	-	-	9	21	-	3	3	-	-	-	2	6	1	8
ハンバミ属	<i>Corylus</i>	2	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-
カバノキ属	<i>Betula</i>	1	-	1	3	20	4	8	3	-	-	-	4	2	2	4
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	11	1	-	12	11	25	29	11	-	1	1	22	13	4	7
ブナ属	<i>Fagus</i>	-	-	-	5	13	2	1	2	-	-	1	2	1	2	11
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	16	-	-	30	10	9	20	12	-	-	1	19	4	7	24
コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	7	1	1	65	79	9	23	7	1	-	2	6	7	13	66
クリ属	<i>Castanea</i>	10	1	-	10	12	4	4	6	-	-	-	-	3	5	3
シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	3	1	-	6	7	5	3	-	1	-	-	1	-	1	24
ニレ属-ウヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	3	-	-	3	6	2	3	1	-	-	-	1	1	-	3
エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis-Aphananthe</i>	4	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-
カツラ属	<i>Cercidiphyllum</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シキミ属	<i>Illicium</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
アカメガシワ属	<i>Mallotus</i>	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
ウルシ属	<i>Rhus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
モチノキ属	<i>Ilex</i>	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	<i>Acer</i>	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	-	-	-	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1
ブドウ属	<i>Vitis</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
グミ属	<i>Elaeagnus</i>	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ウコギ科	Araliaceae	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツジ科	Ericaceae	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
イボタノキ属	<i>Ligustrum</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
トネリコ属	<i>Fraxinus</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スイカズラ属	<i>Lonicera</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>草本</b>																
ガマ属	<i>Typha</i>	2	-	-	6	2	1	5	5	-	-	-	1	2	1	2
オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
スプタ属-ミスオオバコ属	<i>Blyxa - Ottelia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i> Royle.	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	Gramineae	442	32	15	22	28	220	557	531	10	9	27	365	201	95	103
カヤツリグサ科	Cyperaceae	4	-	-	1	2	4	13	3	-	-	-	5	1	3	23
ミスアオイ属	<i>Monochoria</i>	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	2	1	-
クワ科	Moraceae	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	5	-	-	-	-	3	2	12	-	-	-	4	1	-	-
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	1	-	-	-	-	5	16	1	-	-	-	1	4	1	-
アカザ科-ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	3	-	-	-	-	4	4	3	-	-	-	2	1	1	1
ナデシコ科	Caryophyllaceae	2	-	-	-	-	1	7	7	-	-	-	1	1	-	2
カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
キンボウグサ科	Ranunculaceae	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	Cruciferae	252	1	1	1	-	15	21	294	4	-	2	67	9	1	2
バラ科	Rosaceae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
マメ科	Leguminosae	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-
キカングサ属	<i>Rotala</i>	1	2	-	1	-	4	4	9	-	1	-	1	2	-	-
ヒシ属	<i>Trapa</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アリノトウグサ属	<i>Haloragis</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	-	-	-	-	-	7	2	1	-	-	-	-	-	-	28
ナス属	<i>Solanum</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
オオバコ属	<i>Plantago</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
オミナエシ属	<i>Patrinia</i>	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	3	1	-	9	2	4	13	2	-	-	-	5	3	3	39
他のキク亜科	other Tubuliflorae	3	-	-	-	-	7	5	4	-	-	-	3	4	-	2
タンポポ亜科	Liguliflorae	1	1	1	1	-	6	12	3	-	-	-	2	1	-	-
<b>シダ植物</b>																
サンショウモ	<i>Salvinia natans</i> All.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
単糸型胞子	Monoletic spore	2	2	-	38	24	17	24	1	1	-	1	7	3	7	13
三糸型胞子	Trilete spore	2	3	1	9	2	14	28	6	2	-	1	6	11	12	4
<b>樹木花粉</b>																
樹木花粉	Arboreal pollen	208	10	4	187	210	101	244	203	5	2	9	211	200	100	218
草本花粉	Nonarboreal pollen	720	37	17	41	36	282	671	880	14	10	30	458	233	108	203
シダ植物胞子	Spores	4	5	1	47	26	31	52	7	3	0	2	14	14	19	17
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	932	52	22	275	272	414	967	1090	22	12	41	683	447	227	439
<b>不明花粉</b>																
不明花粉	Unknown pollen	1	0	0	4	9	4	9	2	0	0	0	2	1	1	3

し、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

#### 4. 花粉化石群集の記載

##### [S435 地点 (試料 1～5) の花粉化石群集]

同定された分類群数は、樹木花粉 28、草本花粉 17、形態分類で示したシダ植物胞子 2 である。S435 地点の花粉化石群集は、主要樹木花粉の出現傾向により下位より 2 つの花粉化石群集帯を設定することができる。

I 帯(試料 4、5)：樹木花粉の占める割合は約 68～77%と高率である。本帯はコナラ属アカガシ亜属の優占(約 35～38%)で概ね特徴付けられる。試料 4 と試料 5 では付随種の出現率がやや異なり、試料 4 ではコナラ属コナラ亜属(約 16%)、ハンノキ属(約 6%)が、試料 5 ではクマシテ属—アサダ属(10%)、カバノキ属(約 10%)が比較的高率である。草本花粉ではイネ科が比較的高率であり(約 8～10%)、ガマ属、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが 1%未満～3%程度で出現する。また、試料 4 では抽水植物のキカシグサ属が 1%未満で出現する。シダ植物胞子は約 10～17%と本体でやや特徴的である。

II 帯(試料 1～3)：樹木花粉の占める割合は約 22%と I 帯に比べて非常に低率となる。本帯はスギ属(約 45%)、マツ属複維管束亜属(約 23%)といった針葉樹が優占することで特徴付けられ、I 帯で優占していたアカガシ亜属は約 3%と非常に低率となる。また、I 帯で比較的高率であったコナラ亜属、ハンノキ属は依然として 5～8%程度出現するが、クマシテ属—アサダ属、カバノキ属は 1%未満と極めて低率となる。草本花粉ではイネ科(約 47%)、アブラナ科(約 27%)が非常に高率であり、ガマ属、ソバ属、キカシグサ属などが 1%未満で出現する。なお、試料 2、3 は十分な花粉化石を産出しなかったが、樹木花粉でマツ属複維管束亜属が比較的目立ち、草本花粉ではイネ科が多産し、アブラナ科も随伴することから II 帯に含めた。

##### [T435 地点 (試料 1、2) の花粉化石群集]

同定された分類群数は、樹木花粉 24、草本花粉 18、形態分類で示したシダ植物胞子 2 である。

樹木花粉の占める割合は、約 24～25%と非常に低率である。マツ属複維管束亜属が最優占する傾向にあり(約 23～36%)、スギ属(約 9～10%)、ハンノキ属(約 12～25%)、コナラ亜属(約 8～9%)、アカガシ亜属(約 9%)も比較的高率である。草本花粉ではイネ科が約 53～58%と圧倒的な高率であり、ソバ属、アブラナ科などが約 2%、ガマ属、オモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属などが 1%未満で出現する。

##### [P555 地点 (試料 1～4) の花粉化石群集]

試料 1 以外は十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。試料 1 は、樹木花粉の占める割合は約 19%と低率である。その中で、マツ属複維管束亜属(約 34%)、スギ属(約 37%)が圧倒的に多産する。他に、ハンノキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、クリ属が約 3～6%で出現する。草本花粉では、イネ科が約 49%で最優占し、アブラナ科も約 27%と突出した出現傾向を示す。他に、ガマ属、クロモ、ミズアオイ属、ソバ属、キカシグサ属などが 1%未満で出現する。

[r505 地点 (試料 1～4) の花粉化石群集]

同定された分類群数は、樹木花粉 25、草本花粉 20、形態分類を含むシダ植物孢子 3 である。r505 地点の花粉化石群集は、主要樹木花粉の出現傾向により下位より 2 つの花粉化石群集帯を設定することができる。II 帯は更に 2 亜帯に細分される。

I 帯 (試料 4) : 樹木花粉の占める割合は、約 50% である。その中で、アカガシ亜属が約 30% で最優先し、次いでスギ属が約 23% で出現する。他に、コナラ亜属、シイノキ属が約 11% と比較的多産する。草本花粉では、イネ科が約 23% で最優占し、カヤツリグサ科 (約 5%)、セリ科 (約 6%)、ヨモギ属 (約 9%) が比較的多産し、ガマ属などが 1% 未満で出現する。

II a 帯 (試料 3) : 樹木花粉の占める割合は、約 44% である。その中で、マツ属複維管束亜属が 42% で最優占し、次いでアカガシ亜属が 13% で出現する。他に、ツガ属 (6%)、コナラ亜属 (7%)、クリ属 (5%) などが出現し、ツガ属、クリ属は本帯でやや目立つ。I 帯で比較的多産したスギ属 (3%)、シイノキ属 (1% 未満) は極めて低率となる。草本花粉では、イネ科が約 42% と圧倒的に多産する。他に、ガマ属、ミズアオイ属、ソバ属などが低率で出現する。

II b 帯 (試料 1、2) : 樹木花粉の占める割合は、約 31～45% である。その中で、マツ属複維管束亜属が約 49～63% と圧倒的に多産することは、II a 帯と同様である。しかし、スギ属が増加して比較的多産 (約 12～17%) し、アカガシ亜属が減少して低率 (約 3～4%) となることで II a と区別される。他に、ツガ属、ブナ属が下位帯に比べて減少し (1% 未満)、逆にハンノキ属は増加する (約 7～10%)。また、ニレ属一ケヤキ属、エノキ属—ムクノキ属、アカメガシワ属、ウルシ属、ツツジ科は 1% 未満ではあるが、本帯のみで出現するか、本帯で安定した出現をする。草本花粉では、イネ科が約 45～53% と更に高率となり、アブラナ科も本帯で特徴的に出現し、試料 1 では約 10% に達する。他に、ガマ属、スブタ属—ミズオオバコ属、ミズアオイ属、ソバ属、キカシグサ属、ヒシ属、サンショウモなどが 1% 未満で出現する。

## 5. 考 察

### 1) 各地点の花粉化石群集の対比

検討した試料は、S435 地点の試料 1 および P555 地点の試料 1 は現代の水田耕作土層であることから時期が確定しているが、その他の試料については、中世以降としか確定できていない。現代の試料については、マツ属複維管束亜属、スギ属が卓越する組成であった。それ以前の時期の試料については、マツ属複維管束亜属は現代の試料と同様卓越するがスギ属は卓越するまでには至らないという組成 (T435 地点、r505 地点の II 帯) と、更にそれ以前のアカガシ亜属が卓越する組成 (S435 地点の I 帯、r505 地点の I 帯) と大きく 2 つに分けられる。以上のことから、本遺跡の植生変遷を I 期、II 期、III 期 (現代) の 3 時期に分けて述べる。

### 2) 植生変遷および栽培状況

I 期 (S435 地点の I 帯、r505 地点の I 帯) : 遺跡周辺はアカガシ亜属を主体とした照葉樹林が優勢であったと予想される。付近には、水生植物のガマ属、キカシグサ属が出現しており、これらが生育するような水位の低い湿地的環境がみられたものと思われる。この時期は、プラント・オパール分析の結果でも示されたように水田はまだ存在していなかった可能性が考えられ、少なくとも S435 地点は水田ではな

かったと予想される。

II期 (T435 地点、r505 地点のII帯)：照葉樹林は衰退し、針葉樹のマツ属複維管束亜属を主体とした森林が成立していたと予想される。付近には、イネ科が高率で出現し、オモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属といったいわゆる水田雑草も随伴することから、水田が存在していた可能性が高い。プラント・オペール分析でもこの時期は稲作が行われていた可能性が高いことが示され、花粉分析と同様の結果が得られた。照葉樹林の衰退は、おそらくこのような水田開発による影響が大きいものと思われる。水田化のために周辺に成立していた照葉樹林は伐採され、裸地が広がり、そのような場所にマツ属複維管束亜属などが二次林として分布を拡大したのであろう。なお、栽培状況については、イネ以外にも突出した出現をしたアブラナ科 (r505 の I 帯) やソバ属などが栽培されていた可能性が考えられ、畑地が存在していたか、あるいは水田脇で栽培されていたのかもしれない。また、水田の裏作として栽培されていた可能性も考えられる。なお、r505 地点の試料 1 からヒシ属が出現しており、付近にヒシ属が生育するような池が存在していたことが予想される。

III期 (S435 地点の試料 1、P555 地点の試料 1)：現代になるとマツ属複維管束亜属とともにスギ属も卓越するようになり、針葉樹主体の森林が成立するようになった。スギ属の拡大については、おそらく植林による影響があるだろう。付近には、引き続き水田が存在し、アブラナ科やソバ属も栽培されていたと思われる。

参考文献

名古屋市教育委員会 (1999) 千音寺遺跡発掘調査概要報告書。5 p.

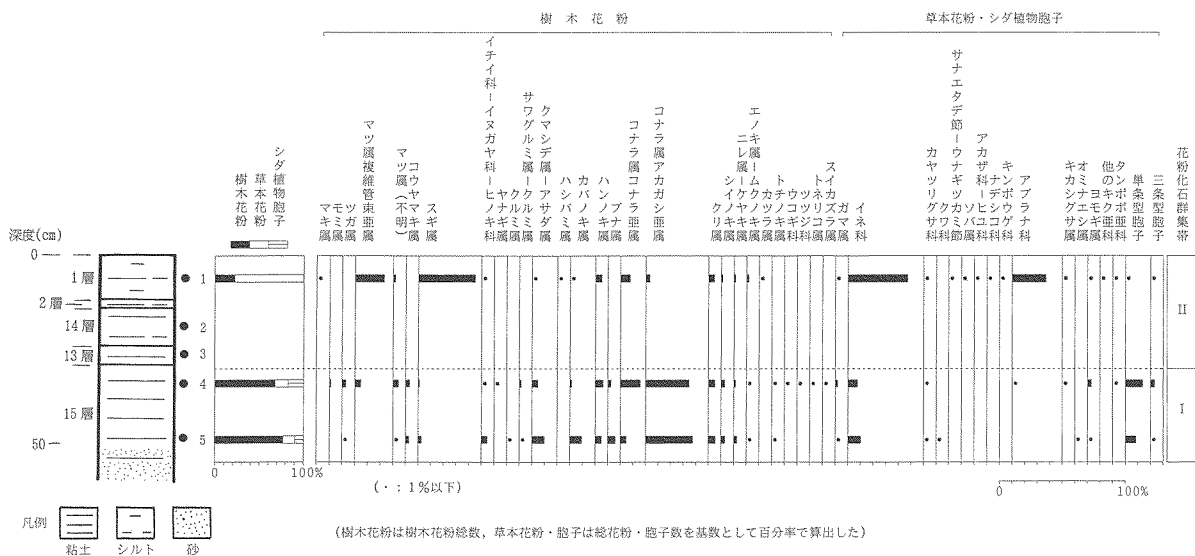
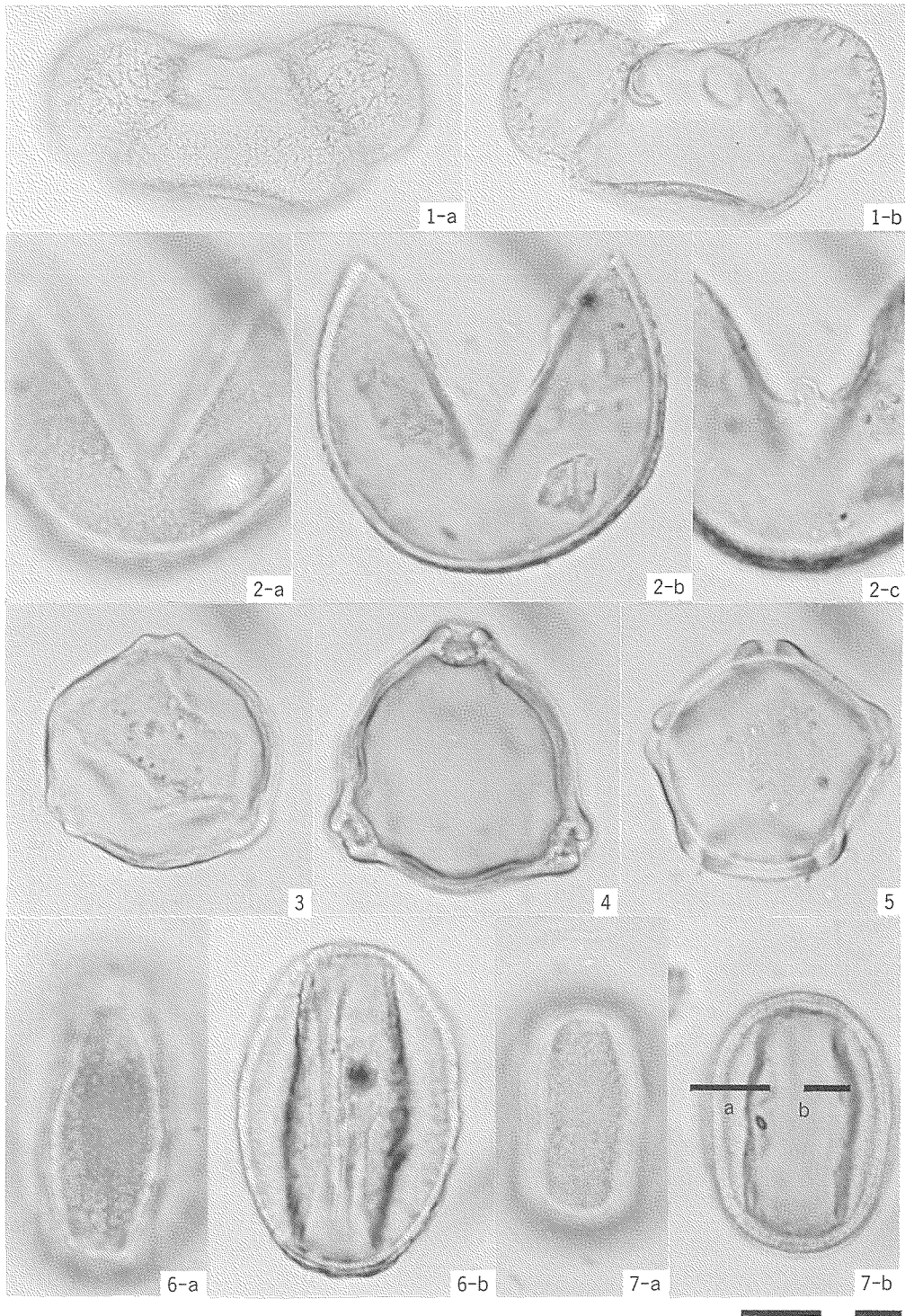


図 1 S 435 の花粉化石分布図

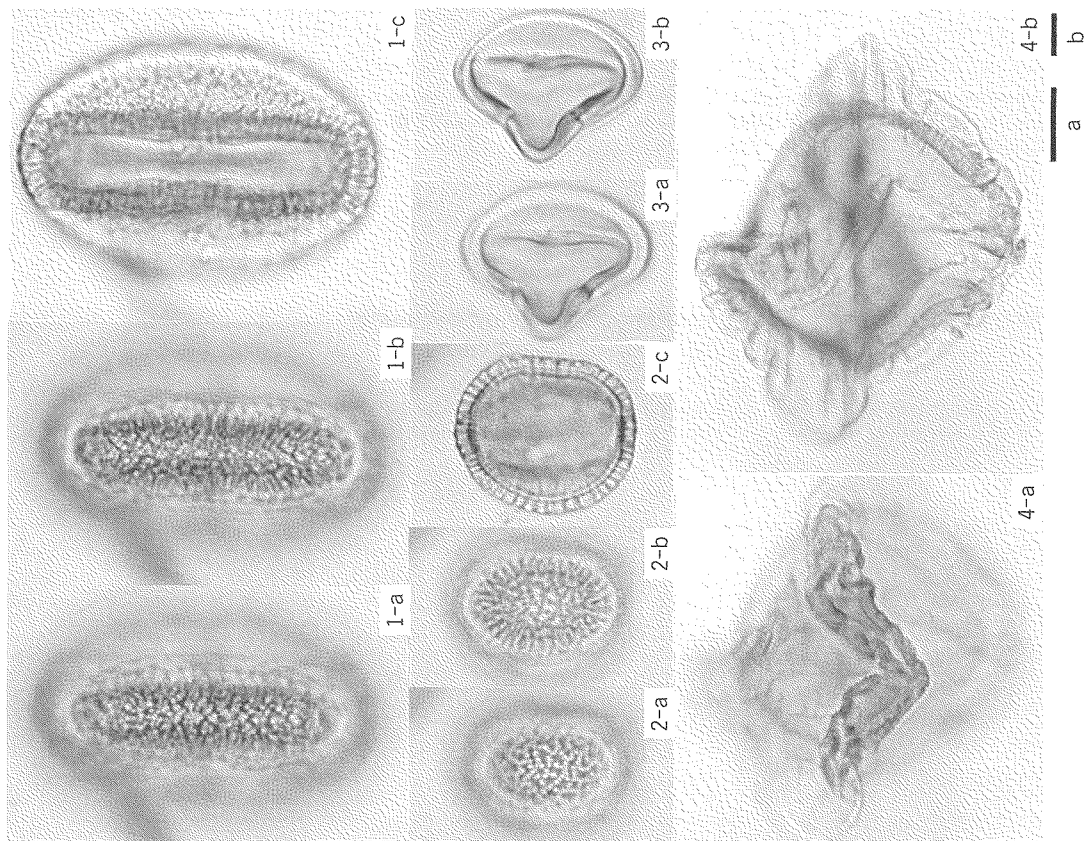






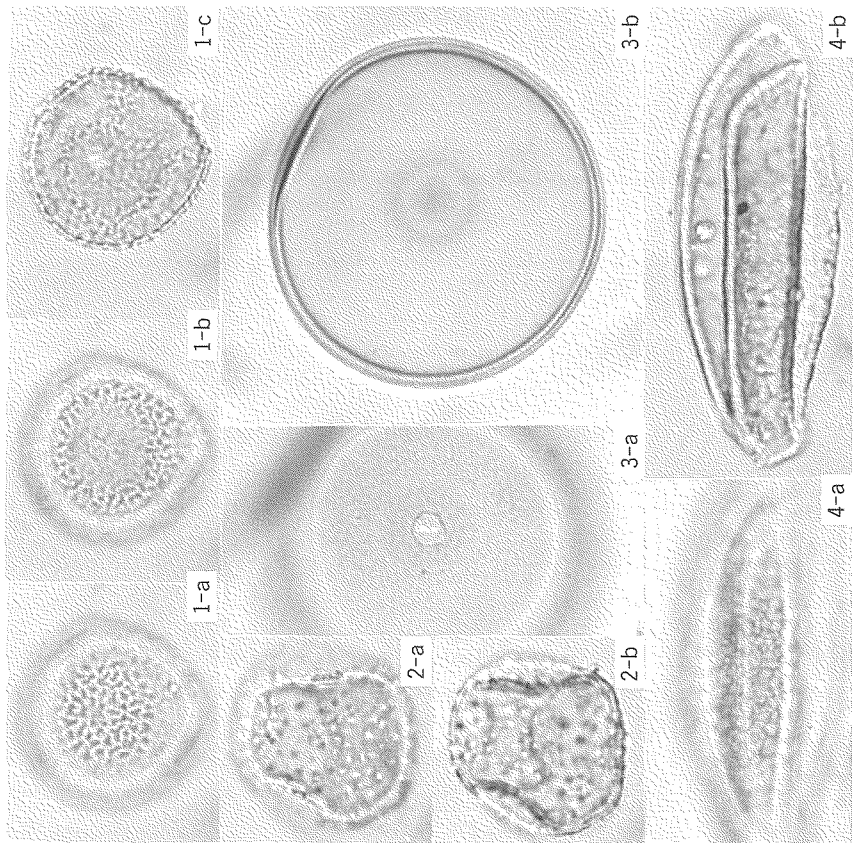
図版 1 産出した花粉化石 (scale bar : 10  $\mu$ m a : 2~7 b : 1)

1. マツ属複維管束亜属, T 435-2, PAL. MN 1307
2. スギ属, T 435-2, PAL. MN 1308
3. クマシデ属-アサダ属, S 435-5, PAL. MN 1317
4. カバノキ属, S 435-5, PAL. MN 1318
5. ハンノキ属, T 435-2, PAL. MN 1316
6. コナラ属コナラ亜属, S 435-4, PAL. MN 1314
7. コナラ属アカガシ亜属, S 435-4, PAL. MN 1313



図版3 産出した花粉化石 (scale bar : 10  $\mu$ m a : 1~3 b : 4)

1. ソバ属、T 435-2、PAL. MN 1308
2. アブラナ科、S 435-1、PAL. MN 1310
3. キカシグサ属、T 435-2、PAL. MN 1315
4. ヒシ属、r 505-1、PAL. MN 1324



図版2 産出した花粉化石 (scale bar : 10  $\mu$ m)

1. ガマ属、S 435-4、PAL. MN 1312
2. オモダカ属、T 435-2、PAL. MN 1320
3. イネ科、S 435-1、PAL. MN 1309
4. ミズアオイ属、T 435-2、PAL. MN 1319

## 千音寺遺跡のプラント・オパール

鈴木 茂 (パレオ・ラボ)

プラント・オパールとは、根より吸収された珪酸分が葉や茎の細胞内に沈積・形成されたもの（機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体などの植物珪酸体）が、植物が枯れるなどして土壤中に混入して土粒子となったものを言い、機動細胞珪酸体については藤原（1976）や藤原・佐々木（1978）など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壤中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稲作の有無についての検討も行われている（藤原 1984）。このような研究成果から、近年プラント・オパール分析を用いて稲作の検討が各地・各遺跡で行われている。こうしたことから、千音寺遺跡においてもいくつかの遺構断面より採取された試料についてプラント・オパール分析を行い、稲作の有無について機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールから検討した。

### 1. 試料

分析用試料は、D区が S435 地点と大溝地点の層位試料 7 点と他地点の平面試料 4 点の計 11 試料、E地区が P555 地点 (SXo55501 遺構) の層位試料 4 点と他遺構の平面試料 6 点の計 10 試料、F地区が r505 地点 (SXR55001 遺構) の層位試料 4 点と他遺構の平面試料 4 点の計 8 試料の総計 29 試料である。以下に各試料について簡単に記す。なお、これら各遺構および地点の位置については別章を参照して頂きたい。

D区：S435 遺構の試料 1（1層）、2（14層）は灰色の粘土質シルトとシルト質粘土、試料 3（13層）～5（15層）は青灰色の粘土である。大溝地点の試料 1（5層）は灰色のシルト質粘土、2（6層）は青灰色粘土で、溝の最下層にあたる。平面試料の S420 遺構試料は黒褐色の砂質粘土、S430 遺構の南へ 3 m 地点試料は黒褐色のシルト質粘土、S445 遺構の東側(南へ 1.95 m 地点)試料は暗灰色のシルト質粘土、S445 遺構の西側地点試料は灰オリーブ色のシルト質粘土である。

E区：P555 地点 (SXo55501 遺構) の試料 1（1層：現水田層）は灰オリーブ色の砂質シルト、2（3層）はオリーブ褐色の砂質シルト、3（4層）は灰オリーブ色の砂質シルト、4（5層）は灰オリーブ色の粘土質シルトである。平面試料 6 点について、SXO53501 遺構と SXO54501 遺構はオリーブ褐色の砂質シルト、SXO56001 遺構、SXo56501 遺構、SXn55001 遺構上層、SXn55001 遺構下層の 4 試料は灰オリーブ色の砂質シルトである。

F区：r 505 地点 (SXR55001 遺構) の各試料は灰オリーブ色を呈し、試料 1（2層）はシルト質粘土、2（3層）は粘土、3（4層）はややシルト質の粘土、4（5層）はシルト質粘土である。平面試料 4 点について、SXq49001 遺構試料は灰オリーブ色の粘土、SXR47501 遺構試料は灰オリーブ色のシルト質粘土、SXR51502 遺構試料は暗オリーブ褐色のシルト質粘土、SXR49001 遺構試料は灰オリーブ色の粘土である。

### 2. 分析方法

上記した 29 試料について以下のような手順にしたがってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約 1 g（秤量）をトールピーカーに

表1 試料1g当たりのプラント・オパール個数

地区	試料No.	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマガサ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	サヤズカグサ属 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
D区層位試料	S435-1(1層)	34,500	21,600	8,600	3,200	0	1,100	0	2,200	6,500	10,800
	-2(14層)	32,900	28,200	9,400	4,700	0	2,400	0	3,500	7,100	10,600
	-3(13層)	29,300	15,800	7,900	1,100	0	3,400	0	3,400	1,100	10,100
	-4(15層上)	0	16,700	16,700	1,200	0	7,100	0	0	2,400	1,200
	-5(15層下)	1,200	16,600	4,700	0	0	1,200	0	1,200	1,200	8,300
D区平面試料	大溝 -1(5層)	25,700	22,200	8,200	0	1,200	12,800	1,200	1,200	8,200	10,500
	-2(6層)	31,600	21,500	14,700	1,100	0	5,600	0	0	9,000	7,900
	S420	13,000	13,000	1,200	1,200	0	1,200	0	1,200	2,400	7,100
	S430の南	28,000	16,300	9,300	1,200	0	5,800	0	2,300	5,800	10,500
	S445の東側	22,700	14,800	2,300	1,100	0	1,100	0	2,300	2,300	21,600
E区層位試料	S445の西側	42,600	10,700	13,000	0	0	2,400	0	1,200	3,600	10,700
	P555-1(1層)	57,000	39,500	8,100	2,300	0	3,500	0	7,000	11,600	24,400
	-2(3層)	35,700	17,300	10,400	1,200	0	3,500	1,200	4,600	6,900	9,200
	-3(4層)	38,900	18,200	2,400	0	0	6,100	1,200	4,900	17,000	9,700
	-4(5層)	36,000	13,600	9,900	1,200	0	1,200	0	3,700	13,600	16,100
E区平面試料	SXO53501	40,700	28,700	8,400	1,200	0	3,600	1,200	3,600	4,800	25,200
	SXO54501	17,700	13,000	8,300	0	0	1,200	1,200	1,200	5,900	4,700
	SXO56001	38,400	22,100	11,600	0	0	2,300	0	0	5,800	10,500
	SXo56501	47,300	19,400	6,100	1,200	0	3,600	1,200	4,900	10,900	10,900
	SXn55001上	26,800	21,200	5,600	0	0	0	0	3,400	7,800	10,100
F区層位試料	SXn55001下	21,900	23,000	3,500	2,300	0	3,500	1,200	3,500	6,900	9,200
	r505-1(2層)	27,700	13,900	10,400	1,200	0	1,200	0	1,200	6,900	11,600
	-2(3層)	19,000	15,400	11,900	2,400	0	4,800	1,200	2,400	5,900	10,700
	-3(4層)	31,800	18,400	15,900	1,200	0	0	1,200	2,400	0	7,300
	-4(5層)	4,500	13,500	7,900	0	0	1,100	0	2,300	2,300	9,000
F区平面試料	SXq49001	32,100	19,000	8,300	0	0	3,600	0	0	1,200	20,200
	SXR47501	38,200	24,300	12,700	0	0	2,300	0	0	2,300	15,100
	SXR51502	31,800	7,100	7,100	1,200	0	3,500	0	1,200	2,400	9,400
	SXr49001	39,300	16,700	13,100	0	0	1,200	1,200	2,400	10,700	9,500

とり、約 0.02 g のガラスビーズ (直径約 40  $\mu\text{m}$ ) を加える。これに 30% の過酸化水素水を約 20~30 cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により 10  $\mu\text{m}$  以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数はガラスビーズが 300 個に達するまで行った。

### 3. 分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1 g 当りの各プラント・オパール個数を求め (表 1)、それらの分布を図 1 (D区平面)、図 2 (E区平面)、図 3 (F区平面)、図 4 (D区 S435 遺構)、図 5 (D区大溝地点)、図 6 (E区 P 555 地点)、図 7 (F区 r 505 地点) に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料 1 g 当りの検出個数である。

平面試料 (図 1~3) : D区においては全試料よりイネのプラント・オパールが検出され、S420 遺構試料が最も少なく 13,000 個、最も多い S 445 遺構の西側試料では 40,000 個を越えている。E区においても全試料よりイネのプラント・オパールが検出されており、少ない SXO54501 遺構でも約 18,000 個で、SXo56501 遺構では 50,000 個近くに達している。F区においても全試料よりイネのプラント・オパールが検出され、35,000 個前後の検出個数を示している。

層位試料 (図 4~7) : D区 S435 遺構においては上位 3 試料においてイネのプラント・オパールが 30,000 個前後と多く検出され、下部試料 4、5 (15 層) では 5 よりわずかに得られている程度である。イネ以外ではネザサ節型が 20,000 個前後を示し、下部に比べ上部 2 試料でやや大きい数値を示している。同様の傾向がウシクサ族にも認められ、その他、クマザサ属型、ヨシ属、キビ族などが検出されている。D区大溝地点においては 2 試料ともイネについては大きい数値を示している。イネに次いでネザサ節型が多く、試料 1 ではヨシ属が約 13,000 個とヨシ属としては多量に検出されている。その他、クマザサ属型、シバ属、キビ族、ウシクサ族などが得られている。

E区 P555 地点においては全試料 35,000 個以上と多量のイネのプラント・オパールが検出されている。ネザサ節型、ウシクサ族がイネに次いで多く、ネザサ節型は試料 1 において下位試料の 2 倍の検出個数を示している。その他、クマザサ属型、ヨシ属、シバ属、キビ族などが検出されている。

F区 r 505 地点においても全試料よりイネのプラント・オパールが検出されているが、上位 3 試料の 20,000~30,000 個に比べ最下部の試料 4 では 4,500 個とかなり少なくなっている。イネに次いでネザサ節型、クマザサ属が多く、同様の産出傾向を示している。その他、ヨシ属、キビ族、ウシクサ族などが得られている。

### 4. 稲作について

上記したようにイネのプラント・オパールは 3 試料を除き多数検出されている。検出個数の目安を示すと、イネのプラント・オパールが試料 1 g 当り 5,000 個以上検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている (藤原 1984)。こうしたことから、稲作の検証としてこの 5,000 個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。千音寺遺跡の平面試料においては全試料 10,000 個以上を示しており、各地点とも検出個数からは稲作が行

われていた可能性は高いと判断される。また、E区の層位試料 P555 地点においても全試料 35,000 個以上を示しており、最下部の 5 層堆積期でも稲作が行われていたと判断される。これはD区の大溝地点も同様であり、少なくとも 6 層堆積期にはすでに稲作が行われていたと考えられる。

一方、D区の S435 遺構の最下部 15 層試料において、イネのプラント・オパールは試料 5 より若干得られているのみであり、試料 4 からは得られていない。また、F区の r 505 地点の最下部 5 層では 4,500 個と 5,000 に達していない。これらの試料の花粉分析結果をみると、イネ科花粉は他試料に比べかなり少なく、水田雑草を含む分類群（オモダカ属、ミズアオイ属など）も検出されていない（花粉分析結果参照）。こうしたことからD区 S435 遺構の 15 層については稲作が行われていた可能性はかなり低いと判断されよう。また、F区 r 505 地点 5 層について、イネのプラント・オパールは 5,000 個に近い数値を示していることから稲作が行われていた可能性も考えられるが、花粉分析結果をみると難しいところであり、遺構の状況・土相など多方面における状況を考え合わせ判断されることが望まれる。なお、これらの層において稲作が行われていないとすると、植物の根や動物（ミミズなど）などの攪乱により上位層よりイネのプラント・オパールはもたらされたと推測される。

## 5. 遺跡周辺のイネ科植物

イネ以外ではネザサ節型が最も多く検出されており、このネザサ節型のササ類（ケネザサ、ゴキダケなど）は稲作が予想される耕作地周辺の開けたところや林縁部に生育していたと推測される。また、ウシクサ族（ススキ、チガヤなど）も同様なところでの生育が考えられ、ネザサ節型のササ類とともに草地的景観を見せていたとみられる。一方、クマザサ属型のササ類（スズタケ、ミヤコザサなど）については、遺跡周辺に成立していた森林の下草的存在で分布を広げていたと推測される。ヨシを代表とするヨシ属は稲作地周辺の水路などに、またシバ属は畔などに生育していたであろう。なお、キビ族についてはその形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、イヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明であるが、ここでは稲作が予想されることから稲作にともなう雑草と考える。

### 引用文献

- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)——数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法——，考古学  
と自然科学、9、pp. 15-29.
- 藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用——先史時代の水田址探査——，考古学ジャーナル、227、pp. 2-7.
- 藤原宏志・佐々木彰（1978）プラント・オパール分析法の基礎的研究(2)——イネ（*Oryza*）属植物における機動細胞珪酸体の形状——，考古学と自然科学、11、pp. 9-20.

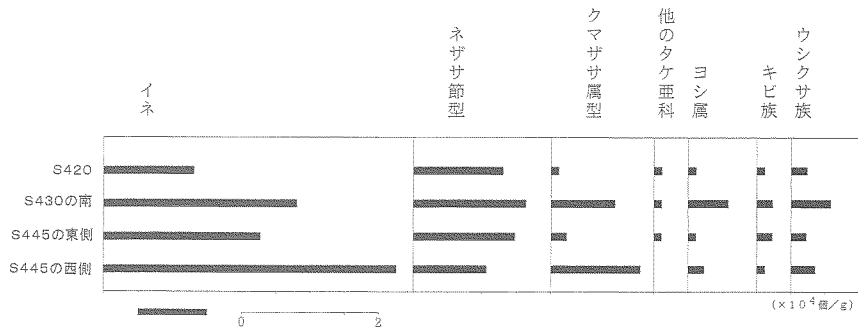


図1 D区平面試料のプラント・オパール分布図

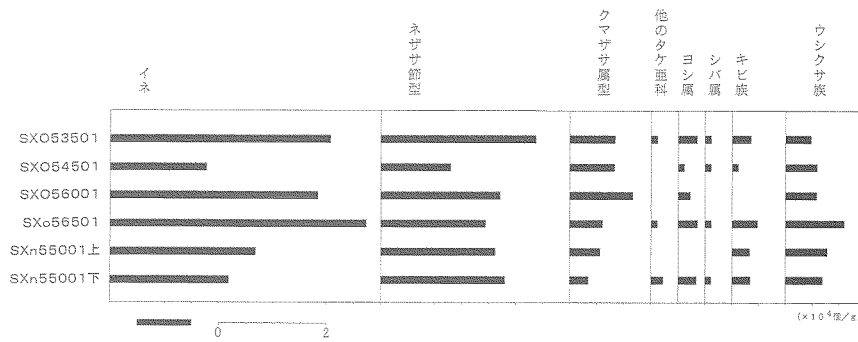


図2 E区平面試料のプラント・オパール分布図

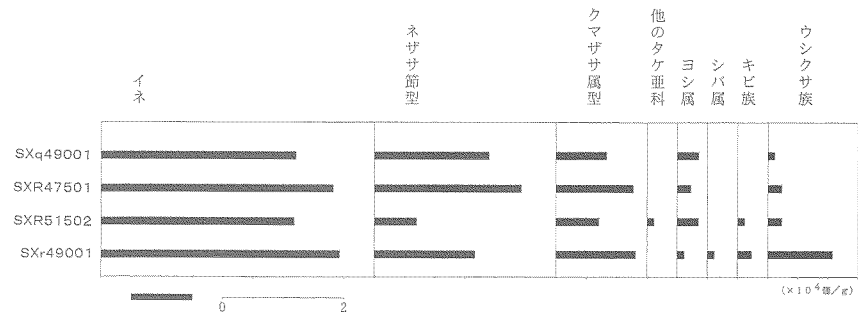


図3 F区平面試料のプラント・オパール分布図



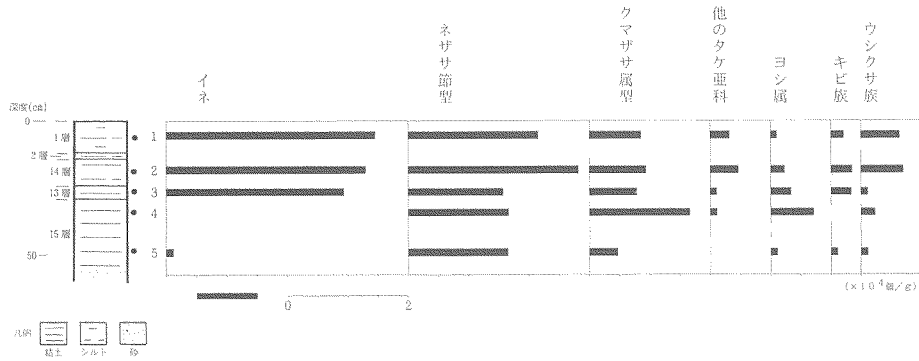


図4 D区S 435地点のプラント・オパール分布図

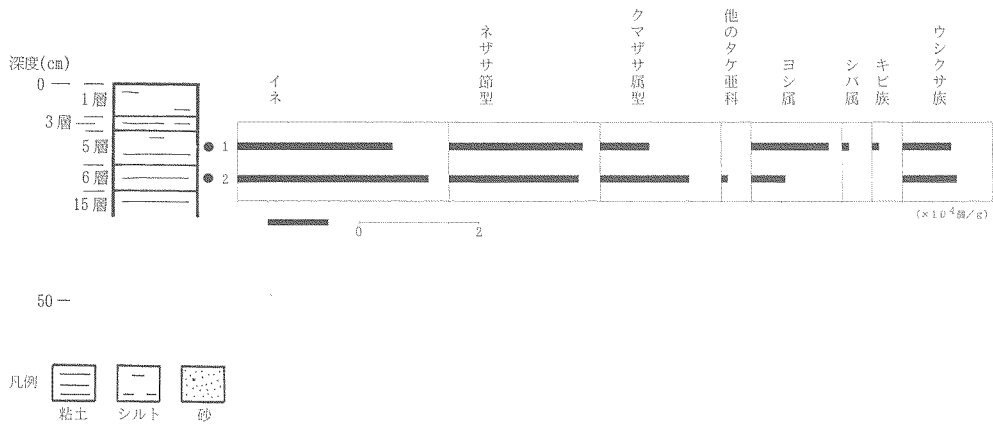


図5 D区大溝 (SDT 42501) 試料のプラント・オパール分布図

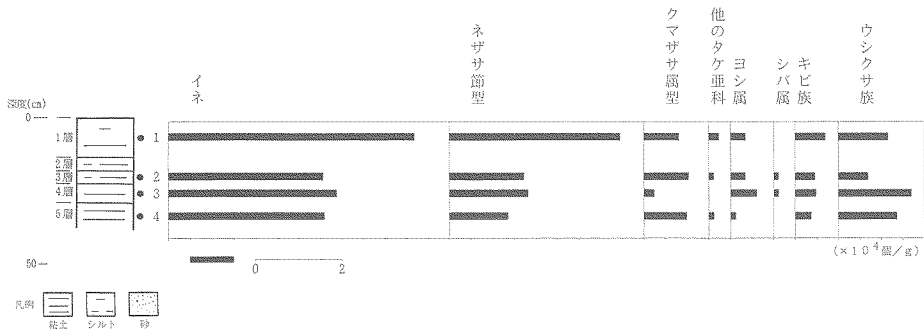


図6 E区P 555地点のプラント・オパール分布図

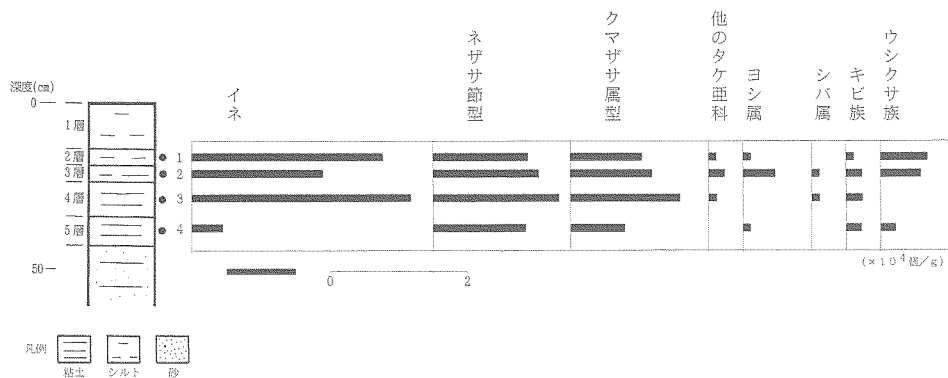
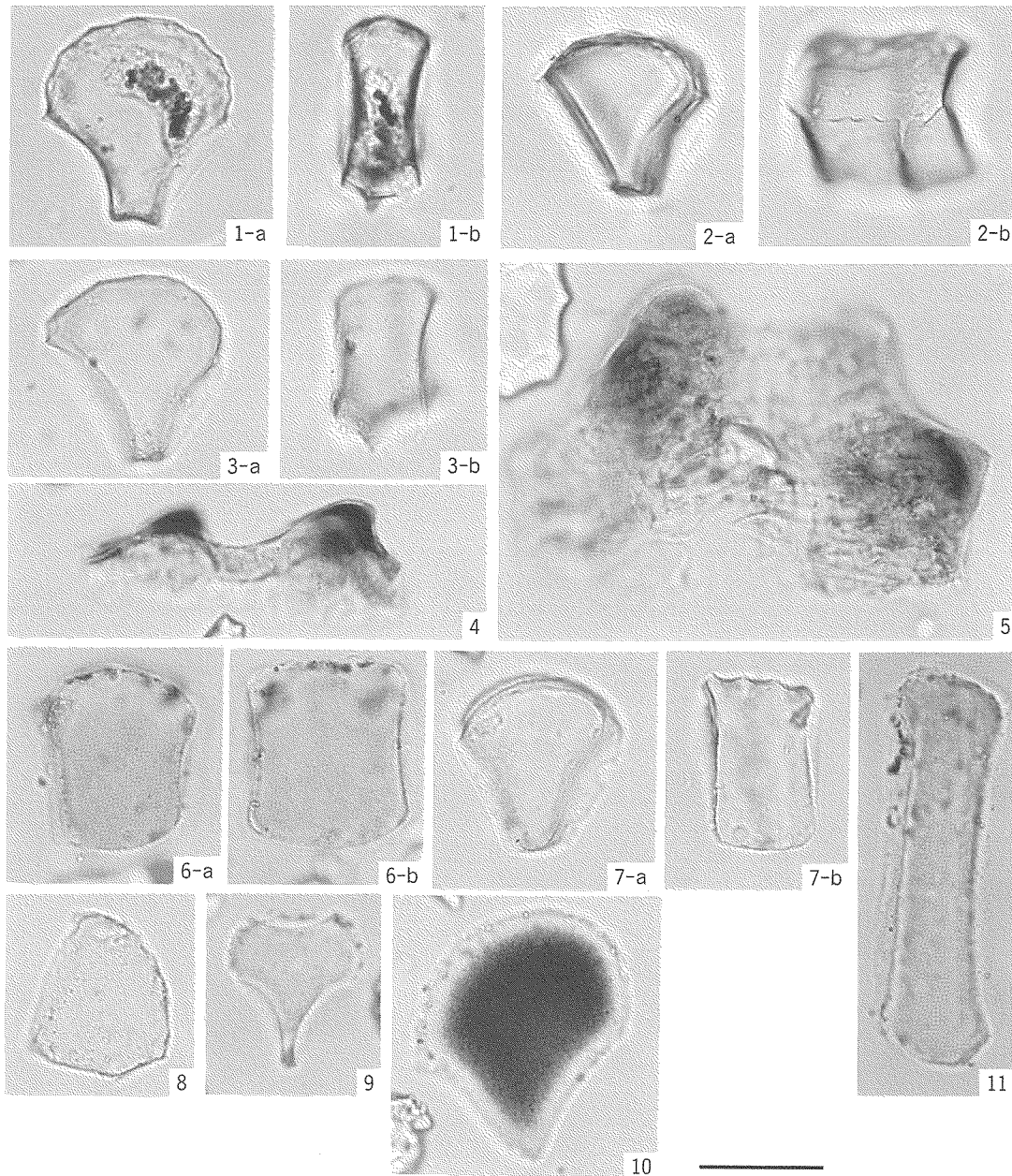
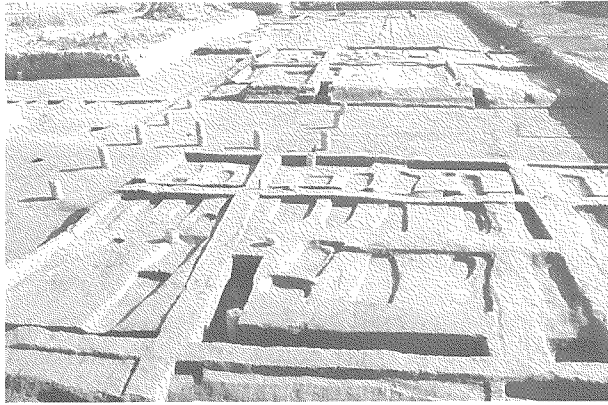


図7 F区r 505地点のプラント・オパール分布図



図版 千音寺遺跡のプラント・オパール (scale bar : 30  $\mu$ m)

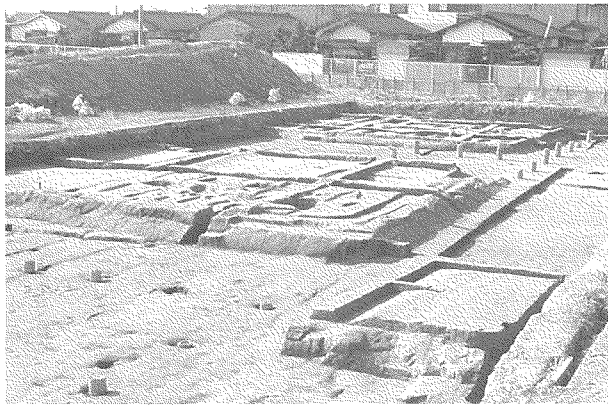
- 1~3: イネ (a: 断面、b: 側面) 1、2: S 435-1、3: 大溝-1  
 4、5: イネ穎部破片 4: S 435-1、5: S 435-3  
 6: キビ族 (a: 断面、b: 側面) S 435-3  
 7: ネザサ節型 (a: 断面、b: 側面) S 435-4  
 8: クマザサ属型 (断面) S 435-3  
 9: シバ属 (断面) 大溝-1  
 10: ヨシ属 (断面) S 435-1  
 11: ウシクサ族 (断面) S 435-1



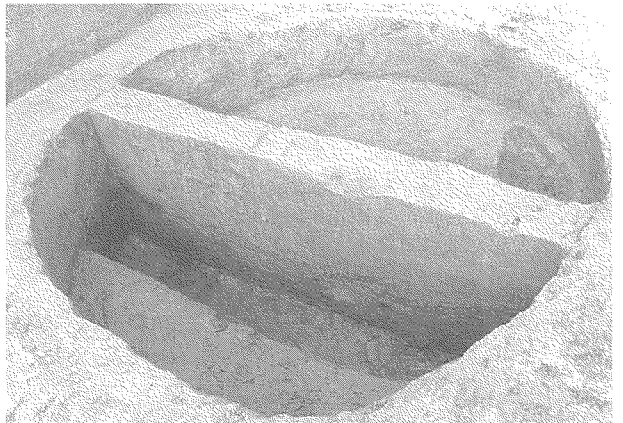
A区 全景 (西から)



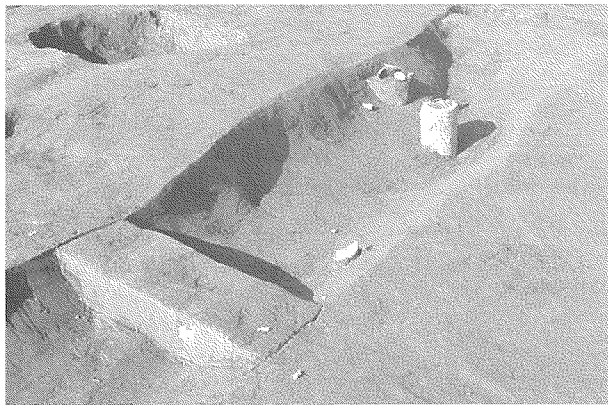
全景 (東から)



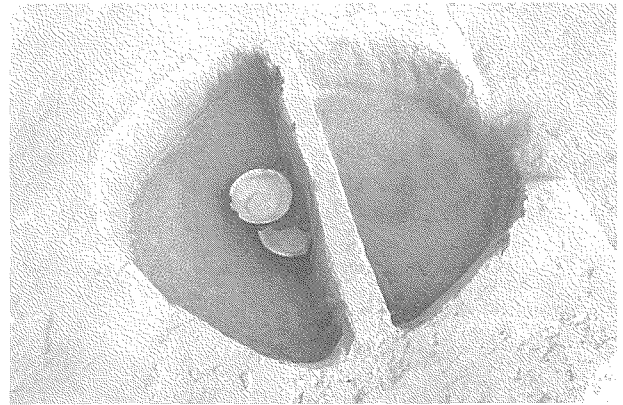
島畑 A-1・A-2・A-3 (北東から)



SEE 40001 (南東から)



SDd 37001 (南東から)



SKD 38501 (北西から)



SKD 39006 (南東から)



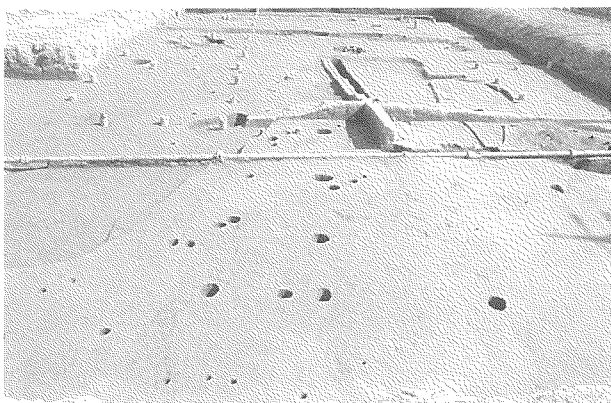
SKd 40002 (東から)



B区 鳥畑 B-1 (南東から)



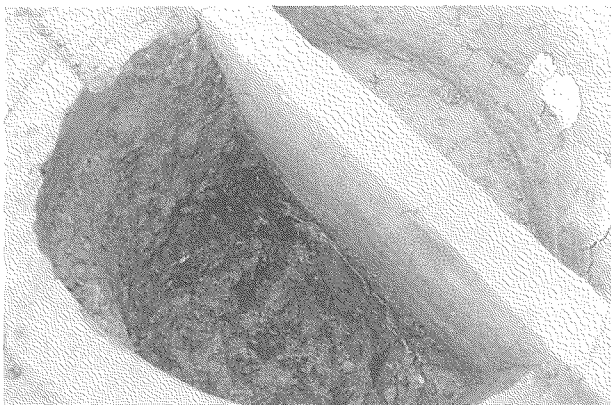
鳥畑 B-1 の下 遺物出土状況 (南から)



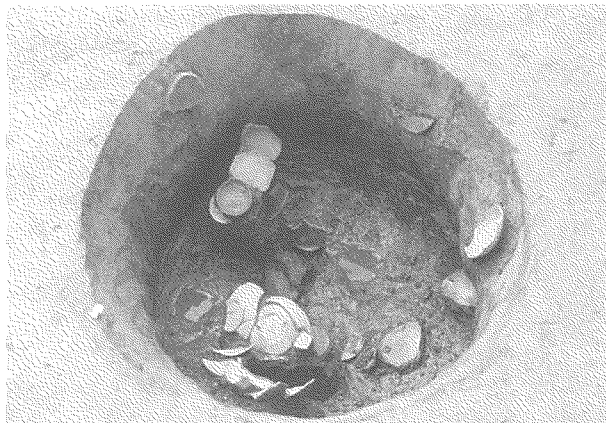
建物跡 (SB 01)・杭列 (西から)



PK 39501



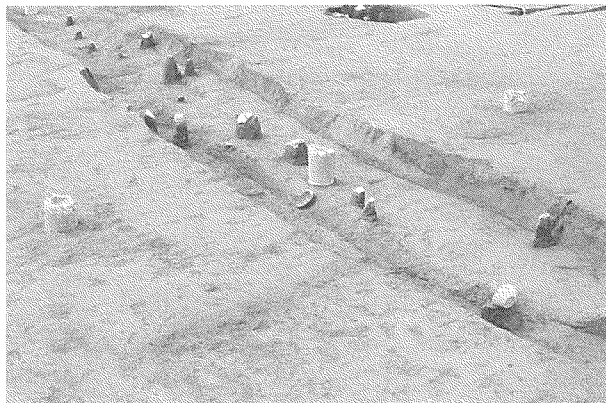
SEK 38001 (南東から)



SEJ 38501 (北から)



SDL 37001・SDK 37501・SDK 37502 (北西から)



SDK 37502 (北東から)



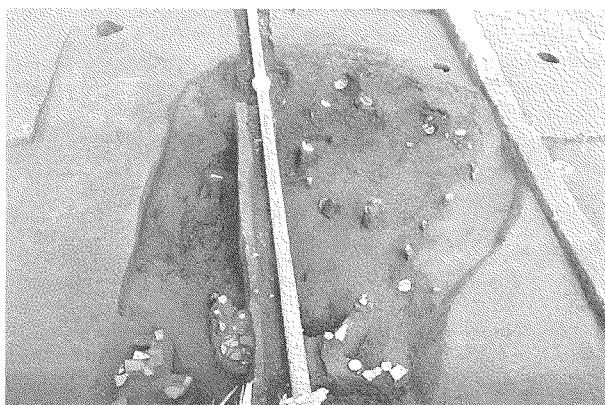
SDJ 39501 (東から)



SKk 38501 (南東から)



SKk 39501 (南西から)



SKk 39501・SKk 39502 (南から)



C区 島畑 C-1 土層断面：SDo 42001 付近 (南から)



島畑 C-1 籾穀等出土状態



SDo 42001 (南から)



SXP 42501 など (南から)



SDp 41501 (南から)



SDO 43002 (東から)



D区 全景 (北東から)



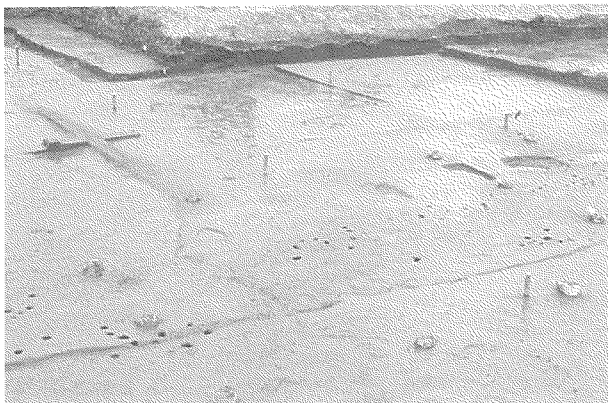
全景 (西から)



SXs 42001 等 (南から)



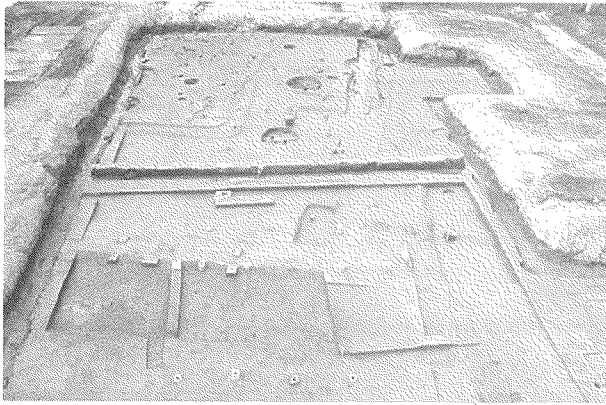
杭列：作道 (西から)



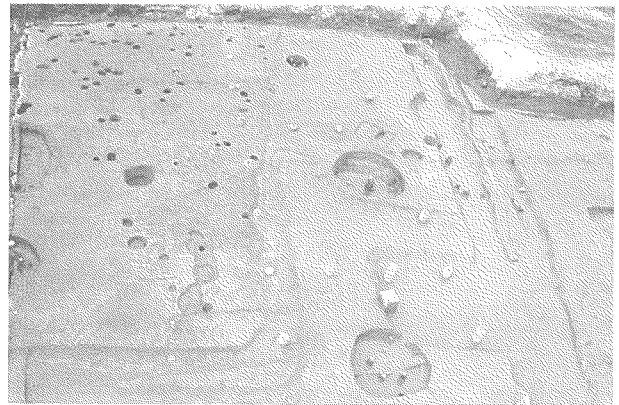
SXS 43501 など (南西から)



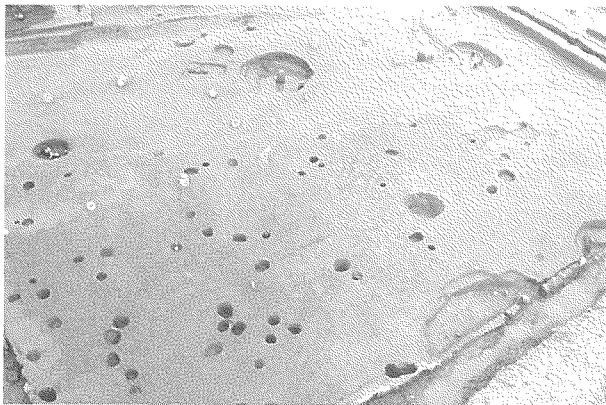
SXS 43501 B 西側畦畔 (南から)



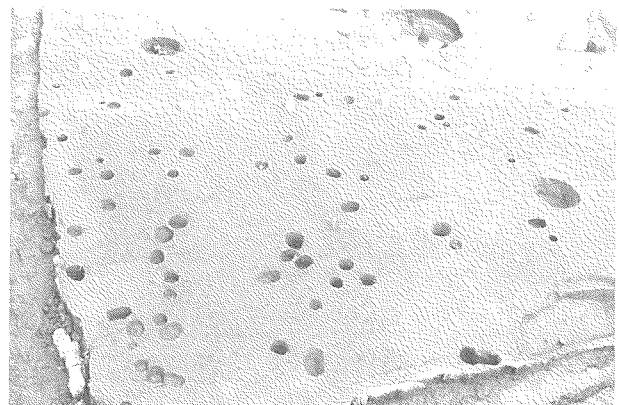
E区 全景 (東から)



西半部全景 (東から)



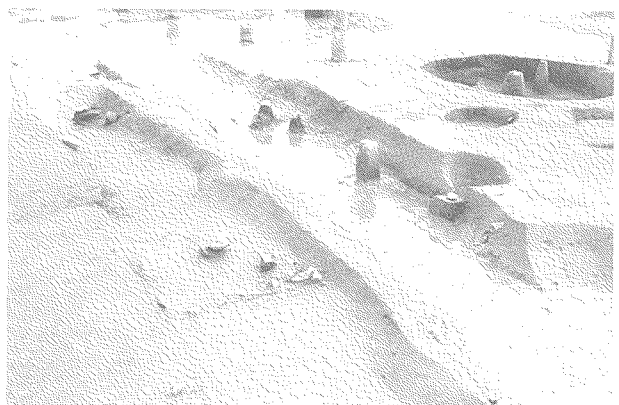
西半部全景 (南西から)



柱穴群 (南から)



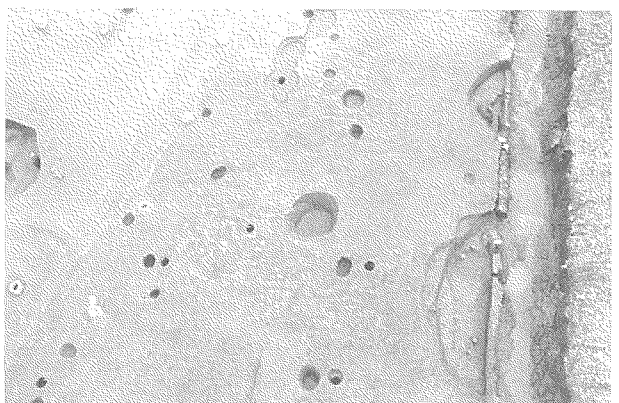
SDn 57001 など (南西から)



SDn 56001・SDn 57001 (北西から)



SKo 55501 遺物出土状況 (南から)



SEP 56001・SKP 56501・SKP 56502 (西から)



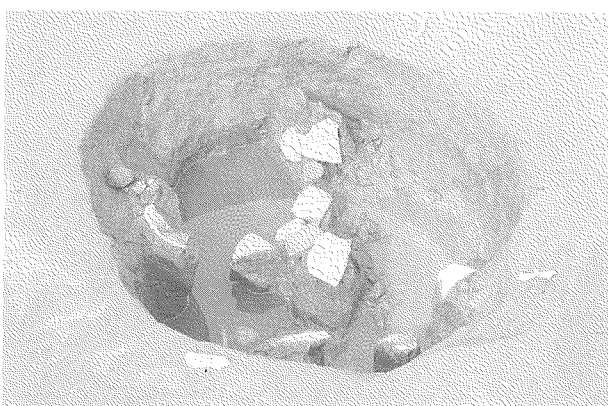
SEP 56001 遺物出土状況 (南西から)



SKP 56501 (東から)



SKn 54001・SKn 54502 など (南東から)



SKO 57001 遺物出土状況 (南から)



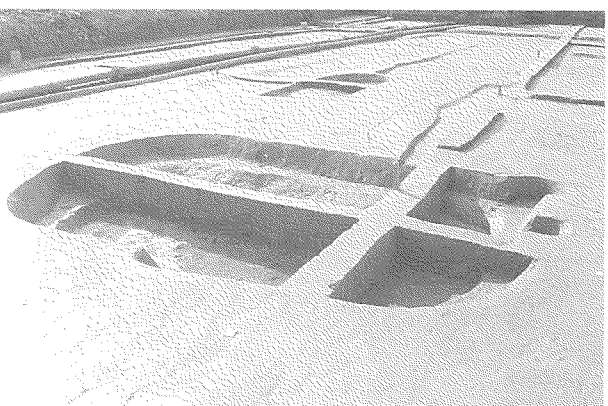
F区 SDq 49001 A・49001 B (北西から)



SDr 52501 (南東から)



SDr 52001 (東から)



SXR 51001 (北東から)





A : SKD 39006



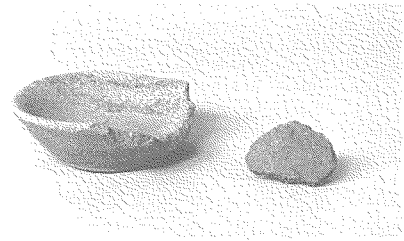
A : SKe 42501



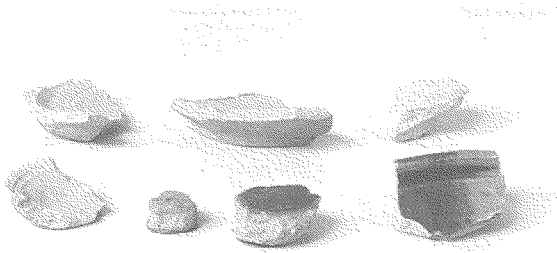
A : SKD 38501



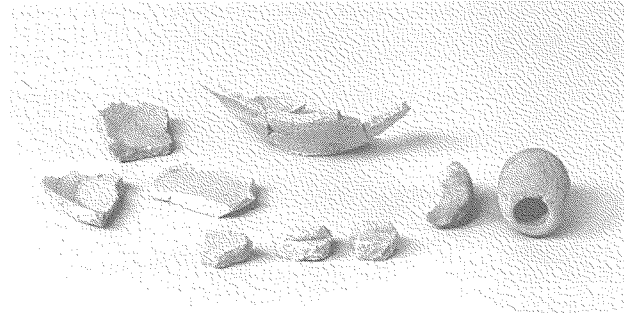
A : SDd 37001



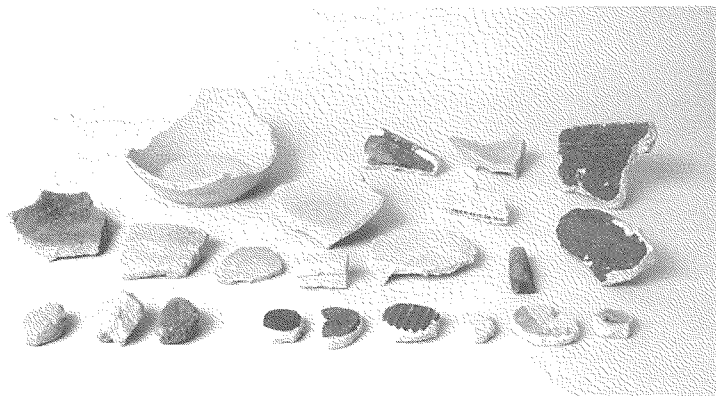
A : PD 38501



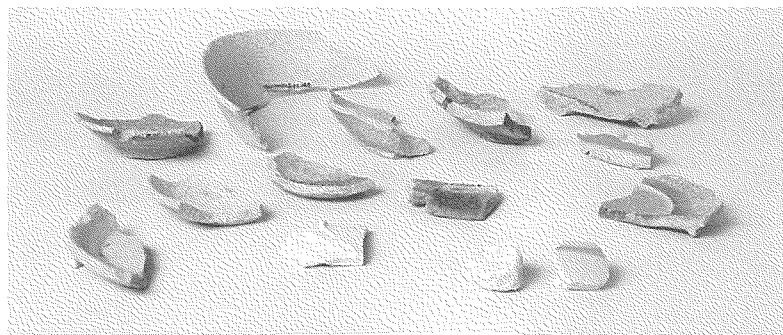
A : SDD 37001



A : SXd 37002



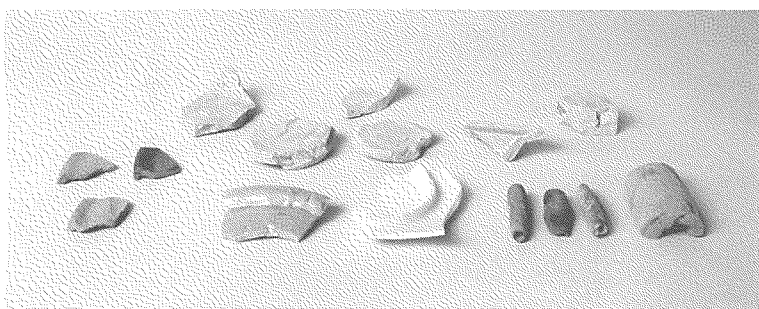
A : 島畑 A-1



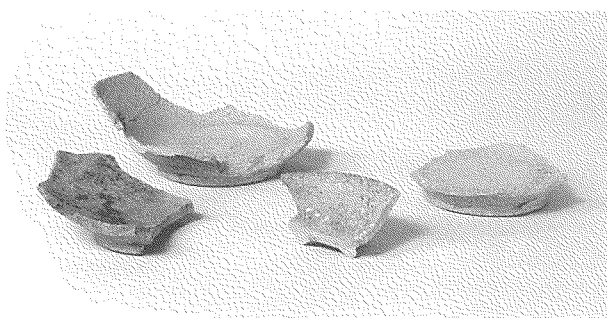
A : 島畑 A-2



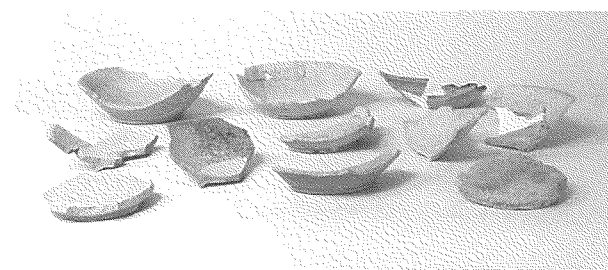
A : 島畑 A-3



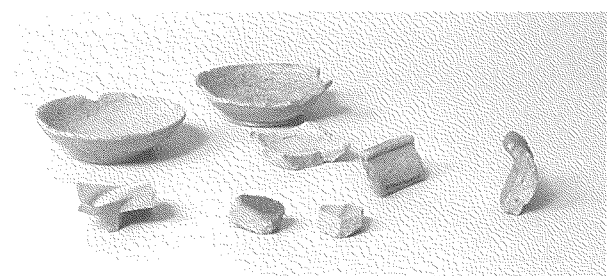
A : 水田・床土



B : 炭化物付近



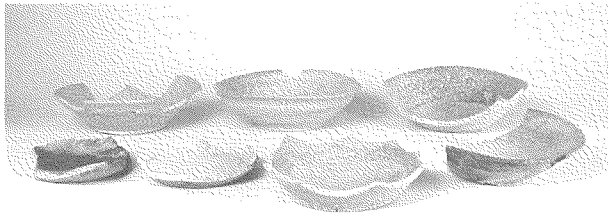
B : 炭化物



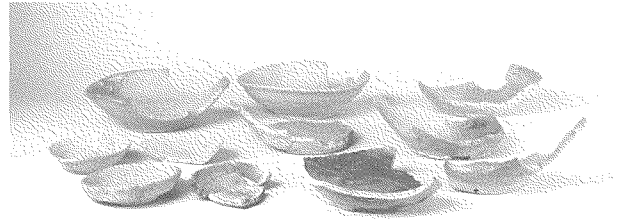
B : 炭化物



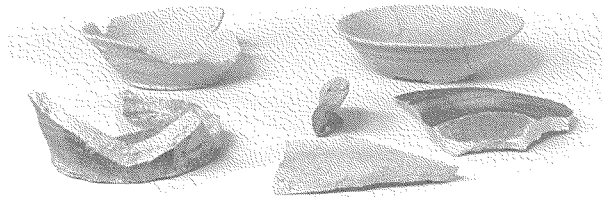
B : SEK 38001



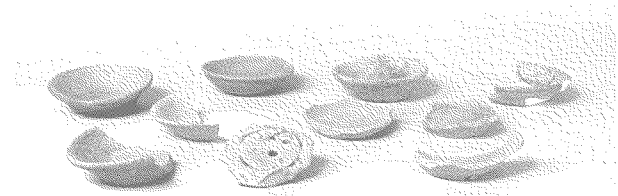
B : SEJ 38501



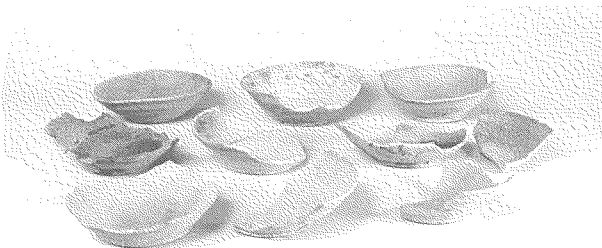
B : SEJ 38501



B : SKk 39501



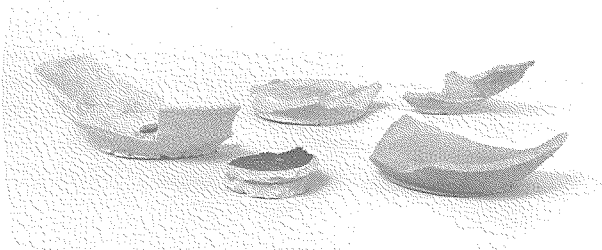
B : SKk 39501



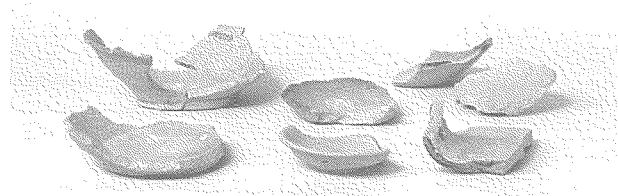
B : SKk 39502



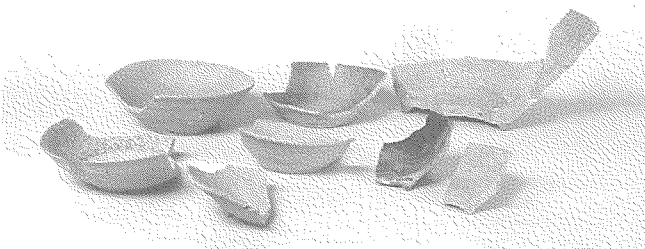
B : SKk 39502



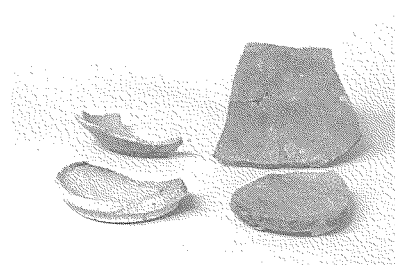
B : SDJ 39501



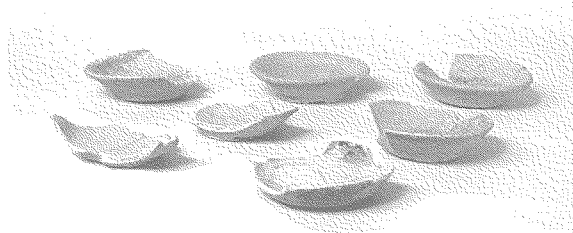
B : SDJ 39501



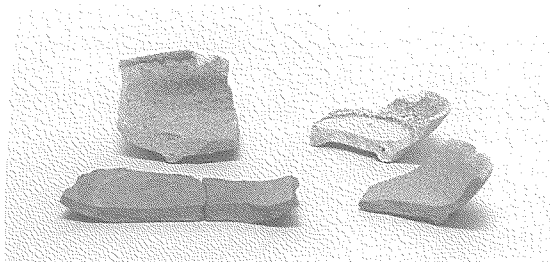
B : SDK 37502



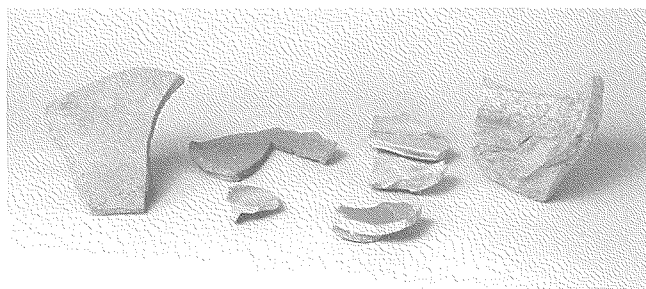
B : PK 39502



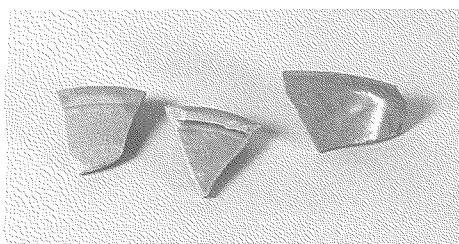
B : SDK 37502



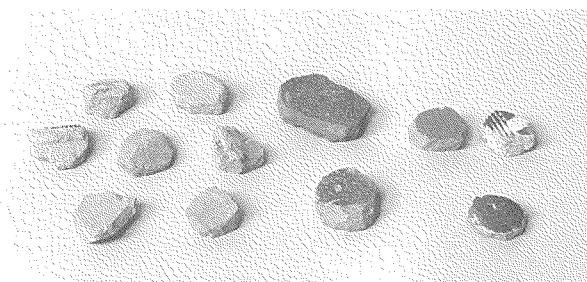
B : SXJ 39005



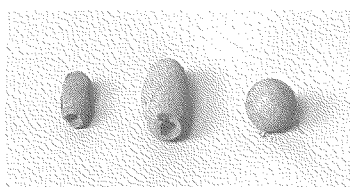
B : 島畑 B



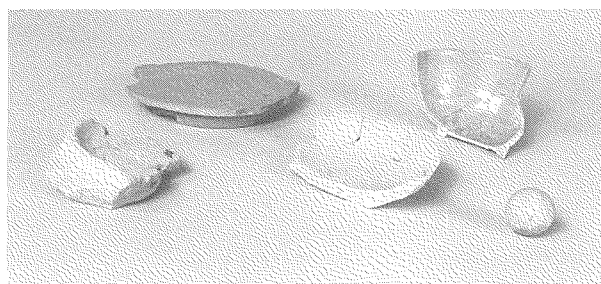
B : 水田・床土



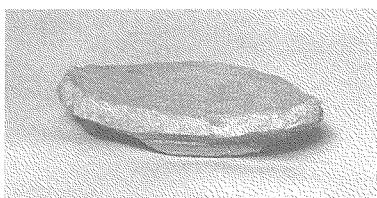
B : 水田・床土



B : 水田・床土



C : 水田・床土



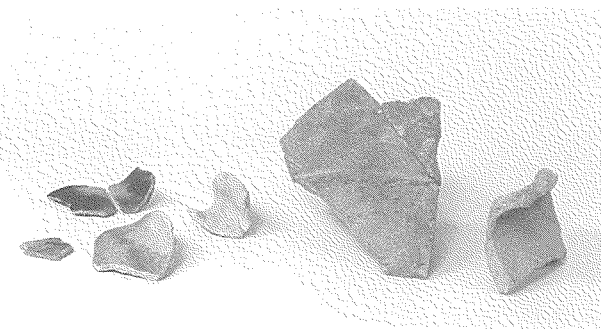
C : SDo 42001



D 区



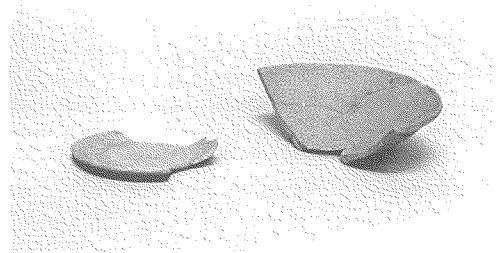
E : SKo 55501



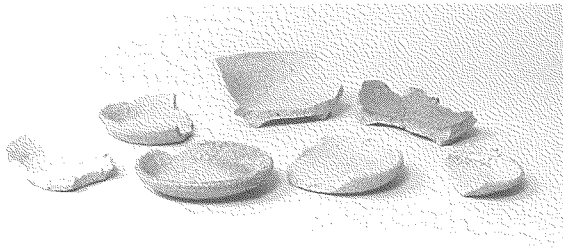
E : SKo 55501



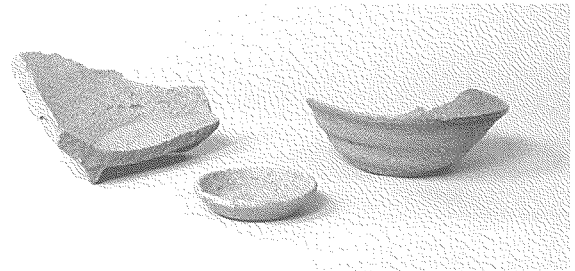
E : SKP 56501



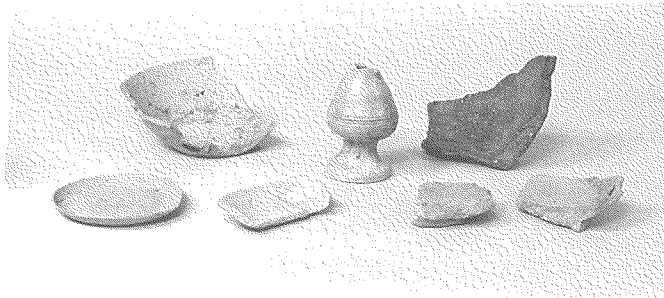
E : SKn 54001



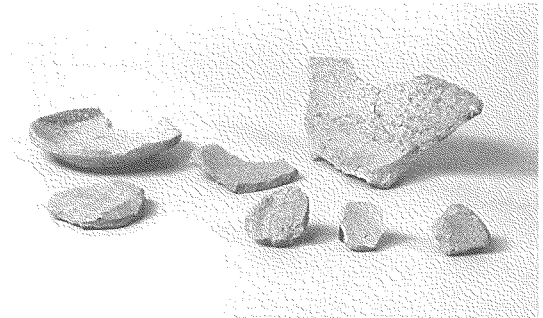
E : SEO 56001



E : ピット出土



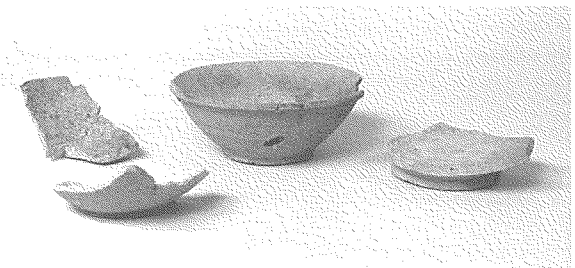
E : SKO 57001



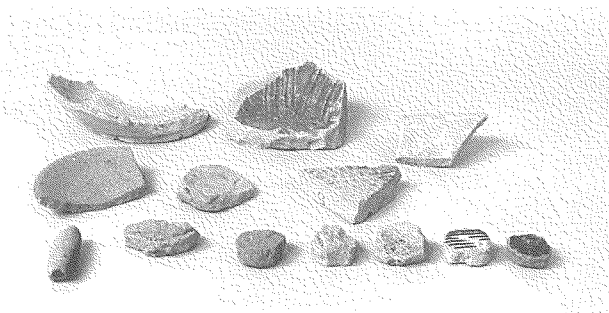
E : SXO 56001



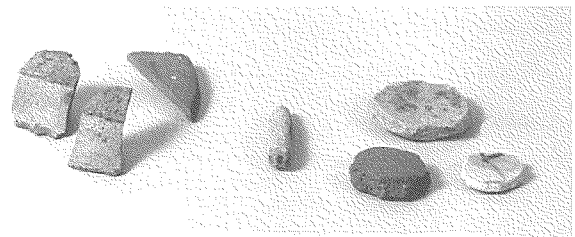
E : SDn 56001



E : SDn 57001



E : 水田・床土



F 区

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	埋蔵文化財調査報告書							
副書名	千音寺遺跡 (第1・2次)							
巻次	35							
シリーズ名	名古屋市文化財調査報告							
シリーズ番号	47							
編著者名	山田鉦一・野口泰子							
編集機関	名古屋市見晴台考古資料館							
所在地	〒457-0026 愛知県名古屋市中区見晴町47 TEL 052-823-3200 FAX 052-823-3223							
発行機関	名古屋市教育委員会							
所在地	〒460-8508 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 TEL 052-972-3268							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せんのおんじいせき 千音寺遺跡	なごやし 名古屋市 なかがわく 中川区 とみたちょう 富田町 大字 せんのおんじ 千音寺	23100	13-15	35° 09' 40"	136° 48' 40"	(第1次) 1998.11.9 ~1999.3.19 (第2次) 1999.5.17 ~1999.12.24	約1,800  約3,700	市営住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
千音寺遺跡	散布地	古墳~室町	溝、穴		山茶碗		中世の屋敷地	

名古屋市文化財調査報告 47  
埋蔵文化財調査報告書 35

千音寺遺跡（第1・2次）

2000年3月31日発行

編集 名古屋市見晴台考古資料館

名古屋市南区見晴町 47

TEL 052-823-3200

FAX 052-823-3223

発行 名古屋市教育委員会

名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

印刷 ㈱クイックス

